

第5章 森林・山村多面的機能発揮対策の情報提供・共有

5-1 活動事例集の作成

森林・山村多面的機能発揮対策交付金を取得した活動組織のうち、広く一般に紹介できるような活動を実施している活動組織（14 団体）を選択し、現地で補完情報の聞き取り調査を行うとともに写真の提供依頼を行い、その結果を基に活動事例集を作成した。

また、事例集の作成にあわせて、令和3・4年度に作成した活動事例集について、平成25年度から令和2年度までの活動目的や活動効果等ごとに分類した活動事例一覧表に整理・分析し、記載情報を更新した。

(1) 事例集の構成、掲載団体の検討

対象とした活動組織は、事前に行った地域協議会へのアンケート調査時に、全国の活動組織の参考となるような取組とその活動組織について聞き取りを行った結果を踏まえて選定した。

(2) 補完情報の現地聞き取り

聞き取り調査は、今年度アンケート調査を実施した活動組織の中から、活動事例集への掲載にふさわしいと考えられる活動組織 14 団体を選び、実施した。聞き取り調査の概要を下表に示す。

図表 5.1.1 聞き取り調査の概要

	活動組織名	活動地域	実施日
1	標津の森を守る会	北海道標津町	令和4年8月17日
2	かみかわ里山ネット	北海道旭川市	令和4年7月28日
3	五日市里山を考える会	岩手県八幡平市	令和4年10月5日
4	枝郷地域づくり会「さとやま・ま森隊」	秋田県大仙市	令和4年11月12日
5	細野の山を愛する会	山形県尾花沢市	令和4年11月2日
6	NPO 法人 馬頭農村塾	栃木県那珂川町	令和4年9月26日
7	NPO 法人 自遊クラブ	神奈川県相模原市	令和4年7月29日
8	NPO 法人 ぎふし森守クラブ	岐阜県岐阜市	令和4年11月15日
9	猪之頭振興協議会	静岡県富士宮市	令和4年9月20日
10	三ツ口山を守る会	三重県熊野市	令和4年10月17日
11	五名里山を守る会	香川県東かがわ市	令和4年12月7日
12	赤坂竹林整備組合	福岡県福岡市早良区	令和4年8月3日
13	TAKE NO EN	長崎県長崎市	令和4年7月6日
14	上松山区	熊本県宇土市	令和4年7月5日

活動事例集の作成にあたっては、アンケート調査と聞き取り調査の結果を基に作業を進め、必要に応じて適宜活動組織に事実関係の確認を行った。特に、掲載可能な連絡先及び写真については別途提供を依頼した。また、完成後、活動組織に掲載ページのイメージを送付し、内容確認を依頼した。活動事例集の概要を下表に示す。

図表 5.1.2 活動事例集の概要

項目	内容
名称	令和4年度 森林・山村多面的機能発揮対策交付金 活動事例集
事例集の構成	表紙、目次（掲載団体一覧）、掲載活動組織の活動所在地図 活動事例紹介 1団体2ページ
活動事例紹介の構成	活動組織名／活動組織の情報／活動タイプ／活動の概要／特徴的な取組 ／他の活動組織でもできる工夫点／活動の成果／活動上の課題、その対応策／今後の展望
掲載団体	標津の森を守る会 かみかわ里山ネット 五日市里山を考える会 枝郷地域づくり会「さとやま・ま森隊」 細野の山を愛する会 NPO 法人 馬頭農村塾 NPO 法人 自遊クラブ NPO 法人 ぎふし森守クラブ 猪之頭振興協議会 三ツ口山を守る会 五名里山を守る会 赤坂竹林整備組合 TAKE NO EN 上松山区

（3）原稿の作成・編集

アンケート調査、聞き取り調査の結果より、今回選定した14団体の活動組織の森林整備活動の内容を紹介する活動事例集を作成・編集した。作成原稿は資料編に掲載した。

（4）活動事例一覧表の整理・情報更新

事例集の作成にあわせて、令和3・4年度に作成した活動事例集について、平成25年度から令和2年度までの活動目的や活動効果等ごとに分類した活動事例一覧表に整理・分析し、記載情報を更新した。図表 5.1.3 情報を追記・更新した活動事例一覧表を参照。

森林・山村多面的機能発揮対策交付金 平成25～令和4年度活動事例一覧表

年 No	都道府県	活動組織	活動場所	活動タイプ			運動事例の タイトル	取組内容の キーワード	森林の活用による 地域活性化の 流れ	地域活性化の事例	活動の継続的 活動への 工夫	新たな企業や 専門家との連携 による活動の 発展	事例集 リンク	事例集 ページ
				森林 資源 利用	教育 ・研修 活動	森林 機能 強化								
110	R3	北海道	札幌市	〇			「森を消さない」想いが生じ環境教育の場を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				E3	P.5
111	R3	岩手県	盛岡市	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				E3	P.7
112	R3	福島県	南会津町	〇		〇	森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				E3	P.9
113	R3	栃木県	栃木市	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				E3	P.11
114	R3	東京都	町田市	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				E3	P.13
115	R3	千葉県	市原市	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				E3	P.15
116	R3	富山県	新泉水	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				E3	P.17
117	R3	山梨県	北杜市	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				E3	P.19
118	R3	静岡県	松崎町	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				E3	P.21
119	R3	大蔵府	茨木市	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				E3	P.27
120	R3	山口県	長門市	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				E3	P.29
121	R3	香川県	綾川町	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				E3	P.31
122	R3	広島県	府中市	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				E3	P.33
123	R3	長崎県	壱岐市	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				E3	P.35
124	R3	宮崎県	宮崎市	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				E3	P.37
125	R4	北海道	釧路市	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				R4	P.5-6
126	R4	北海道	旭川市	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				R4	P.7-8
127	R4	岩手県	八幡平市	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				R4	P.9-10
128	R4	秋田県	大館市	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				R4	P.11-12
129	R4	山形県	尾花沢市	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				R4	P.13-14
130	R4	栃木県	那須川町	〇			森林保全活動の向上を輪広げる	・児童教育の推進 ・成木の活用 ・環境教育活動	・新たな企業や専門家との連携による活動の発展				R4	P.15-16

図表 5.1.3 情報を追記・更新した活動事例一覧表

森林・山村多面的機能発現種別活動交付金 平成25～令和4年度活動事例一覧表

No	年度	所属府県	活動事例名	活動場所	活動タイプ			活動事例のタイトル	取組内容のキーワード	事例の特色	推進活動の事例	推進活動の事例	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色
					森林	山村	多面的機能												
131	R4	神奈川県	神奈川県NPO法人 自然クラブ	相模原市	相模原市	森林	活動事例のタイトル	取組内容のキーワード	事例の特色	推進活動の事例	推進活動の事例	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色
132	R4	岐阜県	NPO法人 びんしん里守クラブ	岐阜市	岐阜市	森林	活動事例のタイトル	取組内容のキーワード	事例の特色	推進活動の事例	推進活動の事例	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色
133	R4	静岡県	徳之島移住促進会	郡士宮市	郡士宮市	森林	活動事例のタイトル	取組内容のキーワード	事例の特色	推進活動の事例	推進活動の事例	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色
134	R4	三重県	三ツ口山守等会	熊野市	熊野市	森林	活動事例のタイトル	取組内容のキーワード	事例の特色	推進活動の事例	推進活動の事例	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色
135	R4	香川県	五名里山を守る会	東かがわ市	東かがわ市	森林	活動事例のタイトル	取組内容のキーワード	事例の特色	推進活動の事例	推進活動の事例	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色
136	R4	福岡県	赤坂竹林整備組合	福岡市	福岡市	森林	活動事例のタイトル	取組内容のキーワード	事例の特色	推進活動の事例	推進活動の事例	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色
137	R4	長崎県	TAKE MO EN	長崎市	長崎市	森林	活動事例のタイトル	取組内容のキーワード	事例の特色	推進活動の事例	推進活動の事例	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色
138	R4	熊本県	上野山地区	宇土市	宇土市	森林	活動事例のタイトル	取組内容のキーワード	事例の特色	推進活動の事例	推進活動の事例	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色	事例の特色

(※) 平成25～26年度は森林空間利用タイプ、令和元年度は森林空間利用タイプ、令和2年度は森林空間利用タイプ、令和3年度は森林空間利用タイプ

5-2 モニタリング調査のガイドライン普及に向けた現地検討会、スキルアップ研修の開催

(1) 開催概要

地域協議会の活動組織への指導能力向上のため、地域協議会の担当者を対象に、先進事例（本交付金交付対象外の事例も含む）の共有やワークショップ、有識者による話題提供等を内容とするスキルアップ研修を以下の内容で開催した。

図表 5.2.1 現地検討会・スキルアップ研修の開催概要

項目	内容
目的	地域協議会の活動組織への指導力向上のための、本交付金を活用した取組を進める上で参考となる知見や事例の紹介ならびに、それを踏まえた地域協議会同士の意見交換を通じた情報共有
対象	全ての地域協議会（45 団体）
開催日時	令和 4 年 9 月 14 日（水）～令和 4 年 9 月 16 日（金）の 3 日間
開催方法	現地開催
開催場所	9 月 14 日（水）東京都豊島区内（アットビジネスセンター池袋駅前 別館） 9 月 15 日（木）神奈川県相模原市内（活動組織「自遊クラブ」の活動地ほか） 9 月 16 日（金）東京都豊島区内（アットビジネスセンター池袋駅前 別館）
参加者数	9 月 14 日（水） 49 名（32 地域協議会） 9 月 15 日（木） 50 名（32 地域協議会） 9 月 16 日（金） 48 名（31 地域協議会）
プログラム	<p>【1 日目（9 月 14 日）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林・山村多面的機能発揮対策の概要説明（林野庁） ・ワークショップ「交付申請段階の事務について」及び各班の発表 ・モニタリング調査に関する説明（事務局） ・2 日目の現地実習の案内（事務局）、グループトーク（班毎に 2 日目の作業の進め方のイメージ共有） <p>【2 日目（9 月 15 日）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地実習（自遊クラブの活動地／人工林、広葉樹林の 2 タイプ） ・活動組織の取組紹介（自遊クラブ及び連携団体） ・ワークショップ「モニタリング調査方法について」及び各班の発表 <p>【3 日目（9 月 16 日）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ「実施状況報告の事務について」及び各班の発表 ・ワークショップ「関係人口とのマッチング促進」及び各班の発表 ・マッチングイベントに係る話題提供（地域協議会、事務局）

開催にあたっては案内資料を作成し、事前に各協議会に送付し周知を図るとともに参加者を募った。また、ワークショップのテーマ（検討議題）を事前に参加者に連絡することで、各ワークショップにおける意見交換の促進と円滑な進行を図った。

(2) 各日の開催概要


各日に実施したワークショップ等の概要を以下に示す。

図表 5.2.2 **1日目** 森林・山村多面的機能発揮対策の概要説明

項目	内容
日時	令和4年9月14日(水) 14:10~14:30
場所	アットビジネスセンター池袋駅前 別館 7階 706
説明者	<ul style="list-style-type: none"> ・林野庁 森林利用課 山村振興指導班 課長補佐 山田 雅晃、指導係長 羽田 望、企画係長 梅原 徳晃
説明内容	<p>資料「森林・山村多面的機能発揮対策について」に基づいて説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○森林・山村多面的機能発揮対策は令和4年度までは単独で予算要求を行っていたが、令和5年度からは「森林・山村地域振興対策」の枠組みの中の一事業として位置づけ、アドバイザーに係る経費を増額要求中。支援メニューについては令和4年度からの変更点は特にない。 ○令和3年度に創設した森林・山村多面的機能発揮対策アドバイザー制度について、令和4年度より、新たなアドバイスの分野として「森林生態・植生」を追加。また、林業普及指導員についてもアドバイザーに準じる形で活用いただきたい。 ○マッチングイベント（既存の活動組織と新たな関係人口の方々を結びつけ、関係人口の創出・維持につなげるイベントやしゅみ）の開催に伴う経費を協議会の運営費に計上可能なのでぜひ活用いただきたい。 ○交付金を活用した活動中に重大事故が発生している。安全確保には十分に留意いただくとともに、万一事故が発生した場合は速やかに林野庁に報告いただきたい。 ○令和4年度に会計検査院が8道府県の地域協議会に対して行った会計検査における指摘事項を紹介する。適正な執行をお願いする。 ○地方公共団体による上乗せ支援について、市町村の財政負担割合は増加傾向にあるが、引き続き都道府県、市町村に対して、地域協議会からも働きかけをお願いしたい。
開催風景	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>会場の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>林野庁からの説明</p> </div> </div>

図表 5.2.3 **1日目** ワークショップ「交付申請段階の事務について」



項目	内容
日時	令和4年9月14日（水）14：30～15：40
場所	アットビジネスセンター池袋駅前 別館 7階 706
コメンテーター	<ul style="list-style-type: none"> ・林野庁 森林利用課 山村振興指導班 ・原田 明 氏（森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業検討委員会 委員／一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構 コミュニティビジネスチーム長） ・井野 道幸 氏（森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業検討委員会 委員／熊本県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会 事務局長）
発表内容	<p style="text-align: center;">※黒字は参加者の発言。青字はコメンテーターの発言</p> <p>①採択審査における失敗談や困り事、申請団体からのよくある問合せ等</p> <p>【審査の過程で困ったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○申請者（活動組織）の理解不足があり、そのままでは受理不可の書類を拾い上げる作業が大変。 ○活動組織には高齢の方が多く、パソコンが使えないケースも多い。 →県や地域協議会が文書作成を手伝うケースがままある。 ○申請活動組織数が多く、事務負担が大きい。 →チェックリストを作成し、申請時に活動組織に記入してもらうことで事務作業を簡素化。県が記入例を作成してくれたケース、市町村が間に入って書類のとりまとめに協力しているケースもあった。 →申請書類の記入支援のしくみを整えている例もある（GISを用いた図面、整備プラン案を協議会が準備）。 ○募集期間が短く、申請者だけでなく審査側も大変（3～5月は特に大変）。 ○森林計画図と字図が一致しない。 →GISを活用して重ね合わせ・補正を行う。 ○林小班と地番の不一致が生じる。 →森林所有者の協力を得て解消を試みてはどうか。 ○活動組織が古い森林簿、森林計画図を使っていて、現状と不一致が生じ、結果として申請を断念するケースもある。 ○活動組織に森林計画図や公図の利用を促すが、図面を取得する行為自体が活動組織には負担に感じている面がある。 →面積は森林簿・森林計画図で確認するように助言するとよい。 ○境界や隣接所有者が分からないケースがある。 <p>【活動組織からのよくある問合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動地を探すのが大変。 →地域協議会としては、森林経営計画との重複の確認に手間がかかる。 ○山林に隣接する原野で交付金を使った活動ができないのか？ →一体的に管理すると効率がよいのではないかと。

	<p>→地目が原野でも現況が森林であれば活動可。農地であっても、農業委員会に申請して非農地証明の取得が可能（非農地証明が簡単に取得できずに、申請を断念するケースもある）。判断に迷う場合は林野庁に問い合わせを。</p> <p>○モニタリングの調査方法がよく分からない。 →目標や整備内容が活動組織の実態と乖離していて実現性が低いと思われるケースもあり指導が必要。</p> <p>○安全講習、モニタリング調査は何をすればよいのか？</p> <p>○資機材、傷害保険について、何が支援対象になるのか分からない。 →相談を受ける都度、判断して対応。</p> <p>○保険の申込手続に事務的な負担を感じる。</p> <p>○4年目以降の活動について、中山間地域とそれ以外の地域との間に不公平感があると感じる。</p> <p>○獣害対策に使いにくい。</p> <p>○活動の方向性や目的について活動組織に対面で確認（活動がしたいのか、資機材を買いたいのか）。</p>
	<p><u>②審査に関する独自の仕組みや工夫点等</u></p> <p>○まず現場を見る（GPSも活用）。</p> <p>○早い段階で現場で計画範囲や林相を確認しておく、その後の作業がスムーズ。</p> <p>○申請図面が不正確な場合は、協議会が現場確認。その際に県の担当も同行し、情報の共有を図る。</p> <p>○GIS等を活用すれば面積の計測もできる(航空写真にフリーハンドで記入する形での対応でもよいのではないか) →双方の作業の手戻りを考えると、協議会で申請図面を作成するという選択肢もある。</p> <p>○協議会が収支の記入書式を作成し、活動組織に配布している。</p> <p>○書類の内容確認を県にお願いする（ただし、県の担当が異動で変わると対応が変わることがある。また複数の組織で確認を行う分、時間かかるのが課題） →やはり協議会が直接申請や問合せを受けて対応を行う形がよいのではないかと。</p>
	<p><u>③審査に際して重視すべき点、申請団体に確認が必要な項目等</u></p> <p>○活動基盤がしっかりした団体の育成が重要。</p>
<p>発表風景</p>	


図表 5.2.4 **1日目** モニタリング調査に関する説明

項目	内容
日時	令和4年9月14日(水) 15:50~17:00
場所	アットビジネスセンター池袋駅前 別館 7階 706
説明者	・事務局(公益財団法人日本生態系協会 松浦 重徳)
説明内容	<p>資料「森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業に係るモニタリング調査」に基づいて、以下の事項を説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○モニタリング調査の目的、必要性 ○モニタリング調査の実施・報告の作業フロー ○目標(目標林型)の設定とモニタリング調査方法の設定 ○モニタリング調査方法を設定する際の手順と留意点 ○モニタリング調査の手順 ○モニタリング調査方法の例(相対幹距比調査、胸高断面積調査、見通し調査、木材資源利用調査) ○モニタリングの調査区の設定 ○モニタリング結果報告書の記載上の注意点
説明風景	<div data-bbox="416 1043 887 1391" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="938 1361 1078 1391">説明の様子</p>

図表 5.2.5 **2日目** 現地実習

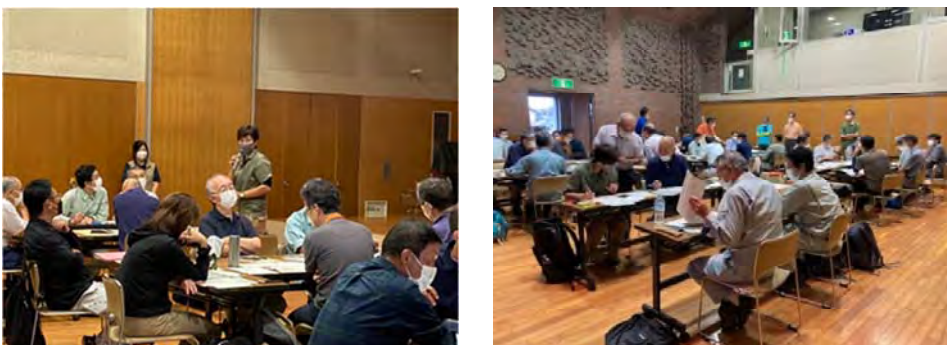
項目	内容
日時	令和4年9月15日(木) 10:30~12:00
場所	活動組織「NPO 法人 自遊クラブ」の活動地(神奈川県相模原市緑区根小屋)
説明者	<ul style="list-style-type: none"> ・林野庁 森林利用課 山村振興指導班 ・原田 明 氏(森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業検討委員会 委員／一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構 コミュニティビジネスチーム長) ・井野 道幸 氏(森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業検討委員会 委員／熊本県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会 事務局長) ・丹羽 健司 氏(森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業検討委員会 委員／NPO 法人 地域再生機構 木の駅アドバイザー) ・浜田 耕治 氏(NPO 法人 自遊クラブ 理事長)
実習内容	<p>【実習内容】</p> <p>○参加者38名(事務局、説明者除く)を2グループ(3班×2グループ)に分け、2つの森林タイプ(人工林と広葉樹林)でモニタリング調査を実習。なお、実習は班単位で行った。</p> <p>○人工林、広葉樹林における実習時間は各40分とし、全ての参加者が2つの異なる森林において実習できるようにした。</p> <p>○目標林型及び3年間の整備内容の設定、モニタリング調査(相対幹距比調査、胸高断面積調査等)の実施</p> <p>○モニタリング調査については1日目のグループトークで話し合った内容を踏まえて、各班が自主的に実施。不明点については適宜、説明者(人工林／林野庁・原田氏、広葉樹林／林野庁・井野氏)が補足説明や助言を行った。</p> <p>○調査に必要な道具(巻き尺、測竿ポール、杭等)、野帳は事務局が準備し、現地において班単位で配布した。</p>
実習風景	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>人工林での実習風景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>広葉樹林での実習風景</p> </div> </div>

図表 5.2.6 **2日目** 活動組織の取組紹介

項目	内容
日時	令和4年9月15日(木) 13:30~13:55
場所	相模原市 串川地域センター 多目的ホール (神奈川県相模原市緑区青山 1012)
説明者	・浜田 耕治 氏 (NPO 法人 自遊クラブ 理事長) ほか
説明内容	<p>【自遊クラブの取組紹介】</p> <p>○平成6年に団体を設立し、平成16年度にNPO法人化。かつては斜面林と畑が形成されていたが、その後放置され荒廃していた場所を、林野庁の交付金を受けて約2.5haの里山林を整備。</p> <p>○森林資源を循環利用するかつての里山林を再生しつつ、環境学習や自然体験などの機会の提供を通じて、近隣の小中学生の環をはじめとする地域住民に、森の恵みを実感できるような場を整備していきたいと考えている。</p> <p>【連携団体の取組紹介】</p> <p>○自遊クラブの活動地に隣接する森林を保全管理。活動地は、17年前に現在の所有者が私財を投じて買い取り、保全していた森林。</p> <p>○マウンテンバイクのコースづくりや、森遊びなどの里山を活用した環境教育、企業との連携などの取組を通じて、森の豊かさを皆で共有しつつ、地域の財産として次世代に継承していきたい。車いすでの利用も含めて、幅広い世代・層に興味・関心を持っていただくような機会を提供したい。</p>
説明風景	 <p>活動紹介の様子</p>


図表 5.2.7 **2日目** ワークショップ「モニタリング調査方法について」

項目	内容
日時	令和4年9月15日(木) 13:55~15:45
場所	相模原市 串川地域センター 多目的ホール (神奈川県相模原市緑区青山 1012)
コメンテーター	<ul style="list-style-type: none"> ・林野庁 森林利用課 山村振興指導班 ・原田 明 氏 (森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業検討委員会 委員 / 一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構 コミュニティビジネスチーム長) ・井野 道幸 氏 (森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業検討委員会 委員 / 熊本県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会 事務局長) ・丹羽 健司 氏 (森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業検討委員会 委員 / NPO 法人 地域再生機構 木の駅アドバイザー)
発表内容	<p style="text-align: center;">※黒字は参加者の発言。青字はコメンテーターの発言</p> <p>①人工林におけるモニタリング調査について</p> <p>【1班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目標林型は景観重視。100㎡あたり 11本、相対幹距比 11.2 を目標とした。 ○3年間にこだわらず長期的視点を持って取り組む。2年目に相対幹距比 1ポイント改善を目指す。 ○相対幹距比を算出する場合は上層木(樹高 25~27m)に着目する。 ○目標林型は長期的視点を持ち、森林所有者との関係を構築し、一緒に楽しく取り組むことも同様に重要。森林所有者との対話が基本かつ重要(めんどくさがらない)。また、モニタリング調査を目的にすべきでない。 <p>【2班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○形状比が高い林分での過剰伐採は災害リスク増加を招く恐れがある。 ○間伐本数を減らす、細めの木を選択して間伐する等の対応が必要と感じた。 ○間伐が遅れた結果、形状比が高い林分になるケースが少ない印象。 <p>【3班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チェーンソー暴走族にならず、計画的に整備。作業に意味を持たせ、メンバーと共有することが重要。その積み重ねが目標林型の実現につながる。 ○調査結果を受けて、整備の意義や整備の必要性を仲間だけでなく森林所有者と共有することが重要。 ○森を育てる整備は目に見える効果がすぐに現れないことがあるので、長期的な視点を持って取り組む必要がある。 ○地域振興の視点(地域の興味・関心をひく視点)も重要ではないか。 <p>②広葉樹林におけるモニタリング調査について</p> <p>【1班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○混み具合調査は、針葉樹は樹高と本数に着目。広葉樹は樹高にバラツキがあった。 →(林野庁) 広葉樹林では相対幹距比を用いず、胸高断面積を用いて調査。 ○胸高断面積 12㎡/ha程度で相対照度 30%となるとの研究結果がある。


	<p>○人工林では相対幹距比を用いるのが基本。土壌環境（土壌流出、土壌動物の状況）なども含めて全体見る視点も必要ではないか。</p> <p>【3班】</p> <p>○胸高断面積の適性値に留意が必要。</p> <p>【4班】</p> <p>○景観改善（森の若返り）を目指す。初回調査を踏まえて、相対幹距比の数値目標は20.2と設定。</p> <p>○枯損木（ナラ）を除伐。1年目は立ち枯れ木の伐採。2年目はナラ枯れの樹木の伐採。3年目に間伐。1年に1本ずつ伐採するペース。</p> <p>○人間の健康診断と同様に、現在の森の状況をしっかり見ることが大切。</p> <p>○胸高断面積の目標値は12 m²/くらいまで落とすのが理想。ただし、環境の激変には注意が必要。また、ナラ枯れが目立つので、今後枯損木が発生した時の対応の想定が必要ではないか。</p> <p>【5班】</p> <p>○10m×10mの方形の標準地を設置。</p> <p>○胸高直径5cm以上の立ち木9本に対処（立ち枯れ、虫食いが各1本あった）。間伐、刈払いによる見通しのよい森づくりを目指す。2年目で間伐終了。3年目に刈り払いを行う。</p> <p>→3年目に刈り払いを行う視点は興味深い。森林整備に生物多様性保全の視点を加味してもよいのではないか。</p> <p>【6班】</p> <p>○照度が低いと感じた。50m先まで見通せる森林（明るい空間、子ども達が遊べる空間の創出・維持に留意）を目標とした。</p> <p>○切り捨て間伐は年間1～2本を想定。</p> <p>○林床に切り株が多く、つまづくことがあった。子どもを森に入れることを考えると、チップ等で凹凸の解消を図るのも一案と思った。</p> <p>○伐りすぎると林床の植生が繁茂することもある。</p> <p>○伐採木を玉切りすると、クワガタの幼虫の生息空間を創出できるかもしれない（ただし、これは自然任せなので定量評価にはなじまない面がある）。</p>
<p>実施風景</p>	

図表 5.2.8 **3日目** ワークショップ「実施状況報告の事務について」

項目	内容
日時	令和4年9月16日（金）9：05～10：15
場所	アットビジネスセンター池袋駅前 別館 7階 706
コメンテーター	<ul style="list-style-type: none"> ・林野庁 森林利用課 山村振興指導班 ・原田 明 氏（森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業検討委員会 委員／一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構 コミュニティビジネスチーム長） ・井野 道幸 氏（森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業検討委員会 委員／熊本県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会 事務局長）
発表内容	<p style="text-align: center;">※黒字は参加者の発言。青字はコメンテーターの発言</p> <p>①審査における失敗談、困り事、活動組織からのよくある問合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○申請書類の提出期限が守られない。 ○12月以降に届く書類の修正に時間がかかる。2月締切なのに3月まで活動を行っていたため、処理ができないケースがあった。 →中間報告をしてもらうことで早めに記載内容の確認（不明点の解消）を行うとともに、締切を早めた（2月中旬など）。 ○添付書類がついていない。写真の添付がない。 →チェックリストを作成することで添付漏れを防止。 ○書類間で記載内容の不整合がある。 →確認事項を絞って確認する。 ○全国共通の書類のチェックリストがない。 →協議会によってチェック項目にバラツキがある。 →特に問題となる点、問合せをよく受ける点を中心にチェックする。 →保険加入の有無については、通帳の支出記録で確認した。 →活動内容が多岐にわたる（作業内容や使用する物品が多岐にわたる）が、チェックリストを作成することで逆に活動の多様性が失われる可能性があるかもしれない。 ○何をどのように審査するか迷いがある。 ○モニタリング調査の標準地の設定前後の記録を写真撮影しておくように指導（成果報告書を作成する段階になって慌てる活動組織がある）。 ○対象外、期間外の物品購入があった。 →領収書、購入物品の写真で対象物品を除外した（領収書だけでは個別の物品確認が行えないことがある。例えば機械番号、商品番号の記載がなく、どれがどの物品か対応関係が分からないケースなど）。 ○計画通りに作業が行われていない活動組織があった。 →中間時に報告を提出してもらい、進捗を確認するようにした。 ○活動組織の総会が開催されていない。 →必ず開催してほしい旨を活動組織に伝えている。コロナ禍で対面での開催が難しい場合には書面評決も可ということを活動組織に伝えている。 →活動組織数が多いと、総会の開催状況についての実態把握が困難。


	<p>○活動組織が書類作成に不慣れ。手書き書類での提出でデータ整理に苦勞。 →パソコンができる人を確保。 →エクセルで入力書式を作成し、活動組織に配布。 →写真はその日のうちにパソコンに保存・整理して、打ち出しておく（打ち出しておくことで、後でスキャンして利用することが可能）。</p>
	<p><u>②審査に関する独自の仕組みや工夫点など</u></p> <p>○締切前に中間報告、報告書の仮提出をさせることで進捗を把握。 →12月末までの「遂行状況報告書（進捗率をざっくりと%表示で記入してもらう書式）」を提出してもらっている。</p> <p>○精算作業を前倒しし、事前確認することで年度末の繁忙期を平準化。</p> <p>○概算払いにも対応している（令和4年度から概算払いは9割まで可能）。</p> <p>○アドバイザーに現地同行してもらっている。 →対面で活動組織の相談事等に対応（対面で相談したいという活動組織のニーズがある）。</p> <p>○県、県の出先機関経由で書類を提出してもらっている（二重確認）。</p> <p>○書類の確認作業や相談対応については協議会で完結するようにした方が、結果的に作業効率、作業に要する時間、活動組織の実態把握の観点からは望ましいのではないか。</p> <p>○検査要領を作成して全数検査を行っている。 →事務負担は大きいですが、極力、現地で確認するようにしている。</p>
	<p><u>③審査に際して重視すべき点、活動組織に確認が必要な事項など</u></p> <p>○面積が申請書通りか確認。</p> <p>○通帳で資金の支出明細を確認。</p> <p>○資機材を購入した場合には稼働状況を確認。</p> <p>○林小班ごとに収支を確認（対象外物品を確認した場合には除外）。</p> <p>○手間はかかるが、活動記録を細かく確認するようにしている。</p> <p>○写真の使いまわし（同じ写真のコピー）の有無を確認。</p> <p>○事前に「審査で訪問することがある」旨を通知。 →実際には訪問しないこともあるが、活動組織に緊張感を持ってもらう点で意味がある。</p>
<p>実施状況</p>	

図表 5.2.9 **3日目** 話題提供

項目	内容
日時	令和4年9月16日(木) 10:25~10:45
場所	アットビジネスセンター池袋駅前 別館 7階 706
説明者	<ul style="list-style-type: none"> ・吉田 稔 氏 (公益社団法人とちぎ環境・みどり推進機構) ・原田 明 氏 (一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構) ・長谷川 剛司 氏 (公益財団法人静岡県グリーンバンク) ・事務局 (公益財団法人日本生態系協会 グランドデザイン総合研究所 副所長 亀田 聡)
説明内容	<p>【公益社団法人とちぎ環境・みどり推進機構の事例紹介】</p> <p>○里山林の保全・利活用の担い手を確保するための仕組みとして「とちぎ森づくりサポーター」制度を運営。本交付金に関する説明会において「とちぎ森づくりサポーター」の会員や、森づくり活動の主催者を募集。また、別途主催している森づくりに係る学習プログラム「とちぎ里山塾」において活動組織の活動紹介を実施。これらの既存の取組と活動組織の活動の橋渡しを行っている。</p>
	<p>【一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構の事例紹介】</p> <p>○森づくりに関する別組織主催のイベント (みどりとふれあうフェスティバル) にブース出展し、来場者に対し、交付金に係る活動のパネル展示を使った説明や、交付金の募集説明会の案内チラシを配布。竹細工をテーマにした体験型ワークショップの開催を通じて、森林に対する興味・関心を持っていただくとともに、竹林管理を通じた環境保全の取組趣旨の周知を図った。</p>
	<p>【公益財団法人静岡県グリーンバンクの事例紹介】</p> <p>○里山の保全と利活用をテーマにした対面とオンライン併用のマッチングイベントを令和3年11月に開催。約80名(会場17人、オンライン66人)のうち、関係人口に相当する参加者がほぼ半数だった。今年10月に、関係人口をテーマにしたオンラインイベントを2回、11月マッチングイベントを1回開催予定。コロナ禍での関係人口の創出を試行中。</p>
	<p>【全国のマッチングイベントの実施状況】</p> <p>○令和4年度の地域協議会向けアンケートのうち、関係人口の創出、マッチングイベントに係る設問の回答状況を説明。</p>
説明風景	

図表 5.2.10 **3日目** ワークショップ「関係人口とのマッチング促進」

項目	内容
日時	令和4年9月16日（金）9：05～10：15
場所	アットビジネスセンター池袋駅前 別館 7階 706
コメンテーター	<ul style="list-style-type: none"> ・林野庁 森林利用課 山村振興指導班 ・原田 明 氏（森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業検討委員会 委員／一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構 コミュニティビジネスチーム長） ・井野 道幸 氏（森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業検討委員会 委員／熊本県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会 事務局長）
発表内容	<p style="text-align: center;">※黒字は参加者の発言。青字はコメンテーターの発言</p> <p>①今後想定されるマッチング促進策のテーマ・内容など</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他団体のイベントブースへの出展、WEBイベントを通じたPR等を今年度実施予定。 ○若者や女性が多い活動組織は関心を持って取り組むかもしれない。 ○外部からの参加は必ずしも地域にプラスにならないことがある。 ○協議会としてマッチングの趣旨を理解できていない面がある。 ○立ち上げ事例が少なく手探りの状態にある。 ○マッチングイベントを予定している活動組織が少ない。 ○市町村との連携（市町村と連名で組織名を記載したチラシ配布など） ○既存のネットワークを活かして活動組織を支援（大阪府）。 ○放置竹林をテーマとしたイベントで交付金の活動を説明（福岡県）。 ○参加者が3,000人を超えるようなイベントでの情報発信を行っており、発信効果を期待している。 ○どうすれば多面的機能発揮対策の取組の裾野を広げられるかを考える。 →自分（個人）、自分が所属する活動組織が得意なこと、得意な分野に絡めたPRや取組をしてはどうか（熊本県ではその旨を検討）。 ○既存団体のネットワークを借りて必要な人材を確保（阿蘇の野焼きとの連携／熊本県）。 ○安全講習については協議会がサポートする形がよいのではないか。 <p>②マッチング促進策の企画・実施に係る課題・解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1から取り組むのは難しいので、林業等のイベントへの参加（ブース出展し、参加者に活動を説明等）など、既存の取組との連携が想定される。 ○先行事例の共有 →活動組織の取組状況をアンケートで把握している（北海道）。 →活動組織の取組状況をオンライン形式で行った協議会が2団体あった。 ○誰を対象に、何をしたらよいか分からない。 →市町村との連携がよいのではないか。 ○活動組織が必要を感じていない。 →メリットの提示が必要ではないか。 ○資金確保、PRの手法が課題。

	<p>→県や市町村との連携が必要。</p> <p>○参加者 10 名はハードルが高い。</p> <p>○ブース出展の内容に悩んでいる。</p> <p>→できるところから取り組んではどうか。</p> <p>○地域の取組に関わる人を増やすことが重要ではないか。</p> <p>→地域の特色、活動組織の得意なこと・分野を活かして外部にPR。</p> <hr/> <p>③マッチング促進に向けたアイデア（イベント以外も含む）</p> <p>○若者や女性への働きかけを突破口にするのがよいのではないか。</p> <p>○協議会と県・市町村との連携が必要ではないか（県や市町村に対して、分かりやすく意義を説明する必要がある）。</p> <p>○実態把握のためのアンケートの実施。</p> <p>○企業との連携（CSR、脱炭素がキーワードになるのではないか）。</p> <p>→企業側の取組ニーズは多様化している。企業の森などのように法人としての参加だけでなく、個人としての参加もある。多様なニーズに対応した活動フィールドを紹介できるかどうかポイントになってくるのではないか。</p> <p>○新たな活動フィールドが少ない。</p> <p>→自治体と連携して活動フィールドをストック（大阪府）。</p> <p>○幼稚園との連携を試みたものの、個人情報取り扱いの関係で話が立ち消えになった。</p> <p>○大学との連携を調整中。コロナ禍で延期になったものの、改めて連携の内容等を調整することになった。</p> <p>○山に関心のある層へのアプローチ（大学・市民団体などの既存イベント、キャンパー、山ガールなどとの連携。山の中での自然観察会）。</p> <p>○都市部在住の若者や企業などで、森に関心のある人の掘り起こし。</p> <p>→多様なアプローチを通じてニーズを把握する視点が重要ではないか。</p> <p>○既存の取組との連携（接点を探す）。</p> <p>○一つ一つの小さな情報の組み合わせを考える（どうすると森林・山村多面機能発揮の取組に関心を持ってもらえるのか、参加してもらえるかを考える）。</p>
<p>実施状況</p>	

(3) スキルアップ研修アンケート結果概要

対象：地域協議会担当者

配布日：令和4年9月14日（水）

回収日：令和4年9月16日（金）

回収率：94.8%

1) 参加者の属性について

①参加者の年齢層（n=37）

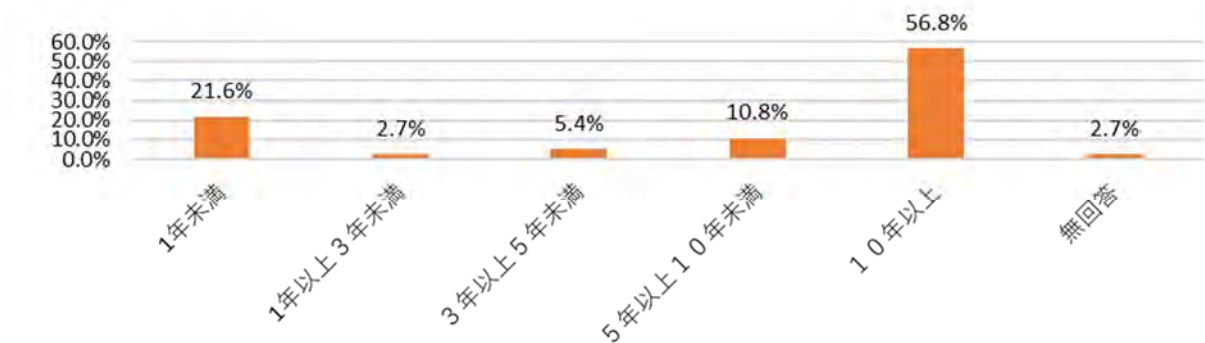
60歳以上が最も多く、全体の4割を占めている。



図表 5.2.11 参加者の年齢層

②林業経験年数（n=37）

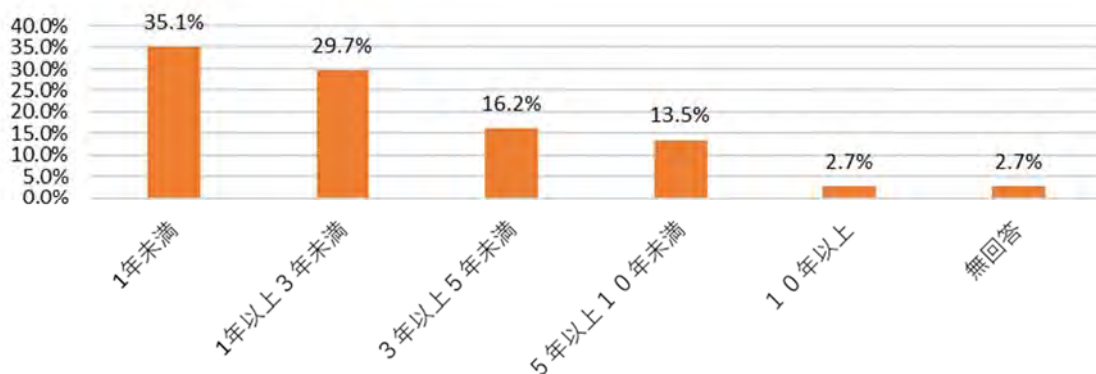
ワークショップや現地実習での班分けの際に、林業経験年数を参考にした。半数以上の担当者が林業経験10年以上である一方、2割が林業経験1年未満で本交付金担当者となっている。



図表 5.2.12 林業経験年数

③本交付金の実務に係る経験年数（n=37）

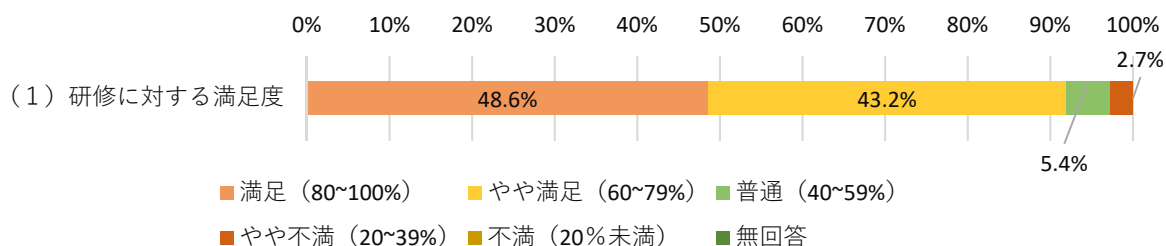
林業経験の長短に関わらず、1年未満の担当者が3割以上いる結果となっている。



図表 5.2.13 本交付金の実務に係る経験年数

2) 研修全体について

①研修に対する満足度 (n=37)



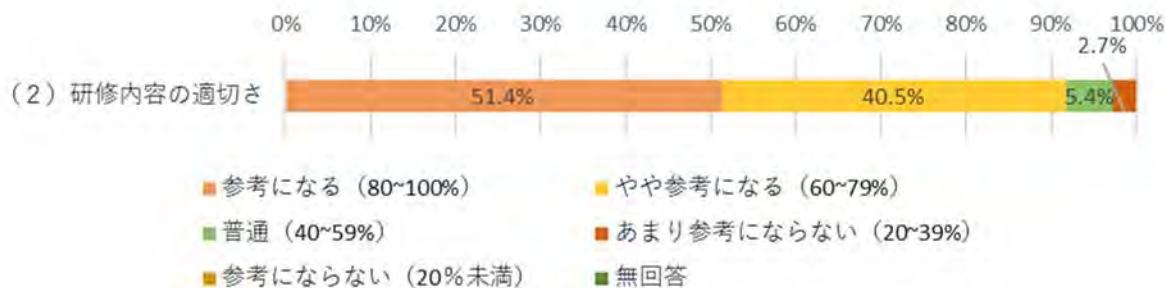
図表 5. 2. 14 研修に対する満足度

※コメント表記は全てである調表記とし、固有名詞は特定されないよう変換した。

【コメント】

- 近くの県の担当者の方といろいろな話ができ、少し気持ちが楽になった。
- 他の地域協議会と会話したいと思っていたので、理想の研修だった。
- 各ブロックでまとまったのがよかった。内容が近いので議論を深めることが出来た。
- 他の方と話が出来て大変よかった。経験者の方々から助言・指導をいただいたことや、それぞれの取組、状況を伺えて大変参考になった。
- 4月から担当になることから、全ての研修が目新しく今後の業務の参考になった。
- グループワークが多く、楽しく研修を受けることができた。
- 非常に勉強になった。継続していただくとありがたい。
- 毎年実施してほしい。
- 大変勉強になった。
- 経験豊富な方にリードしていただく形でワークショップが進行されたので、とてもよい雰囲気活発な情報交換ができたと思う。有難い仕組みだった。
- 新任者にはある程度予備知識がないと難しい内容。業務実施にあたってとても参考になった。今後も情報交換すべく継続してもらいたい。半年ぐらいで各活動組織への指導は大変。現場中心の経験を積みたい。
- 現地調査の時間に余裕をもったスケジュールにさせていただくともっとよいと思う。様々な状況や意見が聞けてよかった。
- 全体的に時間が短く、満足に他協議会と話をすることが出来なかった。
- 委員の意見を聞くよりも、その意見を踏まえての林野庁の見解を伺う時間を増やしてほしい。

②研修内容の適切さ (n=37)

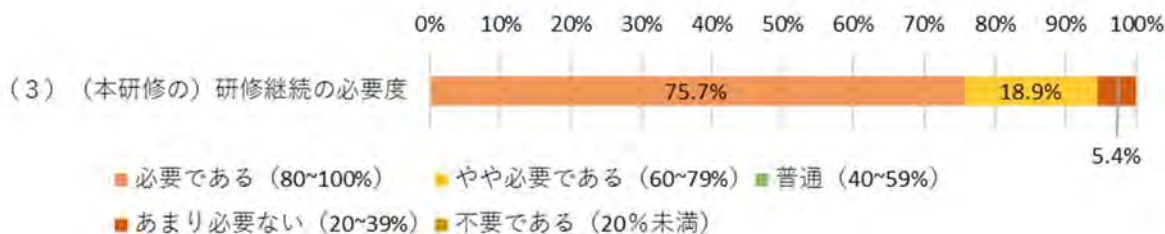


図表 5. 2. 15 研修内容の適切さ

【コメント】

- グループワークが多くてよかった。
- 困り事や事業におけるポイントと思うので適切と思う。
- 日常の業務ですぐに活かせる内容でよかった。とてもためになった。
- 全般が示されていたので、事業全体の流れを確認できた。
- モニタリング調査を実際に行うことができ、指導すべき点等イメージが湧きやすかった。
- 進行の方の進め方が丁寧で一つ一つ確認しながら進められた。核となるテーマに絞られていたと思う。
- 今回のように現地研修があるとよい。
- 積極的に事業に取り組んでいる協議会の活動事例を入れてほしい。
- 地域の実情による内容があればよかった。
- 林野庁から会計検査に必要な情報を提供してほしい。

③ (本研修の) 研修継続の必要度 (n=37)



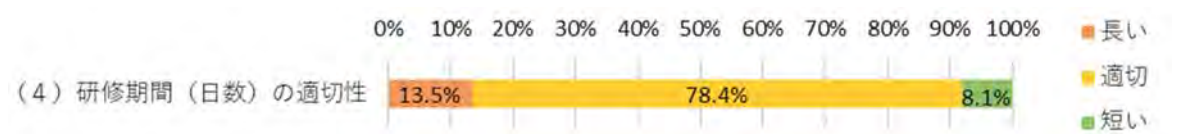
図表 5. 2. 16 研修継続の必要性

【コメント】

- 職員数が少なく、前担当との引継ぎも十分に出来ないような傾向にあるため、このような研修は是非必要である。特に他協議会との情報交換は、非常に有益であった。
- また行っていただけると有難い。
- 協議会の各局員が参加できるように、特に新しく担当となった局員は必ず参加できるように毎年開催してほしい。
- 今後も他県の先導担当者の交換の場を設定してください。できれば2月のセミナーにもお願いしたい。
- 必要 (定期的に人事異動があるため)。
- 各県独自の取組が多く、また毎年状況変化があるので、理解を深めるためにも継続してほしい。
- 雑談の中にもヒントがあった。
- 各県の状況収集が出来るので継続してほしい。

- 研修の内容に関してはとてもよいものだと思うので続けてもらいたい。
- 近県の話聞く機会は貴重。

④研修期間（日数）の適切性（n=37）

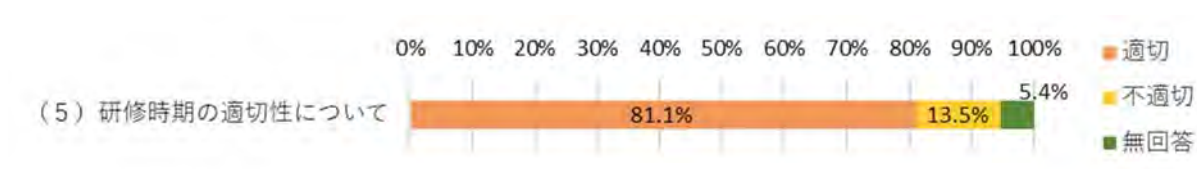


図表 5. 2. 17 研修期間（日数）の適切性

【コメント】

- ちょうどいい期間だと思う。
- コロナが終われば現地での泊まり込みもよい。
- 連続した日数を研修で割くことは、私を含め皆さん難しいとは思いますが、複数回に分けてもよいので、もっとしてほしい。
- 内容からすると必要。

⑤研修時期の適切性について（n=37）



図表 5. 2. 18 研修時期の適切性について

【コメント】

- 6月～9月中旬が望ましい。
- 7～9月が自分にとっては適期。他事業についても仕事があるのでちょうど仕事に余裕のある時期である。
- 兼務している仕事に比較的余裕がある時期で良かった。これから活動組織の活動が本格化する時期である、書類のチェックやモニタリングの指導に参考になる。
- 夏は暑いのが今が余裕がある。
- 暑くも寒くもなくよい。
- 秋はいろいろな事が多い。
- もう少し早めた方がよいと思う。
- もう少し早めの時期に実施出来ると、今回の研修でのヒントを今年度の活動に活かしやすい。

⑥今後の研修で取り上げて欲しいテーマ・内容

- 今回のテーマがよい、今回のテーマが私達にとってポイントと思う。
- 他の協議会と意見交換する時間がほしい。
- 各協議会で使われている様式や事務処理のテンプレの紹介と使用事例が聞けると嬉しい。
- 地域協議会の業務について、話し合う機会（情報交換）を設けてもらいたい。
- 協議会の運営、経理などの初任者向けの研修。
- 協議会そのもの及び事務局の運営について
- 他の協議会の事例。
- アドバイザー制度：活用状況・活用事例、保険：どんな保険があるのか、消費税：どう指導す

ればよいのか。

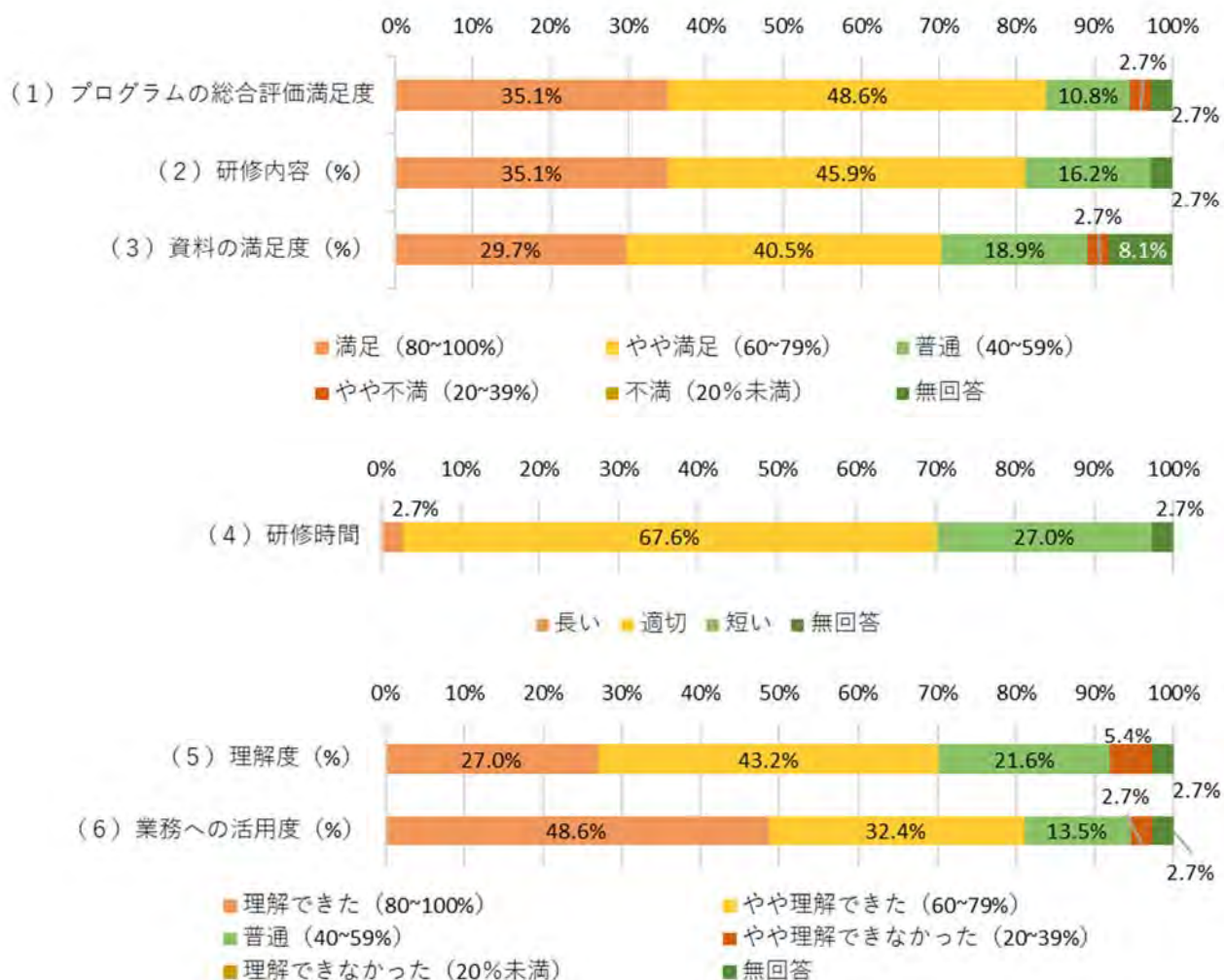
- 活動組織の高齢化、後継者対策。
- 関係人口創出は継続して取り上げてほしい。
- マッチングイベントへの参加。
- 交付金の申請・変更・実施報告書の作成のポイントと留意点について林野庁から事例を混ぜて説明(研修)していただきたい。
- 事業終了後の活動団体の継続・その後の活動について。
- 特にテーマを絞り込まなくてもよいのでは？

⑦その他のご意見、ご要望

- 他県の方との情報交換の場はありがたい。
- 他の協議会等の課題等を話せることがよかった。
- コロナの関係で懇親会もなかったので、グループ以外の人たちとの話をするのができなかった。他の協議会と自由に話せる時間があれば助かる。
- 他府県の担当者から情報共有できたこと。工夫していることなど聞けたことが今後の仕事に役立つことが多く得られた。直接会って交流できたことで、今後分からない時、現場の声を聞きたいことがあれば伺うことができるきっかけを頂きました。
- とてもよかった。
- 研修に参加した方の名簿を配布していただけると研修後に他の協議会との情報交換もスムーズになると思う。参加者に名札を用意していただけると顔と名前が一致しやすくなると思う。研修に向けて、適切な事業地の選択など大変なご苦労があったと思う。今後の業務の参考にしたいと思う。ありがとうございました。
- たくさんの団体がお見えなので時間的に大変だとは思いますが、他の班との交流時間があるとよいと思う。
- 充実した研修だった。発表に際し書記の方がボードに書き込んでおられたものを後日ベタ書きでもよいので共有していただけると有難い。コロナが終息したら、懇親会を開催してほしい。
- ホワイトボードにワークショップの意見等をまとめていただけて、本当に助かった。見返すことが出来て、スマホにも撮って残した。2日目のワードでのまとめも同様に助かった。
- いい研修会だった。ありがとうございます。
- 事務局の板書 Good! 関係人口、静岡作成の資料を配布して欲しかった。
- もっと時間があれば・・・か、もっとテーマを薄めるか・・・、もっと研修していただきたい。
- モニタリング調査項目多い。植生調査、見通し調査、照度開空項目は、実施達成率が調査方法により理解が難しい。
- 一連の業務を全て一度の研修でする必要はないのでは?事務処理について座学のみ、現地研修のみとか集中しても良いと思う。ナラ枯れを放置しておいて良い様な資料や発言があるのはいかななものか。各県とも対応に苦労されており、防除に力を入れられているのではないか。
- 全国の協議会毎の活動実績(団体数、交付額、面積等)の一覧表があればよいと思う。各都道府県の取り組みに関する考え方を分ければよいと思う。全国の協議会の構成メンバー(県市町村、森林組合、その他の団体毎の人数)の一覧表があればよいと思う。
- 現地研修は段取りが大変そうだった。
- 会場がもう少し広いとありがたい。他の班の声の影響で藩内の発言が聴き取りにくい時が多かった。

3) 各プログラムについて

① 交付申請段階の事務について (9月14日午後実施) (n=37)

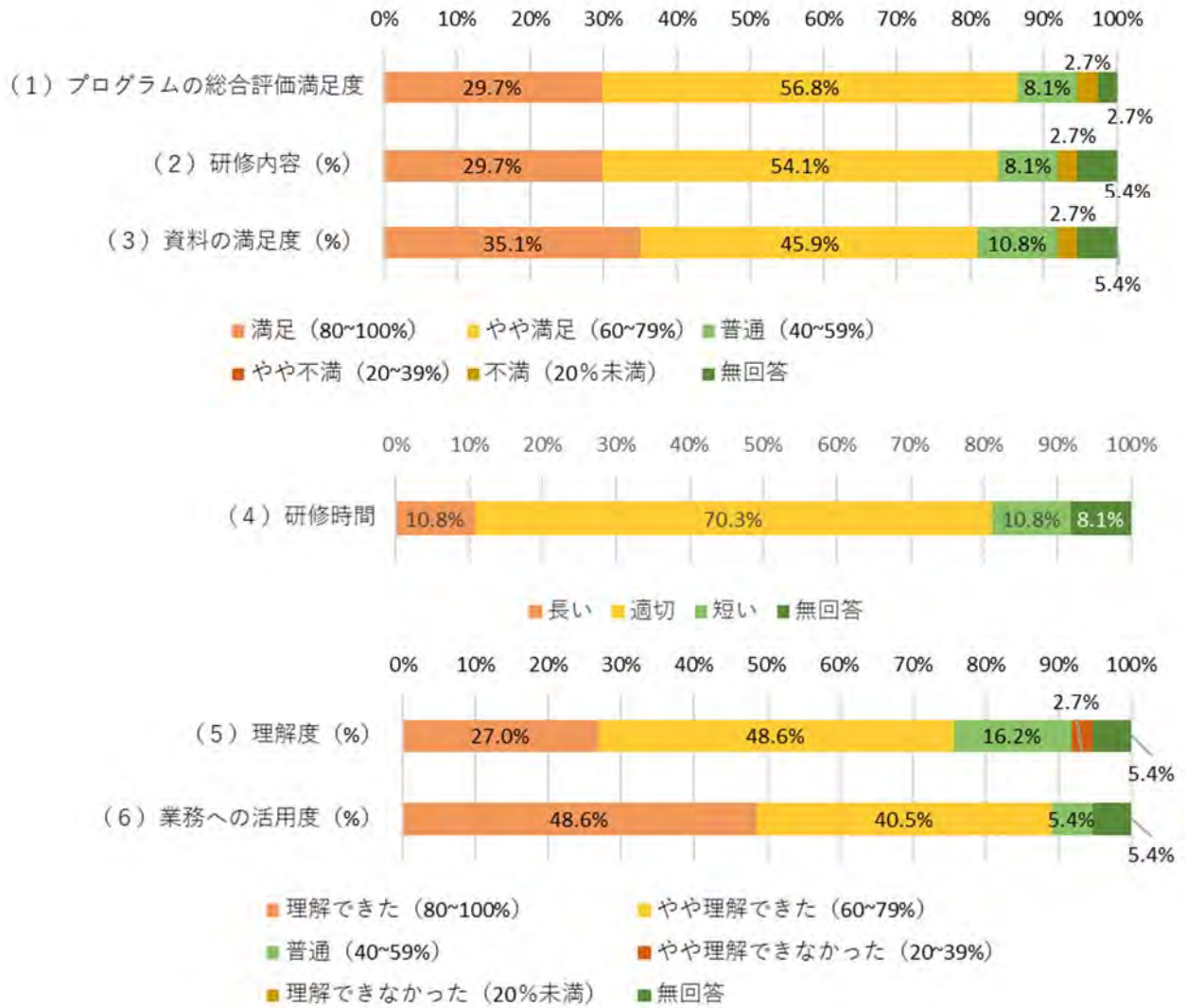


図表 5.2.19 交付申請段階の事務について

【コメント】

- 他県の事例を聴くことができ有意義だった。
- 次年度の参考になった。
- たまたま同じグループの中に意見をとりまとめた方が見えたので話し合いがしやすかった。
- 他地域の実績や事務のノウハウが知れてよかった。コロナが無ければ、もっと多くの方と話が聞けたのに、残念。
- 時間が短く、それぞれの話を十分にすることが出来なかった。互いに質問などが出来る時間が必要と思う。
- 時間が短い。資料がざっくりとし過ぎている。悩みの共有ができた。

②モニタリング調査の基礎知識（9月14日午後実施）（n=37）

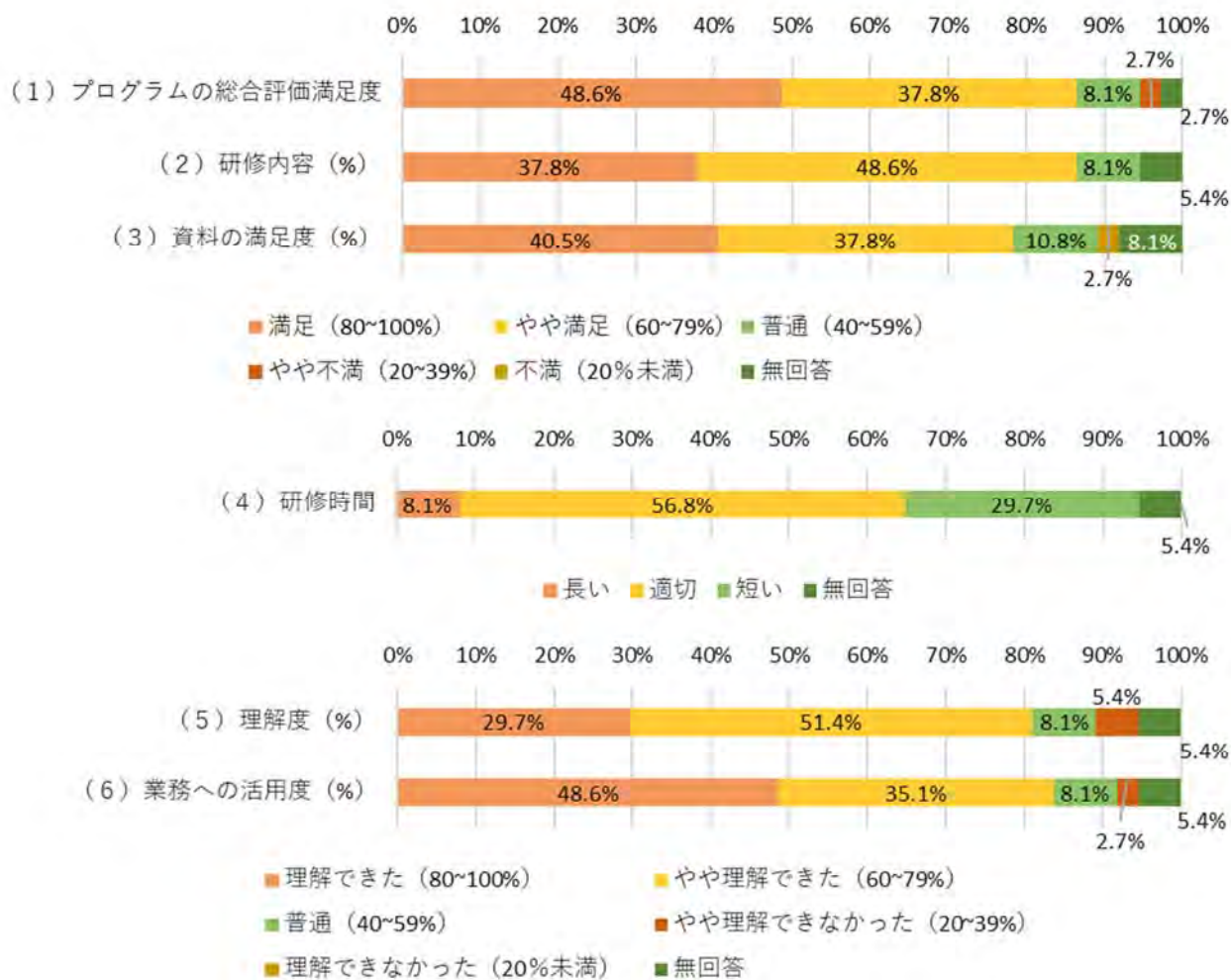


図表 5.2.20 モニタリング調査の基礎知識

【コメント】

- モニタリングについては分からないことだらけだったので、このような研修を行っていただき勉強になった。
- 説明後の意見交換で具体的な対応を聴くことが出来て良かった。
- 現地での調査を時間を気にして考える時間が余りとれず残念だった。経験者・上級者向けかなと感じた。
- こちらも少し予習してくればよかったが、森の健康診断の事例のお話をもう少し聞ける機会があるとよかった。
- ポイント等もっと深く話をして実践、助言、指導に役立つような点を重点にしてほしい。
- 人数の割に部屋が狭くグループでの話合いで他のグループの声で我々のグループの声が聞きにくかった。
- 説明が丁寧すぎる。文字では具体をイメージできない。

③モニタリング調査の実践（現地実習/自遊クラブ活動地）（9月15日午後）（n=37）



図表 5.2.21 モニタリング調査の実践について

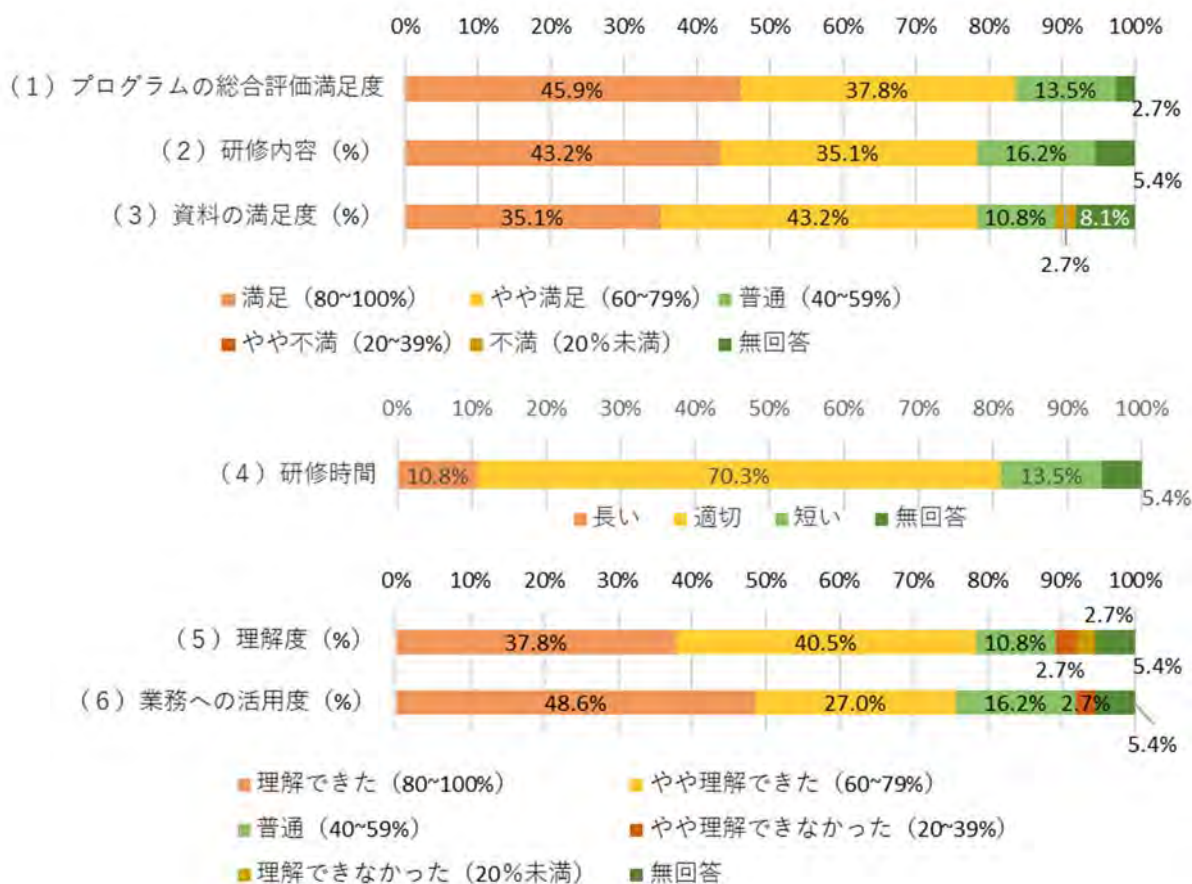
【コメント】

- 現地研修は役立つ。
- 協議会に帰って実際にモニタリングを行う時の参考になった。
- 調査方法について経験者の方が率先して進めていただき、初心者の私に色々教えていただいた。
- 久しく実践してなかったので復習ができた。参考になる調査用の資料（樹高早見表等）がよかった。
- 現場で目標林型と調査方法を考えるのは、高度すぎると思いましたが、経験豊富な参加者の皆さんのおかげで、多くの班が対応でき、面白い結果が得られて良かったと思った。一方、初心者が自力で調査できる程度に手法をマスターできたかどうか心配もある。初心者限定の研修会を企画して、参加者が自力で調査、集計、考察、数値目標の検討までできるようにしてあげてもよいと思う。
- 現地での時間が少なかった。
- 実施時間がやや短い。
- タイムスケジュールが密で満足にできなかった。現地の情報を事前にもらいたかった。
- 現地での調査の時間を気にして考える時間が余りとれず残念だった。経験者・上級者向けか

など感じた。

- 人工林の調査を規定しておくなら事前に知らせておいてほしかった。
- 調査グッズが足りない場面があった。

④モニタリング調査の実践（ワークショップ／串川地域センター）（9月15日午後）（n=37）

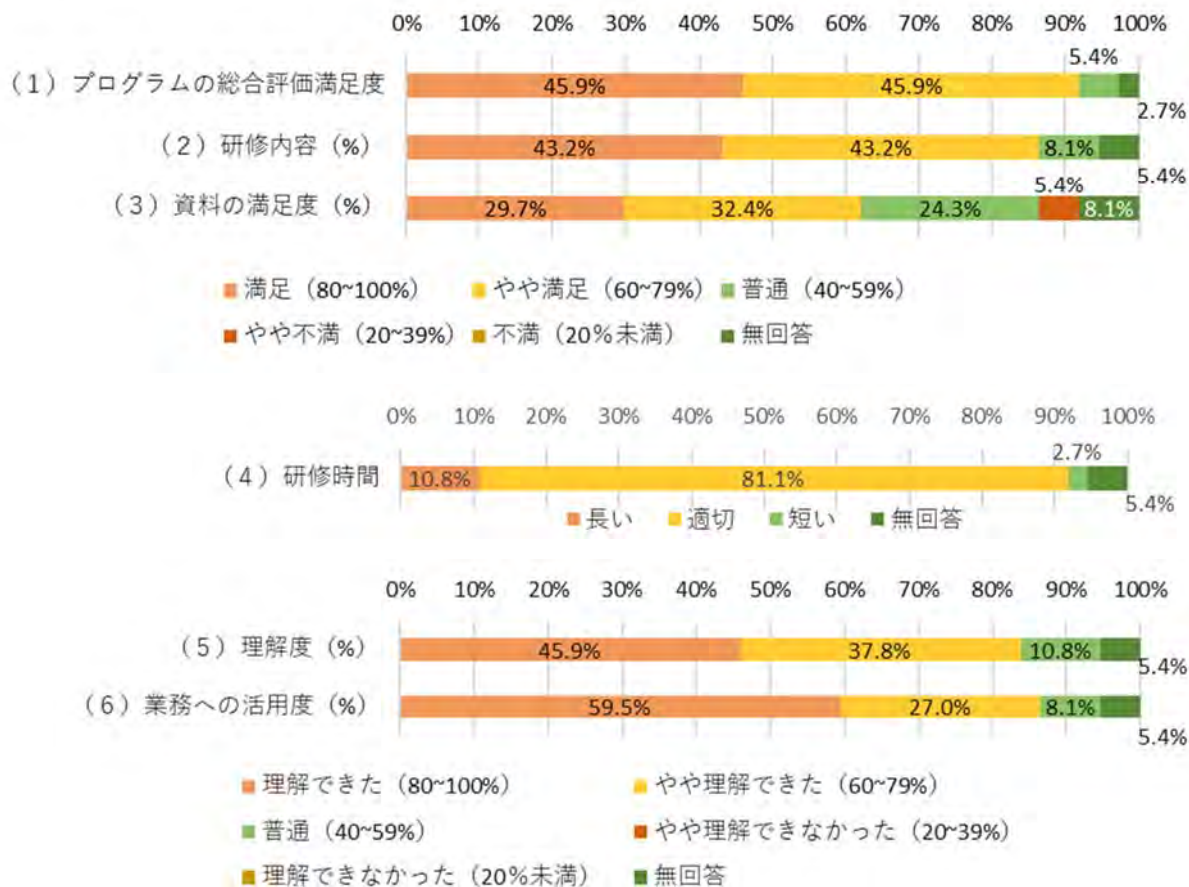


図表 5.2.22 モニタリング調査の実践について

【コメント】

- 事例が具体でとてもイメージができた。かなりよいケースだが、同じような熱量の組織を探してみる。
- かなり優良な事例を見せて頂いたので、勉強になった。
- 現地で活動している組織の発表は参考になった。
- 経験者の方に先導していただき大いに参考になった。
- 針葉樹、広葉樹における調査方法の違い、使い分けについて理解できてよかった。
- 勉強になった。
- ワークショップの時間が短い。
- モニタリングの重要性は理解するが高齢者がほとんどの活動組織に理解させ、考えさせるための手法等を聞きたかった。
- 調査結果からS r等の数値を算出するための時間的な余裕を生み出すため、研修プログラム4を3日目に実施した方がよかったかもしれない。

⑤実施状況報告の事務について（9月16日午前）（n=37）

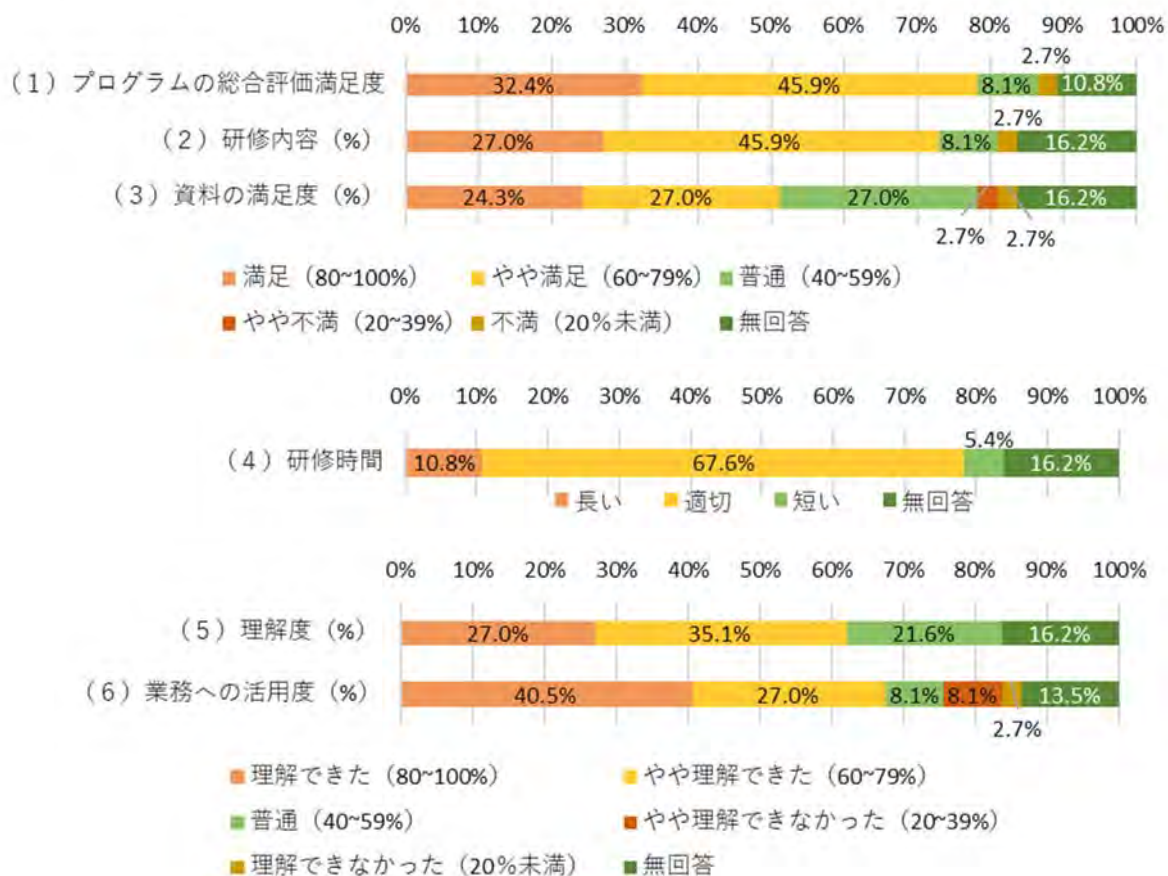


図表 5.2.23 実施状況報告書の事務について

【コメント】

- 様々な意見を聴くことができ、共有でき、参考になった。
- 各県の工夫点が多く、参考になる内容でした。
- 各県とも同様の問題点等があることと、対応・対処についてうかがえてよかった。
- 各県同じような課題があることが分かった。対応等もいろいろあるので参考になる。
- 各県の問題点や対応を聴くことが出来て良かった。
- 当協議会でのチェック体制のため、よい部分が理解できた。
- 部屋全体がザワザワしていてグループの話し合いが聞き取りにくい。

⑥マッチングイベントと関係人口について（9月16日午前）



図表 5.2.24 マッチングイベントと関係人口について

【コメント】

- マッチングイベントを開催する参考になった。
- 実施に向けたヒントになる。
- どのように取り組んでいくか悩み検討していることであり、事例や各県の話のを伺えてよかった。
- まずは身近な所から取り組む事が大切であると感じた。
- 幅広い取組の可能性があることが理解できた。少し気持ちが軽くなった。
- 関係人口を増やすということについて、単に交流人口を増やせがよいのか、森林の担い手を他地域から募集するという事なのかよく分からない。他人の山を整備したいというニーズはあまり聞いたことがなく、マッチングの対象が見つからない。
- 発表された方のパワーポイント資料が欲しかった。

5-3 活動事例の発表会及び協議会の情報交換会等（普及セミナー）の開催

(1) 開催概要

活動事例の発表会及び協議会の情報交換会等（以下普及セミナー）の開催概要を以下に示す。

図 5.3.1 活動事例の発表会及び協議会の情報交換会等（普及セミナー）の開催概要

項目	内容
名称	令和4年度 森林・山村多面的機能発揮対策交付金 普及セミナー
目的	本年度の普及セミナーは、昨年度から本交付金のサイドメニューに加わった「関係人口の創出・維持等の活動」を、今後、各地域でより積極的に活用していくため、その意義や進め方、実際の活用状況および効果的な取組やそのための留意点などについて、関係者間で共有する場とする。
対象	全ての地域協議会（45 団体）、都道府県の交付金担当者
開催日時	令和5年2月21日（火）10:00~15:30
開催方法	現地開催・対面形式
開催場所	TKP 田町カンファレンスセンター ホール 2A
参加者数	計 70 名 都道府県担当者 19 名（16 都道府県）、地域協議会担当者 38 名（30 協議会）、活動組織 3 名、検討委員会委員 1 名、林野庁 3 名、その他 6 名（事務局 5 名含む）
プログラム （敬称略）	<p>10:00 開会あいさつ 林野庁森林整備部森林利用課 山村振興指導班 課長補佐 山田 雅晃</p> <p>10:05 基調講演 『森林ボランティア活動における関係人口創出の意義と進め方』 森林・山村多面的機能発揮対策交付金評価検証委員会委員 古瀬 繁範 （NPO 法人 地球と未来の環境基金 理事長）</p> <p>11:10 活動組織取組報告 『人とつながる森へ』 かみかわ里山ネット 山本 牧（北海道） 『私と山仕事』 NPO 法人 馬頭農村塾 代表 野崎 威三男（栃木県） 『取組状況報告』 TAKE NO EN 代表 内藤 恵梨（長崎県）</p> <p>13:15 地域協議会取組報告 『「関係人口創出・維持」に係る静岡県地域協議会の取組』 静岡県地域協議会（公益財団法人 静岡県グリーンバンク 事業部長） 長谷川 剛司 『関係人口創出・維持タイプ（マッチングイベント）』 長崎県地域協議会（長崎森林・山村対策協議会） 佐藤 祐樹</p> <p>14:00 ワークショップ 『関係人口創出・維持の進め方を考える』</p> <p>15:30 閉会あいさつ 林野庁森林整備部森林利用課 山村振興指導班 課長補佐 山田 雅晃</p>

(2) 普及セミナー要旨

■開会挨拶

林野庁森林整備部森林利用課 山村振興指導班 課長補佐
山田 雅晃

(要旨)

- ・ 本交付金は、森林整備の取組に対して支援をすることで、森林の機能の発揮や、地域やコミュニティをよくすることを目的に平成25年度より取組を進めてきた。
- ・ 高齢化や人口減少で森林整備が困難な状況の中、関係人口との連携が地域活動を進める上で効果的なのではということから、令和3年度より関係人口の取組をサイドメニューに加えた。
- ・ 令和3年度から開始したが、関係人口そのものや制度の支援内容に対する理解が十分に深まっていないことがアンケートなどでも散見される。
- ・ 活動組織と地域協議会の取組報告を踏まえて、各地域の実情等をイメージしながら、関係人口についてワークショップで意見交換し、来年度以降のそれぞれの取組につなげてほしい。



■基調講演 (10:05~11:05)

講演者： 森林・山村多面的機能発揮対策交付金評価検証委員会委員 古瀬 繁範氏
(NPO 法人 地球と未来の環境基金 理事長)

テーマ： 『森林ボランティア活動における関係人口創出の意義と進め方』

(要旨)

- ・ 関係人口とは、「交流（観光）以上、定住（移住）未満」で「『地域』に関わってくれる人口」で、森林ボランティア活動における「関係人口」は、地域外より、定期的に活動に参加してくれる人、資金等を支援してくれる人、情報発信をしてくれる人をいう。
- ・ 関係人口創出の意義・効果としては、1. 社会的な評価が高まる、2. 活動リソース（資金、人手など）の獲得、3. 活動の継続性・発展性が高まる、が挙げられるが、社会的な評価が活動のモチベーションの源になる。3つの効果で相乗効果が生まれ、好循環が生まれるのが一番好ましい。
- ・ 関係人口として、外から人が入ってくると、活動に対する地域の人々の見方が変わり、そのことにより信用が高まり、人手が得られ、企業協賛なども増え、ニュースバリューも上がる。
- ・ 昨今、SDGsが一つの大きな潮流となり、気候変動、CO2の削減に企業は大きな関心を持っている。何かできるならやりたいが何をやらたらよいか分からないという企業に対し、気候変動、SDGsという文脈を入れると参加を得やすい。
- ・ 関係人口創出するには、活動の「物語」を作ることが重要。情報発信だけでは難しいが、誰がどんな活動しているのかなど、活動している人たちの個性が見えること、顔の見える関係性を作ることなどが重要。無機質な情報から血の通った情報にしていくことが共感のフックとなる。
- ・ 現代は、情報は売り手市場ではなく買い手市場。買い手主導のプル型。簡単に情報収集できる中で、活動の「物語」を丁寧に情報開示することが非常に有効。



- ・ 一般の人々を関係人口として迎え入れるには、必要に応じて作業のハードルを下げることも重要。また、作業しながら山や木のことなどについて情報を伝え、コミュニケーションをとることが必要。こちらが当たり前と思うようなことも外の人には新鮮で、興味深いこととなる。
- ・ 企業連携は、継続的な活動資金源となる可能性がある。短期の公的資金に依存する体質を避け、できるだけ自立に向けて取り組むことが必要。支援企業に、森の整備は最低 10 年か 20 年が必要だと伝え、継続支援を依頼。SDGs が潮流となっている今、関心を持つ企業が増えている。
- ・ 企業連携には、依頼する際、担当者が上司を説得する時に分かりやすく説明ができるような道具や情報を提供することが必要。また、連携企業に関心をもつ、謝意を示すことが重要。その方法として、現場にて言葉で伝える、パネルにして示す、のぼり旗を出すなどで表すことが望ましい。

■活動組織発表 (11:10~12:20)

発表団体 1 : かみかわ里山ネット 山本 牧 氏 (北海道)

テーマ : 『人とつながる森へ』

(要旨)

- ・ 交付金のためにつくった団体で、里山を持っている山主連合みたいなものから始まっている。
- ・ 活動人口の創出とは、多面的交付金で行う森づくり、森遊びや実習のフィールドの整備などのインフラの上に、様々な人たちが集まってくるということのように理解している。関係人口の創出は、お客ではなく仲間を増やす活動。日常的に構成員の枠が広がる取組として考えている。
- ・ 環境林をつくるためには選木は非常に大切。皆で森の未来を思い描きながら相談して決める。
- ・ 安全で正確な伐倒のためのノウハウを教える基礎講習を行っている。はじめてチェーンソーを持つ人でも 2 時間で、直径約 20cm の木を倒し、玉伐りまでできるようになる。初心者向けの分かりやすいテキストも複数作成して活用している。
- ・ 関係人口・交流人口創出事業として、お互いが持つノウハウをプロ同士で教え合う木こりとガイドの技術交流や、地元の小学校の森林体験の機会の提供、地元の家具職人とのコラボ等を実行している。家具の素材を森から直接調達という取組も検討中。
- ・ 広葉樹の天然更新を促進するために、全天空画像解析ソフトを使って、間伐前後の間隙率と日照時間率を測定して間伐の検証も行っている。



発表団体 2 : NPO 法人 馬頭農村塾 代表 野崎 威三男 氏 (栃木県)

テーマ : 『私と山仕事』

(要旨)

- ・ 知人の要請を受け、産廃業者の手に渡りそうな土地 9 町歩を購入し、馬頭農村塾を設立。隣接地を小川が流れ、敷地内に湧水がある 6 町歩の山林と田畑がまとまった環境。ミッションステートメントは、設立趣意書の目的にもある、「域内の生物多様性の保持とビオトープの再生」。



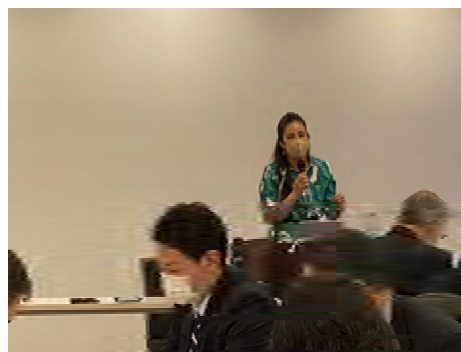
- ・ 馬頭農村塾の里山の特徴としては、沢が入り組み、基本的には岩山でその上を約 30cm の薄い表土が覆っており、このため、スギ・ヒノキの人工林は少なく、広葉樹中心の雑木林となっている。
- ・ 山仕事に必要なチェーンソーや刈払い機の安全講習会を自主講座でやっている。昨年度よりアドバイザー制度が開始されたのに伴い、制度を活用して講師派遣を行っている。
- ・ 様々な大学との連携等、青少年の育成にも力を入れている。馬頭農村塾を卒論フィールドにした大学もある。作業に参加した若者の地域移住や農林関係の職に就く等の例も出ている。
- ・ 東京の NPO との連携も 2011 年より継続している。町恒例の祭りの一環でイベントや、実生苗木を持ち帰って育て成長後農村塾の山に植え戻す「ホームカミング」プロジェクト、ナツハゼ狩り、植林プロジェクト等、季節に応じた様々な活動を実施。
- ・ 森づくりの結果、準絶滅危惧種の植物の回復や昆虫の増加などの成果が出ていること、また、二酸化炭素の排出抑制に直結し、ゼロエミッションの実行にも寄与していることから、この事業がもっと広く周知され、拡大されることを望む。

発表団体 3 : TAKE NO EN 代表 内藤 恵梨 氏 (長崎県)

テーマ : 『取組状況報告』

(要旨)

- ・ 関係人口・交流人口創出の取組で一番伝えたいのは、10年後、20年後、もっと先のことを考えて、子どもたちに、里山・竹林を整備している大人をカッコよいと思ってもらい、あこがれてもらうことに重きを置いて活動している、ということ。
- ・ 経営するカフェとトレーニングジムの客より所有竹林の管理について相談を受け活動を開始。カフェの客を会員勧誘し、各分野のプロが集まり、県内でも大きい規模の団体となった。
- ・ 会員は参加費として、食事代と保険代で毎回 500 円を支払い、ボランティア活動を行っている。安全講習・技術講習を充実するとともに、作業後にカフェ炊き出しの昼食をとりながら話し合いを楽しみ、活動を労働としてとらえず、やりがいや充実感を感じられるような工夫をしている。
- ・ 一般市民向けの防災イベントを開催し、森林整備が地域の防災・減災につながることを伝える機会とし、竹を使った担架や添え木づくりなど、竹の利用と防災を絡めた内容にしている。
- ・ イベントへの出展や、竹を使った作品づくりのワークショップの開催、竹を使った竹炭スイーツの製作、子ども食堂・幼稚園の給食、動物園へのタケノコ等の寄付を通じて子どもたちが竹にふれあう機会を設けている。
- ・ 竹林整備や寄付など、活動を行う毎に SNS で発信し、外部への活動報告を怠らないことが重要。団体や活動を知ってもらいきっかけとなり、団体のブランド力を高めるのに役立っている。
- ・ メンバーのモチベーションを維持するために、活動の先に人の笑顔や感謝があることを実感してもらうことが大切。各人の能力に合った人員配置で負担を減らし、自分にもやれることがあることを認識してもらう、気軽に参加できる雰囲気をつくるのが大切。



■地域協議会発表 (13:15~13:55)

静岡県： 静岡県地域協議会（公益財団法人 静岡県グリーンバンク 事業部長）長谷川 剛司 氏

テーマ： 『「関係人口創出・維持」に係る静岡県地域協議会の取組』

（要旨）

- ・ 全活動組織の初回調査に地域協議会が立ち会い、3年後の目標値を決めるようにしている。広葉樹のモニタリングは結構難しく、写真の撮り方も指導が必要。目標値の設定がまちまちにならないよう、このところをしっかりとっておくことが重要。
- ・ 「森づくりミーティング」を、関係人口のマッチングイベントとして継続してやっている。開催に向けては、県に相談して、受託者にも入ってもらい話し合いを行った。
- ・ 令和3年度、活動組織、関係人口対象者、行政職員に呼びかけ、初の「森づくりミーティング」を開催。講演2つ、事例発表3つというプログラムで、ネット環境が整った会場にてオンライン併用で実施。参加者の約1/2が関係人口。令和4年度は、オンライン2回、現場1回の計3回に分けて実施。
- ・ 事例紹介の内容を先進的過ぎるものにする、マッチングにつながらないこともあるようだが、それぞれの活動の参考にはなっているようだ。



長崎県： 長崎県地域協議会（長崎森林・山村対策協議会）佐藤 祐樹 氏

テーマ： 『「関係人口創出・維持タイプ（マッチングイベント）」』

（要旨）

- ・ 当初、間口が広く活動団体数が多かった。その後、制約が増えて活動する団体が多少減ったが、それでも残る団体には、交付金活動が完了しても、活動を続けている団体が多い。
- ・ マッチングイベントは令和4年度には2回行った。1回目は成功で、2回目はやや失敗。
- ・ 1回目は、森づくりの進め方の技術研修会を午前中に行い、その後話し合いの場を設けた。テーマを絞ることでぎっくばらんな意見交換が可能となり、森づくりの意義、整備の必要性への理解などが深まり、イベントへの継続参加の希望などがあつた。課題としては、興味はあるが交通手段がないため参加できないという人も参加しやすい森林での活動を提案することが大切。
- ・ 2回目は、山中で実施したため、「森づくり相談」や「パネルの設置」には集客があまり得られなかった一方、「木こり体験ツアー」には多くが集まり盛況となった。作業への好印象も得られた。失敗要因は、興味をもってもらったその先の仕掛けを何も用意していなかったこと。今後は、森づくりに特化したイベントを、簡単な内容から徐々に段階を踏んで開催する必要がある。成功事例ばかりではなく、失敗事例も参考になると思い紹介した。
- ・ 成功の決め手となるポイントは、整備した後の気持ちよさ。自分が行った作業で、暗い森林が明るくなった、道路ができた、という達成感・充実感を覚えてもらうこと。



■ワークショップ

テーマ：『関係人口創出・維持の進め方を考える』

図 5.3.2 ワークショップ「関係人口創出・維持の進め方を考える」

項目	内容
<p>コメンテーター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古瀬 繁範 氏 森林・山村多面的機能発揮対策交付金評価検証委員会 委員 / NPO 法人 地球と未来の環境基金 理事長 ・山本 牧 氏 かみかわ里山ネット (北海道) ・野崎 威三男 氏 NPO 法人 馬頭農村塾 代表 (栃木県) ・内藤 恵梨 氏 TAKE NO EN 代表 (長崎県)
<p>発表内容</p>	<p>準備段階</p> <p>関係人口創出・維持を進める上での課題 (仮定の前提条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 活動組織が地域外の参加者を求める意思があるのか不明 ● 参加者を探すが難しい、10名探すが難しい ● 個人情報の面で名簿を出すのが困難 ● 地域外参加者の安全の確保ができない ● 活動組織にベント経験がなく不安である ● 協議会がイベントを実施する場所がない ● 地域外の方との接点がない ● 地域外の参加者を受け入れたくない活動組織が多い ● そもそも外部の人を求めている活動組織が多い <ul style="list-style-type: none"> → 人手 (後継者) 不足など課題あるがそれを発信できていない ● 自伐型林業の関係者との連携 <p>[基調講演者・事例発表者からのアドバイス]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安全第一 → これはレギュラーの取組 (事故は起こさせない工夫を本気で!) ● 企業へのアプローチ (企業の担当者も「何をしたらよいかわからない」) <ul style="list-style-type: none"> ← ここにアプローチ → 複数年単位の協賛金を得る ● 世代交代・若年層の取り込み → SNS の徹底的な活用 ● できるところからやる ● 都市部の若い世代の関心が今高まっている <p>課題をふまえた取組 (具体の企画内容、目的など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 活動組織に地域外関係者を呼びたいか、呼びたくないかなどの理由などの意思確認 ● 活動組織同士で関係人口・創出維持タイプを実施した情報の共有 ● 次年度に向けた早い時期にマッチングイベントを協議会で実施する ● 異業種にもマッチングイベントなどの周知をすること。 ● 若いメンバーがいる活動組織に絞って関係人口・創出維持タイプを利用してもらう

- アドバイザーに関わってもらう
- 企業へのアプローチ→協議会もコンタクトを取りやすいのではないかな。
- 身近なところ/できるところからやる
- 既存の団体（活動組織でなくても可）を協議会が紹介して、現場での活動を体験してもらう
- ステップを設ける（OJT 的に） → 人材育成のノウハウ共有
- 既存の活動組織同士の活動内容の相互共有する場を設ける（発表会通じた活動組織間の交流促進）→まずは活動組織間の交流を活発にしてから外への発信をすることを協議会がサポート

[基調講演者・事例発表者からのアドバイス]


- 森の整備の必要性を日ごろから発信
- 現場で汗を流す →見てもらうこと（意気込みを伝える）
- 無理して広げなくてもよいのでは
→後継しない取組に無理に声をかけずに、やりたい人・団体に声をかける
- 関係人口のことをきちんと説明できるようにしておく
- 事例（選択肢）を増やす → 仲間を増やすことに
- まずはメインメニューが大事、関係人口はサイドメニュー
- 何かやりたい、既にやっているがさらに幅を広げたいという前向きな団体に声をかける
→ 「1本釣り」 ← この見極めが地域協議会の腕の見せどころ
- 環境省の EPO（中間支援組織）との連携、情報発信の共有

活動組織への呼びかけ（呼びかけ方法、参加を促す工夫・留意点、都道府県市町村との連携方法など）

- 呼びたい/呼びたくない理由を活動組織から聞きその対応策を県や市町村と協力し、提案する。
- 安全対策に対する情報提供の提案
- マッチングイベントの実施
- 市町村や県で情報を募り、森林整備に興味のある人のリストづくり
→活動組織へリストの提供
- 若年層を取り込むため協議会で SNS の活用
- そもそも関係人口・創出維持タイプの活動をしたくない団体が多い
→とにかく説明会の際に協議会から活動組織へお願いしてみて、やった結果、実はよかったという経験をしてもらう
- 既存の活動組織との関係性活かした現場の体験機会の創出
→その後、活動への参加のきっかけになるのでは

関係人口の対象主体（どこにどうアプローチするか、呼びかけ方法、発信上の工夫・留意点、都道府県市町村との連携方法など）

- 小学校・大学、ボランティア団体の活用、企業と一緒に組織を作ること

	<ul style="list-style-type: none"> ● 県の関連イベントとの連携、協議会のブース出展 ● 学生ボランティアなら森づくりの意義をしっかりと伝えると参加しやすいのではないか <p>当日</p> <p>運営上の工夫・留意点など</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 体験することが重要ではないか。 <ul style="list-style-type: none"> ← 物語をつくることで、体験がどのように交付金活動に関係するのか、意味・意義を落とし込む ● マッチングイベントで必ず活動組織につなげること ● 森づくりの意義を伝える必要性 ● 活動場所は森の中ではなく、施設周辺の森を利用（アクセスがよく、参加へのハードルが低い） <p>事後</p> <p>取組終了後の対応（誰に、なにを、どうフォローするか）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 参加者へのヒアリングは必ず実施 ● SDGs など体験や整備や交付金活動につながっていく説明の必要性 ● 企業とつなげていくこと ● お互いの意見を出し合う
<p>実施状況</p>	

(3) 普及セミナーアンケート結果概要

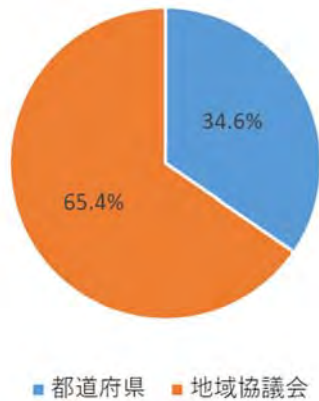
対 象：協議会担当者、都道府県担当者

配布日・回収日：令和5年2月21日（火）

回収率：91.2%（52名）

午後から欠席などの理由の無回答者を除くと、すべてのプログラムにおいて8割以上の回答者が参考になったと回答しており、概ね参加者のニーズに沿った内容であった。

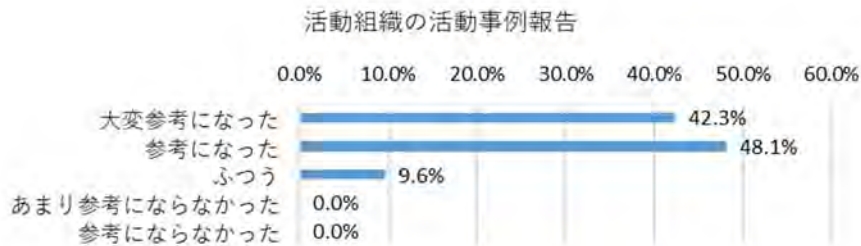
1) アンケート回答者の属性



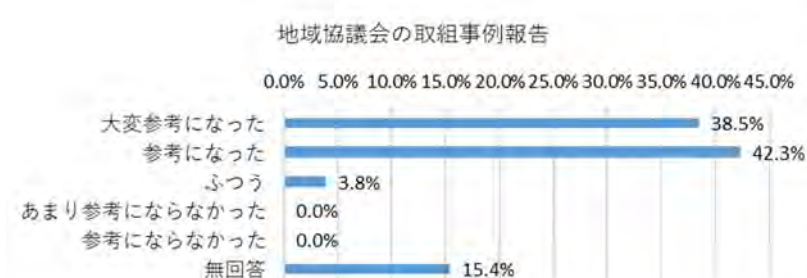
2) 基調講演の感想について



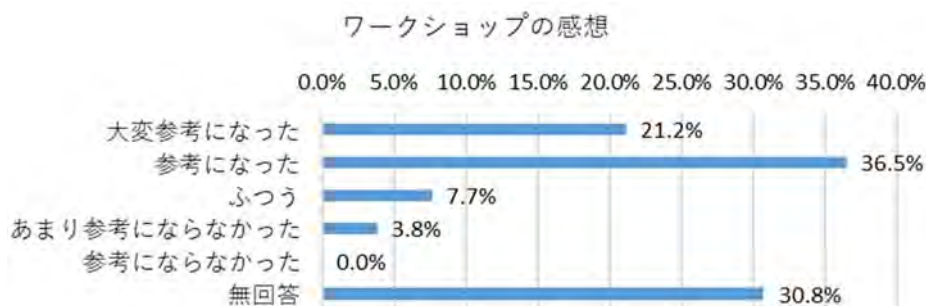
3) 活動組織の活動事例報告の感想について



4) 地域協議会の取組事例報告



5) ワークショップの感想



6) その他意見、感想

○基調講演・事例報告に関する事

- 講演・報告とも比較的わかりやすい内容だった。
- 事例発表会が大変参考になった。
- 活動組織の事例報告が特に参考になり、活動中の団体を Web などで見られるとよいと思った。
- 講演や発表を聞いて、目的意思を明確にして活動していることが大切だと感じた。
- 関係人口創出・維持タイプの取組について、あまりよく理解できていなかったなので、勉強になった。
- 関係人口の定義と社会的意義が確認できてよかった。
- 先進的すぎる事例もあった。

○ワークショップに関する事

- 他府県も同様の課題を持っていることがわかり、解決策が参考になった。
- 他県の意見がうかがえて参考になった。
- 各県・協議会でレベルが違うので何を話すべき内容が散漫になった。
- 都道府県によって課題が異なり、一つの課題に絞ると、その課題は自分の県にはないのでそれに関するそれ以上の意見が出せなかった。
- 様式が議論しにくいものだった。

○その他

- 活動組織に対して、今回学んだことを伝えて行けたらよいと思う。
- 外部からの参加を認めないという活動組織もあるため、本日の意見を参考に、引き続き丁寧な説明を行いたい。
- 普及セミナーの内容を持ち帰っていかに当該事業につなげられるかが課題である。
- 担当1年目なので活動取組の概要がようやく理解できるようになった。
- 他県が推進交付金を活用してどのような事業を行っているかといった取組事例の発表があると参考になる。
- Web 開催も検討してほしい。
- 森林・山村多面的機能発揮対策交付金の目的の一つが関係人口の増加なのか、森林整備の手段が関係人口の増加なのか、いまだによくわからない。森林整備が目的なのであれば、関係人口は一つ的手段に過ぎないと思う。

5-4 森林・山村多面的機能発揮対策交付金の手引きの改訂（案）等の作成

今年度のスキルアップ研修や資料を収集した結果をふまえて、以下について改正を行った。

- 目標とする森を目指すための評価（モニタリング調査）方法を、より適切に選択できるようにするため、調査対象として適さない森林を明記。（p25）
- 過剰伐採を防止する観点から、現場の状況に則した数値設定ができるよう、考慮すべき観点を追記。（p36）

①木の混み具合調査（相対幹距比・間伐率調査）

調査名	木の混み具合調査（相対幹距比・間伐率調査）
調査のねらい	<p>木の混み具合を数値化することによりその森林において間伐が必要な状態か、どの程度の伐採が必要かなど調べます。</p> <p>主に、針葉樹林での活動に適した調査です。広葉樹林には適しません。</p> <p>17ページの「人工林の目標設定」と64ページの「相対幹距比早見表」も併せてご覧ください。</p>
想定作業	間伐、除伐など
調査区の設定	100 m ² （52 ページ参照）
調査方法	<p>【初回調査】</p> <p>樹 高：調査区内の上層に届いている木で平均的と思われる高さの木の樹高（1本）を測定します。（1m 単位で測定。cm 単位での厳密な計測を行う必要はありません。）</p> <p>木の本数：調査区内の上層に届いている木の本数を数えてください。低木や灌木を数える必要はありません。調査区を設定する際に、その境界に当たるか当たらないかの木は本数に数えないでください。</p> <p>【年次調査】</p> <p>樹 高：初回調査と同様に行います。（短期間で上層木の樹高が大きく成長することは考えにくいいため、樹高調査は3年目のみでも構いません。その場合、相対幹距比を算出する際の1,2年目の樹高は初回調査の値を利用してください。）</p> <p>木の本数：調査区内の上層に届いている木の本数を数えてください。低木や灌木を数える必要はありません。調査区を設定する際に、その境界に当たるか当たらないかの木は本数に数えないでください。</p> <p>樹高と木の本数を調べた後、64 ページの「相対幹距比早見表」を用いて相対幹距比（Sr）を確認します。</p> <p>※ 木の混み具合を調べるために、相対幹距比（Sr）ではなく、間伐率を計算して、数値目標を設定する方法もあります。間伐率とは、対象地内の樹木（本数）のうちの伐採木（本数）の割合をいいます。</p> <p>間伐率 = (調査区内容の間伐する本数) / (調査区内容の立木本数)</p>

⑧木材資源利用調査

調査名	木材資源利用調査
調査のねらい	伐採した木材を林内から搬出して、木材、薪、燃料などとして利活用する場合の利用実態を把握し、持続的な森林管理を行うために、その搬出量を調べます。
想定作業	間伐、除伐など
調査区の設定	初回調査（立木幹材積）：水平面積で 100 m ² （52 ページ参照） 年次調査（搬出される材積量）：活動対象となる森林全体
調査方法	<p>1. 【初回調査】100 m²の調査区を設定し、目印を付けておきます。</p> <p>2. 調査区内の交付金の活動期間（原則 3 年間）での利用（伐採）対象木を確認し、<u>立木幹材積の推定値を確認</u>します。なお、<u>3年間の利 用量利用（伐採）対象木</u>については、<u>適正な間伐率から推定選定</u>するなど、長期的にどのような森林にしていきたいのかを考慮の上で、過剰利用にならないように配慮してください。</p> <p>次式により、対象森林全体の利用可能な木材資源量を把握します。 <u>この資源量を上限に、3年間の目標値（利用材積）を設定してください。</u></p> <p>対象森林全体の利用可能な木材資源量（m³） = 調査区内における利用（伐採）対象木の立木幹材積(m³/100 m²) ×100（調査区面積を ha 当たりに換算）×対象森林の面積(ha) × 搬出面積率※1 × 造材歩留まり※2</p> <p>※1 対象森林のうち搬出できない場所（道から遠かったり急傾斜地であるなど）を控除した割合としてください。</p> <p>※2 立木幹材積は根元から梢の先端までの材積であるため、搬出し ない部位を控除した割合としてください(梢端部や小径材は搬出し ないものとして 70%を目安に設定してはどうでしょうか。)</p> <p>■立木幹材積の推定方法</p> <p>胸高直径や樹高が同じでも、立木幹材積は樹種や地域によって違いがあります。そのため、幹材積を推定するためには、地域ごとに作られている立木幹材積表で調べる方法が最も正確です。例えば、立木幹材積表には次のようなものが作られています。</p>

第6章 アドバイザーの充実及びリストの整備

6-1 アドバイザーリストの更新状況

令和3年度に活動組織及び協議会が適宜技術的支援を受けられるようアドバイザー制度を設置し、その利用体制を構築した。

今年度は、昨年度整理された「森林施業技術」や「他地域との交流・連携」、「組織づくり」などの分野について、活動組織及び協議会を技術的に支援するアドバイザーの名簿（以下「アドバイザーリスト」という。）に登録する人材を充実させるため、都道府県、協議会から随時提出されるアドバイザーの推薦書を受理し、アドバイザー候補からアドバイザーリスト掲載の承諾を得て、リストを整理し、都道府県、協議会、アドバイザーと共有した。

令和3年度に、運用を開始以降、令和5年3月16日現在、登録アドバイザーは計194名（リスト上は197名だが、登録辞退等の理由により令和3年度の登録者3名分が削除）となっている（昨年度より32名増加）。

今年度より専門分野のさらなる充実を目的に、新たな分野として「④森林生態、植生（希少植物の保護を含む）」を加え、都道府県、市町村に改めて推薦依頼を行い、また既存のアドバイザーに対し④の分野についての追加登録希望者を募った。

専門分野及び対応可能地域は、比較的まんべんなく網羅されており、各地からの支援の依頼に対応しやすい状況が確保できている。

図表6.1.1 アドバイザーの概要（専門分野）

専門分野	登録人数		
	R3年度	R3・4年度	R4年度 増加数
① 森林施業技術	121	147	26
② 侵入竹の伐採・除去・利活用	59	71	12
③ 森林資源の活用（木質バイオマス・炭焼き・しいたけ原木等）	80	92	12
④ 森林生態、植生（希少植物の保護を含む）※R4新規分野	—	32	32
⑤ 他地域との交流・連携（活動内容の調整、交流・連携環境の整備等）	56	63	7
⑥ 組織づくり（資金調達、企業連携、CSR、情報発信等）	41	48	7
⑦ その他森林・山村多面的機能発揮対策交付金に係る活動の推進に関するもの	60	68	8

※1名のアドバイザーが複数の専門分野に登録している場合があるため重複あり。

※R4新規分野の④登録者数32名の内訳は、R3追加登録者22名、R4新規登録者10名。

図表6.1.2 アドバイザーの概要（活動エリア、所属）

区分	項目	登録人数		
		R3年度	R3・4年度	R4年度 増加数
対応可能な 地域	① 全国	26	33	7
	② 北海道	7	7	0
	③ 東北	28	33	5
	④ 関東	24	37	13
	⑤ 北陸	12	14	2
	⑥ 東海	20	24	4
	⑦ 近畿	28	31	3
	⑧ 中国	19	23	4
	⑨ 四国	12	13	1
	⑩ 九州	17	23	6
	⑪ 沖縄	7	8	1
所属	① 企業関係	32	38	6
	② 一社・財団法人職員	24	28	4
	③ NPO法人・任意団体職員	51	53	2
	④ 森林組合等	16	21	5
	⑤ 協議会・都道府県・市町村職員	16	18	2
	⑥ 大学・研究機関等	9	14	5
	⑦ 個人事業者・その他	15	22	7

※1名のアドバイザーが複数の対応可能地域を選択している場合がある。特定の都道府県を指定しているアドバイザーについては①～⑪の対応可能地域に振り分けた。

※対応可能な地域の地方区分

地方区分	都道府県
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県
北陸	新潟県、富山県、石川県、福井県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
沖縄	沖縄県

6-2 アドバイザーの活用状況

令和4年8月に実施した協議会アンケートにて令和3年度及び令和4年度（9月上旬時点）のアドバイザーの活用状況を調査した。45 協議会のうち 22 協議会管内で活用されている。なお、活用内容については、アンケート回収と同時に、アドバイザー報告書の提出も求めた。指導・助言内容については複数の内容が含まれる場合がある。

図表 6.2.1 アドバイザーの活用件数

	令和3年度	令和4年度（9月上旬時点）
活動組織	205	21
協議会	8	5
合計	213	26

※アンケート上では「協議会が活用」と計上しているものの、アドバイザー報告書から活動組織への指導・助言をしている場合は活動組織に振替計上。

図表 6.2.2 アドバイザーから指導・助言を受けた内容

指導・助言内容	活動組織	協議会
森林施業（目標設定やモニタリング調査等を含む）	129	0
侵入竹の伐採・除去・利活用（目標設定やモニタリング調査等を含む）	32	0
森林資源の活用（木質バイオマス・炭焼き・しいたけ原木等） （目標設定やモニタリング調査等を含む）	28	0
森林生態、植生（希少植物の保護を含む）	1	0
他地域との交流・連携（活動内容の調整、交流・連携環境の整備等）	0	0
組織づくり（資金調査津、企業連携、CSR、情報発信等）	0	0
その他交付金に係る活動に関するもの	150	13

その他の主な内容としては、活動組織では本交付金に関する書類関係の確認や修正指導などが約6割を占め、安全講習に関する事（講習内容の確認を含む）が約4割となっている。協議会では講演依頼や実習依頼が4件、安全講習会が3件となっている。

活動組織が活用したアドバイザーの件数が最も多い北海道では、活動状況の確認をしつつ森林施業方法やモニタリングの指導、書類整備に関する確認・修正指導が主な助言指導内容となっている。また、栃木ではアドバイザーに安全管理講習を依頼して活動組織が指導・助言を受けている。京都においては進捗状況をアドバイザーが確認しつつ安全管理講習会実施内容の確認や森林施業、侵入竹の伐採・除去・利活用に関する指導や助言を行っている。

図表 6.2.3 活動組織がアドバイザーを活用した件数上位10位の協議会

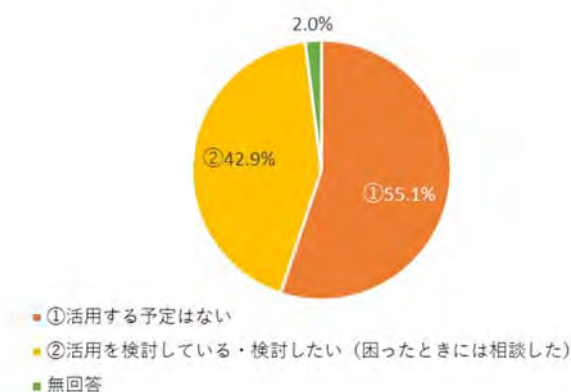
	件数（活動組織）	順位
北海道	77	1
栃木県	45	2
京都府	26	3
香川県	17	4
大阪府	16	5
千葉県	10	6
愛媛県	7	7
静岡県	4	8
和歌山県	4	8
宮崎県	4	8

6-3 アドバイザー活用状況などについて（アンケート結果より）

※活動組織アンケート 1316 団体対象（回収率 64%）、協議会アンケート 45 協議会対象（回収率 100%）

1) アドバイザーの活用の希望状況や活用しない理由、活用した感想

アドバイザーを活用する予定はないと回答した活動組織は半数以上おり、その理由は特段困っていないため助言・指導を受ける必要性がなかったと約4割の活動組織が回答している。

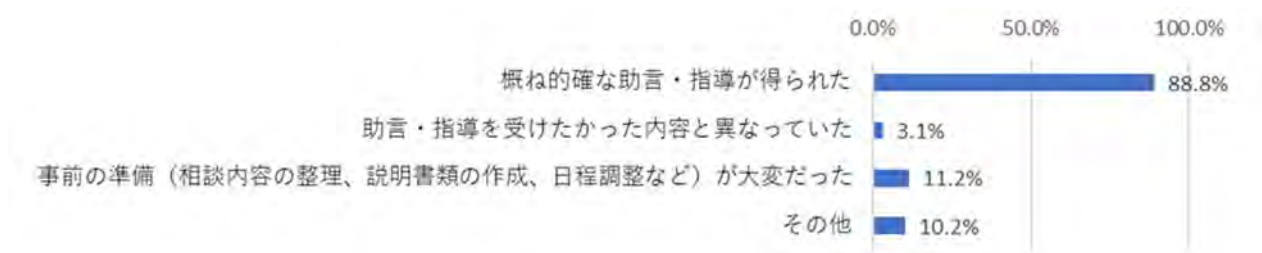


図表 6.3.1 活動組織アンケート問 29「アドバイザー活用の希望状況」（n=840 単数回答）



図表 6.3.2 活動組織アンケート問 32「アドバイザーを活用しない理由」（n=742 複数回答）

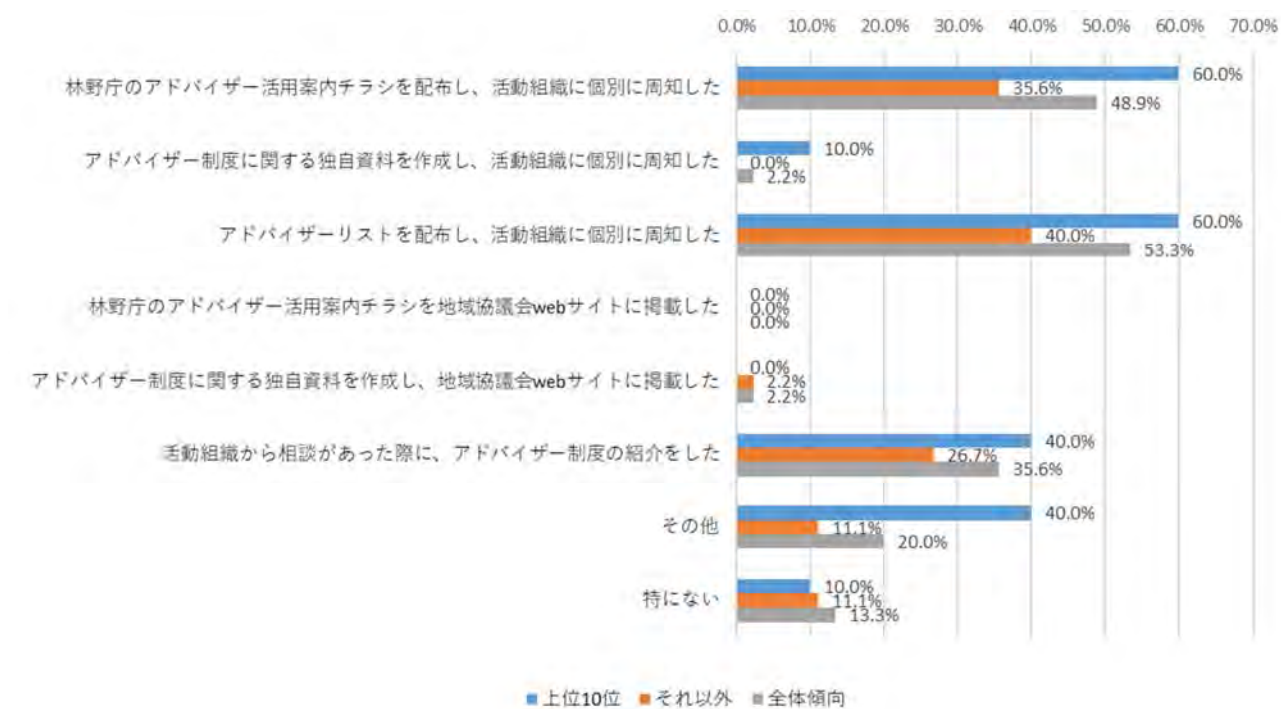
一方、アドバイザー制度を活用した感想では9割の活動組織が概ね的確な助言・指導が得られたと回答している。



図表 6.3.3 活動組織アンケート問30「アドバイザーを活用した感想」(n=98 複数回答)

2) アドバイザー活用状況における傾向について

活動組織がアドバイザーを活用した件数が多い上位10位の協議会とそれ以外の協議会 (n=35) の周知方法について分析したところ、上位10位の協議会の方が周知活動の割合が多い傾向が見られる。



図表 6.3.4 協議会アンケート問9「アドバイザー周知方法」(n=45 複数回答) から活動組織がアドバイザーを活用した件数の多い上位10位 (n=10) の協議会とそれ以外の協議会 (n=35) の周知方法

3) 普及指導員の活用状況とアドバイザー活用状況における傾向について

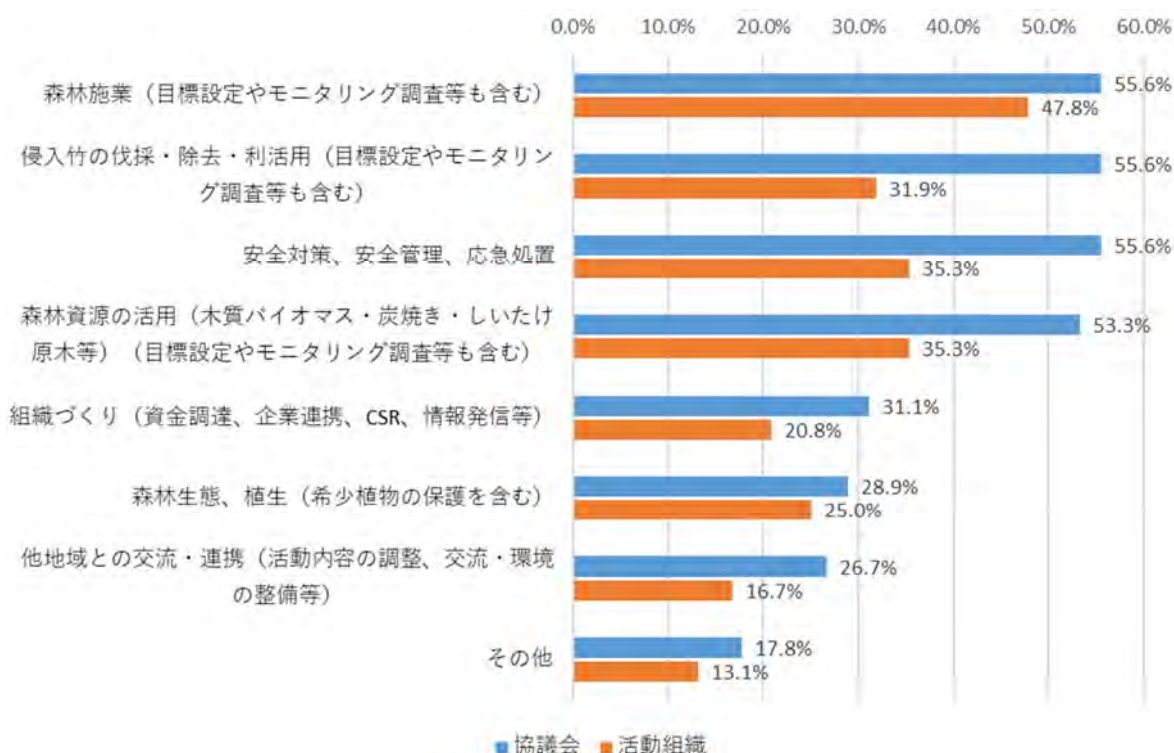
また、林業普及指導員の活用とアドバイザー活用の関係性について分析したところ、「従来より普及指導員に技術的支援を依頼している」と回答した協議会管内の活動組織はアドバイザー利用がない傾向がある結果となった。

なお、普及指導員の協力について改めて依頼する事務連絡を、林野庁より各都道府県庁宛てに発出している。

図表 6.3.5 協議会アンケート問 10「林業普及指導員の活用状況について」(n=45 単数回答) から活動組織のアドバイザー活用の有無の関係性

	全体	活動組織のアドバイザー利用あり	活動組織のアドバイザー利用なし
従来より普及指導員に技術的指導を依頼している	26.7% (12)	16.7% (2)	83.3% (10)
普及指導員の存在は知っていたが、技術的指導の依頼はしていなかった	57.8% (26)	46.2% (12)	53.8% (14)
普及指導員に技術的指導の依頼をしたことがあるが対応してもらえなかった	2.2% (1)	2.2% (1)	0.0% (0)
普及指導員の存在を知らなかった	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)
その他	13.3% (6)	-	-

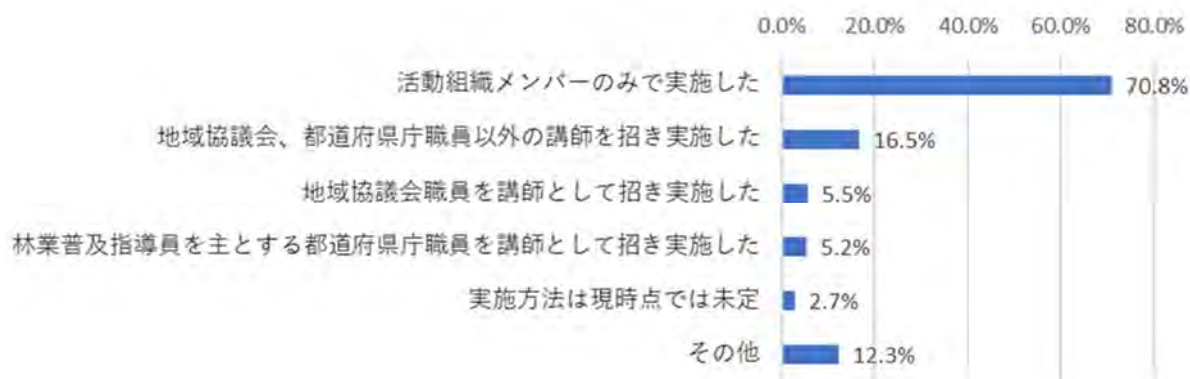
4) アドバイザー制度を活用したい分野、アドバイザーに今後希望する指導・助言内容について
 活動組織がアドバイザー制度を活用したい分野については「森林施業」に関すること、次いで「安全対策、安全管理、応急処置」に関することが、協議会については「森林施業」、「安全対策・安全管理・応急処置」、「侵入竹の伐採・除去・利活用」についての要望が高い。



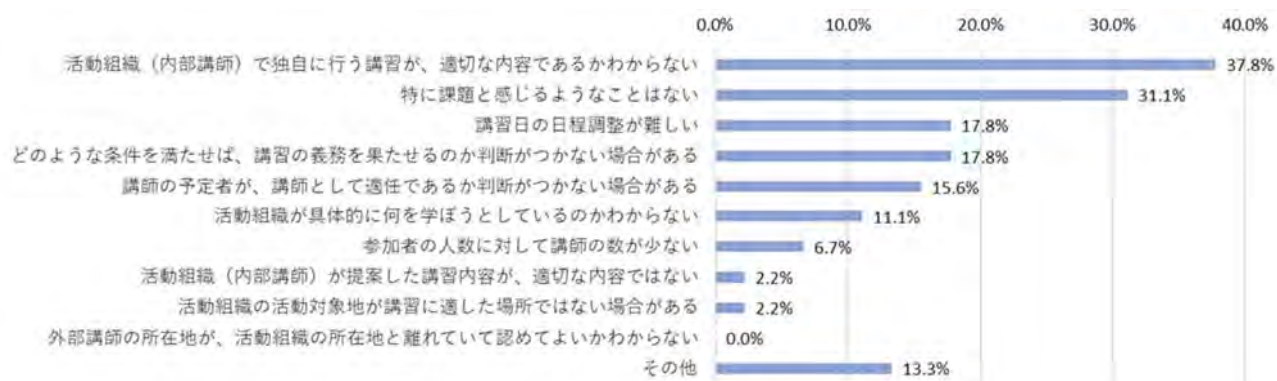
図表 6.3.6 協議会アンケート問 13「アドバイザーに今後希望する指導・助言内容」(n=45 複数回答)、活動組織アンケート問 31「アドバイザー制度を活用したい分野」(n=360)

安全講習や森林施業技術の向上のための講習の実施について「活動組織メンバーのみで実施した」と約 7 割の活動組織が回答している一方、協議会が活動組織が安全講習や森林施業技術向上のための講習を進めていく上で、課題と感じていることの 1 位に「活動組織 (内部講師) で独自に行う講習が、適切な内容であるか分からない」との回答がある。

「安全対策、安全管理、応急処置」に関する専門分野の創設の必要性があることがうかがえる。



図表 6.3.7 活動組織アンケート問 16「義務講習の実施方法」(n=840 複数回答)



図表 6.3.8 協議会アンケート問 33「安全対策や森林施業技術向上講習の課題」(n=45 複数回答)

第7章 検討委員会の開催

7-1 検討委員会の開催概要

森林・山村多面的機能発揮対策の内容等について専門的な見地から検討を行い、次期対策についての提言を行うため、有識者6名からなる検討委員会を設置し、委員会を3回開催した。検討委員会の委員構成及び各回の開催概要を以下に示す。検討委員会は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、対面式及びビデオ会議形式併用で開催した。

図表 7.1 森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 検討委員会 委員一覧

氏名（敬称略）	所属・役職	備考
山本 信次	岩手大学農学部 教授	委員長
井野 道幸	熊本県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会 事務局長	委員
丹羽 健司	特定非営利活動法人 地域再生機構 木の駅アドバイザー	
原田 明	一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構 業務第2部 コミュニティービジネスチーム長	
古瀬 繁範	特定非営利活動法人 地球と未来の環境基金 理事長	
三木 敦朗	信州大学農学部 助教	

〔委託者〕 林野庁 〔事務局〕 公益財団法人 日本生態系協会

各回の主な検討議題を下記に示す。

図表 7.2 検討委員会の開催状況

回数	開催日時／会場	主な議題
第1回	令和4年10月27日(木) 15:00～17:00 TKP 新橋カンファレンス センター	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度検討委員会について 令和4年度の評価検証事業の概要 スキルアップ研修・現地検討会実施報告 アドバイザーリストの更新状況、アドバイザーの活用状況について (林野庁より) 令和5年度の概算要求について
	ねらい：今年度の方向性の確認および報告事項、提言に向けた議論①	
第2回	令和4年12月16日(金) 15:00～17:00 TKP 新橋カンファレンス センター	<ul style="list-style-type: none"> 第1回の振り返りとまとめ 関係人口創出の取組に係る取組状況と今後の進め方について 令和5年度以降の本交付金に関する提言に向けた議論 活動事例発表会の検討状況について
	ねらい：提言に向けた議論②と提言の素案固め	
第3回	令和5年2月16日(木) 15:00～16:30 TKP 新橋カンファレンス センター	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度以降の本交付金に関する提言について(第1、2回の振り返りとまとめ) (林野庁より) 令和5年度の概算決定について
	ねらい：報告事項と提言の取りまとめ	

7-2 検討委員会での主な議論

(1) 第1回検討委員会（令和4年10月27日（木）での主な意見等

検討議題	主な意見等
スキルアップ 研修、現地検 討会実施報告	<p>[初任者向け研修、テーマ別研修の必要性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者がより主体的に考えられるように初任者のみの研修があればよい。 ・事務担当者とモニタリング担当者は別なので、分けて研修し、深堀した方がよい。 ・テーマを絞ってやりとりする時間を増やすことで理解が深まるのではないかと。 ・協議会職員の入れ替わりや複数名いる地域に対応するため、同じテーマで数年毎に繰り返し実施することも大切。また研修内容を改善して継続するとよい。 ・活動組織の様々な悩みに応えられるよう、地域協議会が一定の範囲まではアドバイスできるようスキルアップが必要。 ・地域協議会でも判断し難い等専門性の高い内容についてはアドバイザーの職務範囲。 <p>[情報交換・交流の場づくりを通じた関係者間の人間関係の醸成と共通認識]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が問題を共有し、様々な意見を交換出来たことは素晴らしい。 ・横展開をしていくためにも、相談出来るリアルな人間関係を築く機会として、対面での情報交換や相談し合う場を設けていくことが必要。 ・発言しやすい環境を共有し、交流の場を持つことが大切。 ・情報交換・交流の場において、問題点の共有や共通認識を醸成していくことが重要。 ・全国や地域ブロック単位で集まり、悩みや経験を共有し、横断的に各地域で生かす機会を復活させるべき。 <p>[十分な研修時間の確保と効率的な研修プログラムの実施]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修は盛り込み過ぎず全体的に時間の余裕をもって行う方がよい。 ・今後の研修ではテーマを分けて、1回当たりの研修時間を長くしてはどうか。 ・研修の効率的な実施の工夫として、事前にウェブ上等で資料の必読箇所等を提示し、一定程度の予備知識を得てもらってはどうか。

<p>アドバイザーリストの更新状況、活用状況について</p>	<p>[アドバイザー確保の取組の継続]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全講習のできる人材が少ない地域が多く、安全講習会の専門団体を紹介している。 ・安全講習のあり方、安全指導を手掛けるアドバイザーの確保は継続的に考える必要がある。 ・目標林型に向けた施業内容の有効性や、森林生態について助言できる専門家が必要。 <p>[地域協議会によるアドバイザーの活用促進]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動組織に共通する要望や課題を抽出し、地域やブロック単位の講習会等でアドバイザーを活用し、その効率的な解決方法を提案・共有すべき。 ・活動組織のニーズに基づいてアドバイザーを派遣することが基本だが、地域協議会が一步踏み込んで改善方法を提案する支援をしていく必要。 ・具体的な指導者としてのアドバイザーの派遣は考えられるが、型にはまった指導が市民による多様な森づくりの活動の芽を摘む可能性にも留意が必要。 ・地域協議会が活動組織と信頼関係を築くことも必要。 <p>[アドバイザー活用促進のための地域協議会によるマッチング促進とアドバイザー情報の充実]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザーの活用には地域協議会のマッチング機能が重要。 ・アドバイザーの選定・活用に向けて、各アドバイザーの対応実績などの情報（属人情報）をアドバイザーリストに盛り込む必要がある。 ・アドバイザーリストの活用方法など、地域協議会同士で情報交換ができるとよい。 ・優良事例集などの情報発信をしていくべき。 ・安全面ではプロもボランティアも同レベルであることが必要なので、プロの専門家に依頼するのが良いが、経費や時間等の点で敷居が高く、活動組織のニーズと対応可能な人材をどうマッチングするかも問題。 <p>[安全対策のためのアドバイザーの活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全指導は、施業技術の分野に含まれるが、特出しして取り上げる必要がある。 ・安全に関しては、指導して全て自分で作業させるのではなく、「ここからはお金を払ってプロに任せる」線引きも必要。 ・危険木伐採に対する予算について、協議会から人材を派遣するなど別立ての予算で対処できるとよい。
--------------------------------	---

(2) 第2回検討委員会（令和4年12月16日（金））での主な意見等

検討議題	主な意見等
<p>第1回検討委員会における検討概要</p>	<p>[活動組織に対する地域協議会の対応スキルの維持・向上に関する追加意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初任者だけではなく、参加者のレベル・ニーズにあわせた研修の実施 ・ 一度に全部話すと薄く広くなってしまうため、テーマを絞り込み、深掘りして実施した方が良い。 ・ 研修は多くの担当者に共通する課題について深く講習してもらえる構成が良いのではないか。 ・ 地域協議会の活動組織に対する伴走支援力を強化する必要があるのではないか。 <p>[アドバイザー制度の活用状況と改善の方法に関する追加意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アドバイザーリストについて、題目や名前だけでは適任か判断できない。 ・ アドバイザーの指導が制度内容と矛盾した点がないかどうかチェックした結果をどこかに反映できるような仕組みがあると安心ではないか。 ・ 活動組織から上がった情報を軌道修正できる仕組みを設けていただくとよい。 ・ アドバイザーを利用した活動組織に報告書を提出していただく方法もあるのではないか。
<p>提言の取りまとめに向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域協議会のスキル向上については、伴走型の支援について中身を深く入れることが必要 ・ 林野庁主催の研修内容と地域協議会のニーズのミスマッチを改善することが必要 ・ 提言の記載項目である「関係人口の創出」と「地域協議会の対応スキルの維持・向上」の記載順について、地域協議会は活動組織を支援する立場なので、活動組織の取り組む「関係人口の創出」を前に記載し、「地域協議会の対応スキルの維持・向上」は後ろに記載するとよいのではないか。
<p>関係人口の維持・創出に関する取組状況について</p>	<p>[地域協議会の役割や支援について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート結果から、関係人口創出・維持タイプを手掛ける意義は大きい。 ・ 関係人口創出の観点では活動組織への声かけ等の誘いが必要ではないか。 ・ 手間がかかるためやらないという活動組織に対して、やった方がよいというメリットの実感を持っていただくことが大切ではないか。 ・ 事前準備にも費用がかかるため、地域協議会でヘルメットの無料貸し出しをすることにより本交付金の申請ができた団体がある。 ・ 高齢者で森林の整備をしたいができないと相談をしてくる活動組織に活用を呼び掛けており、活動組織にボランティアをつなぐ活動を地域協議会が支援していくことを検討している。 ・ 交付金を活用することで活動を継承していくことや外部から人をひっぱりてくることに繋がり、活動継続のモチベーションになるのではないか。

	<p>[実務的な支援内容の検討の必要性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係人口維持、関係人口創出、活動練度の高・低の4象限で考えながら制度の使い方を熟考する必要があるのではないか。 ・交付金の内容を活動組織や地域協議会が理解しきれていない部分があると思うので、活用例を例示してうまく活用を進めることが必要ではないか。 ・1回10名での活動は実質的に活動面積が必要である点と、安全面で懸念が生じるので柔軟な対応が必要ではないか。 ・企業や大学のような団体と連携した方法が活用されやすいのではないか。既存の森林ボランティアグループを含めた形での団体間では活用できるのではないか。
--	---

(3) 第3回検討委員会（令和5年2月16日（木））での主な意見等

検討議題	主な意見等
令和5年度以降の本交付金に関する提言について	<p>[関係人口創出・維持のための制度設計や評価の整理]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化・担い手不足などが原因で、地域コミュニティの住民自体による森林整備が困難である場合の本交付金活用の可能性など、新たに生じている地域の状況や社会的ニーズを踏まえて、検討委員会の議論を進めていく必要がある。 ・関係人口の創出・維持を進めていくことによる効果は、単に「森林整備に関わった人の数」として捉えられるものではないことを踏まえ、検討委員会の議論を進めていく必要がある。 <p>[関係書類作成・確認の負担軽減]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動組織と地域協議会の事務負担軽減に関する事例収集や電子様式を活用した負担軽減策の検討が必要ではないか。 <p>[安全チェックリストの作成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体の参加や多様な活動形態を念頭においた、安全確保のためのチェックリストの検討が必要がある。

第8章 令和5年度以降の森林・山村多面的機能発揮対策に向けた提言

令和5年度以降の森林・山村多面的機能発揮対策に向けた、交付金のあり方について、「森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 検討委員会」での議論を経て、以下のように整理した。

(1) 提言の趣旨

令和5年度以降の森林・山村多面的機能発揮対策事業のあり方について、地域協議会及び活動組織へのアンケート調査、ヒアリング調査、効果チェックシート等への回答を集計・分析し、「森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 検討委員会」での議論を経て、以下のように整理を行った。

整理に際しては、令和3年度から新たに取り組んだ「関係人口の創出」並びに「活動組織に対する地域協議会の対応スキルの維持・向上」を中心に、その成果及び課題をとりまとめるとともに、令和5年度以降の本交付金を活用した対策の方向性について提案するものである。

(2) 本交付金による取組成果

1) 関係人口の創出

○「関係人口創出・維持タイプ」の取組

- ・ 令和4年度（令和4年7月時点）関係人口創出・維持タイプを活用した活動組織は、令和3年度の52団体から40団体増加し、92団体となったものの、活動組織数全体の9%にとどまり低位な活用状況。なお、令和3年度に関係人口創出・維持タイプを活用した活動組織のうち、令和2年度から関係人口が増加した団体は31団体であった。

○地域協議会による「関係人口創出・維持タイプ」の活用促進に向けた取組

- ・ 関係人口創出・維持タイプの趣旨や対象要件等に関する活動組織への説明やマッチングイベントの開催、他の活動組織の取組事例の共有等の普及・啓発を実施。
- ・ ただし、14協議会においては、「関係人口創出・維持タイプ」の活用促進のための活動組織への支援を行っていない。また、マッチングイベントの開催は、9地域協議会にとどまっている。（令和4年7月時点）

○関係人口創出・維持等に関する普及セミナーの実施

- ・ 地域協議会が活動組織への円滑な支援につなげるために、林野庁の主催により事例発表や基調講演、対面式のワークショップを開催し、30協議会（38名）、16都道府県（19名）が参加。

2) 活動組織に対する地域協議会の対応スキルの維持・向上

○アドバイザーリストの整備と活用

- ・ 令和3年度に創設した「森林・山村多面的機能発揮対策アドバイザー」制度の拡充を目的に、新たな専門分野「森林生態、植生」を追加。これまでに194名のアドバイザーを登録（対前年度比32名増加）し、全都道府県での対応が可能な体制を整備。アドバイザーリストは林野庁から地域協議会・活動組織・都道府県担当者・市町村担当者に共有、アドバイザーを8地域協議会、205活動組織で活用（令和3年度実績）。

○スキルアップ研修の実施

- ・ 活動組織に対する地域協議会の対応スキルの維持・向上を目的とする3日間のスキルアップ研修を、林野庁主催で対面形式により開催し、32地域協議会が参加。ワークショップや現地検討を通じて、本交付金を活用した取組の参考となる知見・情報を共有するとともに、地域協議会の実務担当者間の交流を促進。

(3) 本交付金における取組課題と対応の方向性

課題1：関係人口の創出・維持

本年度の活動組織へのアンケート調査においては、継続的に森林整備を進めていく際の課題として、メンバーの高齢化や担い手不足を挙げた団体が多数あり、新たな人材確保が慢性的な課題となっている。一方、「関係人口の創出・維持」タイプに取り組んだ活動組織からは、新規メンバーの獲得や地域活性化につながったとの回答もあり、関係人口の創出に取り組む意義は大きい。

一方で、地域外関係者の参加を想定していない、受け入れる場合の負担に対応できない、など、関係人口の創出・維持に関する要望がない活動組織も一定程度存在。

[対応の方向性]

令和3年度に新設された「関係人口の創出・維持」タイプの活用拡大を通じて森林・山村の魅力や価値を発信し、新たな人材の森林整備への参加機会の確保を図ることで、森林・山村が有する多面的機能の維持・向上と山村の活性化につなげていく必要がある。

○地域協議会による活動組織への周知と支援の充実、機運醸成

- ・ 地域協議会から活動組織への「関係人口の創出・維持」に関する情報発信機会を増やす。
- ・ 「関係人口の創出・維持」タイプ活用をはじめ、交流人口・関係人口創出・維持に係る活動組織の取組事例を林野庁にて収集し、地域協議会へ共有、地域協議会により活動組織への横展開
- ・ 「関係人口の創出・維持」に係る団体・組織や個人と活動組織をつなぐ機会を地域協議会から活動組織に提供する。また、それら取組事例の林野庁による収集と、地域協議会への共有と横展開
- ・ これら取組による、地域協議会と活動組織の機運醸成

○採択要件の検証

- ・ 地域外関係者10名以上の名簿作成に係る、申請人数の適切性・要件等について林野庁にて検討

○活動組織の受け入れ態勢の整備

- ・ 林野庁による受け入れ態勢整備に関する取り組み事例の収集と地域協議会への共有、地域協議会により活動組織への横展開
- ・ 林野庁による関係人口側のニーズや必要となる条件の把握と、地域協議会への共有
- ・ 臨時的に必要な資機材の貸付体制を地域協議会にて整備

○関係人口創出・維持に関する議論の新たな視点について

- ・ 高齢化・担い手不足などが原因で、地域コミュニティの住民自体による森林整備が困難

である場合の本交付金活用の可能性など、新たに生じている地域の状況や社会的ニーズを踏まえて、検討委員会の議論を進めていく必要がある。

- ・ 関係人口の創出・維持を進めていくことによる効果は、単に「森林整備に関わった人の数」として捉えられるものではないことを踏まえ、検討委員会の議論を進めていく必要がある。

課題2：地域協議会の対応スキルの維持・向上

地域協議会を担う組織の属性は森林・林業関係団体や森林ボランティア関係団体等様々であり、また、地域協議会の担当者の森林整備に係る知識や技能、経験年数等も様々に異なる。このため、各地域協議会の属性や担当者の専門分野などに応じた特色のある支援が行われている一方で、地域協議会によって分野毎の指導能力に差が生じている面がある。

[対応の方向性]

本交付金の活用を円滑かつ効果的に進めていくためには、活動組織の窓口となる地域協議会の担当者が、一定の専門的知見や経験を習得できるよう、指導能力のボトムアップを図るとともに、他地域の指導手法の共有等を通じて、地域の実情・ニーズに応じた指導能力の向上を図ること、及びその確保の確保が重要と考えられる。

○活動組織が抱える共通課題（計画的な森林整備、安全確保等）の解決に向けた支援

- ・ 地域協議会の実務担当者間の交流機会の確保を通じた、人間関係の醸成と共通認識（ノウハウや知見の共有）
- ・ 地域協議会に対する初任者向け研修、テーマ別の専門性の高い研修の継続実施を通じた知見・技術の習得
- ・ 上記研修について十分な時間の確保と効率的なプログラムの実施

○アドバイザー制度の活用

- ・ 地域協議会の支援能力を補完する制度としての活用促進（地域単位の講習や安全対策等）
- ・ アドバイザーの活用事例や属人情報（専門分野、対応実績等）の蓄積
- ・ アドバイザー確保の取組の継続

○関係書類作成・確認の負担軽減

- ・ 活動組織と地域協議会の事務負担軽減に関する事例収集や電子様式を活用した負担軽減策の検討

課題3：安全対策の充実

森林整備に関わる際には、森林や林業に関する知識や施業技術の習得のみならず、作業に伴う危険を想定・回避する安全管理が不可欠となっている。このため、本交付金の採択に際しては、「活動期間中に年1回以上の安全講習や森林施業技術向上の講習の実施」が要件とされている。一方で、重大災害は引き続き発生しており、対象森林の状況や活動組織の実情に即した適切な安全管理を行うことが必要である。

[対応の方向性]

近年、自然災害や異常気象が多発・激甚化するなか、本交付金の活用現場においても、突

発的な災害や病虫害被害の拡大による倒木・枯損木や土砂崩れなどの発生により、災害復旧や危険木処理を活動組織自らが処理する場合や、予定していた事業規模を超える経費が見込まれて処理もままならないといった事案が発生している。

災害復旧や危険木処理については、ボランティアによる対応範疇を超える高度な技術や資機材が必要な場面もあり、ボランティアの未熟な技術による対応は重大災害の発生が懸念されることから、これら対応に活用可能な予算枠の確保や、アドバイザー制度を活用した災害対応の伴走支援などの支援についても今後、検討の必要があると考えられる。

○アドバイザー制度の活用

- ・ 安全指導へのアドバイザー活用の促進のため、アドバイザーリストに安全指導の分野を設けるとともに、最適なアドバイザーを選任するため属人情報の充実が必要。

○安全確保のための高度な技術対応への予算確保

- ・ 危険木処理等の高度な技術が必要となる作業については外部委託によることを原則とし、費用面での活動組織の負担を減じる措置が必要。

○地域協議会、活動組織の先行事例・知見を林野庁にて収集し、地域協議会へ共有、地域協議会により活動組織への横展開

○安全講習の採択要件化（地域協議会主催の安全対策研修も含む）

○安全チェックリストの作成

- ・ 多様な主体の参加や多様な活動形態を念頭においた、安全確保のためのチェックリストの検討が必要。

資料編 目次

資料番号	資料内容	頁
資料 1	地域協議会アンケート 調査票	1
資料 2	活動組織アンケート 調査票	27
資料 3	活動事例集	47
資料 4	【スキルアップ研修、現地検討会 資料】	83
	1 日目	
	・事務局説明資料（モニタリング調査について）	83
	・ワークショップ用ワークシート（3日分）	99
	2 日目	
	・ワークショップ用紙	103
	・現地図面・モニタリング調査フローチャート	104
3 日目		
・地域協議会マッチングイベント事例発表1～3	106	
・事務局報告資料 （全国のマッチングイベントに関する実施状況）	122	
資料 5	【普及セミナー資料】	125
	・開催要項	125
	・ワークショップの進め方と記入用紙	126
	・基調講演資料	128
	・活動組織取組報告1～3	138
	・地域協議会取組報告1,2	181

地域協議会の運営状況についてのアンケート

貴協議会名、アンケート記入者名、アンケート記入者の連絡先をご記入ください。

地域協議会名	
アンケート記入者名	
アンケート記入者の 連絡先	電話番号
	Eメールアドレス

- このアンケート調査は、林野庁が実施する「森林・山村多面的機能発揮対策事業」において、活動組織への支援・指導を行う地域協議会の皆様を対象に、各種の支援活動等の状況や運営上の課題等をお尋ねし、回答の集計結果を今後の施策の企画・立案への活用や、森林づくり・地域活性化に取り組む関係者の皆様のご参考にしていただくことを目的としています。ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、アンケート調査へのご協力をお願いいたします。
- 本アンケート調査は林野庁から委託を受け、公益財団法人日本生態系協会が実施しています。
- 本アンケート調査は、貴協議会における活動組織の支援・指導に関する取組の全体像を把握されているご担当者様をご記入くださいますようお願いいたします。
- 皆様からのご回答は、本調査の目的以外に使用することはありません。
- アンケート調査票は、本紙を含め 26ページ（全 40 問）です。
- 選択式の質問では、当てはまる選択肢のチェック欄にチェック☑をお願いいたします。
- ご記入後、**令和 4 年 9 月 9 日（金）**までに同封の返信用封筒または E メールにて、本アンケート調査票をご返送いただきますようお願いいたします。
- ご不明な点がございましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

<調査委託元>

林野庁

<お問い合わせ及びご回答の送付先>

公益財団法人 日本生態系協会（担当：小川、井上、亀田）

住 所：〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル

電 話：03-5951-0244

E メール：shinrin-quest @ecosys.or.jp

1. 貴協議会の運営や連携状況についてお伺いします。

問1 運営状況

年間を通じて貴協議会に関わる人数を教えてください。

常勤の担当職員	うち常時対応されている職員数	()名
	兼務されている職員数 ※本事業と貴協議会の他の事業と兼任されている方	()名
繁忙期に応援を頼むことのできるおおよその職員数（常勤担当職員以外）		()名
年間を通じて関わる専門家・学識経験者		()名

問2 人員の専門性

以下の分野の相談について、貴協議会でどの程度対応可能か教えてください。

(①～⑥の項目それぞれに☐)

対応可能な分野	自信を持って 対応可能	ある程度 対応可能	外部の協力に より対応可能 (協力者の 見当がつく)	外部の協力に より対応可能 (協力者の 見当がつかない)
①申請書作成支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②モニタリング調査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③林業施業技術	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④マネジメント・資金調達	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤情報発信・プロモーション	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥その他※ ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※⑥その他に該当する場合は () に内容をご記入ください

問3 運営上の課題

貴協議会の運営や人員に関する課題について教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☐)

<input type="checkbox"/> ① 割り振られる人件費が少ない <input type="checkbox"/> ② 活動予算が少ない <input type="checkbox"/> ③ 特定分野の技術支援を担う人材がいない <input type="checkbox"/> ④ 運営を担う人員の労働負荷が大きい <input type="checkbox"/> ⑤ その他(以下、自由記述欄に回答をお願いします) <input type="checkbox"/> ⑥ 特に課題はない

「⑤その他」にご回答の場合は、具体的な課題内容について教えてください

問4 他の主体との連携

本交付金の取組において、連携している機関や地方公共団体及び連携内容について教えてください。(アドバイザーを含む) (当てはまる選択肢すべてに☐)

連携内容 \ 機関	別の 地域協議会	森林組合	公益法人・ NPO	大学・ 研究機関 (研究者)	その他 ※ ()
① 書類作成の支援・指導	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 作業や活動への助言	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 安全講習等の実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 資機材の貸与	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 広報活動の支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ モニタリング調査の 支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 地域外関係者確保の支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ その他※ ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 特に連携していない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※その他の場合は () に内容をご記入下さい
(次ページに続く)

連携内容	① 都道府県	② 市町村
① 活動組織の申請書類の事前確認・作成支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 活動組織の具体的な作業状況の確認	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 活動組織の活動対象地が森林経営計画の範囲内かの確認	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 活動組織の活動場所の提供・斡旋	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 安全講習や森林施業技術の向上に向けた講習・指導	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 森林内での作業に対する助言	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 本交付金の募集に関する広報	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 活動組織の活動に関する広報	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 年度末書類（実施状況報告書等）の作成に関する事前確認・作成支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 活動組織向けの資機材の貸与	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪ 森林・林業関係（新たな森林管理制度の取扱い等）の情報の提供	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫ 上乘せ支援に関する相談	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑭ 特に連携していない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「⑬その他」にご回答の場合は、具体的な連携内容について教えて下さい

2. 新たに創設された制度についてお伺いします。

問5 関係人口創出・維持タイプ取得活動組織数

令和3年度より「関係人口創出・維持タイプ」が創設されました。
令和3年度及び令和4年度7月末時点（予定含む）に「関係人口創出・維持タイプ」の交付金を取得した団体数を教えてください。

令和3年度	令和4年度（予定含む）
団体	団体

問6 関係人口創出・維持タイプの相談、問い合わせ状況

令和3年度及び令和4年度において「関係人口創出・維持タイプ」交付金に関して活動組織から受けた相談や問い合わせの内容を教えてください。（当てはまる選択肢すべてに☑）

- ① どのような活動が対象となるのか、要件がわからない
- ② 地域外関係者の定義や対象がわからない
- ③ 地域外関係者との接点がなく、情報発信や集客の方法がわからない
- ④ 現在の活動で手一杯で、地域外関係者に声をかける余裕がない
- ⑤ 何らかの事情で活動内容が変更になった場合はどうしたらよいかわからない
- ⑥ 参考となる情報（他の活動組織の事例など）がほしい
- ⑦ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑧ 特にない

「⑦その他」にご回答の場合は、具体的な相談内容や問い合わせ内容について教えてください
（タイプの利用に繋がっていないものも含めて教えてください）

問7 関係人口創出・維持タイプ交付金取得希望団体への支援内容

令和3年度及び令和4年度に「関係人口創出・維持タイプ」の交付金の取得を希望する団体へ貴協議会が行った支援について教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ① 「関係人口創出・維持タイプ」の対象となる活動・要件についての説明
- ② 参考となる情報の提供（他の活動組織の活動事例等）
- ③ 管内で同タイプに取り組む活動組織の紹介
- ④ 企業やNPO法人、学校などの地域外関係者の個別の紹介・仲介
- ⑤ マッチングイベント開催やブース出展などによる地域外関係者への紹介・仲介
(下の自由記述欄に回答をお願いします)
- ⑥ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑦ 特になし

「⑤マッチングイベント開催やブース出展」「⑥その他」にご回答の場合は、具体的な支援内容について教えてください

問8 地域外関係者の紹介・仲介支援において苦労した点

地域外関係者の個別の紹介・仲介やマッチングイベント等集団での紹介・仲介を実施された場合、実施に際し苦労されたことを教えてください。未実施の場合、その理由や実施する際のハードルなどを教えてください。

問9「森林・山村多面的機能発揮対策アドバイザー」の周知方法

令和3年度より「森林・山村多面的機能発揮対策アドバイザー」（以下、「アドバイザー」という）制度が創設されました。令和3年度及び令和4年度においてアドバイザー活用に向けて活動組織に行った貴協議会の周知方法について教えてください。（当てはまる選択肢すべてに☑）

- ① 林野庁のアドバイザー活用案内チラシを配布し、活動組織に個別に周知した
- ② アドバイザー制度に関する独自資料を作成し、活動組織に個別に周知した※
- ③ アドバイザーリストを配布し、活動組織に個別に周知した
- ④ 林野庁のアドバイザー活用案内チラシを地域協議会 web サイトに掲載した
- ⑤ アドバイザー制度に関する独自資料を作成し、地域協議会 web サイトに掲載した※
- ⑥ 活動組織から相談があった際に、アドバイザー制度の紹介をした
- ⑦ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑧ 特になし

「⑦その他」にご回答の場合は、具体的な周知方法について教えてください

※②、⑤本制度に関する独自資料を作成している場合は差支えなければアンケートと一緒に（公財）日本生態系協会までEメール（shinrin-quest@eosys.or.jp）又は返信用封筒にてお送りいただけますと幸いです。

問10 林業普及指導員を主とした道府県庁職員の活用状況

アドバイザーに準じて技術的指導を行う人材として、林業普及指導員を主とした都道府県庁職員（以下「普及指導員」という。）を活用できる場合があります。従来からの普及指導員の活用状況についてお伺いします。（当てはまる選択肢ひとつに☑）

- ① 従来より普及指導員に技術的指導を依頼している
- ② 普及指導員の存在は知っていたが、技術的指導の依頼はしていなかった
- ③ 普及指導員に技術的指導の依頼をしたことがあるが対応してもらえなかった
- ④ 普及指導員の存在を知らなかった
- ⑤ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）

「⑤その他」にご回答の場合は、具体的な活用状況について教えてください

問 1 1 アドバイザーの報償費単価

アドバイザーの報酬費（謝金）単価についてお伺いします。

（当てはまる選択肢ひとつに☑し、①の場合は金額の記入をお願いします）

- ① 標準単価として1時間当たり _____ 円を設定
（自由記述欄2に回答をお願いします）
- ② アドバイザー活用実績が無く、標準単価は未設定。
- ③ その他（下の自由記述欄1、2に回答をお願いします）

自由記述欄1 「③その他」にご回答の場合は、具体的な報酬などについて教えてください

自由記述欄2 「①」「③」にご回答の場合は、単価設定の考え方・根拠について教えてください

問 1 2 アドバイザーの活用状況

アドバイザーの活用状況についてお伺いします。令和3年度及び令和4年度7月末時点において、貴協議会管内の活動組織及び貴協議会がアドバイザーを活用したケースは何件ありますか。

	令和3年度	令和4年度（7月末時点）
活動組織	件	件
貴協議会	件	件

※「活動組織」及び貴「協議会」がアドバイザー制度を活用して指導や助言を受けた際にアドバイザーから貴協議会に提出された指導・助言内容報告書（様式第4号）のご提供をお願いします。（公表等は致しません。）ご提出方法：（公財）日本生態系協会までEメール（shinrin-quest@ecosys.or.jp）または返信用封筒にてお送りください。

問 1 3 アドバイザーに今後希望する指導・助言内容

今後、貴協議会がアドバイスを受けたい指導・助言（講習会等の講師を含む）の分野を教えてください。（当てはまる選択肢すべてに☐）

分野	<input type="checkbox"/> ① 森林施業（目標設定やモニタリング調査等も含む） <input type="checkbox"/> ② 侵入竹の伐採・除去・利活用（目標設定やモニタリング調査等も含む） <input type="checkbox"/> ③ 森林資源の活用（木質バイオマス・炭焼き・しいたけ原木等） （目標設定やモニタリング調査も含む） <input type="checkbox"/> ④ 森林生態、植生（希少植物の保護を含む） <input type="checkbox"/> ⑤ 他地域との交流・連携（活動内容の調整、交流・環境の整備等） <input type="checkbox"/> ⑥ 組織づくり（資金調達、企業連携、CSR、情報発信等） <input type="checkbox"/> ⑦ 安全対策、安全管理、応急処置 <input type="checkbox"/> ⑧ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）
----	---

「⑧その他」にご回答の場合は、具体的な希望内容について教えてください

問 1 4 アドバイザー制度に関するご意見

アドバイザー制度活用の際に貴協議会内や活動組織から寄せられた「アドバイザー制度における課題」などの意見がありましたら教えてください。（自由記述）

問 18 申請団体を増やすための取組

令和4年度の本交付金事業の申請団体募集における、申請団体数を増やすため又は申請団体が応募しやすくするために貴協議会が行っている取組について教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ① 本交付金に関する説明会の開催
- ② 都道府県と協力・連携した周知・指導
- ③ 市町村と協力・連携した周知・指導
- ④ 林野庁作成資料の公開・配布
- ⑤ 申請書類作成に当たっての独自の Q&A の作成・公開・配布
- ⑥ 申請書類記入例の作成・公開・配布
- ⑦ 申請書類作成を指導・支援する別団体の紹介・斡旋
- ⑧ 過年度との変更点をまとめた資料の作成・公開・配布
- ⑨ 独自の募集用チラシ・パンフレットの作成・公開・配布
- ⑩ web サイトでの申請書類の公開
- ⑪ モニタリング調査に関する説明会・講習会の開催
- ⑫ モニタリング調査のための手引き等の資料の作成・公開・配布
- ⑬ 安全講習の講師・指導者の紹介・斡旋
- ⑭ 森林ボランティア活動用の保険の斡旋・宣伝
- ⑮ 対象地の面積算定の支援
- ⑯ 森林所有者との調整の支援
- ⑰ 活動対象森林の確保の支援
- ⑱ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑲ 特に行っていない

「⑱その他」にご回答の場合は、具体的な取組内容について教えてください

問 19 申請書や実施状況報告書等の作成に関する支援

令和4年度の申請書や令和3年度末における実施状況報告書等の関連書類の円滑な提出のために、貴協議会が行った具体的な支援の内容について教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ① 書類作成のための説明会の開催
- ② 書類作成に当たっての協議会独自の Q&A の作成・公開・配布
- ③ 書類記入例の作成・公開・配布
- ④ 書類作成を指導・支援する別団体の紹介・斡旋
- ⑤ 貴協議会事務局にて相談が可能な旨の連絡・周知
- ⑥ 書類作成状況についての事前確認の実施（定期的に活動記録が取られているか等）
- ⑦ 安全対策に関する資料の作成・公開・配布※
- ⑧ モニタリング調査に関する資料の作成・公開・配布※
- ⑨ 提出物に関するリストの作成・公開・配布
- ⑩ 上記以外の書類の独自様式の作成・公開・配布
- ⑪ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）

「⑪その他」にご回答の場合は、具体的な支援内容について教えてください

※⑦安全対策、⑧モニタリング調査に関する独自資料を作成している場合は、差支えなければアンケートと一緒に（公財）日本生態系協会まで Eメール（shinrin-quest@eosys.or.jp）又は返信用封筒にてお送りいただけますと幸いです。

問 2 0 活動組織の申請に対する指導・修正内容

令和4年度において、活動組織に対して貴協議会が実施した、申請段階における指導・修正の内容について教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ① 申請書類の記載漏れ、記載ミスがあった
- ② 交付金対象外の活動が申請されていた
- ③ 適切な計画図（森林計画図や縮尺 1/5,000 以上の図面）が準備されていなかった
- ④ 面積の要件（0.1ha 以上）が満たされていなかった
- ⑤ 面積の算定が適切かどうかわからなかった
- ⑥ 活動対象地に関する協定書が適切な内容ではなかった
- ⑦ 森林経営計画の対象地が含まれていた
- ⑧ 交付金の使途に適切ではない内容があった
- ⑨ 添付された写真では対象森林の現況を把握することが困難であった
- ⑩ 活動スケジュールが適切ではなかった
- ⑪ 安全のために着用する装備が十分ではなかった
- ⑫ 保険に未加入ないしは、補償内容が不十分だった
- ⑬ 安全講習の内容が適切ではなかった
- ⑭ モニタリング調査の内容が適切ではなかった
- ⑮ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑯ 特に行っていない

「⑯その他」にご回答の場合は、具体的な指導・修正内容について教えてください

問 2 1 申請書や実施状況報告書等の作成で生じた課題

令和4年度の申請書や令和3年度末における実施状況報告書等の書類作成において、貴協議会でどのような問題や課題が生じたかを教えてください。

問 2 2 活動段階における相談事項

令和3年度及び令和4年度において、交付金の採択決定以降、実績報告書提出前の段階で活動組織が実際に活動を行うに当たり、貴協議会が受けた相談内容について教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ① 作業を行う人数を確保できない
- ② 作業を行う際に必要な資機材を用意できない
- ③ 活動記録や金銭出納簿等、必要な事務書類の書き方がわからない
- ④ 活動記録上、必要な写真の撮り忘れがあった
- ⑤ 作業中に参加者にけが人がでた
- ⑥ 活動対象地で自然災害による被害が生じた
- ⑦ 活動対象地で鳥獣による被害が生じた
- ⑧ 作業により周辺に物損事故があった（電線へのかかり木等）
- ⑨ モニタリング調査について
- ⑩ 具体的な購入可能な資機材について
- ⑪ 活動参加者の募集について
- ⑫ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑬ 特に相談は受けていない

「⑫その他」にご回答の場合は、具体的な相談内容について教えてください

問 2 3 現地調査の際の確認事項及び助言事項

令和3年度及び令和4年度において、現地調査（現地視察）の際に行った確認や助言について教えてください。（当てはまる選択肢すべてに☑）

- ① 作業の実施状況の確認
- ② 作業方法についての助言・相談対応
- ③ 作業時の安全対策の実施状況の確認
- ④ 作業時の安全対策についての助言・相談対応
- ⑤ 活動対象地の森林状態の確認
- ⑥ 活動対象地の位置・面積・境界の確認（図面との照合等）
- ⑦ 本交付金で購入した資機材・物品の利用状況の確認
- ⑧ モニタリング調査の調査区（標準地）の設定状況の確認
- ⑨ モニタリング調査についての助言・相談対応
- ⑩ モニタリング調査の調査結果の妥当性の確認
- ⑪ 活動記録や金銭出納簿等の事務書類の記録状況の確認
- ⑫ 事務書類の作成について助言・相談対応
- ⑬ 活動対象地周辺への影響の有無の確認
- ⑭ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑮ 特に確認していることはない

「⑭その他」にご回答の場合は、具体的な取組内容について教えてください

問 2 4 説明会、講習会等の実施

貴協議会が、本交付金の活動を円滑に進めるために、令和3年度及び令和4年度に実施した説明会や講習会等がありましたら教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ① 申請書類の作成
- ② 交付金対象として採択された後の書類作成（実施状況報告書等）
- ③ 動力付き機械（チェーンソー・刈払機等）の利用方法、技能習得
- ④ 森林内での活動についての安全対策（動力付き機械の利用以外。熱中症予防等）
- ⑤ 森林整備の手法（施業方法の考え方・かかり木の処理・大径木の伐採方法等）
- ⑥ 活動事例発表、実際に活動を行っている団体の現地視察会等
- ⑦ モニタリング調査について
- ⑧ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑨ 特に実施していない

「⑧その他」にご回答の場合は、具体的な内容について教えてください

問 2 5 活動組織の協力関係の促進に向けた支援・取組

令和3年度及び令和4年度に、貴協議会が、活動組織の連携や協力関係を促進させるために行っている取組、支援策について教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

※貴協議会の所轄管内以外の団体との連携や協力を行う場合も含めてご回答ください。

- ① 活動事例発表会等の開催
- ② 現地見学会の開催
- ③ 研修会の実施
- ④ 活動組織間の交流会（上記①発表会②現地見学会③研修会を除く）の実施
- ⑤ 活動事例集の発行
- ⑥ ホームページ、Facebook 等の SNS や掲示板サービス等による情報発信
- ⑦ 他の活動組織が行うイベント情報、通信誌等の共有
- ⑧ メールングリストを活用した情報共有
- ⑨ 活動組織間の連絡網の作成
- ⑩ 活動組織間での協力（資機材の融通や人員確保等）の斡旋
- ⑪ 市町村による活動組織や森林ボランティアの連携に向けた取組への協力
- ⑫ 地域外の活動組織や関係者に関する情報の提供
- ⑬ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑭ 特に取組は行っていない

「⑬その他」にご回答の場合は、具体的な取組内容について教えてください

問 2 6 活動の進展状況

貴協議会管内の活動組織の活動成果における全体的な傾向として、下記に示す各項目に関する進捗状況について、貴協議会から見た印象を教えてください。(①～⑩の項目それぞれに☐)

	十分取組が進んでいる	ある程度取組が進んでいる	多少なりとも進んでいる	あまり取組が進んでいない	取組が進んでいない	よくわからない
① 森林管理を行う人材の育成	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 関連する企業からの支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 活動を継続するための財源の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 活動を行う上での安全性の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 森林由来の資源利用の増加	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 森林整備による景観の改善	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 地域(集落)のコミュニティの活性化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 森林・林業に関する理解の向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 関連する人や団体間の連携・協力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 交付金終了後の活動組織の継続性	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

4. モニタリング調査に関する事についてお伺いします。

問27 モニタリング調査に対する課題の内容

モニタリング調査について、令和3年度から令和4年度にかけて、貴協議会が直面した課題について教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ① モニタリング調査の方法が妥当かどうか判断できない
- ② 提案された独自調査が適切かどうか判断できない
- ③ 承認されていない独自調査のみを実施する活動組織がある
- ④ モニタリング調査の調査場所が適切かどうか判断できない
- ⑤ 混み合っていない森林等、モニタリング調査のガイドラインで想定されていない状態の場所を調査場所とする活動組織がある
- ⑥ 初回調査の調査結果が適切かどうか判断できない
- ⑦ 初回調査に不備があった際の対応方法がわからない
- ⑧ 活動組織にモニタリング調査の方法を理解してもらうことが難しい
- ⑨ 活動組織がモニタリング調査に必要な道具を準備することができない
- ⑩ なぜモニタリング調査が必要なのか説明ができない
- ⑪ 調査方法について助言や指導を行うことのできる協議会の担当者がいない
- ⑫ 調査方法について助言や指導が可能な個人・団体に協力を仰ぐことができない
- ⑬ 活動組織の決めた数値目標が妥当かどうか判断ができない
- ⑭ 数値目標を決める際の前提となる「活動組織が実現可能な作業量」を評価できない
- ⑮ 初回調査実施後に数値目標の達成が難しいと判明した活動組織への指導方法がわからない
- ⑯ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑰ 特に課題とを感じるようなことはない

「⑯その他」にご回答の場合は、具体的な課題の内容について教えてください

問 2 8 モニタリング調査に関連する問い合わせの内容

令和3年度及び令和4年度において、活動組織がモニタリング調査を行うに当たり、貴協議会に寄せられた問い合わせの内容について教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ① どのような調査を行えばよいのかわからない
- ② 目指す森林の状態を把握するのに適した調査方法がガイドラインに記載されていない
- ③ 調査区（標準地）をどこに設定すればよいか分からない
- ④ 数値目標をどのように決めればよいか分からない
- ⑤ 数値目標をどれくらいに設定すればよいか分からない
- ⑥ 初回調査をいつ行えばよいか分からない
- ⑦ 年次調査をいつ行えばよいか分からない
- ⑧ モニタリング結果報告書にどんな数値を書けばよいか分からない
- ⑨ モニタリング結果報告書にどんな写真を添付すればよいか分からない
- ⑩ モニタリングの調査方法の変更をどのようにすればよいか分からない
- ⑪ モニタリングの数値目標の変更をどのようにすればよいか分からない
- ⑫ モニタリングの調査区（標準地）の変更をどのようにすればよいか分からない
- ⑬ 積雪や災害被害等で、モニタリング調査を実施できない
- ⑭ モニタリング調査の結果が悪く、数値目標を達成できる見込みがない
- ⑮ 独自の調査方法でモニタリングを実施したいが可能か
- ⑯ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑰ 特にモニタリング調査について問い合わせはない

「⑯その他」にご回答の場合は、具体的な問い合わせの内容について教えてください

問 2 9 モニタリング調査に対する支援内容

令和3年度及び令和4年度において、活動組織がモニタリング調査を円滑に進めるために、貴協議会が実施した支援の内容について教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ① モニタリング調査の際に貴協議会の担当者も参加し、適宜助言を行う
- ② モニタリング調査を実施する上で参考となる資料を独自に作成した
- ③ モニタリング調査を実施する上で参考となる資料の紹介を行っている（独自作成除く）
- ④ アドバイザーリストにあるアドバイザーの紹介を行う
- ⑤ アドバイザーリストに掲載されていない個人や専門家の紹介を行う
- ⑥ 本交付金を取得している活動組織で、モニタリング調査についての助言や支援が可能な団体を紹介している
- ⑦ 本交付金を取得していない団体で、モニタリング調査についての助言や支援が可能な団体を紹介している
- ⑧ モニタリング調査の実施方法に関する講習会・学習会を実施する
- ⑨ その他（次項の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑩ 特に支援は行っていない

「⑨その他」にご回答の場合は、具体的な取組内容について教えてください

問30 適切な調査方法や目標の考え方の周知

令和3年度ののスキルアップ研修にて適切な調査方法の設定や目標の考え方を示し、また令和4年度4月にモニタリング調査ガイドラインを改訂したところです。これらの活動組織への周知や働きかけについて教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ① 改訂版のモニタリング調査ガイドラインを配布し、活動組織に個別に周知した。
- ② 林野庁作成資料（研修資料）を配布し、活動組織に個別に周知した。
- ③ 独自資料を作成・配布し、活動組織に個別に周知した。※
- ④ 説明会・講習会で周知した。
- ⑤ Web サイトで関係資料を公開・配布した。
- ⑥ 目標達成率が低位な活動組織に対し個別に指導し、改善を促した。
- ⑦ 目標達成率が低位な団体は無く、個別に指導は行っていない。
- ⑧ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）

「⑧その他」にご回答の場合は、具体的な周知や働きかけについて教えてください

※③独自資料を作成している場合は、差支えなければアンケートと一緒に（公財）日本生態系協会までEメール（shinrin-quest@eosys.or.jp）又は返信用封筒にてお送りいただけますと幸いです

問3 1 独自のモニタリング調査方法を行っている活動組織

モニタリング調査のガイドラインの中では代表的な調査方法を紹介しています。一方、それぞれの活動成果の評価は、活動内容や状況等により様々な方法が考えられます。本ガイドラインの中では、それぞれの状況にあった多様な評価方法を適宜紹介することで、より主体的なモニタリング調査の実施を促すことにつなげていくことも必要と考えます。

そこで、貴協議会が承認した独自調査方法にてモニタリング調査を実施している活動組織がございましたらご紹介ください。※複数組織ある場合や、記入欄が不足する場合は適宜別紙にご記入をお願いします。(様式は問いません。)

活動組織名	
活動タイプ	<input type="checkbox"/> ① 地球環境保全タイプ「里山林保全」 <input type="checkbox"/> ② 地球環境保全タイプ「侵入竹除去、竹林整備」 <input type="checkbox"/> ③ 森林資源利用タイプ <input type="checkbox"/> ④ 森林機能強化タイプ <input type="checkbox"/> ⑤ 関係人口創出・維持タイプ
目標	
モニタリング調査方法	

5. 安全対策や森林施業技術向上の取組についてお伺いします。

問3 2 安全対策の推進のための取組内容

令和3年度と令和4年度において、貴協議会が所轄管内での活動組織の安全対策を推進するために、活動組織に対して行っている取組について教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ① 安全講習会の実施（地域協議会（事務局団体を含む）が主催あるいは共催するもの）
- ② 他団体（自治体等）が主催する安全講習会への参加呼びかけや案内の送付
- ③ 安全装備購入等の安全対策に交付金を利用するように指導
- ④ 保険加入の斡旋
- ⑤ 安全対策の不備が見つかった場合の事情確認
- ⑥ 安全マニュアルの配布・紹介（※独自に作成したものでなくても構いません）
- ⑦ 記録写真による活動組織の安全対策の実施状況の確認と指導
- ⑧ 現地確認の際の活動組織の安全対策の実施状況の確認と指導
- ⑨ 事故情報に関する周知等の安全に関する注意喚起
- ⑩ 専門家や講師の派遣（アドバイザー含む）
- ⑪ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑫ 特に取組は実施していない

「⑪その他」にご回答の場合は、具体的な取組内容について教えてください

問3 3 安全対策や森林施業技術向上講習の課題

活動組織が安全講習や森林施業技術向上のための講習を進めていく上で、貴協議会が課題と感じることについて教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ① 講師の予定者が、講師として適任であるか判断がつかない場合がある
- ② 参加者の人数に対して講師の数が少ない
- ③ 講習日の日程調整が難しい
- ④ 外部講師の所在地が、活動組織の所在地と離れていて認めてよいかわからない
- ⑤ 活動組織が具体的に何を学ぼうとしているのかわからない
- ⑥ 活動組織（内部講師）が提案した講習内容が、適切な内容ではない
- ⑦ 活動組織（内部講師）で独自に行う講習が、適切な内容であるかわからない
- ⑧ どのような条件を満たせば、講習の義務を果たせるのか判断がつかない場合がある
- ⑨ 活動組織の活動対象地が講習に適した場所ではない場合がある
- ⑩ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑪ 特に課題と感じるようなことはない

「⑩その他」にご回答の場合は、具体的な課題について教えてください

問34 安全講習や森林施業技術向上の講習を促進するための支援

令和3年度及び令和4年度において、活動組織の安全講習や森林施業技術向上のための講習が円滑に実施されるために、貴協会が行っている支援について教えてください。**(当てはまる選択肢すべてに☑)** また、安全対策を推進する上での課題があれば自由記述欄2にご回答をお願いします。

- ① 講師の紹介・斡旋
- ② 講習内容の指導
- ③ 講習に役立つマニュアル等の資料の配布・紹介
- ④ 活動組織内の講師候補向けの安全講習の実施
- ⑤ 活動組織内の講師候補向けの、他の活動組織の安全講習の紹介、参加の呼びかけ
- ⑥ 協会主催の安全講習会の実施
- ⑦ 都道府県が実施する安全講習の紹介
- ⑧ 市区町村が実施する安全講習の紹介
- ⑨ 関係機関が実施する安全講習の紹介
- ⑩ その他（下の自由記述欄1に回答をお願いします）
- ⑪ 特に支援は行っていない

自由記述欄1「⑩その他」にご回答の場合は、具体的な支援内容について教えてください

自由記述欄2 安全対策を推進する上での課題があれば教えてください

6. 活動組織へのフォローアップなどについてお伺いします。

問35 本交付金以外に活動組織が活用できる助成制度の有無

貴協議会の本交付金以外に活動組織が活用できる助成制度の有無について教えてください。

(当てはまる選択肢ひとつに☑)

① ある

② なし

※制度の名称について教えてください。

■ 本交付金と重複して交付が受けられるもの

()

■ 本交付金と重複して交付が受けられないもの

()

問36 本交付金以外に活動組織が活用できる助成制度の周知

本交付金以外に活動組織が活用できる助成制度の発信や案内について教えてください。

(当てはまる選択肢ひとつに○)

① 積極的に発信している

② 問い合わせがあれば案内している

③ 特に発信や案内はしていない

問37 本交付金終了後の団体の状況の把握状況

本交付金の活動を終了した活動組織のうち、貴協議会がその後の活動状況について把握している組織がどの程度あるか教えてください。(当てはまる選択肢ひとつに☑)

① 交付金活動終了後の活動組織のほとんどについて活動状況を把握している

② 交付金活動終了後の活動組織の半数程度について活動状況を把握している

③ 交付金活動終了後の活動組織のうち一部について活動状況を把握している

④ 交付金活動終了後の活動組織の活動状況はほとんど把握していない

問38 交付金活動の終了後の活動組織への支援内容

本交付金の活動を終了する活動組織に対して、活動を継続するための支援を貴協議会が行っていましたら具体的な内容について教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ① 本交付金以外の活用可能な補助制度の紹介
- ② 林産物の販売収入に関する情報の提供
- ③ 活動の自立に向けた協力団体の紹介
- ④ 過去に自立化に成功した活動団体の事例の紹介
- ⑤ 該当団体の web サイトへのリンクを地域協議会の web サイトに掲載
- ⑥ 講習会の紹介
- ⑦ 各種相談の受付
- ⑧ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑨ 特に支援は行っていない

「⑥その他」にご回答の場合は、具体的な取組内容について教えてください

7. 他の協議会と共有したいこと、国へのご意見、要望についてお伺いします。

問39 他の協議会と共有したいことについて

本交付金に関連して、他の協議会と共有したい、聞いてみたいことなどがございましたら教えてください。

問40 国に対するご意見、ご要望

本交付金に関連して、困っていることや国に対して要望することなどがございましたら教えてください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

記入いただいた調査票は、返信用封筒で令和4年9月9日（金）までにご投函いただくか、Eメールで shinrin-quest@ecosys.or.jp までお送りください。

※以下の資料を返信用封筒又は、Eメールでお送りください。無断で公表等はいたしません。

【貴協議会又は活動組織がアドバイザーを利用された場合（必須）】

- ・アドバイザーから提出された指導・助言内容報告書（様式第4号）

【ご提供いただける場合（任意）】

- ・アドバイザー制度に関する独自資料
- ・安全対策に関する独自資料
- ・モニタリング調査に関する独自資料

森林・山村多面的機能発揮対策に係る活動状況についてのアンケート

団体名、団体所在地、アンケート記入者名、連絡先をご記入ください。

団体名			
団体所在地 (市町村まで)	都・道・府・県	市・区・町・村	
アンケート記入者名			
アンケート記入者の 連絡先	電話番号		
	Eメールアドレス		

- このアンケート調査は、林野庁が実施する「森林・山村多面的機能発揮対策事業」を活用して森林づくりや地域活性化に取り組む団体（活動組織）の皆様を対象に、各種の活動状況や活動計画の内容をお尋ねし、回答の集計結果を今後の施策の企画・立案への活用や、森林づくり・地域活性化に取り組む関係者の皆様の参考にしていただくことを目的としています。ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、アンケート調査へのご協力をお願いいたします。
- アンケート調査票は、貴団体の森林づくり・地域活性化の取組の全体像を把握されている団体の代表者様、ご担当者様等がご記入くださいますようお願いいたします。
- 皆様からのご回答は、本調査の目的以外に使用することはありません。
- 選択式の質問では、当てはまる選択肢の回答欄（□）にチェック（☑）をお願いします。
- ご記入後、**令和4年9月9日（金）**までに同封の返信用封筒またはEメールにて、アンケート調査票をご返送いただくようお願いいたします。
- ご不明な点がございましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。
- アンケート調査票は、本紙を含め全19ページです。質問数は全33問です。

<調査委託元>

林野庁

<お問い合わせ及びご回答の送付先>

公益財団法人 日本生態系協会（担当：小川、井上、亀田）

住 所：〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル

電 話：03-5951-0244

Eメール：shinrin-quest@ecosys.or.jp

1. 貴団体の活動内容についてお伺いします。

問1 活動組織の形態

貴団体の形態について教えてください。(当てはまる選択肢 1つだけに☑)

<input type="checkbox"/> ①任意団体(自治会・サークル・親睦会等の法人格のない団体。自伐林家を除く)
<input type="checkbox"/> ②財団法人・社団法人 <input type="checkbox"/> ③NPO 法人 <input type="checkbox"/> ④森林組合
<input type="checkbox"/> ⑤企業 <input type="checkbox"/> ⑥学校・幼稚園・保育所 <input type="checkbox"/> ⑦自伐林家
<input type="checkbox"/> ⑧その他

問2 交付金のタイプ

貴団体が本年度（令和4年度）及び令和2年度、令和3年度に取得している本交付金の内容、活動タイプを教えてください。(当てはまる選択肢 すべてに☑)

	A) 令和2年度	B) 令和3年度	C) 令和4年度
① 活動推進費（初年度のみ）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 地域環境保全タイプ 里山林保全活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 地域環境保全タイプ 侵入竹除去、竹林整備活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 森林資源利用タイプ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 森林機能強化タイプ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 関係人口創出・維持タイプ ※	—	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 機材及び資材の整備	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 本交付金を取得していない (しない予定である)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※「関係人口創出・維持タイプ」を 取得している場合は問3へ、取得していない場合は問5へ移動してください。

2. 関係人口・創出維持タイプについてお伺いします。

問3 地域外関係者の属性

関係人口創出・維持タイプの交付金を**取得した活動組織**のみに質問します。

関係人口創出・維持タイプの交付金を活用してどのようなご所属の地域外関係者と活動をしたか（する予定も含む）教えてください。（当てはまる選択肢**すべて**に☑）

- ①個人
- ②任意団体（自治会・サークル・親睦会等の法人格のない団体）
- ③公益法人（財団法人・社団法人）
- ④NPO 法人
- ⑤森林組合
- ⑥森林組合以外の林業関係団体（活動組織など）
- ⑦企業
- ⑧学校関係（幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校・専門学校・大学など）
- ⑨その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）

「⑨その他」にご回答の場合には、どのようなご所属が教えてください

問4 関係人口創出・維持タイプの交付金活用の効果

関係人口創出・維持タイプの交付金を**取得した活動組織**のみに質問します。

関係人口創出・維持タイプの交付金を活用した効果について教えてください。（当てはまる選択肢**すべて**に☑）

- ①積極的に地域外関係者と交流するきっかけとなった
- ②地域外関係者が継続的に活動に参加するようになった
- ③地域外関係者が組織の一員として新たに加わった
- ④地域外関係者が活動に参加することにより作業がはかどった
- ⑤活動に参加した地域外関係者による SNS などの発信で反響があった
- ⑥（間接的にでも）地域が活性化した（下の自由記述欄に回答をお願いします）
- ⑦これから活動するのでまだわからない
- ⑧その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）

「⑥（間接的にでも）地域が活性化した」、「⑦その他」にご回答の場合には、活性化した内容や効果について教えてください

問5 関係人口創出・維持タイプの交付金を取得しなかった理由

関係人口創出・維持タイプの交付金を取得しなかった団体にお伺いします。
取得しなかった理由を教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ①採択申請書作成時点で地域外関係者の相手先の確保が難しかったから
- ②活動組織内のメンバーのみで活動したかったから
- ③地域外関係者受入の際、安全確保が難しいと感じたから
- ④地域外関係者受入の際、道具等の確保ができないから
- ⑤地域外関係者受入のための環境整備が難しいから
- ⑥地域外関係者受入のための活動組織内部の意見調整に苦労したから
- ⑦活動内容を誰にどのように広報すればよいかわからなかったから
- ⑧地域外関係者の対応に係る作業負担に対応できないから
- ⑨地域外関係者を受け入れたが、人数要件に満たなかったから
- ⑩「関係人口創出・維持タイプ」の交付金の存在を知らなかったから
- ⑪その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）

⑪「その他」にご回答の場合には、取得しなかった理由を教えてください

3. 貴団体の活動実績についてお伺いします。

問6 活動対象地となる森林

貴団体が本交付金を用いた活動を行っている森林について教えてください。(現在の状態をご回答ください) (当てはまる選択肢すべてに☑)

- ①針葉樹林
- ②広葉樹林
- ③針広混交林
- ④竹林
- ⑤その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）

「⑤その他」にご回答の場合には、活動対象地の森林の状態について教えてください

問7 活動の目的

貴団体が本交付金を用いて行う活動の目的を教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ①景観を良くしたい
- ②地域コミュニティの維持・活性化をしたい
- ③地球温暖化防止に貢献したい(大気中のCO₂を減らしたい)
- ④地域の生物多様性を守りたい
- ⑤森林から得られる森林資源を活用したい
- ⑥対象となる森林での鳥獣被害を軽減したい
- ⑦対象となる森林周辺の農地等における鳥獣被害を軽減したい
- ⑧森林の近くの道路を安心して通れるようにしたい
- ⑨森林が有する水源涵養機能を守りたい
- ⑩森林で土砂災害等の災害が発生しないようにしたい
- ⑪道路、住宅、農地等への樹木や竹の倒伏・侵入の被害を防ぎたい
- ⑫活動に関係する人々との交流を深めたい
- ⑬森林を利用した教育活動や自然体験活動を行いたい
- ⑭森林に関連する雇用を生み出したい
- ⑮森林に関わる取組と農業との連携を進めたい(肥料づくり等)
- ⑯その他(下の自由記述欄に回答をお願いします)
- ⑰特に目標とすることはない

「⑯その他」にご回答の場合には、目的とする具体的な内容について教えてください

問8-1 活動を行う上で苦勞した点・その解決方法

本交付金を用いた活動に関連して、活動（モニタリング調査を除く）を行う上で苦勞したことを教えてください。（当てはまる選択肢すべてに☑）

<p>【人材に関すること】</p> <p><input type="checkbox"/> ①新たな活動参加者の確保</p> <p><input type="checkbox"/> ②既存の活動参加者の活動継続</p> <p><input type="checkbox"/> ③活動の指導者・リーダーの確保</p> <p><input type="checkbox"/> ④活動組織の運営や活動計画づくりができるスタッフの確保</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤活動協力企業・団体の確保</p> <p>【技術面に関すること】</p> <p><input type="checkbox"/> ⑥活動参加者の現場での活動能力向上</p> <p><input type="checkbox"/> ⑦林業資機材・設備を使用するための安全知識・技術の習得</p> <p><input type="checkbox"/> ⑧モニタリング調査</p> <p><input type="checkbox"/> ⑨交付金事務手続き資料の作成（活動記録簿等）</p> <p>【機材に関すること】</p> <p><input type="checkbox"/> ⑩活動に必要な林業資機材・設備の確保</p> <p><input type="checkbox"/> ⑪活動のための安全装備の確保</p> <p><input type="checkbox"/> ⑫休憩施設の設置場所や資機材の保管場所の確保</p> <p>【情報に関すること】</p> <p><input type="checkbox"/> ⑬活動の対外的なPRやイベントの周知</p> <p><input type="checkbox"/> ⑭森林所有者や地域住民、地域の森林組合等の理解</p> <p><input type="checkbox"/> ⑮活動に必要な情報の入手（森林簿、施業方法等）</p>	<p>【資金に関すること】</p> <p><input type="checkbox"/> ⑯活動メンバーからの会費の徴収</p> <p><input type="checkbox"/> ⑰寄附・クラウドファンディング等による資金調達</p> <p><input type="checkbox"/> ⑱木材・林産物生産、オリジナルグッズ等の販売</p> <p><input type="checkbox"/> ⑲本交付金以外の助成金・補助金事業の活用</p> <p><input type="checkbox"/> ⑳作業受託による資金確保</p> <p>【その他】</p> <p><input type="checkbox"/> ㉑活動資金を使うにあたっての会計処理</p> <p><input type="checkbox"/> ㉒作業中・活動中の病人・けが人の発生</p> <p><input type="checkbox"/> ㉓クマ、ヘビ、ハチ、マダニ等の有害生物対策</p> <p><input type="checkbox"/> ㉔安全対策の徹底</p> <p><input type="checkbox"/> ㉕対象地におけるシカやイノシシ等による獣害</p> <p><input type="checkbox"/> ㉖森林所有者の確認・境界確定に関する現地調査</p> <p><input type="checkbox"/> ㉗台風、豪雨、強風等による森林の被害</p> <p><input type="checkbox"/> ㉘新型コロナウイルス感染症への対応</p> <p><input type="checkbox"/> ㉙その他（上記の項目以外で苦勞したことを下の自由記述欄に回答をお願いします）</p>
---	---

「㉙その他」にご回答の場合には、苦勞されたことを具体的に教えてください

問8-2 活動を行う上で苦勞した点・その解決方法

またその苦勞したことをどのように解決したのかを教えてください。(以下、自由記述欄へ記入)

問9 他団体からの協力

貴団体が本交付金を用いて活動を行うに当たり、支援を受けている、または協働している地方公共団体や団体・専門家、及び支援・協働の内容について教えてください。(アドバイザーを含む) (当てはまる選択肢すべてにチェック☑)

支援を受けた または協働した 内容 協力団体	A 書類作成	B 森林内での活動 (助言)	C 安全講習	D 資機材の貸与	E 広報活動	F モニタリング調査	G その他 自由記述欄にも回答	H 特に協力関係はない
① 都道府県	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 市町村	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 地域の森林組合等の林業関係団体	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ NPO・森林ボランティア団体	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 大学や研究機関 (研究者)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「G その他」にご回答の場合には、具体的な支援内容について教えてください

「⑥その他」にご回答の場合には、具体的な協力団体について教えてください

※例：森林管理局、森林管理署、学校、企業等

問 1 0 持続的な活動に向けた取組

貴団体が、本交付金終了後も持続的に活動していくために取り組んでいることについて教えてください。(以下、自由記述欄へ記入)

4. 貴団体の人材に関してお伺いします。

問 1 1 活動日 1 日当たりの参加人数 (年齢別)

令和 3 年度及び令和 4 年度の貴団体が交付金を用いて行う活動について、“活動日 1 日当たり”で実際に活動に参加されているおおよその平均参加人数 (見込含む) を年齢層別に教えてください。(①～⑤の年齢層ごとに当てはまる選択肢 1 つだけ にチェック☑)

年齢 \ 人数	参加なし	1～5 人	6～10 人	11～20 人	21 人以上
① 20 歳未満	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 20～39 歳	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 40～59 歳	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 60～69 歳	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 70 歳以上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問 1 2 新規メンバーの募集状況

運営スタッフと活動参加者を含めての新規メンバーの募集意向について教えてください。(当てはまる選択肢 1 つだけ に☑)

- ①新規メンバーを募集しており、確保まで結びついている
- ②新規メンバーを募集しているが、確保までは結びついていない
- ③新規メンバーを募集していない (下の自由記述欄に回答をお願いします) →問 14 へ

「③新規メンバーを募集していない」にご回答の場合は、その理由を教えてください

問13 新規メンバー確保の有無、メンバー新規募集の意向

問12で①、②と回答された活動組織に質問します。運営スタッフと活動参加者を含めての新規メンバーが必要な理由について教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ①活動の後継者がいないから
- ②活動の幅を広げるために人手が必要だから
- ③活動に必要な技術や経験・スキル等を持ったメンバーがいないから
- ④メンバーの年齢層に偏りがあり、幅広い世代が活動に参画してほしいから
- ⑤地域の住民に参画してほしいから
- ⑥地域外の人に参画してほしいから
- ⑦その他(下の自由記述欄に回答をお願いします)

「⑦その他」にご回答の場合は、具体的に新規メンバーが必要な理由を教えてください

5. 義務講習の内容

問14 義務講習の内容

本交付金では、安全講習や森林施業技術の向上のための講習を実施することが義務付けられています。令和3年度及び令和4年度に実施(予定含む)した講習について教えてください。(当てはまる選択肢1つだけに☑)

- ①主に安全講習を実施した
- ②主に森林施業技術の向上のための講習を実施した
- ③どちらも実施した

問15 義務講習の実施内容

令和3年度及び令和4年度に実施(予定含む)した、安全講習や森林施業技術の向上のための講習の内容について教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ①安全装備の着用及び安全装備が必要な理由
- ②動力付き機械(チェーンソー・刈払機等)の使用法
- ③動力付き機械(チェーンソー・刈払機等)の点検・メンテナンス方法
- ④手工具(ノコギリ・ナタ・カマ等)の使用法
- ⑤手工具(ノコギリ・ナタ・カマ等)の点検・メンテナンス方法
- ⑥樹木の伐倒時の安全対策
- ⑦樹木の運搬時の安全対策
- ⑧森林内の危険生物(クマ・イノシシ・ハチ・ヘビ・ツタウルシ等)対策
- ⑨急病や負傷時の応急措置(自動体外式除細動器(AED)の使い方を含む)
- ⑩ヒヤリ・ハット事例の共有
- ⑪熱中症対策
- ⑫講習の内容は現時点では未定
- ⑬その他(次ページの自由記述欄に回答をお願いします)

「⑬その他」にご回答の場合は、具体的な講習内容について教えてください

問 1 6 義務講習の実施方法

令和3年度及び令和4年度に実施（予定含む）した、安全講習や森林施業技術の向上のための講習の実施方法について教えてください。また、講習の実施に際し困っていることがあれば自由記述欄2にご回答ください。（当てはまる選択肢すべてに☑）

- ①地域協議会職員を講師として招き実施した
- ②林業普及指導員を主とする都道府県庁職員を講師として招き実施した
- ③地域協議会、都道府県庁職員以外の講師を招き実施した
- ④活動組織メンバーのみで実施した
- ⑤実施方法は現時点では未定
- ⑥その他（下の自由記述欄1に回答をお願いします）

自由記述欄1 「⑥その他」にご回答の場合は、具体的な実施方法について教えてください

自由記述欄2 講習の実施に際し、困っていることがあれば教えてください

6. 貴団体の活動における資金に関してお伺いします。

問 17 活動資金の捻出方法

令和4年度における貴団体の、森林における活動を行うための本交付金以外の資金確保の方法（見込含む）について教えてください。（当てはまる選択肢すべてに☑）

- ① 構成員からの会費
- ② 個人・企業からの寄付金
- ③ 募金（インターネット、振込、募金箱等を活用）
- ④ 公益法人からの助成金（緑の募金、緑と水の森林ファンド等）
- ⑤ 国からの交付金・助成金（本交付金は除く）
- ⑥ 都道府県からの交付金・助成金（本交付金は除く）
- ⑦ 市区町村からの交付金・助成金（本交付金は除く）
- ⑧ 企業からの助成金
- ⑨ 自治会・町内会からの寄付等
- ⑩ 森林から得られる生産物（薪、炭、山菜、キノコ等）の販売収益
- ⑪ 木材を利用した製品等の販売収益
- ⑫ イベント・講習会の参加費
- ⑬ 伐採や下草刈等の謝礼金や請負金などの他の収益事業からの収益
- ⑭ 活動場所の所有者（森林所有者、地主等）からの支出
- ⑮ クラウドファンディングの活用
- ⑯ 特に資金源はない
- ⑰ 来年度も本交付金を活用予定である
- ⑱ その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）

④～⑧を回答した場合
⇒問 18 へ移動してください
④～⑧以外を回答した場合
⇒問 19 へ移動してください

「⑱その他」にご回答の場合は、具体的な活動資金の捻出方法について教えてください

問 18 本交付金以外の交付金・助成金の活用

問 17 で④～⑧と回答された活動組織に質問します。本交付金以外で活用されている交付金・助成金について、補助金・交付金制度の管理団体名と制度名を教えてください。

記入例：〇〇市役所〇〇課の〇〇補助金、〇〇株式会社の〇〇交付金

7. 本交付金終了後の貴団体の活動についてお伺いします。

問19 交付金終了後の活動の見通し

交付金終了後の活動予定について教えてください。(当てはまる選択肢**1つだけ**に☑)

- ①現在の活動場所や活動内容での活動を継続し、新たな活動場所や活動内容でも活動する予定である
- ②現在の活動場所や活動内容では活動しないが、新たな活動場所や活動内容で活動する予定である
- ③現在の活動場所や活動内容で活動を継続する予定である
- ④活動を縮小する予定である
- ⑤活動を終了する予定である

8. 当交付金事業の申請・報告手続きに関してお伺いします。

問20 当交付金の申請・報告手続きにあたって苦労したこと

当交付金の申請・報告手続きに当たって苦労したことについて教えてください。(当てはまる選択肢**すべて**に☑)

【申請手続きに関すること】

- ①活動計画書等の申請書類の作成が難しかった
- ②活動対象地の面積の算定が難しかった
- ③活動計画図の用意が難しかった
- ④土地の境界が不明(所有者が不明等含む)でどこまで活動対象地にできるかわからなかった
- ⑤活動組織の規約の作成が難しかった
- ⑥名簿(参加同意書)に記載する参加者を集めることが難しかった
- ⑦活動対象地の確保が難しかった(土地利用協定書の締結が困難等)
- ⑧活動の候補地が、交付金の要件を満たしているかどうかの確認が難しかった
- ⑨どのような保険に加入すればよいかかわからなかった
- ⑩どのようなモニタリング調査を選べばよいかかわからなかった
- ⑪希望する森林づくりの目的に適したモニタリング調査方法がガイドラインになかった
- ⑫地元の市町村から有効性、妥当性の同意を得ることが難しかった
- ⑬書類の量が多く作成に時間がかかった
- ⑭森林所有者との調整が難しかった。
- ⑮安全講習や森林施業技術の向上のための講習をどう実施するのか分らなかつた、準備が大変だった
- ⑯特に苦労したことはない
- ⑰その他(下の自由記述欄に回答をお願いします)

「⑰その他」にご回答の場合は、具体的な苦労したことについて教えてください

【報告手続きに関すること】

- ①必要な書類（添付書類含む）が何かわからなかった
- ②領収書等必要な書類の整理・保管が難しかった
- ③必要な写真を撮影するのに苦労した
- ④フィルム式のカメラを使っているため、報告書様式に合わせて撮影範囲を決めるのが難しかった
- ⑤パソコンの利用方法がわからず（慣れておらず）、書類作成に苦労した
- ⑥活動日数が多く、記述する内容や写真も多数で書類作成の負担が大きかった
- ⑦作業写真整理帳等に掲載（利用）できる写真が少なかった
- ⑧金銭出納簿等に記載する経費の計算が難しかった
- ⑨本交付金の対象となるのかどうかの判断が難しい内容があった
- ⑩年度末の書類をまとめる際に必要な記録を十分に取っていなかった
- ⑪手続きに必要な書類作成に対応できる構成員が少なかった
- ⑫作業が提出締切日近くまで続き、提出期限に間に合わせるのに苦労した
- ⑬モニタリング調査等、必要な作業を必要書類作成時点で実施していなかった
- ⑭特に苦労したことはなかった
- ⑮その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）

「⑮その他」にご回答の場合は、具体的な苦労したことについて教えてください

問 2 1 当交付金の申請・報告手続きにあたって苦労したことの解決方法

本交付金の申請・報告手続きに当たって苦労したことの解決方法について教えてください。（当てはまる選択肢すべてに☑）

- ①地域協議会に相談した
- ②都道府県（地方事務所などの出先機関を含む）に相談した
- ③市町村に相談した
- ④他の市民団体や活動組織に相談した
- ⑤学識経験者やアドバイザーに相談した
- ⑥自治会や町内会等の地縁団体、地域の住民に相談した
- ⑦企業に相談した
- ⑧森林組合に相談した
- ⑨活動組織の構成員のみで解決した
- ⑩本交付金に関する手引きやガイドライン等の解説資料を確認した
- ⑪いまだ問題は解決できていない
- ⑫その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）

「⑫その他」にご回答の場合は、具体的な解決方法について教えてください

9. 貴団体の活動における成果についてお伺いします。

問22 交付金事業実施を通じた組織における変化（成果）

交付金事業実施を通じた組織における変化（成果）について、感想を教えてください。（変化ごとに各5段階評価の 1つだけに☑）

5段階評価 組織における変化	1. 非常に そう思う	2. そう 思う	3. どちら でもない	4. そう 思わない	5. 全く そう 思わない
① 活動組織メンバー内で新たな人間関係が構築できた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 地域コミュニティ等の既存の人間関係が強化された	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 地域外関係者との人間関係が構築できた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 森林環境や生物多様性に関する理解が深められた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 森の手入れに関して安全意識・スキルが高められた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 林業機材の取扱技術が向上した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 森林管理・施業に関する知識や技術の習得が進んだ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 木材や特用林産物（きのこなど）の生産技術が得られた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 申請書、報告書等の書類作成スキルが高められた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ PC、デジカメ等の電子機器の操作が上達した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪ 森林をフィールドとする活動団体との交流が進んだ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫ 森林や林業に関する行政関係者、組合等との関係構築が進んだ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬ 交付金以外の収益確保が出来るようになった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑭ 交付金活用後も活動を継続するための組織基盤ができた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

10. モニタリング調査に関してお伺いします。

問 2 3 モニタリング調査の内容

貴団体が、令和 3 年度及び令和 4 年度に実施した（予定含む）モニタリング調査の内容について、教えてください。「モニタリング結果報告書」に記載予定の調査について教えてください。（当てはまる選択肢すべてに☑）

- | | | |
|---|---|--|
| <input type="checkbox"/> ①木の混み具合調査（相対幹距比調査） | <input type="checkbox"/> ⑩相対照度調査 | |
| <input type="checkbox"/> ②木の混み具合調査（間伐率調査） | <input type="checkbox"/> ⑪開空率調査 | |
| <input type="checkbox"/> ③木の混み具合調査（胸高断面積調査） | <input type="checkbox"/> ⑫植生調査（下層植生調査） | |
| <input type="checkbox"/> ④樹木の本数調査 | <input type="checkbox"/> ⑬萌芽再生率調査 | |
| <input type="checkbox"/> ⑤見通し調査 | <input type="checkbox"/> ⑭苗木の活着状況調査 | |
| <input type="checkbox"/> ⑥竹の本数調査 | <input type="checkbox"/> ⑮植生調査（植栽木の成長量調査） | |
| <input type="checkbox"/> ⑦木材資源利用調査 | <input type="checkbox"/> ⑯その他 | |
| <input type="checkbox"/> ⑧特用林産物等利用量調査 | （下の自由記述欄に回答をお願いします） | |
| <input type="checkbox"/> ⑨下草・ササの侵入率（被覆率）調査 | <input type="checkbox"/> ⑰活動計画書と異なる調査を行う予定だが、
まだ具体的な調査方法は決まっていない | |

「⑯その他」と回答された場合、具体的なモニタリング調査の内容について教えてください

問 2 4 推奨しない調査方法

問 2 3 で⑫植生調査（下層植生調査）⑬萌芽再生率調査 ⑭苗木の活着状況調査 ⑮植生調査（植栽木の成長量調査）と回答された活動組織に質問します。

林野庁では、これら調査について、植物の生態に左右される事柄の調査であり、結果を予測しづらく目標達成の判断が困難であるため、「モニタリング結果報告書」に記載する調査方法とすることを推奨していません。これら調査を選んだ理由を教えてください。（当てはまる選択肢すべてに☑）

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> ①これら調査が非推奨であることを知らなかった |
| <input type="checkbox"/> ②これら調査の代替となる調査が分らなかった |
| <input type="checkbox"/> ③活動目的と直結する調査方法であるため、この調査を実施したい |
| <input type="checkbox"/> ④従来よりこの調査を実施してきたため継続して調査したい |
| <input type="checkbox"/> ⑤調査方法や目標を変更しても良いことや、変更方法を知らなかった |

問 2 5 設定した数値目標の進捗状況

活動期間（原則 3 年間）の終了時に達成すべき数値目標について、現時点での進捗状況を教えてください。（当てはまる選択肢 1 つだけに☑）

- ①達成できる目途がついている（問 27 へ移動してください）
- ②達成できるかどうかの見通しはついていない（問 26 へ移動してください）
- ③まだモニタリング初回調査を実施していない（問 27 へ移動してください）

問 2 6 モニタリングの進捗状況が不十分となった理由

問 25 で、活動期間（原則 3 年間）の終了時に達成すべき数値目標の達成に向けて、達成できる見通しがついていないと回答した活動組織に質問します。進捗状況が不十分となった理由を教えてください。（当てはまる選択肢すべてに☑）

- ①過大な数値目標を立ててしまい、目標達成に必要な活動が出来なかった
- ②植物の生態に左右される事柄など効果発揮までに時間を要したり見通しが立ちにくい数値目標を設定してしまった
- ③獣害や自然災害などの活動後の影響により、達成率が不十分となった
- ④新型コロナや災害などの影響で予定していた活動ができなかった
- ⑤その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）

「⑤その他」と回答された場合、具体的な理由を教えてください

問 2 7 モニタリング調査方法や数値目標の変更について

モニタリング調査方法や数値目標について変更できることをご存じでしたか。（当てはまる選択肢 1 つだけに☑）

- ①知っている
- ②知らなかった

問 2 8 モニタリング調査目標の達成等について

モニタリング調査の目標達成率について、基本的に活動の 3 年後には達成率 1 0 0 %を目指していただきたいことや、本事業の成果として対外的なアピールや説明に活用されていることをご存じでしたか。（当てはまる選択肢すべてに☑）

- ① 1 0 0 %達成すべきであることは知っていた
- ②対外的なアピールや説明に利用されていることは知っていた
- ③何れも知らなかった

11. アドバイザー制度についてお伺いします。

問29 アドバイザーの活用の希望状況

令和3年度より本交付金の活動内容に応じて技術的支援を受けられるよう「森林・山村多面的機能発揮対策アドバイザー」の制度が設置されました。今後のアドバイザーの活用予定について教えてください。（当てはまる選択肢 1つだけ にチェック☑）

- ①活用する予定はない
- ②活用を検討している・検討したい（困ったときには相談したい）

問30 アドバイザー制度を活用した感想

アドバイザーを活用したことがある活動組織にお伺いします。活用されたご感想を教えてください。（当てはまる選択肢 すべて に☑）

- ①概ね的確な助言・指導が得られた
- ②助言・指導を受けたかった内容と異なっていた
- ③事前の準備（相談内容の整理、説明書類の作成、日程調整など）が大変だった
- ④その他（下の自由記述欄に回答をお願いします）

「④その他」と回答された場合、ご感想を教えてください

問31 アドバイザー制度を活用したい分野

今後アドバイザーの活用を検討している・検討したいと回答した活動組織にお伺いします。どの分野の助言・指導を受けたいか教えてください。（当てはまる選択肢 すべて に☑）

- ①森林施業（目標設定やモニタリング調査等も含む）
- ②侵入竹の伐採・除去・利活用（目標設定やモニタリング調査等も含む）
- ③森林資源の活用（木質バイオマス・炭焼き・しいたけ原木等）（目標設定やモニタリング調査等も含む）
- ④森林生態、植生（希少植物の保護を含む）
- ⑤他地域との交流・連携（活動内容の調整、交流・環境の整備等）
- ⑥組織づくり（資金調達、企業連携、CSR、情報発信等）
- ⑦安全対策、安全管理、応急処置
- ⑧その他森林・山村多面的機能発揮対策交付金に係る活動の推進に関するもの
（下の自由記述欄に回答をお願いします）

「⑧その他」と回答された場合、具体的な内容について教えてください

問32 アドバイザー制度を活用しない理由

活用したことがない活動組織及び問 29 で活用する予定はないと回答された活動組織にお伺いします。活用しなかった、活用する予定がない理由を教えてください。(当てはまる選択肢すべてに☑)

- ① 特段困っていないため助言・指導を受ける必要性がなかった
- ② 必要な助言・指導をしてもらいたいアドバイザーが見つからなかった
- ③ 地域協議会からの助言・指導で十分だった
- ④ (本制度登録アドバイザー以外の) 専門家や他団体などに直接、助言・指導を依頼した
- ⑤ 困っていることはあるが、どのアドバイザーにお願いすればよいのかわからなかった
- ⑥ 登録リストに助言・指導を受けたいアドバイザーが見当たらなかった
- ⑦ アドバイザー利用の方法がわからなかった
- ⑧ アドバイザー制度について知らなかった
- ⑨ その他 (下の自由記述欄に回答をお願いします)

「⑨その他」と回答された場合、具体的な理由を教えてください

12. 本交付金に関するご意見・ご要望についてお伺いします。

問33 本交付金に関するご意見・ご要望

本交付金事業全般あるいは地域協議会に対するご意見ご要望がございましたら、ご記入ください。また、本アンケート内容に関することで、気になった点等がございましたら、併せてご意見等をいただければ幸いです。(以下、自由記述欄に回答をお願いします。回答は任意です)

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

記入いただいた調査票は、返信用封筒に封入いただき、令和4年9月9日(金)までに投函いただくか、Eメールで shinrin-quest@ecosys.or.jp までお送りください。



令和4年度
森林・山村多面的機能
発揮対策交付金
活動事例集

林野庁

目次

掲載団体一覧	2
掲載団体活動所在地	3
活動事例	4
1 標津の森を守る会（北海道標津町）	4
『町と連携した関係人口の拡大と地域の活性化』	
2 かみかわ里山ネット（北海道旭川市）	6
『生物多様性が高く蓄積量の多い混交林への誘導』	
3 五日市里山を考える会（岩手県八幡平市）	8
『里山環境の保全で得られる森の恵みの活用推進』	
4 枝郷地域づくり会「さとやま・ま森隊」（秋田県大仙市）	10
『安全を最優先に未経験者でも楽しく』	
5 細野の山を愛する会（山形県尾花沢市）	12
『森林資源を活かして、交流人口を拡大』	
6 NPO 法人 馬頭農村塾（栃木県那珂川町）	14
『都市部の大学・団体との連携が関係人口を増やす』	
7 NPO 法人 自遊クラブ（神奈川県相模原市）	16
『連携と協働で活動の幅を広げる』	
8 NPO 法人 ぎふし森守クラブ（岐阜県岐阜市）	18
『地域の野生の生きものを守る森づくりを通じた森林環境教育』	
9 猪之頭振興協議会（静岡県富士宮市）	20
『森づくりで生まれる企業や地域外住民とのつながり』	
10 三ツ口山を守る会（三重県熊野市）	22
『「100年の森づくり」の地道な取組でよみがえる山の豊かさ』	
11 五名里山を守る会（香川県東かがわ市）	24
『先人の里山づくりの復活が移住者増を後押し』	
12 赤坂竹林整備組合（福岡県福岡市）	26
『荒廃竹林を国産ブランドの生産フィールドに』	
13 TAKE NO EN（長崎県長崎市）	28
『竹林整備活動を通して広がるコミュニティ』	
14 上松山区（熊本県宇土市）	30
『安心して楽しく散策できる里山の環境を取り戻す』	

掲載団体一覧

No.	活動組織名(活動地域)	活動タイプ					活動の工夫点				
		里山	竹林	資源	機能	関係	自治体・企業連携	情報発信	森林作業安全対策	関係人口交流人口	生物多様性の保全
1	標津の森を守る会 (北海道標津町)			●	●		●	●		●	●
2	かみかわ里山ネット (北海道旭川市)	●		●		●				●	●
3	五日市里山を考える会 (岩手県八幡平市)			●			●	●		●	●
4	枝郷地域づくり会「さとやま・ま森隊」 (秋田県大仙市)	●					●	●	●		
5	細野の山を愛する会 (山形県尾花沢市)	●			●	●				●	●
6	NPO 法人 馬頭農村塾 (栃木県那珂川町)	●			●	●				●	●
7	NPO 法人 自遊クラブ (神奈川県相模原市)	●					●			●	●
8	NPO法人 ぎふし森守クラブ (岐阜県岐阜市)	●	●				●		●		●
9	猪之頭振興協議会 (静岡県富士宮市)			●			●			●	
10	三ツ口山を守る会 (三重県熊野市)	●								●	●
11	五名里山を守る会 (香川県東かがわ市)			●			●	●		●	
12	赤坂竹林整備組合 (福岡県福岡市早良区)			●			●	●			
13	TAKE NO EN (長崎県長崎市)		●			●		●	●	●	
14	上松山区 (熊本県宇土市)	●	●		●		●	●		●	●

掲載団体活動所在地



活動事例

活動 里山 竹林 資源 機能 関係
タイプ

しべつ もり まも かい 標津の森を守る会

「標津の森を守る会」は、会の考えに賛同する標津町の住民19名によって設立された組織。町の観光ガイドとして活躍していたメンバーを中心に、自営業・農業・漁業・建設業・元公務員・元銀行員等と多彩なバックグラウンドをもつ仲間が力を合わせています。

活動地域：北海道標津町
TEL: 090-8708-8264
Email: s.inami446@silver.plala.or.jp



活動の概要

『町と連携した関係人口の拡大と地域の活性化』

標津町のポー川史跡自然公園は、国指定の「天然記念物標津湿原」を擁する「北海道開拓以前の文化的景観を体験・体感できる場所」をコンセプトに、古代遺跡と自然環境を一体的に保存した場所です。

「標津の森を守る会」は、標津町と連携し、このポー川史跡自然公園内のミズナラを中心とした広葉樹林 5.5ha と針葉樹林を対象に、環境林としての保全管理に取り組んでいます。枯損木・風倒

木の処理・ササ刈り等の作業で出た枝や小径木は遊歩道の整備に利用し、風倒木は薪ストーブ用の燃料として町民に還元しています。管理によって明るくなった林内では、郷土樹種であるミズナラの実生が発生するなど、広葉樹の更新が進みつつあります。また、地域内外の人々向けの自然体験学習や生物学習、自然観察会等を行うことで、交流人口の拡大や地域の活性化に貢献しています。

特徴的な取組

➤ 郷土樹種ミズナラによる広葉樹の更新

間伐やササ刈りを行うことで、林床を明るくし、郷土樹種であるミズナラの実生の発育を促しています。実生の一部は食害対策の観点から別の場所で一定期間生育させた後、当該地区に植え戻すことにも取り組んでいます。

➤ 町の広報誌等を活用した活動のPRと会員募集

もともと町の観光ガイドを行っていたメンバーが、標津町と連携し、活動状況を多くの方にPRすることで、活動について興味を持ってもらい、活動への参加や会員加入の働きかけを行っています。



ササ刈り作業(上)
散乱している枝を
処理し、チップとし
て活用(右)



市民対象の野鳥の巣箱づくり

他の活動組織でもできる工夫点

- 多彩なバックグラウンドをもつ仲間を組織に加える
- 森の整備を通じた郷土樹種(在来植物種)の保全
- 企業等に対する社員研修の場としての活用を促すアプローチ

活動の成果

▶ 森の整備による公園全体の安全・安心な利用の実現

ポー川自然史跡公園内の竪穴式住居群の周辺の森の整備を行ったことにより、1万年の歴史文化を学ぶ体験型教育がより安全・安心な環境で提供できるようになりました。

▶ 森林資源の販売による活動資金の確保

出材した薪等の資源を番屋で使う燃料用に地元漁師に販売し、活動資金として活用しています。活動を通じて地域住民が地域資源に関心を持つきっかけを提供することで、地域全体の活性化の促進に貢献できました。

▶ 関係人口の創出・維持

本交付金で整備した場所を含めた公園内で、近隣の小中学校を対象に森林体験教育が継続的に行えるようになりました。



中学校を対象とした交流事業

活動上の課題、その対応策

社員研修の場として活用してもらうための具体的な話を進めていたが、コロナの影響で未開催。引き続き関係人口の創出につなげる活動にも力を入れる。

一言：ここが大切！

私たちの会がここでの活動を始めて以来、標津町や町の教育委員会が、広報や学校連携等、色々とバックアップしてくれています。行政機関の支援にはとても感謝しています。

今後の展望

- 活動を継続するために、森の整備で出た薪等の資源を、薪需要がある町内のキャンプ場施設「海の公園」等で販売することにより、資金の確保に努める。
- これまでの活動の経験を活かし、ポー川自然史跡公園周辺の未整備の場所へと活動範囲を広げる。
- 活動について町の広報誌等の広報媒体でさらにPRすることで、活動への参加や加入の働きかけを行う。



親子どんぐり拾い(左)
拾ったどんぐりを畑に植えて
出た実生

さとやま
かみかわ里山ネット

「かみかわ里山ネット」は、組織メンバーが所有する山林において、風倒・枯損木等の除去や間伐等の森林育成活動を行い、搬出される材の活用を図るほか、広葉樹など山林をフィールドとした森遊びなどを通じて市民交流を実施しています。

活動地域：北海道旭川市
TEL: 090-8903-3001
Email: maki@ta2.so-net.ne.jp



活動の概要

『生物多様性が高く蓄積量の多い混交林への誘導』

旭川市東鷹栖地区は、開拓以来、里山的な利用がされてきましたが、近年、手入れ不足の林分が目立つようになりました。他方、都市住民のキャンプ、薪ストーブ等への関心の高まりから、適切な森づくりや資源利用が求められるようになってきました。そこで、「かみかわ里山ネット」では、約 7ha の天然生二次林での市民参加型の活動等を通じて、こうした状況に対処することにしました。森づ

くりとして、成立木の競合緩和を目的とした定性間伐で、資源蓄積量の多い生物多様性豊かな混交林の育成に取り組むほか、森林整備技能向上のための安全な伐倒技術・搬出の研修、林内歩道・焚き火スペース等、森に親しむためのインフラ整備を行っています。また、資源利用として、地元の木工芸・家具用材料、ストーブ用燃料材等バイオマス素材の提供に力を入れています。

特徴的な取組

➤ 広葉樹の天然更新

活動対象地である天然生二次林(ミズナラ、シラカバ中心の広葉樹林)はほぼ平坦な土地で、開拓以来、農村部の里山林として利用された後、放置されました。これを適宜、除伐や間伐を行うことなどでミズナラ広葉樹の更新(天然更新)を図っています。搬出材は薪材として地元農家や住民に提供しています。



➤ 木こりとガイドの技術交流

森づくりの人材育成の一環で行っている「木こりとガイドの技術交流」では、木こりの技術として、森を読み、倒す木を選ぶ知識やチェーンソー操作技術等を伝え、ガイドの技術として、森遊びの安全管理、雪洞掘り、かんじきウオーク等を学ぶ研修を行っています。また、地元住民を対象とした環境教育の場として、市民の森づくり講座・小屋作りプログラム(年間6回)等の研修も開催しています。



プロガイドによる野外救急講習(上)
北欧式の伐倒練習(下)

他の活動組織でもできる工夫点

- 森林整備に必要な技術や森づくりの考え方を学ぶ研修等の機会を積極的に設けることによる、人材の育成とスキルのレベルアップ。
- 成立木の競合緩和を目的とした将来木選木による弱度・多回数の定性間伐を通じた、多様性豊かな景観的に優れた森林の育成。

活動の成果

▶ 林内インフラの整備による森林体験の促進

間伐で林内の光環境が改善し下層植生が発達したことで、森の生物多様性が豊かになってきました。また、危険木の除去や歩道整備を通じて、林内が森林体験の場としてより活用しやすくなりました。資材庫を建設したことで、雨天時の避難場所が確保できました。



子ども達の手動
油圧薪割機体験



伐り出した丸太をチェーンソーで製材に
(上)
小型ウィンチによる地曳き集材(左)



キンドリング
クラッカーで
薪割体験



シラカンバの選木から樹皮採取
まで家具職人と一緒に行う『地
元の木活用プロジェクト』



活動上の課題、その対応策

活動費の確保が課題。搬出材の有償提供(シラカバ・イヌエンジュ等の工芸材は、試験的利用等でこれまでほぼ無償提供。薪材として搬出している間伐材も NPO 法人や地元農家に無償提供)について検討し、今後の活動費の確保に努める。

一言：ここが大切！

天然林再生を目指しながら、チェーンソー訓練や森遊びができるフィールドを整備しています。



今後の展望

- 弱度の定性間伐を継続し、生物多様性が高く蓄積量の多い針広混交林に誘導する。
- 市民の森遊び、伐倒・搬出トレーニングの場として活動地を継続的に活用する。
- 木工・工芸品素材、バイオマス燃料としての森林資源の有効活用を進める。

いつか いちさと やま かんが かい
五日市里山を考える会

「五日市里山を考える会」は、森林の公益的機能の発揮と地域の活性化を目標に、地区内外10人の住民で結成した組織です。施業や野外活動のスペシャリストをはじめ、地域づくりや農林漁業関係のNPO 組織の関係者、獣医等、里山整備に必要な人材がそろっています。

活動地域：岩手県八幡平市
TEL: 090-4555-8674 / 0195-72-3120
FAX: 0195-72-3120
Email: seikou@sukaheru.net



活動の概要

『里山環境の保全で得られる森の恵みの活用推進』

活動対象地では、森林が長年にわたり放置され、クマやシカ、イノシシ等の野生動物が頻繁に出没。景観の悪化、農林業への被害だけでなく、人々の生活も脅かされるようになりました。そこで、五日市里山を考える会では、里山林の手入れを通じて、獣害対策、景観保全上の改善、森林の公益的機能の向上を図っています。ミズナラ、イタヤカエデ、ホオノキ等、多様な樹種で構成される落葉広葉樹に

よる里山環境を目指し、除間伐、伐採木の集積・運搬、薪やしいたけのほだ木としての加工、山菜・薬用広葉樹などの特用林産物の出荷・販売など、森から得られる様々な資源の活用を進めています。

里山環境を保全し、その魅力を県内外に発信することで、活動賛同者や協力者が増えるなど、森は仲間という恵みも与えてくれます。



特徴的な取組

▶ 特用林産物の安定的な出荷・販売

薪、ほだ木やチップ等の木材資源の出荷・販売以外にも、活動フィールド内にあるタラノメ、コシアブラなどの山菜、クロモジ、ホウノキなどの薬用広葉樹を、県内外の企業等に出荷・販売しています。



他の活動組織でもできる工夫点

- 森が提供してくれる多様な資源を再生し活用することによる運営資金の確保
- 森林資源活用のマーケティングにも力を入れることで、森林組合・商業施設・民間企業・行政・関係団体など、多様な主体との連携

活動の成果

▶ 特用林産物の販路開拓

販路の開拓が奏功して、クロモジは、県外の薬用酒企業に原材料として販売(令和4年度の薬用クロモジ収穫量は580kg)ができるようになりました。ハウノキは、薬用として樹皮を県内企業に販売(令和4年度の皮収穫量は530kg)し、皮を剥いた残材は間伐材、伐採木と一緒にチップ用などとして地元森林組合に買い取ってもらっています。



ハウノキの伐採作業と薬用の樹皮、間伐材としての搬出(上)
 タラノメの収穫の様子(下左)
 収穫した薬用クロモジ(下右)

▶ 里山環境の保全と森林資源の活用の好循環

里山環境の保全を行い、森林を健全に育てて、森から得られる恵みである森林資源を活用することが、活動賛同者の増加や地域を担う仲間づくりにつながり、地域活性化が促進されるという好循環が生まれています。

一言：ここが大切！

山の資源をどうしたら持続的に活用していけるか！
 日頃からこのことを考えていると、タイミングよく、しかるべき人や情報にたどりつける気がする。好機を逃がさず、仲間とともに新しいことにチャレンジできたことが、活動の広がりにつながっていると思う。

活動上の課題、その対応策

- 新たな担い手を確保するため、活動状況を広くPRし、地域内外の方々に関心を持ってもらうよう積極的に働きかける。
- 活動を広げ・継続していくための資金確保として、薪材等の生産を継続的に行うとともに、新たな森林資源活用法の検討を進める。
- 交流人口・関係人口を増やしていくため、他団体とも連携し、森林体験を提供する機会を増やし、地区内外の人々の受け入れに積極的に取り組む。

今後の展望

- ヤマザクラについて、薬用として需要がある皮(内皮)と、薪材となる幹の出荷を本格検討。
- アケビやヤマブドウのツルをリース材として活用するための販路開拓を本格検討。
- 市民の学習活動や社会教育事業など、地域活動の拠点である「八幡平市五日市コミュニティセンター」との里山の環境保全活動における連携の推進。



えだごうちいき かい
枝郷地域づくり会
 もりたい
「さとやま・ま森隊」

「枝郷地域づくりの会」は、「次代を担う地域づくり会（枝郷若衆）」のメンバーを中心に 28 名で構成しており、近隣のボランティア組織「八乙女山を守る会」や「丸山造林管理組合」と連携して活動しています。

活動地域：秋田県大仙市 TEL: 090-4049-7448



活動の概要

『安全を最優先に未経験者でも楽しく』

活動地域のスギの人工林は、森林経営計画制度に係る計画の策定対象から外れ、手入れが行われず、近年ツキノワグマの出没が多発するなど、景観や安全面での懸念がありました。森林整備が急務との認識から、森林所有者と問題意識を共有しながら、暮らしに役立つ里山の復活を目標に活動しています。見通しの良い森林を目指して、刈払い

を手始めに、枯損木の処理、間伐、集積作業を行っています。山林作業の未経験者が多数を占めているため、作業の実施に際しては事故がないよう森林作業に係る安全管理の徹底に努めています。安全な山の歩き方から指導し、森林整備の意義を共有するための研修や安全作業講習会の受講等を通じて、スキルアップを図っています。



チェーンソー講習会(左)と掛かり木の処理方法技術講習会の様子

特徴的な取組

➤ 徹底した安全管理

森林作業は安全を最優先にして行っています。安全作業の講習会によるスキルアップ、作業手順や安全上の注意事項を確認するための作業前のミーティング、作業エリアや内容に即した作業者の配置・グループの編成、けが人が出た場合に備えての活動日に診療可能なクリニックへの事前連絡といった事前準備のほか、作業後の振り返りなども行っています。

➤ 情報発信や研修で森林整備の意義の共有

森林整備の研修や活動内容の地域新聞への掲載等、様々な取組を通じて、地区住民に対して森林が地域の資源であるとの認識を高めるための情報発信を積極的に行い、森林整備の意義や問題意識を共有することで、会員の増加や、地域コミュニティの活性化につなげています。

他の活動組織でもできる工夫点

- 安全作業のための作業前の入念な準備と振り返り
- 地元医療従事者・機関と連携して、緊急時の体制を確立
- 森林整備活動をきっかけとした地域コミュニティの再生

活動の成果

▶ 安全管理の実践とその波及効果

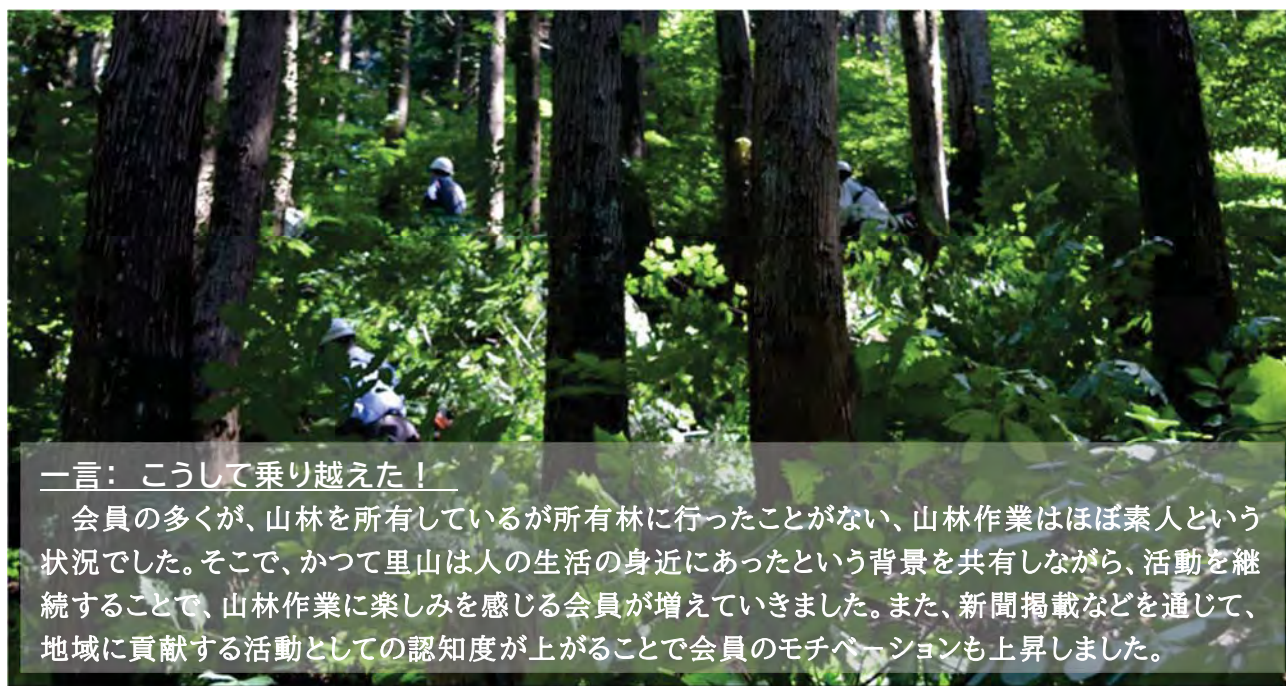
安全対策に力を入れてきた結果、これまで5年間の活動で、作業に伴う大きなケガや危険生物等による被害は1件も発生していません。また、会員が講習会で得た技術を活用して自分の山を整備する、会員同士の仲間意識が高まるなどの波及効果も現れています。

▶ 地域住民の関心の高まり

イベントの内容や活動の成果について SNS 等を通じて継続的に発信することで、地域新聞「枝郷の里」等でも多くとりあげてもらい、「安全かつ楽しく」というプラスのイメージが定着しました。それにより、様々な立場や年齢層からの理解が得られ、会員の増加や活動への安定的な参加につながっています。

活動上の課題、その対応策

- 近年目撃情報が増えているクマとの遭遇を避けるために、明るく見通しの良い森づくりを進め、子供たちが安心して自然の中で遊べる里山の再生に取り組んでいく。
- 地区内の森林であっても、個人情報の壁があり、所有者特定が難しい場合がある点からも、関係主体との連携は有効。



今後の展望

- 隣接する八乙女公園と連携して、自然体験・環境学習の実践の場としての活用に向けて、森林の整備と合わせて、歩道の整備などハード面にも力を入れていく。
- 活動対象地付近の森林で若い林業技術者を養成する実地研修が行われたことがあったが、こうした取組と連携して、「さとやまミニ森林公園」を造成し、親子で楽しめる植物観察やキノコの森づくり等、自然を体感できる森林教育の場とする。
- 森林の成長具合を確認しつつ、間伐材の販売も模索していく。
- 活動地周辺の放置森林についても、順次森林整備を進めていく。

ほその やま あい かい
細野の山を愛する会

「細野の山を愛する会」は、細野地区の住民17名、地区外8名の合計25名が中心となり、森林資源の保全・活用や、地区内外の人々の森林体験・交流を進めながら、地域の活性化を図るために平成27年に結成した組織です。

活動地域：山形県尾花沢市
 TEL: 0237-28-3736 / 080-1817-0620
 FAX: 0237-28-3736



活動の概要

『森林資源を活かして、交流人口を拡大』

尾花沢市細野地区は、ミズナラ、コナラ、イタヤカエデ、ウルシ等、多様な樹種で構成される里山林とスギ人工林が80%を占め、旧来より山林の薪炭利用等が盛んに行われてきました。しかし、近年荒廃した森林が増えたため、地区内に点在する複数の山林を活動拠点に、「細野の山を愛する会」が健全な森林の育成と特用林産物の生産に取り組んでいます。過密化した針葉樹林は除間伐で林

床に光が入るようにし、広葉樹林では、除伐や枯損木の伐採をしています。また、産出した木材を地域内外の薪ストーブユーザーに無償提供するなど、森林資源の活用にも積極的で、採れた山菜等を地区内の農家レストランに提供したり、メープルサップやワラビの採取体験等のイベントを開催し、地域内外の人々の交流を促進することで、移住者が増加するなど地域の活性化に貢献しています。



山菜狩りとワラビ苗の植え付け体験

特徴的な取組

➤ 婦人会と連携した森林資源の活用

伐採木の薪材としての活用のほか、広葉樹のイタヤカエデの樹液や山菜等、森林資源の掘り起こしに積極的です。イタヤカエデの樹液、メープルサップは収穫後、地区の農産物加工所に無償提供され、地元婦人会が糖度60度のシロップに加工し販売しています。また、採取した山菜は、地区内の農家レストランに提供されています。

➤ 森林資源を生かした体験イベント

メープルサップを採取する体験イベントは、人の交流の少ない冬場に行う人気プログラムのひとつです。雪山を20分ほど歩き、イタヤカエデの幹に穴をあけ、樹液がしたたり始めるのを待ち、採取したての樹液を味わうという他にはない体験ができます。

他の活動組織でもできる工夫点

- 活動を通じて産出された森林資源の加工・販売を別の組織に任せて分業することで、効率的な取組と地区全体の活性化を可能にする。
- 収穫体験と森林整備作業をセットにしたイベントで、地域内外の参加者の森林整備への理解を醸成するとともに、森林整備参画者を募る。

活動の成果

▶ 地域資源を生かした体験イベントが高評価

メープルサップや山菜等、森林資源の収穫体験イベントを通じて、地区外との交流に積極的に取り組むことで、多くの人々が細野地区を訪れるようになりました。地域資源を活かした山村集落活性化の取組が評価され、令和4年度の「国土交通省大臣賞(地域づくり部門)」を受賞しました。

▶ 受け入れ体制の充実による移住者の増加

地区外の参加者が細野地区に移住する事例が出てきていることから、尾花沢市(定住応援課)と連携して、細野地区内の空き家を市の空き家バンクに登録し、移住者に斡旋もしています。移住者の一人は細野地区で民泊の経営を開始するに至っています。



メープルサップの加工・販売を手掛ける地元婦人会の皆さん(上)
古民家カフェ(右)
販売用メープルシロップ、山菜等(下)
地元の祭での山菜販売の様子(左)



活動上の課題、その対応策

- 森林整備を地域の活性化につなげる取組を継続するための新たな担い手育成や、森林資源の利活用を検討している。

一言： こうして乗り越えた！

ほその村発足当初は県外客が少なく困惑しましたが、各種イベントの開催案内を宮城県の新新聞にお願いしたところ効果が上がり、最近では県外者の参加が多くなりました。

今後の展望

- 継続的な森林整備・保管理が実施できるよう予算の確保に努める。
- より多くの地元住民に整備活動に参加、協力してもらえるよう、関係主体と連携を強化し、新たな森林資源の活用を検討するとともに森林保全や利活用の意識を高めていく。

ほうじん ばとうのうそんじゅく
NPO法人 馬頭農村塾

「馬頭農村塾」は、山林農地の活用と都市と農村の交流を通じて、地域の活性化に寄与することを目的に、栃木県内を中心に、関東地方在住の農家・教師・サラリーマン・学生等、若者から後期高齢者まで幅広い年齢の人々が集まり活動しています。

活動地域：栃木県那珂川町
 TEL: 080-5617-1766 Email: itnozaki@sea.plala.or.jp
<https://www.ac.auone-net.jp/~bato/index.html>



活動の概要

『都市部の大学・団体との連携が関係人口を増やす』

町内の田畑・里山林 9ha(内里山林6ha)が売り出されたことをきっかけに、資金を募り土地を購入して、生物多様性に富んだ里山林再生の取組を開始しました。当里山は沢が多く入込み、基本的には表土層が薄い岩山であるため、広葉樹が中心で、針葉樹(スギ・ヒノキ)は部分的に生育しているのみです。

活動区域内に搬出路を新設し、伐採木は素材生産やバイオマス燃料としたり、炭焼きやシイタケ栽培など、積極的に森林資源の利用を行っています。里

山林では、枯損木等の伐採、山道や作業道の補修整備のほか、コナラ・クヌギ等の実生苗の移植や、林床に光を入れ萌芽再生を促すとともに、県のレッドデータブックに掲載される希少植物の生育地回復にも取り組んでいます。また、活動地内の施設の一部を宿泊施設として活用し、都市部の大学やNGOと連携して、宿泊型林業体験教室の実施にも力を入れたことで、若手の育成が実を結び、参加者が地元森林組合に就職する等、移住者も出てきています。

特徴的な取組

➤ 大学やNGOとの連携による関係人口創出

設立当初より、首都圏にある大学(日大、東京農大)と連携して、毎年林業体験を含むワークキャンプを実施してきました。最近では首都圏に会員を持つNGOとの連携で体験イベントを開催し、参加者がコナラやクヌギの実生を持ち帰り、苗木に育てて植え戻す活動を行うなど、活動の幅や地域を超えた仲間の輪を広げています。

➤ 地域全体の活性化

大山田地域活性化事業組合と協力して、里山再生活動を実施するとともに、東京や神奈川等、県外の若者・学生の受け入れなどを通して、耕作放棄地の再生等も含む地域全体の活性化に尽力しています。



➤ 森林資源の積極的活用

伐採木は搬出後に素材生産やチップなどのバイオマス燃料としたり、炭焼きの原料にしたり、或いはシイタケ栽培の楯木にするなどして、積極的に利用しています。



学生等を対象とした合宿でのワークショップが実施される馬頭農村塾の建物



参加者が実生を持ち帰って育てる苗木のホームステイイベント。大きくなったら馬頭農村塾の山に里帰り植樹をしてもらう。



活動の成果

➤ 里山環境の大幅な改善

過去8年間で里山林保全活動により、林内の光環境が改善し、下層植生が発達するとともに、多種のキノコ類も見られるようになるなど、生物多様性に富む里山環境に改善されました。



里山環境が改善し山道が見えるようになった

➤ 針葉樹・広葉樹等の森林資源の積極活用

活動区域内に搬出路を新設し、スギ・ヒノキの素材生産やバイオマス燃料としたり、またクヌギ・ナラなどは炭焼きの原材料やシタケ栽培をするなど、森林資源を持続的・積極的に利用しています。

➤ 若手移住者の増加

都市部の大学やNGOと連携し宿泊型林業体験教室を実施するなど、地域を深く知ってもらうプログラムを用意しています。こうした継続的な取組の結果、参加者が地元森林組合に就職するなど、若手移住者の増加につながり、地域の活性化の後押しとなっています。

他の活動組織でもできる工夫点

- 都心部の大学やNGO等、森づくりに関心がある地域外の組織や異なる層の人々との連携。
- 林業体験教室等を単発のイベントではなく、複数回のプログラムにすることで、継続的に森林整備作業に関わってもらう。

活動上の課題、その対応策

- NPO 法人馬頭農村塾本体の運営費用の捻出。里山保全活動を継続的に行う上でNPO 法人本体の資金調達は不可欠で、有効な方法について検討している。
- 産廃業者に狙われているなどの懸念から、設立以来、素性不明な人の参画に消極的だったが、現主要メンバーの高齢化などの状況に鑑み、新たな人材の確保にも力を入れている。

今後の展望

- 里山保全・再生のために、下草刈り、林道・作業道の補修・整備等の活動を実施する予定。併せてモニタリング、植生調査等各種調査も実施する。
- クヌギやナラの植林も継続実施し、里山の再生についても積極的に行う。
- 関係人口を増やししながら、人材育成にもさらに力を入れていく。



東京のNGOとの連携で行われた体験イベントの案内(上)

ほうじん じゅう
NPO法人 自遊クラブ

「NPO 法人自遊クラブ」は、平成16年に法人化した組織で「相模原に「市民の森」を創ろう！」をテーマに、里山を整備して活用する森林ボランティア活動をしています。活動には、相模原市在住者のほか、横浜市など近隣の在住者も参加しています。

活動地域: 神奈川県相模原市
 Email: jiuu-club@mail.goo.ne.jp
 TEL: 090-7182-8055(浜田)
<http://www.sagami-portal.com/hp/dnt10030/>



活動の概要

『連携と協働で活動の幅を広げる』

自遊クラブの活動対象地は、「神奈川県立津久井湖城山公園」に近接する丘陵地帯のスギ・ヒノキの人工林とクヌギ・コナラを主とした広葉樹林です。人工林は、植林後の間伐等の管理が行き届かず、枯損木等が多くササが繁茂し立入が困難な状態に、また、広葉樹林は、薪炭林が放置され、近年、ナラ枯れ被害木が目立つようになっていました。

交付金の活動に当たっては、まず、林況を調査し、

数値目標を設定。3年間の具体的な作業計画を作成しました。1年目は灌木やササの除去による作業環境の整備、2年目は倒木等の処理と集積、3年目はかかり木の処理と劣勢木の除間伐等を予定しています。森林整備を通じた「さがみはら森林ビジョン」推進に係る市との連携や、他団体との協働などにより、さらに幅広い活動の展開が可能となっています。

特徴的な取組

➤ 処理が難しい倒木や枯損木は生物の棲み処としてあえて残す

安全を最優先し、処理が難しい倒木や枯損木は無理に処理せずに生物の棲み処として残すという選択肢も視野に入れて作業をしています。そうした場所には注意喚起の表示を設置する等して、森を訪れる市民の安全確保を心がけています。

➤ 自治体や他団体との協働・連携を通じた幅広い活動

森での体験等を通じて自然保護や林業の普及啓発を図る「さがみはら森林ビジョン」を推進するための市との連携や、森林整備や森遊び、マウンテンバイクを使った活動を行う友好団体との協働などにも積極的に取り組んでいます。



他の活動組織でもできる工夫点

- 除伐・間伐材の活用を見据えた事業計画の作成
- 自治体や関連する団体との協働・連携による多様な取組の展開
- インテリア、ディスプレイ用等、除伐木の多面的活用

活動の成果

▶ 除伐作業による林内環境の改善と搬出材の付加価値創出

除伐、林床の整理などの作業により見通しも改善され、林内作業路も整備できました。また、除伐した樹木を活用して、市内展示会でのディスプレイ、インテリア疑似木、カシ類を使ったバイクスタンド、

高尾山の山林の植栽用支柱、川崎市内のイベントにおけるツル類を使ったクリスマスリース素材、ナラ枯れ丸太のホダ木の提供などの付加価値の創出が可能となりました。



植林支柱(下左)と店舗用ディスプレイ(下右)

活動上の課題、その対応策

- ナラ枯れの被害が顕在化する中、歩道脇などで被害木の伐採が必要なものもあるが、被害木は大径木であるため可能な範囲で伐採を進め、そのスキルアップも図る。
- 伐採丸太の活用には、丸太搬出のための道と土場づくり、重機導入と操作、丸太納品先づくり、資金調達などが必要になるが、可能な範囲で少しずつ進めていく。

一言： こうして乗り越えた！

モニタリング調査をして目標を検討することで森の見方が変わり、根拠と目標のある森林整備が出来るようになりました。掛かり木や広葉樹などの難しい樹木の伐採は、特殊伐採も行っているメンバーのリードで、団体のスキルアップが進みました。

今後の展望



- 隣接する未整備の森林にも活動を広げ、まとまった森を一体として整備・保全していく。
- 整備した森林を地域の子どもや企業の森林体験の場として活用。
- 次年度以降に伐採する胸高直径 25cm 以上の広葉樹を市内小学校の学習机の天板として活用するが、搬出路整備と運搬車導入が課題。
- 搬出材を活用したグリーンウッドワーク、カービング等の生木作品づくり、インテリアとしての活用。
- CO2 吸収量が多く 20 年収穫が可能な早生広葉樹のセンダンを植栽し、将来にわたる活用の可能性を検討。

ほうじん もりもり
NPO法人 ぎふし森守クラブ

「NPO 法人ぎふし森守クラブ」は、地域の住民主体で里山保全を進めるため、「森を知り」「森を育て」「森を学ぶ」をモットーに森林整備や森林環境教育の活動を実践しています。

活動地域：岐阜県岐阜市
TEL: 058-231-3219
Email: prswr606@ybb.ne.jp
URL: <https://gifusimorimori.web.fc2.com/>



活動の概要

『地域の野生の生きものを守る森づくりを通じた森林環境教育』

「ぎふし森守クラブ」は、岐阜市にある「ながら川ふれあいの森」内の「生活環境保全林」を通る「東海自然歩道」の周辺エリアで活動を行っています。市民の保健休養、自然観察の場となっているものの、獣害等も発生し景観面・安全面で問題があったため、交付金を活用して、地域の野生動植物の生息・生育場所の保全・再生を目指した森林整備で森の景観を改

善することで、森林環境教育の活動をさらに充実することにしました。土地所有者と利用協定を結んだ里山林と竹林3.7haを対象に、下刈り、除間伐等の里山再生の作業を行っています。また、整備した森林の一部を活用して自然観察会、登山遠足等のイベントを行うなど、子どもから大人まで楽しめる森林環境教育を通じて、森の重要性を伝えています。

特徴的な取組

- 独自の安全対策として「安全管理の11箇条」をとりまとめ
安全対策の一環で、安全な作業のための注意点を整理し、「安全管理の11箇条(事故を回避するために)」としてとりまとめました。この内容をメンバー間で共有することで、安全対策の徹底を促し、事故防止に努めています。
- 森林整備と並行した環境教育・森林体験活動の推進
里山の再生と憩いの森づくりを目指し、森林整備を継続して進めています。本交付金を活用して整備した森林の一部については、他の助成金等を使い、森に親しむ環境教育、森林体験の機会として活用しています。市民が気軽に参加できるプログラムを用意し、森の大切さを伝えることで、市民の森への関心を高めるきっかけを提供しています。



専任講師による
チェーンソー
目立て指導



専門家による伐倒技術講習会



他の活動組織でもできる工夫点

- 関連する助成金や交付金等を活用して森林を整備し、森林環境教育の場として活用
- 多くの人に森林に親しみをもってもらう入口として、森林体験・環境教育といったイベントを積極的に開催

活動の成果

▶ 森林整備による景観改善と新たな森林環境教育の場の創出

本交付金を活用した森林整備を通じて森林内の景観が改善し、子どもでも安心して利用できる空間もできました。新たに整備が完了した場所を新しい森林環境教育の場として活用しています。



▶ 幼時期からの森林への関心の高まり、森林に関心をもつ市民の広がりを実感

市内の小学1年生の「校外教育」の支援などを通じて、幼時期からの森林への関心を高めるきっかけづくりとしています。市内の幼稚園・小学校で森林環境教育イベントのPRを行うことで、参加者が大幅に増加し、森林に関心をもつ市民の広がりを実感できるようになりました。



活動上の課題、その対応策

- 会員の若返りが課題となっているため、関連イベント等への参加者に森林保全活動の意義を伝え、管理活動への参加も促している。
- 環境教育活動等に係る経費等、継続的な資金確保が課題となっているため、国や地方公共団体の交付金や助成金等に応募している。

一言： こうして乗り越えた！

「ながら川ふれあいの森」完成と同時に発足した「森守クラブ」入会後会長指名されました。登山の経験はあり、高山植物・樹木等は多少わかるものの、森林保全は全くの素人でしたので、「岐阜県森林文化アカデミーの講座」・「ぎふ森林管理署の行事参加」等で森林保全や管理について学びました。21年間安心・安全な「森林保全・森林環境教育(木育)」を無事故で継続してきました。



今後の展望

- 岐阜市と連携し、「ながら川ふれあいの森」の継続的な維持管理を拡大する。
- 市民にとって安全に安心して利用できる場所にするよう里山環境をさらに改善する。

いのかしらしんこうきょうぎかい 猪之頭振興協議会

「猪之頭振興協議会」は、富士宮市猪之頭区の自治会（340世帯）を中心とした市民、静岡県富士農林事務所、富士宮市役所、NPO法人ホールアース研究所、株式会社ふもとつばらとの連携による、市民と行政、企業によって構成されている協議会組織です。

活動地域：静岡県富士宮市

TEL: 090-8672-2388 / 0544-52-0119

FAX: 0544-52-0119

Email: m-uemat@amber.plala.or.jp



活動の概要

『森づくりで生まれる企業や地域外住民とのつながり』

猪之頭区は、過疎化や高齢化の問題を抱える一方で、富士山麓の自然豊かな地区であることから別荘やオートキャンプ場が多く立地しており、そこで使う薪需要も伸びています。活動対象森林は、手入れの行き届かないコナラ等の雑木林とスギ・ヒノキの人工林で、近年、立ち枯れや倒木が目立つようになっていました。

こうしたことから、枯損木・倒木の伐採処理、下刈り・除伐・ツル切り、間伐等による森林整備を行い、企業との連携による森林資源を活かした特産品の開発、並びに体験プログラムやイベントツアーの企画・実施などに取り組んでいます。活動は、関係人口の創出や高齢者の雇用創出につながり、地域の活性化を後押ししています。



特徴的な取組

➤ キャンプ場や一般家庭用の薪の生産・販売

スギ・ヒノキの間伐材を利用した薪は、キャンプ場の他、コンビニエンスストアや田貫湖の施設でも販売しています。また、一般家庭の薪ストーブ用として、広葉樹（コナラ等）の薪の販売も開始しました。

➤ 森林体験による心身の健康回復を科学的に実証

本交付金活動地に近接する森林を使って、森林の意義を科学的に示すモニターツアーを実施。体験プログラムで得た心身の健康状態（心理的回復効果）を数値化し、効果を実証しました。この取組は「令和3年度林業白書」にも掲載されました。

➤ 地域振興を目指し多面的な活動を展開

移住・定住の促進やクルーズ船の誘致等、地域振興を目的とした様々な活動を積極的に展開しています。



クルーズ船ツアー

他の活動組織でもできる工夫点

- 森林から得られる生産物（薪）の販売による活動資金の補填
- 木材を利用した製品等の加工・販売
- 行政機関や旅行業関係者等と連携することによる活動の幅の拡大

活動の成果

▶ 森林整備、資源の有効活用、高齢者の雇用創出

収入が見込めず荒れていく山林の管理を、作業が困難な所有者に代わって行うことにより、森林の整備、資源の有効活用だけでなく、地域の高齢者の雇用創出にもつながりました。



▶ 企業等との連携による関係人口の創出

薪をはじめとした地域資源を活かした特産品の開発や、健康経営用の森林空間を活用したモニターツアー等の企画・実施など、企業や関係主体との連携を通じた関係人口の創出が実現しました。

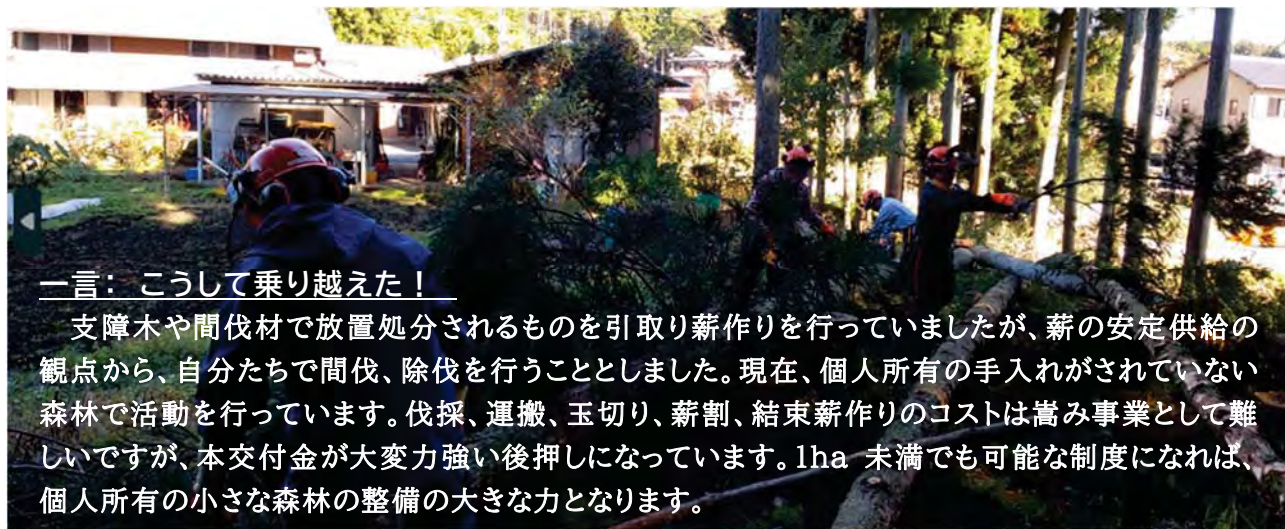


切り株に腰を下ろして楽しいお弁当の時間

マイコースター作り(左)
クレソンの収穫体験(上)

活動上の課題、その対応策

- 新たな人材と薪材の確保。薪の需要はかなりあるものの、人員が限られ規格化した製品にする手間もかかるため、新たな担い手の確保が必要。
- 活動地以外でも森林整備のニーズはあるが、1ha以下の小規模な森林が点在し、対応が難しい。



一言：こうして乗り越えた！

支障木や間伐材で放置処分されるものを引取り薪作りを行っていましたが、薪の安定供給の観点から、自分たちで間伐、除伐を行うこととしました。現在、個人所有の手入れがされていない森林で活動を行っています。伐採、運搬、玉切り、薪割、結束薪作りのコストは嵩み事業として難しいですが、本交付金が大変力強い後押しになっています。1ha未満でも可能な制度になれば、個人所有の小さな森林の整備の大きな力となります。

今後の展望

- 森林を題材としたツアーの再開が見込まれることから、自然体験や地元食材を活用した料理の提供で地域の魅力を発信し、地域の湧水保全や森林の整備、木材の有効活用などの事業の推進につなげていく。
- 森林整備と間伐材等を活用した薪製品の販売の他、コースター作りや薪作り体験等、地域の森林や木材の魅力の発信を通じ、関係人口の創出にもさらに取り組む。

みつくちやま まも かい
三ツ口山を守る会

「三ツ口山を守る会」は、メンバーに林業経験者がいるほか、農業、商業、行政など業種の異なる幅広い分野に精通するメンバーで構成されています。地元の住民だけでなく、ふるさとの森林づくりに関心を持つ町外で暮らす人々も参加しています。

活動地域：三重県熊野市
 TEL: TEL: 059-237-5313

[交付金活用期間：平成 25 年度～27 年度]



活動の概要

『「100 年の森づくり」の地道な取組でよみがえる山の豊かさ』

かつて里山集落の水源だった「三ツ口山」は、戦後スギ・ヒノキの人工林として生育。皆伐された後、一旦は植栽(再造林)されましたが獣害対策が不十分であったこと、また有用な広葉樹を伐採してしまったことからススキが背丈ほどの高さまで繁殖するなど、荒廃が進行していました。

こうしたなか、20年以上前の平成13年、三ツ口山を守る会の代表は放置された森林約 45ha を自力で購入し、以前の広葉樹の森へと樹種転換することで、緑豊かな里山の生態系を取り戻すべく活動(「100 年の森づくり」)を開始しました。

未整備の森林 22ha を対象に、平成 25 年度から本交付金を活用して広葉樹の森の再生に着手しました。まず多様な広葉樹の種子を前年の秋に採取し林地に埋めることから始めました。実生苗で育てるよりも直接林地に播種(埋める)ことで発芽率の向上を促すとともに、生育に必要な地拵えや下刈り、実生苗の移植等にも取り組みました。

こうした地道な取組が実り、徐々にかつての森の姿が蘇り、活動地の一部は地域内外の人々との格好の交流の場として森林レクリエーションや森林環境教育に活用されています。

活動の成果

➤ 初期整備と播種後の保育で森づくり促進

森づくりに際しては、初期整備として獣害対策や播種後の保育をしっかりと行いました。対象地全体に高さ2mの防護柵を設置し、足下には漁網を張るとともに、直播きした種を覆土後に苗木保水剤を散布するなど、ネズミやモグラの食害対策も合わせて行いました。また、雑草木で覆われ実生が育たない場所は刈払いをして地拵えの後に、広葉樹の種を埋め、播種後5年間は保育に力を入れました。これにより獣害が著しく低下し、発芽率、活着率が向上しました。

➤ 森林環境学習の場としての活用

広葉樹林へと更新した森の一部(10ha)については、「森林空間活用林」として位置づけ、地域の人々に活動のフィールドを提供しています。毎年、地元小学生を対象とした森林環境学習の場としてたくさんの子ども達に活用されています。



皆伐後、放置されたままの状態だった活動開始前の対象地(上)と、本交付金を使って広葉樹の森を再生した同地域(下)

特徴的な取組

▶ 「100年の森づくり」を合言葉に広葉樹へと樹種転換

スギ、ヒノキ林から、「100年の森づくり」を合言葉に、ケヤキ、トチノキ、クヌギ、シイ類といった高木性の広葉樹林へと樹種転換を図っています。

▶ 適地適木を念頭に在来樹種を播種して保育

生育した苗木を林地に植栽すると、側根は伸びるが主根が育ちにくかったり移植の際に主根が切断しまう危険が伴います。これに対して、現地で採取した種子を地拵え後に直接林地に埋めた方が、直根が地中深くに根付きしっかりと育ちます。このため、隣接する森林から採取し

た在来樹種の種子は、尾根筋の陽当たりよいところにはカシ類を、沢筋にはトチノキやケヤキをといたように、適地適木の考えのもとに、それぞれ環境に即した樹種を播種しました。

種子を埋める深さは深くても浅くても不適で、ネズミやモグラに種子が食べられないようにする工夫が必要です。一晩で全滅したこともあったことから、最適の深さを見つけるまでに随分と試行錯誤を重ねるとともに、最終的には保水剤と水溶性の忌避剤を組み合わせた液体を地表付近に散布し、その表面にネットをかぶせることで発芽率の向上に向けた課題を解決することができました。

▶ 現地の地形(起伏)に合わせた獣害防護柵の設置

過去の反省を踏まえ、獣害対策を徹底するため周囲約5kmにわたって獣害防護柵を設置しました。山全体にステンレス製の防護柵を高さ2mまで設置するとともに上段約80cmの高さまで通電させるとともに、地表部分にも網を張り巡らすなどの工夫を凝らしました。地形が急峻で足場も悪く資材の搬入は大変重労働でしたが、転石を避けるなど現地の地形(起伏)に即して高さを加減するなど手間暇を惜しまず細心の注意を払って対策を講じたことで獣害による被害を乗り越えることができました。



獣害防止ネットの設置(上)
在来種の種を埋める作業(中央)
苗木の植栽(右)

今後の展望

- 地域住民の幅広い支援を得ることで、三ツ口山の継続的な森林整備を通じた里山環境の維持・発展
- 助成金等の利用による、地元小学校児童向けの郷土種の植栽や森林環境学習等の教育活動の実施

他の活動組織でもできる工夫点

- 中期的な視点で森林再生を進める。活着率、その後の成長具合などを勘案し、種から生育させることにウエイトを置くことも選択肢に入れる。
- 地形・地勢といった環境条件に適した場所に適切に播種し、保育期間は5年程度に留め、後は自然にまかせることで、管理負担を軽減する。
- 幼木や種を獣害から守るために防護柵・単木ネットの設置を行う。



ごみょうさとやま まも かい
五名里山を守る会

「五名里山を守る会」は、薪作りメンバー12名が中心となり、里山整備と未利用の里山資源の活用を推進しています。里山整備に伴い伐採した木材の加工・販売を通じて、自立経営を目指す人材の育成とともに地域の活性化を図っています。

活動地域：香川県東かがわ市
 TEL/FAX: 0879-29-2401 <https://gomyo-maki.com/>



活動の概要

『先人の里山づくりの復活が移住者増を後押し』

活動対象地の五名地区は湊川及び吉野川の水源地域で、人工林約33%に対して広葉樹林が64%を占めています。かつて広葉樹の森では人々の営みによって里山の環境が維持されていましたが、薪や炭の需要の減少等に伴い雑木が繁茂するようになりました。

そこで、「五名里山を守る会」は先人の里山づくりを引き継ぎ、対象木の伐採・搬出、及び伐採後

の萌芽更新のほか、未利用の里山資源の利活用として、伐採木のしいたけのほだ木・薪・炭への加工を手掛けています。また、行政等と連携して、閉校となった小学校の跡地を利用して設置された地区の拠点施設「産直カフェ・五名ふるさとの家」で薪・炭の販売や、ジビエ料理の提供等を行っています。こうした地域活性化の取組により、若い移住者が年々増加しています。



薪ステーション(上)
 産直カフェ「五名ふるさとの家」外観と内部(左)
 伐採木を加工したしいたけのほだ木(右上)
 萌芽更新が進む伐採跡地の様子(右下)

特徴的な取組

➤ 五名活性協議会の立ち上げ

地域住民と、地域創生を担当する行政・観光協会・地域おこし協力隊、地域づくりを学ぶ香川大学の学生などが連携し「五名活性化協議会」を発足。「里山活性化プロジェクト」や、「小学校跡地 新施設プロジェクト」など、地域全体の活性化に資する協力事業に取り組んでいます。

➤ 移住者受入れ支援

移住希望者には、事前に体験宿泊や地域行事への参加を促し、地元住民との交流の場を設けるほか、住宅として地区内の空き家を提供するなど、地域全体で支援を行っています。移住者も、林業、薪ステーションの運営、陶芸、家具の展示販売、カフェの開業など、様々なビジネスを展開し、地域の活性化に一役買っています。

あかさかちくりんせいびくみあい
赤坂竹林整備組合

「赤坂竹林整備組合」は、「地域の産業、地域で雇用」を掲げ、竹林の整備を通じた地区内での持続可能な雇用創出を目指している組織です。タケノコ生産の産業化や、伐採竹を加工した土壌改良材の近隣農家への販売などに取り組んでいます。

活動地域：福岡県福岡市
TEL: 092-804-3686 FAX: 092-836-7678
Email: info@bamboosawara.jp
https://bamboosawara.jp/



活動の概要

『荒廃竹林を国産ブランドの生産フィールドに』

福岡市早良区飯場地区は、かつてタケノコの産地として知られていました。しかし、中国産の安価なタケノコの影響で、国内産の価格が下落。生産者が減り竹林が放置され荒廃が進みました。

そこで、竹の利用と産業化を目的に、活動地の竹林を国産ブランド「飯場たけのこ」の生産フィールドとして整備し、販売網を構築することで、竹林の荒廃抑制と地域の活性化に取り組んでいます。

タケノコ等の生育に必要な環境整備として、作業道の作設やイノシシ侵入防止フェンスの設置などを行いました。伐採竹のチップは、土壌改良材としての地区農家に提供するとともに、水煮加工の燃焼効率を上げるための固形材料化の検討も進めています。このほかホームページを開設し広報に力を入れるとともに、販売網構築のために商工会やJAとの連携等にも積極的に取り組んでいます。



イノシシ防止用フェンス



特徴的な取組

➤ 竹林整備から商品開発、出荷・販売までの一貫した取組

竹林整備で発生した森林資源から様々な商品開発、出荷・販売まで一貫した取組を推進しています。水煮加工したタケノコは、塩漬け、酢漬け、ラー油炒め、醤油炒め、おにぎりやピザの具材などとして販売されています。

➤ 伐採竹の農業用利用

青竹の破碎処理で発生する竹粉を、土壌改良材として農業利用を目的に近隣農家に販売(1千円/m³)。未利用資源の地域内での有効活用にも積極的に取り組んでいます。



他の活動組織でもできる工夫点

- 商工会やJA等の関係主体との連携による森林資源の販売促進
- ホームページでの広報を通じた遠方の消費者への販売ルートの確立

活動の成果

➤ 竹林の荒廃抑制と地域の活性化に貢献

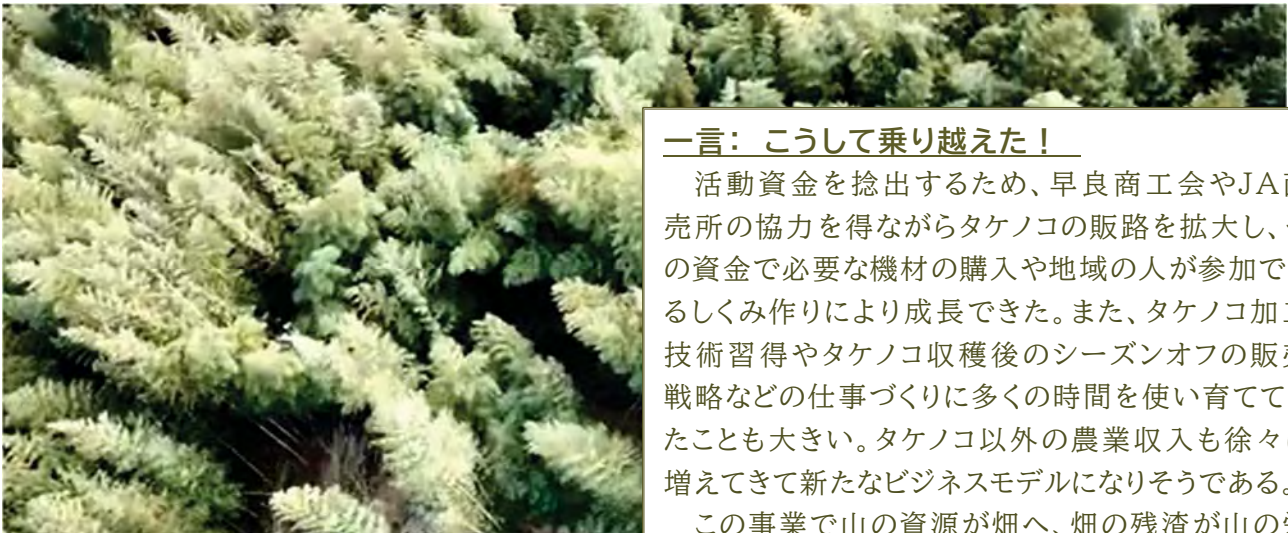
放置され荒廃した竹林が、活動を通じて国産ブランド「飯場たけのこ」の生産地に復活しました。竹林整備で発生した森林資源から様々な商品が生まれ産業化が進み、竹林荒廃の抑制と地域の活性化に貢献できました。

➤ 法人立ち上げによる商品開発と販売促進

タケノコを使った商品開発・販売を手掛ける法人「バンブーさわらの郷合同会社」を立ち上げたことにより、竹林整備で発生した資源を有効活用した様々な商品の開発・販売が促進されました。

活動上の課題、その対応策

- 新たな雇用が可能となるよう、付加価値の高い商品開発や体制づくりに継続して取り組む。
- 同様の市販の商品より割高感があるので、コストを削減して商品の販売価格を抑え、売り上げを増やす方法を検討。



一言：こうして乗り越えた！

活動資金を捻出するため、早良商工会やJA直売所の協力を得ながらタケノコの販路を拡大し、その資金で必要な機材の購入や地域の人に参加できるしくみ作りにより成長できた。また、タケノコ加工技術習得やタケノコ収穫後のシーズンオフの販売戦略などの仕事づくりに多くの時間を使い育ててきたことも大きい。タケノコ以外の農業収入も徐々に増えてきて新たなビジネスモデルになりそうである。

この事業で山の資源が畑へ、畑の残渣が山の栄養になることで地域の農業が持続可能な地域産業になることを目指していきたい。

今後の展望

- 竹林資源の有効活用を目的に、国産タケノコの販売体制構築を視野に入れた近隣農家との連携。
- 地域の特性を活かして、タケノコの生産量を増やして地域の雇用創出につなげる。
- 竹林整備に係り、福岡市水道局との協働による水源林を守る活動などの促進。
- 竹林の保全と活用に加え、地区の安定的な雇用確保を念頭に、竹林整備・タケノコの生える環境づくりを通じて、竹資源の活用モデルを作る。



ホームページでの広報の様子



たけのえん TAKE NO EN

「TAKE NO EN」は、放置された竹林の適正な維持管理に取り組む会員数63名の団体。竹を活用したイベントの開催を行い、その様子を SNS で積極的に発信するなど、地域内外を巻き込んだ活動に力を入れています。

活動地域：長崎県長崎市
TEL: 080-1547-8639
Email: mozuku351laye@gmail.com
<https://www.en-nex.co.jp>



活動の概要

『竹林整備活動を通して拡がるコミュニティ』

「TAKE NO EN」は、放置された竹林の多面的機能の向上と地域の人々に憩いの場を提供するために活動しています。活動開始に向け会員を募ると、様々な専門分野を持つ人々が集まった一方、活動に不可欠な竹林管理に長けた人材が不足していました。そこで、本交付金を活用し、地域協議会の技術支援を受けて竹林管理の技能向上を図りました。

それを後押しに、活動1年目の令和3年度は、枯竹等の伐採・搬出を行い、2年目からは、段階的な間伐や山道の整備、タケノコの採れる竹林の回復などに取り組んでいます。防災の観点から森林整備の必要性について考える機会や、伐採竹を使った門松や竹馬づくり等、地域の人々が地域の資源に目を向けるきっかけを提供するとともに、会員の得意分野を駆使して活動内容を SNS 等で積極的に発信しています。



防災の観点から森林整備の必要性について考える防災講習会



安全講習会

特徴的な取組

▶ 多様な専門分野を持つ会員維持の工夫

地区内外の20代から50代を中心に、1歳から84歳までの幅広い年齢層の会員が「安全にかつ楽しく」取り組めるよう工夫して活動を行っています。「自分にできることをする」をモットーに、得意分野の情報や知恵を持ち寄り、誰もがそれぞれに取り組める場を提供しています。

▶ SNSを使った情報発信

様々な場面で SNS を積極的に活用して活動の充実につなげています。例えば、活動への参加呼びかけなど、広報手段としての活用のほか、安全な活動の実施に向けた検証の方法として、各活動後にメンバー間で「ヒヤリ・ハット」の情報の共有などを行っています。

他の活動組織でもできる工夫点

- SNS 等を通じた活動やイベントの様子の積極的・継続的な情報発信
- マスコミへの発信や取材協力等により、マスコミを活用した広報の展開
- 森林整備の経験が浅い会員に対する技能向上のための講習会等への参加

活動の成果

▶ 活動組織全体の技能力の向上

森林整備経験の浅い会員を対象に、地域協議会である森林ボランティア支援センターが主催する講習会(チェーンソーの安全使用や安全講習会)に参加しています。安全で正しい伐竹や竹林整備の技術を組織全体でレベルアップすることができ、活動の充実に役立っています。

▶ 情報発信による会員の安定的参加の実現

イベントの内容や活動の成果を、SNS等を通じて継続的に発信することで、マスコミ等で多くとりあげてもらい、「安全にかつ楽しく」というプラスの活動イメージが定着しました。それにより、会員の安定的な参加につながっています。



活動の様子が紹介された動画サイト



竹林整備で出た竹やタケノコ、笹は、寄附したり、正月飾り作り(上)や流しそうめん大会(左)等、様々なイベントで活用しています。

活動上の課題、その対応策

- 私有地を借りての活動であるため、相続等による地権者の変更・増加などで対応が複雑化することが課題。
- 私有地を借りての活動であるため、森林整備で経済的な利益を得るのが困難なことが課題。活動資金の確保には、バザーを開催し売り上げの一部を資金に充当。

一言： こうして乗り越えている！

貴重な休日を利用し、他人の山を無償で整備するという活動におけるメンバーのモチベーションを維持するために、イベントの開催などを通して、活動の先に人々の笑顔や感謝があることを実感してもらう。また、整備活動後やそれ以外でのメンバー同士のコミュニケーションを大切にしている。

今後の展望

- 令和4年度には、竹林資源の有効活用を目的に、竹炭パウダーを作り、地元高校生たちと竹炭スイーツ開発・販売に挑戦した。この竹炭やスイーツ作りは障害者事業所が行った。今後も、持続可能な森林整備のため、山の資源活用・販路の確保などについても継続的に検討していく。
- 防災面からも森林整備の必要性を多くの人に伝え、防災意識の向上を図る活動を展開していく。



かみまつやまく 上松山区

「上松山区」は、宇土市上松山区の約 1,000 世帯規模の自治会が組織する地縁団体で、平成5年に発足しました。里山の原風景を取り戻す活動を行う地元の組織「五色山ふれあいの会」と連携し、五色山の保全に取り組んでいます。

活動地域： 熊本県宇土市
TEL: 0964-22-1194
Email: musasi661214@osu.bbq.jp



活動の概要

『安心して楽しく散策できる里山の環境を取り戻す』

上松山区の東に位置する「五色山」は、戦後、化石燃料の利用拡大に伴い、薪などの採取のために山に入る機会が減ったことで、里山の荒廃が進み獣害への懸念が高まりました。こうしたことから、地区の地縁団体「上松山区」は、里山の原風景の回復に取り組む「五色山ふれあいの会」と連携し、五色山の広域的な保全体制を構築することにしま

した。森林の多面的機能が十分に発揮されるかつての里山の環境を取り戻すため、除伐、侵入竹の伐採、枯れ竹の除去といった森林管理を行うほか、人々が安心して楽しく散策できる「木漏れ日」の森づくりを目指して、森林内の光環境や景観の改善、里道の修復・復元等を通じて、有害獣の定着抑制にも役立つような環境づくりに取り組んでいます。

特徴的な取組

➤ 地区全体で活動を支援

「上松山区」は、上松山区に暮らす子育て世代からシルバー世代までの幅広い住民を基本メンバーとする地縁団体です。

森林整備実働部隊として活動の核をなす会員 53 名のほか、地区住民の多くが名を連ねる協賛会員 500 名で五色山を守る取組を支えています。

➤ 宇土市への働きかけ

熊本地震の翌年の平成 29 年、活動地区の多面的な機能の向上に向けて、「五色山総合公園構想」を独自に策定しました。宇土市に対し同構想の推進を提言したところ、五色山グラウンドが市の防災避難場所に指定されることになりました。五色山の自然公園化に向けて、同構想に基づく整備方針(案)を今年度中にとりまとめ、市に提示する予定です。



他の活動組織でもできる工夫点

- 地区内住民の理解を促し、市との連携を模索するため、活動の意義や構想、計画等を明文化
- 地区広報誌「上松山区だより ごしき」(毎月発行)における活動状況・成果等の共有
- 情報発信ツールとしてホームページを開設(令和2年)し「上松山区月報」(バックナンバーも閲覧可)や地区活動報告(動画含む)等を掲載

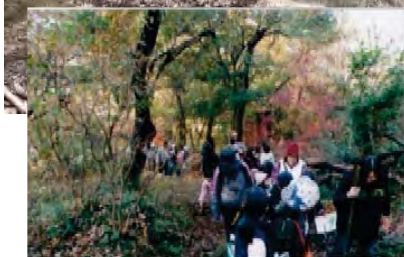
活動の成果

▶ 人々が楽しめる里山環境の保全・回復

遊歩道の整備や維持管理作業、林内の中高木の除伐等を行ったことで、木漏れ日の中、五色山の里山景観を安全に楽しく散策してもらえる環境が整いました。また活動を通じて、五色山山頂付近の展望が確保されたことも、来訪者誘致の大きな要素となっています。



みはらしが丘からの眺望



「木漏れ日」の森の里道と散策を楽しむ人々

▶ 獣害の抑制

鬱蒼とした林床の除伐、イノシシ侵入防止柵の設置が功を奏し、イノシシ等の出現が減り、有害鳥獣の定着が抑制できました。

活動上の課題、その対応策

- 計画的、効率的に事業を推進するために、①毎月1回役員会（推進委員会：委員10名）を開催し実施状況・課題・今後の計画を協議し、②事業の予算執行年間計画をメニュー別に作成し執行状況点検調整し、③始業前の集合写真撮影後、当日の作業説明と作業の危険防止について注意喚起を行った。
- 区民の協力と支援体制を構築するために、区民との共通認識を深める目的で、①事業の実施状況を区の広報誌（毎月1回全世帯配布）にほぼ毎回掲載し、②週3回の定例作業日には有線放送で作業参加を呼び掛け、③五色山の「自然公園構想と整備方針」を策定し全世帯に配布予定。

一言： こうして乗り越えている！

迷ったら一步前進。やってみらんと分からん。どがんしょうか、て尻込みしとつてもなんも変わらんけんです。一步踏み出すと道が開けるかもしれない。そういう気持ちで日々活動しています。



上松山区だより「ごしき」の五色山保全活動報告

今後の展望

- 会員の高齢化による活動上の制約を補完し、活動の継続を可能にするため、令和5年度より上松山区住民を主体とする「上松山区里山保全隊」を新たに結成。
- 若い世代の理解・参画を促すため、地区広報誌やホームページ等を活用し活動の発信をさらに充実。
- 散策路の整備・維持管理を通じて、市内の小中学校に安心・安全な遠足や環境教育の場を提供。

Memo

Memo

令和4年度

森林・山村多面的機能発揮対策交付金 活動事例集

発行 林野庁

作成 公益財団法人 日本生態系協会

令和4年度森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業

スキルアップ研修

～森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業に係るモニタリング調査～

令和4年度9月14日

(公財) 日本生態系協会 松浦 重徳

1

モニタリング調査について

当事業では、活動組織に対して活動計画書に「活動の目標」と「モニタリング調査方法」を記載するとともに、モニタリング調査を実施し、交付金による活動の成果を自己評価し、毎年、目標達成度を「数値」で示して報告することを義務づけています。

■モニタリング調査の目的

本交付金を活用した活動が、森林の状態の改善に寄与し、多面的機能発揮の向上につながっているかを、数値に基づいて説明できるようにします。

■なぜ調査が必要？

国費による交付金の活動が、森林の多面的機能を発揮する上で効果的であることを示す必要があります。
「交付金を活用して、森林の状態がよくなりました」などでは、具体的な成果が見えません。

モニタリング調査結果は政策評価にも活用されており、活動の成果を数値で示すことで、事業成果の客観性を対外的にも示しています。

対象森林の現状と課題を知ること、整備計画が作成でき、効果的な活動につながるとともに、必要に応じた計画の見直し（改善）が可能になります。

活動組織、地域協議会ともアドバイザーをご活用ください。



2

モニタリング調査について

モニタリング調査を実施することで、PDCAサイクルの考え方に沿って、活動を進めていくことができます。

計画（Plan）、成果確認（Check）段階において地域協議会にご確認いただき、活動組織が、適正な活動実施（Do）、計画の見直し（Action）をできるよう、ご指導をお願いします。



これにより対象森林の課題を把握した上で、効果的に活動を行い、対象森林の状態を「継続的に改善」していくことができるようになります。



モニタリング調査の実施・報告の流れ

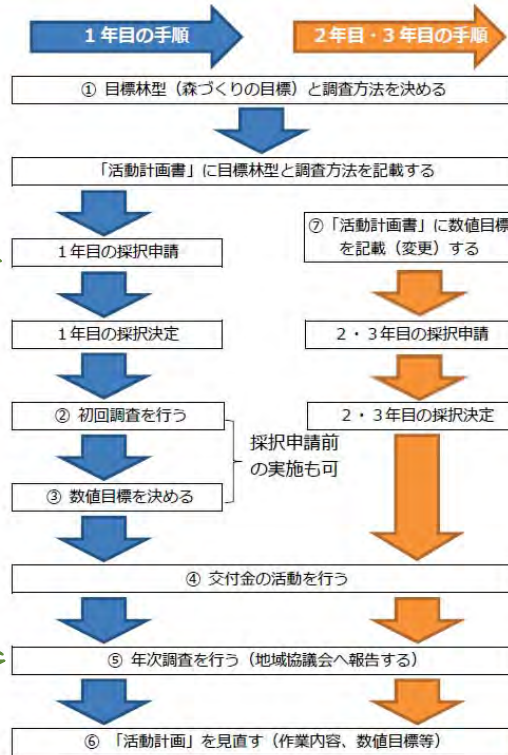
初回調査の結果を踏まえ、交付金の活動期間（原則3年間）の終了時に達成すべき数値目標を設定

- ✓ 目標林型が適切か、施業が適切か
- ✓ 施業結果が直接反映され、定量的な数値が得られる調査方法であるか

- ✓ 数値目標の設定は適切か
- ✓ 安全面など勘案し、無理のない数値目標が設定されているか
- ✓ 調査結果は妥当な数字か

年次調査の結果に基づいて必要に応じ数値目標やモニタリング方法の変更が可能

- ✓ 数値目標や調査方法の見直しは必要ないか



2年目の採択申請では、活動計画書に数値目標を記載する

- ✓ 数値目標の設定は適切か
- ✓ 数値目標や調査方法の見直しは必要ないか
- ✓ 施業内容の見直しは必要ないか

2,3年目の活動の終わりに年次調査を行い、モニタリング結果報告書を提出⇒達成率記載

- ✓ モニタリング結果報告書への記載が適切に行われているか

モニタリング調査の流れ

1 森づくりの目標と調査方法を決めよう

どのような森林の姿(目標林型)を目指すかを定める

目標林型と活動内容に応じて、モニタリング調査の方法を決める

「活動計画書」に目標林型とモニタリング調査の方法を記載

✓ 目標林型が適切か、そのための施業が適切かをチェックします。

目標林型の例

スギ・ヒノキの大径材生産林の整備・利用、広葉樹の森の整備・景観改善、生物多様性に富む森づくり、針広混交の複層林化、タケノコの採れる美しい竹林づくり、竹の侵入の防止など



スギ・ヒノキの大径材生産林づくりを目指す

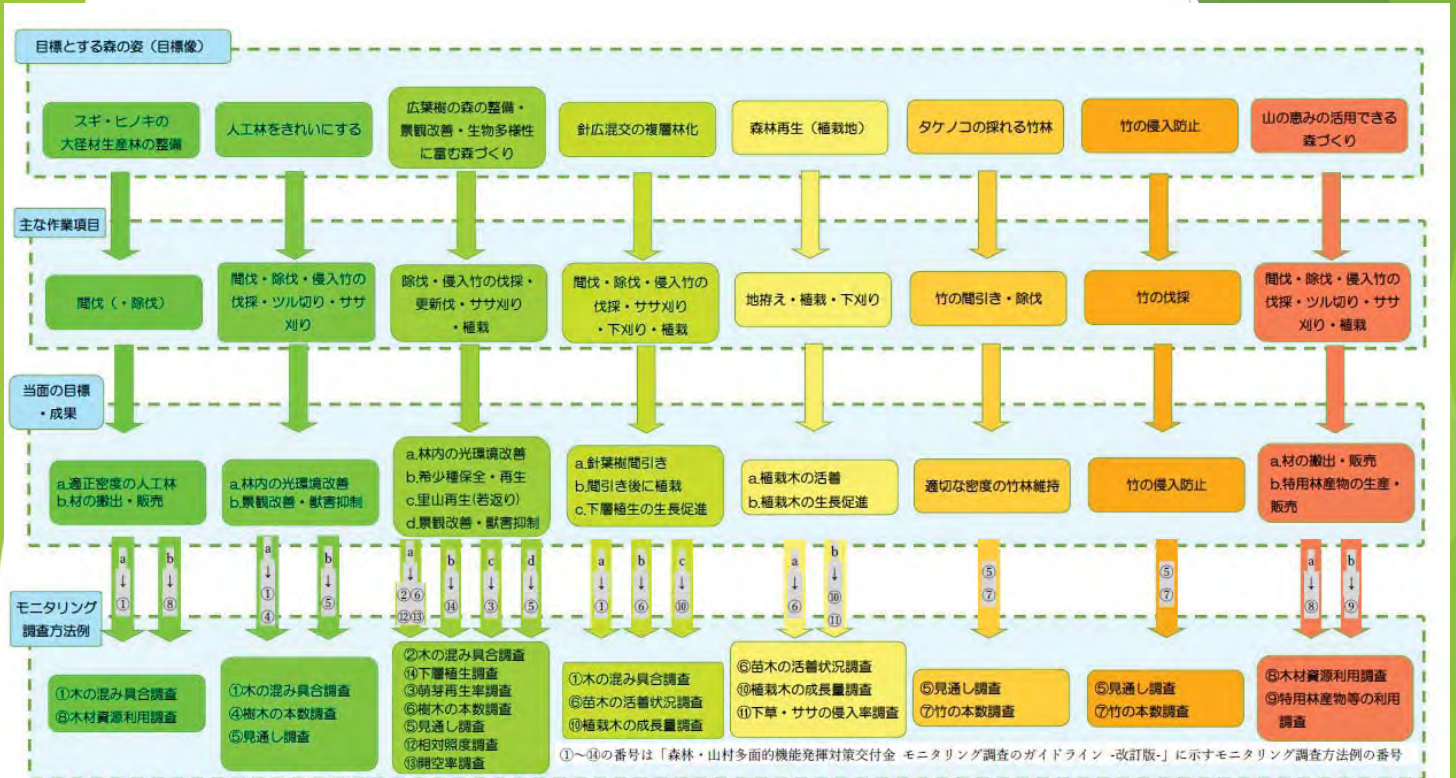


生物多様性に富む森づくり

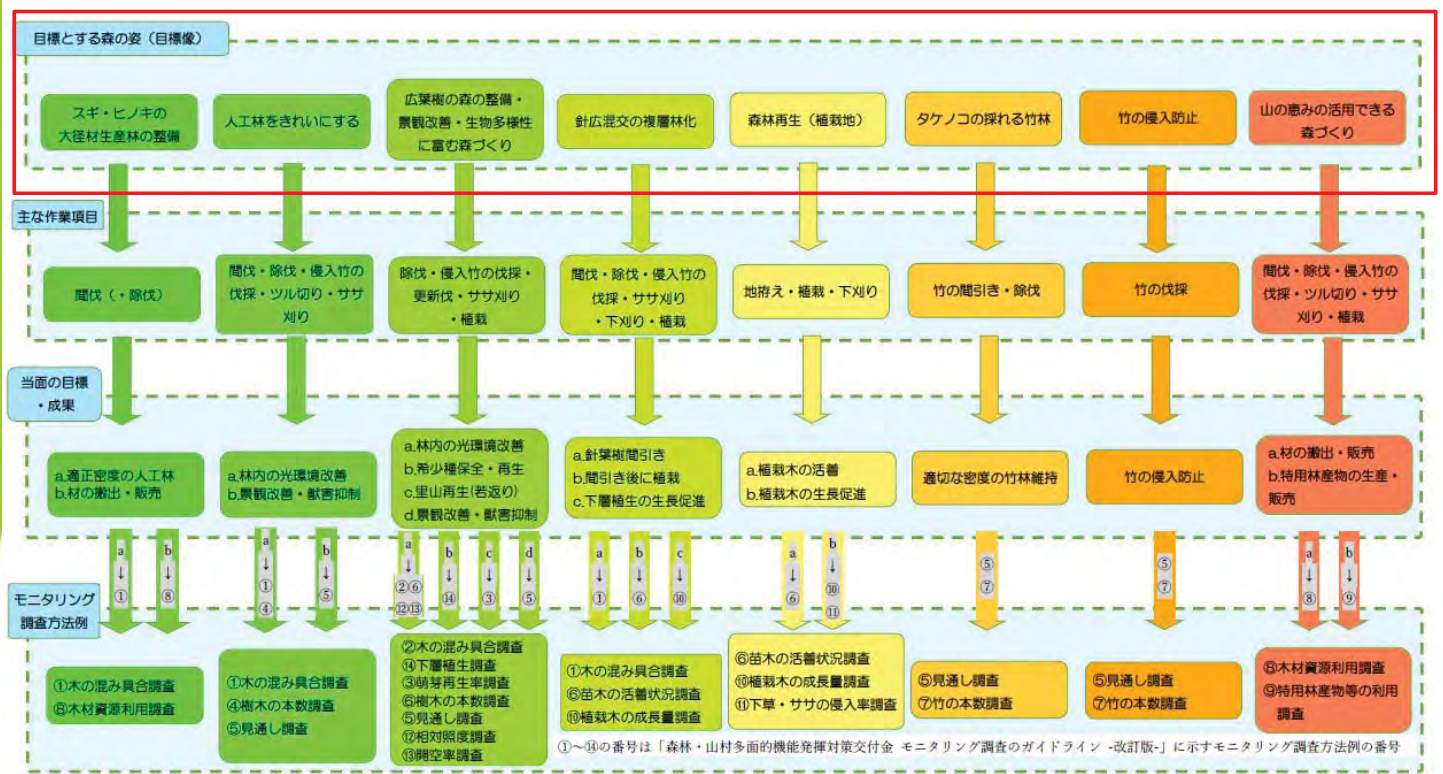


竹の侵入の防止

モニタリングの調査方法・調査項目の例【ガイドラインp76】



モニタリングの調査方法・調査項目の例【ガイドラインp76】



目標とする森の姿（目標像）の例

1. スギ・ヒノキの大径材生産林の整備

2. 人工林をきれいにする

3. 広葉樹の森の整備・景観改善・生物多様性に富む森づくり

4. 針広混交の複層林化

5. 森林再生（植栽地）

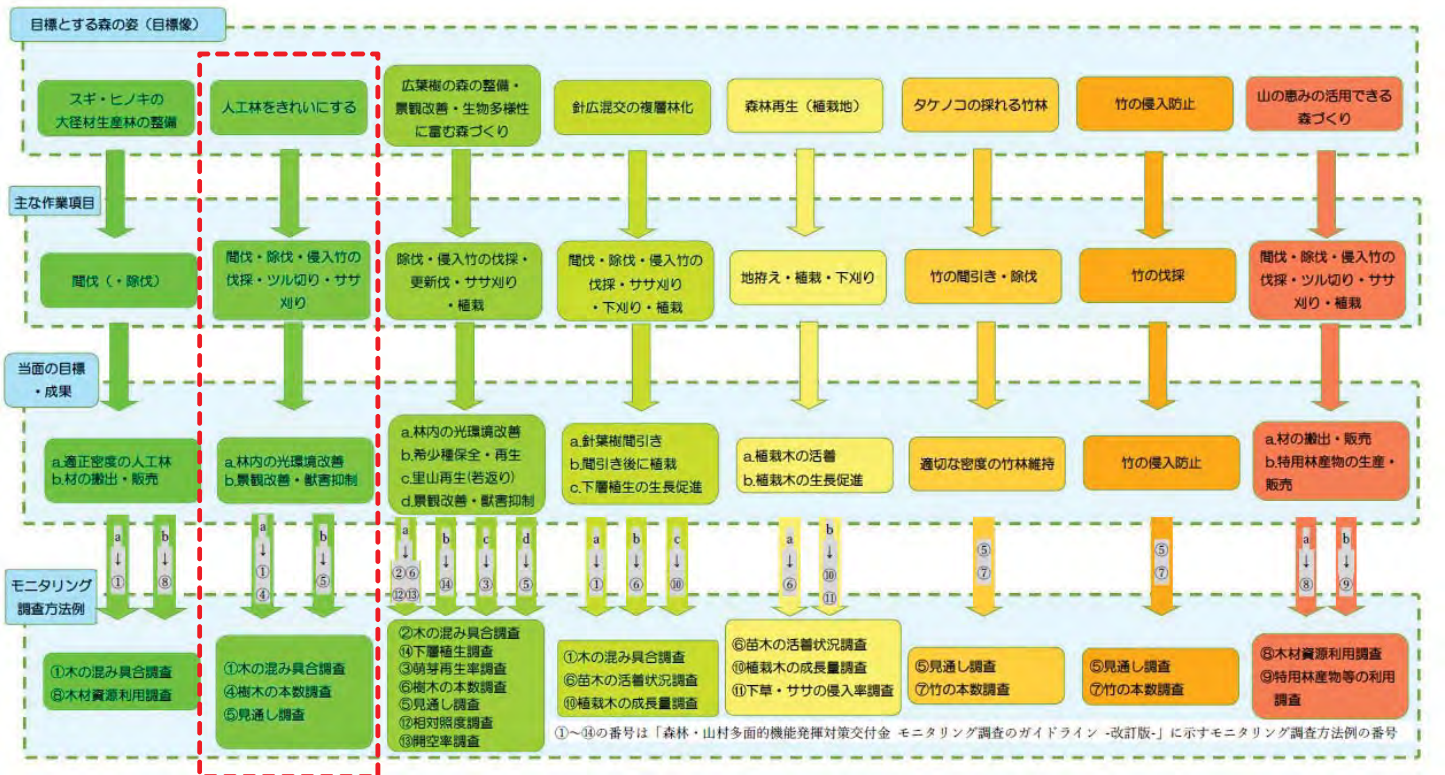
6. タケノコの採れる竹林

7. 竹の侵入防止

8. 山の恵みの活用できる森づくり

ここに示している8つは、あくまで例示です。目標とする森の状態は、活動組織によって様々あるので、上記のどれかに当てはめる必要はありません。

モニタリングの調査方法・調査項目の例【ガイドラインp76】



2. 人工林をきれいにする

主な作業項目：間伐・除伐・侵入竹の伐採・ツル切り・ササ刈り

当面の改善内容・目標など

林内の光環境の改善

景観改善・獣害抑制

樹木の本数調査

木の混み具合調査

見通し調査

立木本数

相対幹距比
間伐率

林縁部からの
見通し距離

モニタリング方法と調査項目 (例)

モニタリングの調査方法を決める上での手順と留意点（まとめ）

1. 森づくりの目標を明確にする
2. 目標達成に向けて必要な作業(活動)を決める
3. 当面の目標・成果をなににするかを決める
 - ・ 上記について、適宜活動メンバーと共有する
 - ・ 調査を目的化しない（活動の成果等をメンバー間で共有できる！）

調査方法の決定

独自の調査方法【ガイドラインp57～】

- ◆ ガイドラインで紹介した調査方法では、目指す森づくりやその成果を適切に反映できない場合があります。
- ◆ もし、目指す森づくりの実現に向けた進捗状況を確認するために、より良い調査方法（及び数値目標）がありましたら、活動の成果を確認するための調査方法を提案してください。
 - ✓ 独自の調査方法の場合も、必ず、数値に基づいて、森林の改善成果を測ることができるものにしてください。

11

モニタリングの調査方法を決める上での手順と留意点（まとめ）

■ 調査方法を決める上での留意点

「活動報告書に記載する調査方法は」、作業結果が直接反映され定量的な数値が得られる方法（内容）としましょう。

例 目標林型：カタクリの咲く里山を取り戻そう！			ガイドラインp6
作業内容：除伐や抜き切りによる林内の明るさの改善			
△ 他律的で予測困難な調査方法	○ 間接的に予測可能な調査方法	◎ 自律的で予測可能な調査方法	
開花個体数調査	相対照度調査	木の混み具合調査	

✓ 調査方法が適切かをチェックします。

【例】

コナラ・クヌギの老齢木を伐採して里山林の更新をする

【数値目標例】
伐採木の翌年度の萌芽再生率を50%とする

外来種を刈り取り、在来種を植栽して、雑木林を再生する

【数値目標例】
苗木(植栽木)の翌年度の活着率を50%とする

- ・ 萌芽・苗木が食害を受ける可能性？
- ・ 老齢木が萌芽を出さない可能性？
- ・ 成果がでるのに少し時間要する可能性？

予定通りの作業は100%完了しているのに、数値目標が未達となってしまう可能性

12

2 初回調査をしよう

初回調査は交付金の活動を開始する前の対象森林の現状を把握するために行います。通常は1年目の採択を受けた後に実施します。

調査場所は？

活動対象地となる森林において、標準的といえる場所に設ける。同じ林相(同じ目標)の活動対象地内の、最低1か所に設ける。



対象森林の現状把握



調査区の設定

3 数値目標を決めよう

初回調査の結果を踏まえ、交付金の活動期間(原則3年間)の終了時に達成すべき数値目標を決めてください。

ポイント

森林の状態がどのように改善できたのかを示す

1年目や2年目に達成できなくても構いません。

地域の事情、森づくりの目標などを踏まえ、活動組織で決める

数値目標の変更が必要な場合は地域協議会にご相談ください

✓ 安全を最優先に無理のない数値目標を！！

モニタリング調査の流れ

4 年次調査について

毎年度の活動による成果を確認するために行います。



ポイント

原則として初回調査とは別に実施

原則として初回調査と同じ場所、同じ方法で実施

交付金の活動期間、毎年度、交付金の活動の終了後に実施
(交付金の1年目は初回調査及び年次調査の2回の調査を実施)

調査上の必要から、年次調査を年度内に実施できない場合は、翌年度の実施可能な時期に調査を行い、速やかに地域協議会へ報告してください。

15

モニタリング調査の流れ

5 活動計画・数値目標の見直しをしよう

年次調査の結果に基づいて、必要な場合は次年度の改善策を活動計画に反映してください。



- ✓ 地域協議会にて、調査結果や数値目標が適正かのチェックを行います。
- ✓ 必要があれば、測りなおしや数値目標の修正の指導が必要です。

数値目標を見直す場合の例【ガイドラインP9～】

- 活動計画量・内容に無理があった（無理な計画は事故の元。余裕をもった計画に）
- 気象害等のために、3年後に目標達成が見込めない
- 鳥獣による被害が予想外に大きい
- 病害虫による立ち枯れ発生

16

調査方法の例

- ①木の混み具合調査（相対幹距比調査）
- ②木の混み具合調査（胸高断面積調査）
- ⑤見通し調査
- ⑧木材資源利用調査

※番号は、モニタリングガイドラインの調査方法に記載されている番号

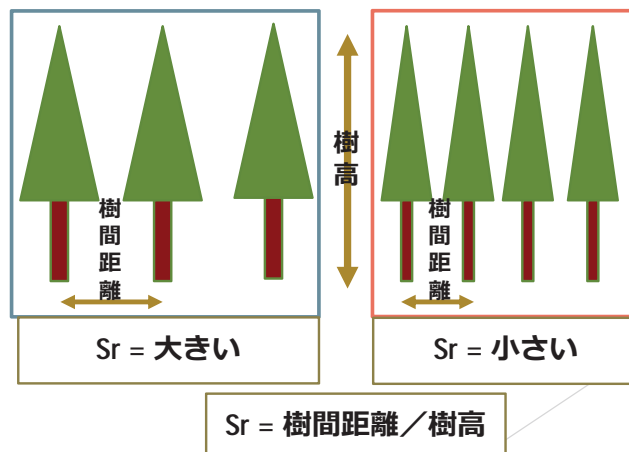
①木の混み具合調査（相対幹距比）【ガイドラインP25～】

【調査のねらい】

- ▶ 木の混み具合を数値化することで、その森林において間伐が必要か、どの程度必要かなどを調べます。（主に針葉樹人工林などの間伐に適した調査）

【相対幹距比(Sr)とは】

- ▶ 上層木の平均樹高に対する樹木間の平均距離の割合で、混み具合を表す指標。



①木の混み具合調査（相対幹距比）【ガイドラインP25～】

【調査の方法】

1. 対象地の代表的な場所で調査区100㎡(標準地)をとる
 2. 調査区の代表的な上層木の樹高を1本測る
 3. 調査区内の木の本数を数える
- ⇒調査区の面積、樹高、本数から相対幹距比Srを算出

【相対幹距比(Sr)の特徴】

- ▶ 樹高と本数を測ればわかるので比較的簡単
 - ▶ 数値目標を決めやすい
 - ▶ 作業（間伐）後の効果も間伐した本数から算出
 - ✓ 木の混み具合は「間伐率」を計算して、数値目標を決める方法もあります。
- 間伐率 = (調査区内の間伐本数) / (調査区内の立木本数)



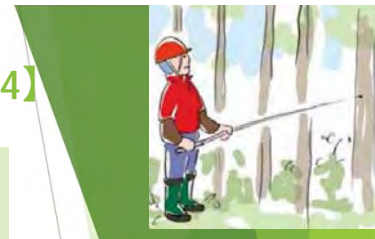
19

①木の混み具合調査（相対幹距比）【ガイドラインP17～、P64】

【人工林での目標設定（例）】

<スギ人工林、樹高16m、立木本数23本/100㎡の場合>

- ▶ この場合、相対幹距比は13となります。適当とされている相対幹距比（17～20）を目指す場合（右図の例では17.3）、立木本数を23本/100㎡から13本/100㎡に減らす必要があります。
- ▶ しかしこれだと、間伐率が40%強と強度であり、風雪害に弱い状態になる可能性があります。そのため、10～15年おきに複数回に分けて間伐し目標林型に近づけていきます。
- ▶ 一般的には風雪害を避けるため、本数の20～30%以内の伐採に留めます。✓ 過剰伐採でないかチェックを
- ▶ そのため本ケースの間伐は、30%の間伐とし、7本伐採し、16本/100㎡にとどめます。（23本×30%=7本伐）



相対幹距比 (Sr) 早見表

調査区面積 100 m ²	樹高	
	16	17
9	20.8	19.6
10	19.8	18.6
11	18.8	17.7
12	18.0	17.0
13	17.3	16.3
14	16.7	15.7
15	16.1	15.2
16	15.6	14.7
17	15.2	14.3
18	14.7	13.9
19	14.3	13.5
20	14.0	13.2
21	13.6	12.8
22	13.3	12.5
23	13.0	12.3
24	12.8	12.0

20

②木の混み具合調査（胸高断面積）【ガイドラインP27～】

【調査のねらい】

- ▶ 木の混み具合を数値化し、その森林の間伐・除伐の方法を検討します。
（主に、広葉樹を中心とした森林での活動に適した調査）



【調査の方法】

1. 対象地の代表的な場所で調査区100㎡(標準地)をとる
2. 調査区の胸高直径5cm以上の全ての樹木の胸高直径測定
⇒胸高直径から胸高断面積を算出(測定樹木全ての合計面積)

【胸高断面積調査の特徴】

- ▶ 樹種・樹高などが多様な森でも適応できる
- ▶ 測定対象木が多くなる半面、調査自体は比較的単純
- ▶ 数値目標を決めやすい

21

②木の混み具合調査（胸高断面積）【ガイドラインP27～】

【胸高断面積測定での目標設定（例）】

- ▶ 数値目標を決める際には、胸高断面積合計を何割減らすのかを決めると良いでしょう。
- ▶ 最大伐採量(数値目標)は、基本的に全体の胸高断面積の2～3割未満を目安に設定してください。✓ 過剰伐採でないかチェックを
- ▶ 目標に近い林相の胸高断面積合計を測ったり、研究例（ガイドラインP29）などから目標数値を得ることも出来ます。
- ▶ 胸高断面積合計は相対照度と密接に関係しているため、林内の明るさの目安となります。



22

⑤見通し調査【ガイドラインP32～】

【調査のねらい】

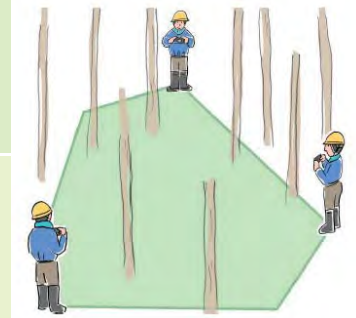
- ▶ 灌木やササ等が密集した森林の見通しや景観の改善などを目的とした森林管理の成果を把握します。（初回調査時に草本や灌木本数把握が難しい森林での活動にも適した調査）

【調査の方法】

1. 対象森林の林縁部に定点調査地点を3か所以上設置
2. 各調査地点から森林中央部に向かい視認できる(ポールに見える)距離を計測するとともに、ポールもった人の写真撮影
※ 定点調査は複数の定点(3方向以上)で実施

【見通し調査の特徴】

- ▶ 他の調査と比べ、調査自体簡易
- ▶ 獣害対策、不法投棄対策といった林内の景観改善などを目的とした活動成果の数値化に適する



23

⑤見通し調査【ガイドラインP32～】

【見通し調査での目標設定（例）】

- ▶ クマ・イノシシなどとの予期せぬ遭遇を防ぐため、林縁部から5m見渡せるようにする、といった設定が考えられます。
- ▶ 林内の見通し改善や生物多様性の向上などを目的に、林内に侵入しているササの刈払いや、林内の灌木などを除伐する作業を行う場合、林内で人の顔が認識できる程度の距離(30m)として、これを数値目標として設定することも考えられます。
 - ✓ 視認できる距離は、調査を行う季節、時間、天候等の影響を大きく受けるので、これらの条件を可能な限り一致させてください。



24

⑧木材資源利用調査【ガイドラインP36～】

【調査のねらい】

- ▶ 伐採した木材を搬出して、利活用する場合の利用可能量を把握し、持続的な森林管理を行うために、搬出量を調べます。

【調査の方法】

1. 対象地の代表的な場所で調査区100㎡(標準地)をとる
2. 調査区内において交付金活動期間(原則3年間)での伐採木を確認し、樹高・胸高直径を測定し、立木幹材積の推定値を求め、調査区の資源量を把握
3. 対象森林全体から搬出量を把握
資源量×伐採率×搬出率×歩留まり⇒搬出量 = 目標値

25

⑧木材資源利用調査【ガイドラインP36～】

【木材資源利用調査での目標設定について】

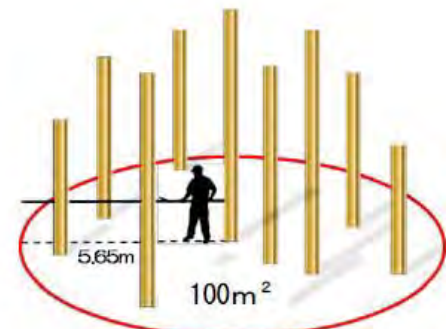
- ▶ 立木幹材積は胸高直径や樹高が同じでも、樹種や地域によって異なるため、地域ごとに作られている立木幹材積表で調べます。
- ▶ 目標設定に際し、対象地の資源量を踏まえて、過剰利用にならないように配慮します。
 - ✓ そのままのプロット調査による資源量や、間伐率、搬出率、歩留まりなどが妥当であるかチェックを
- ▶ 皆伐などの過剰な伐採は、森林の持つ水源涵養、生物多様性保全、災害防止といった機能を大きく低下させることが考えられますので注意が必要です。
 - ✓ 間伐して資源利用するのであれば、最大間伐量でみた場合、全体の2～3割程度がひとつの目安となります。
(伐採量≠搬出量 = 目標値 であることに注意)

26

調査区・調査場所について【ガイドラインP51～】

【設置する場所】

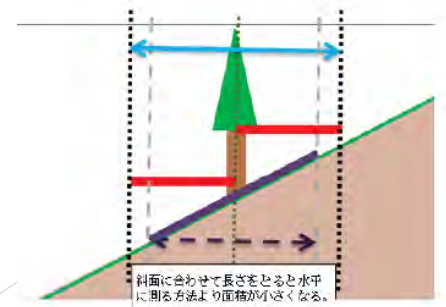
- 対象地全体を見て平均的なところ
- 調査の行いやすさや経過観察のしやすさなどにも留意



100m²の円形調査区を設定する場合

【調査区の設定（円形プロットの場合）】

1. 中心の位置（中心木）を決める
2. 中心に立ち、測竿ポール・釣り竿(5.62m)で円を描く
3. 竿を水平にして、竿が当たる木の本数を数える



傾斜地での面積のとり方

27

モニタリング結果報告書への記載上の注意事項（1）【ガイドラインp62～】

(様式第18号)

令和〇年度 モニタリング結果報告書

1 活動の目標等

タイプ名: 地域環境保全タイプ
目標: 針葉樹が混みあい暗い森を広葉樹がパッチ上に広がる針広混交林を育成するため、針葉樹を伐採しエノキやクマギなどの植樹を行い、多様な生物が生息する森づくりを目指す。 (数値目標) 相対幹距比 16.3
モニタリング調査方法: 相対幹距比

2 活動実施前の標準地の状況(〇年度)

標準地の状況を記載	調査区(100m ²)におけるスギ・ヒノキの本数 18本	写真
	平均樹高 17m 相対幹距比 13.9 調査日時: 令和2年6月15日 別添、野帳参照	

3 活動計画1年目の標準地の状況(〇年度)

標準地の状況を記載	調査区のスギ・ヒノキの本数 16本 相対幹距比 14.7 調査日時: 令和3年2月15日	写真
目標達成度	33.3%	
次年度に向けた改善策	引き続き、残りの対象木の伐採を行う。	

【1. 活動の目標等】

- ◆ 「活動の目標」には目標林型とともに必ず数値目標も記載
- ◆ 数値目標は3年後のものを記載
- ◆ 記載されている数値が、単位当たりのものか、対象地全体のものかなど明確に記載

【2. 活動実施前の標準地の状況】

- ◆ 林相とともに初回調査の数値結果を記載
- ◆ 活動後の成果を定量的に示す根拠となるよう、活動前の状況をできる限り具体的に記載

【3. 活動計画1年目の標準地の状況】

- ◆ 「標準地の状況を記載」には目標達成度の数値の根拠がわかるように記載
- ◆ 「目標達成度」は数値目標と照らし、定量的に記載

28

モニタリング結果報告書への記載上の注意事項（2）【ガイドラインp62～】

4 活動計画2年目の標準地の状況(○年度)

標準地の状況を記載	調査区のスギ・ヒノキの本数 14 本 相対幹距比 15.7 調査日時:令和 4年 2月 10日
目標達成度	75.0%
次年度に向けた改善策	引き続き、残りの対象木の伐採を行う。

写真



【4. 活動計画 2 年目の標準地の状況】

- ◆ 2 年目の活動が終了し、年次調査を終了した後、その結果を記入

5 活動計画3年目の標準地の状況(○年度)

標準地の状況を記載	
目標達成度	
次年度に向けた改善策	

写真

【5. 活動計画 3 年目の標準地の状況】

- ◆ 3 年目の活動が終了し、年次調査を終了した後、その結果を記入

29

モニタリング調査（まとめ1）

■モニタリング調査の目的

本交付金を活用した活動が、森林の状態の改善に寄与し、多面的機能発揮の向上につながっているかを、数値に基づいて説明できるようにします。

■モニタリング調査の意義

- 本交付金を活用した活動により、森林の状態がどのように変化したかを科学的（客観的）に検証し、次年度以降の活動（計画）に活かすことができます。
- 対象森林の課題を把握した上で、効果的に活動を行い、対象森林の状態を「継続的に改善」していくことができるようになります。
- 活動の成果（経過）をメンバー間でも共有できます。

30

モニタリング調査（まとめ2）

計画（Plan）、成果確認（Check）段階において地域協議会にご確認いただき、活動組織が、適正な活動実施（Do）計画の見直し（Action）できるよう、ご指導をお願いします。

■モニタリング調査に係るチェック項目

- ✓ 目標林型が適切か。そのための施業(作業)が適切か
- ✓ 施業(作業)結果が直接反映され、定量的な数値が得られる調査方法であるか
- ✓ 数値目標の設定は適切か
- ✓ 無理のない数値目標が設定されているか
- ✓ モニタリング調査が適切に行われているか
- ✓ 調査結果は妥当な数字か
- ✓ （2年目以降）数値目標や調査方法の見直しは必要ないか
- ✓ モニタリング結果報告書への記載が適切に行われているか

- アドバイザーをご活用ください
- スキルアップ研修や現地検討会でもフォローしていきます

[開催日] 9月14日(水) 午後

研修プログラム1 ワークショップ(交付申請段階の事務について)

テーマ	交付金の採択に係る事務手続きについて
	・採択審査における失敗談やお困り事、申請団体からのよくある問合せなど
	・審査に関する独自の仕組みや工夫点など
	・審査に際して重視すべき視点、申請団体に確認が必要な項目など

[開催日] 9月15日(木) 午後

研修プログラム2 ワークショップ (モニタリングの調査方法について)

<事前未送付。時間が余った場合に使用します。>

テーマ	モニタリング調査方法について
・モニタリング調査にまつわる日頃の悩みや課題	
・上記の課題解決のヒントや対応策など	

研修プログラム3 ワークショップ（実施状況報告の事務について）

テーマ	交付金の実施状況報告に係る事務手続きについて
	・ 受理審査においての失敗談やお困り事、活動組織からのよくある問合せなど
	・ 審査に関する独自の仕組みや工夫点やなど
	・ 審査に際して重視すべき視点、活動組織に確認が必要な項目など

研修プログラム4 ワークショップ（関係人口とのマッチング促進）

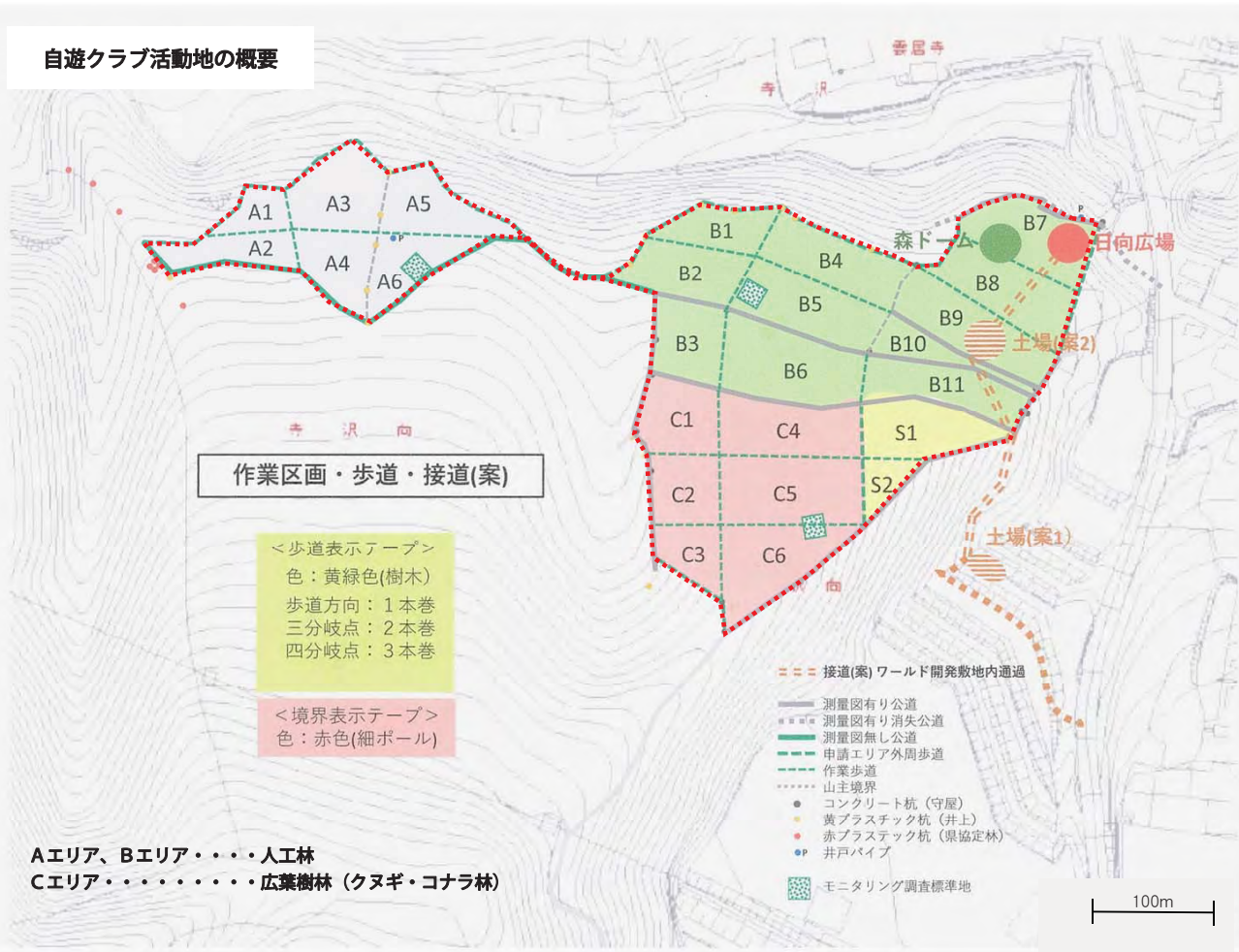
テーマ	マッチングの意義、想定される内容
	・貴協議会において、今後想定されているマッチング促進策（イベント含む）のテーマや内容、対象（連携する団体や層など）
	・マッチング促進策の企画・実施に係る課題（と解決策）
	・マッチング促進に向けたアイデア（イベント以外も含む）など

Step 1	<p>目標林型</p> <p>こんな森にしたい！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年でなく長期的な目標林型を ・必要なら長期的な数値目標も
Step 2	<p>初回調査結果</p>
Step 3	<p>数値目標</p>

Step 4	1年目	2年目	3年目
作業内容			
森林の状況			
	(1年目終了時の想定)	(2年目終了時の想定)	(3年目終了時の想定)

留意事項など

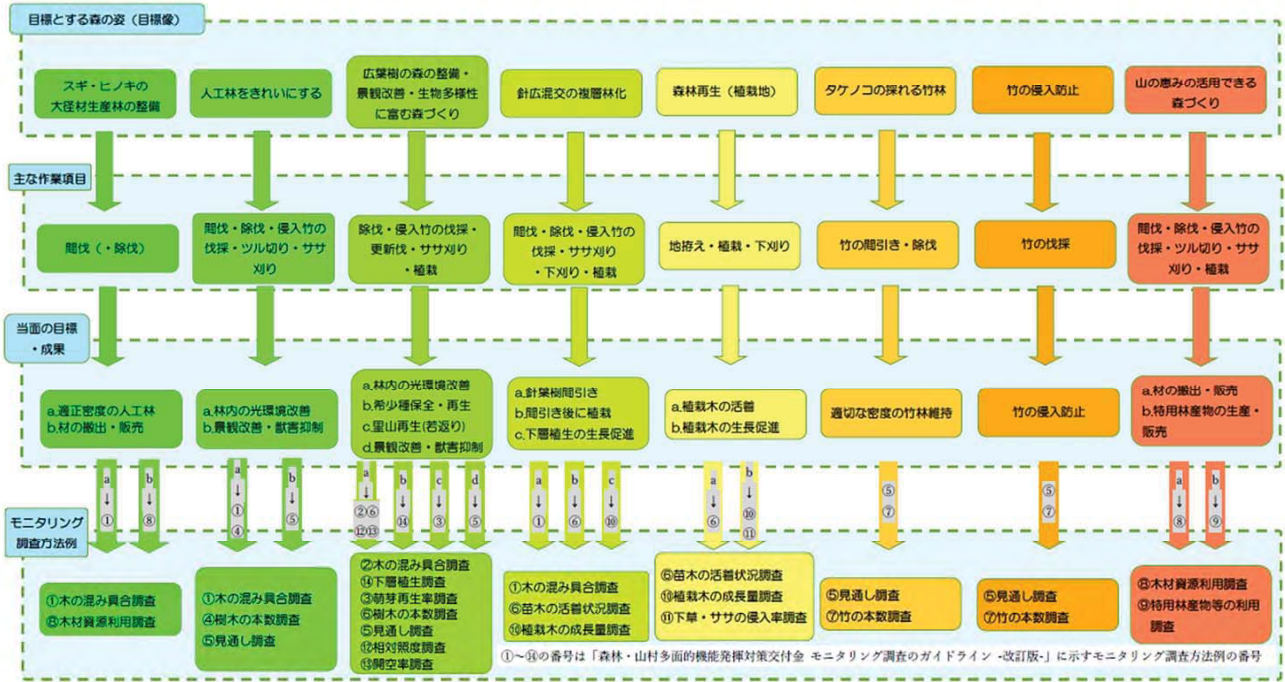
自遊クラブ活動地の概要



モニタリング調査に係るフローチャート

目標とする森の姿に係る主な作業項目・当面の目標とモニタリング調査方法例

モニタリング調査は、それぞれの活動組織が行っている森づくりや森林整備の進捗状況および目標達成度を数値的に把握することを旨とする。それぞれの目標とする森の姿から「森林・山村多面的機能発揮対策交付金 モニタリング調査のガイドライン-改訂版-」(以下「モニタリング調査のガイドライン」)で紹介しているモニタリング調査方法を選択できるように、主な作業項目・当面の目標と合わせて、フローチャートに示しました。「モニタリング調査のガイドライン」から調査方法を選択する際の参考としてください。



とちぎ里山塾プログラム

令和4年度 とちぎ里山塾 プログラム

	開催日時	研修内容	研修場所
1	令和4年8月29日(月) 10:00~14:00	◆開講式 ◆講座 「里山林の成り立ちと管理・利用」 宇都宮大学 農学部森林科学科 大久保 達弘教授 ◆体験 「里山林の紹介」(皆川城の歴史・自然散策) 特定非営利活動法人 みながわ 理事長 太田 勲夫	栃木市 皆川公民館 皆川城址公園 (栃木市皆川城内699)
2	令和4年9月21日(水) 10:00~15:00	◆講座 「安全な里山作業(刈払機)」 ◆体験 「安全な里山作業(刈払機)」	
3	令和4年10月12日(水) 10:00~15:00	◆講座 「安全な里山作業(チェーンソー)」 ◆体験 「安全な里山作業(チェーンソー)」	
4	令和4年11月9日(水) 10:00~15:00	◆体験 「広葉樹の伐採、チェーンソーのメンテナンス」	
5	令和4年11月30日(水) 10:00~15:00	◆講座 「竹林の利活用」 ◆体験 「竹林整備、竹工作」 栃ワカヤマファーム 代表取締役 若山 太郎	宇都宮市 若竹の杜 若山農場 (宇都宮市宝木本町2018)
6	令和4年12月15日(木) 10:00~15:00	◆体験 「炭焼き体験 窯出しなど」 片岡林業 代表取締役 片岡 信夫 ◆講座 「里山林と人間が共生する持続可能な社会に向けて」 宇都宮大学 地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科 高橋 俊守教授 ◆閉講式	市貝町 炭焼き作業地 (市貝町石下701) 市貝町役場 (市貝町大字市塙1280)

※現地集合・現地解散となります。 ※内容等が変更となる場合があります。
※里山塾では、作業機械(刈払機・チェーンソー)資格を取ることはできません。

とちぎ里山塾 開催状況



多面交付金 説明会開催状況



とちぎ森づくりサポーター会員 募集中

栃木県では、身近な里山林などの森林を守り育てるために、自主的に森づくり活動に参加いただけるボランティア会員（森づくりサポーター）を募集しています。森づくりサポーター会員に登録いただいた方には、ボランティアを必要としている活動主催者（受け入れ団体）の森づくり活動の情報案内をするほか、活動のマッチングなどを行います。

- 【申込方法】 「とちぎ森づくりサポーター会員申込書」を事務局まで提出してください。
- 【会員資格】 とちぎの森林、森づくりに興味のある方で、ボランティア活動に理解のある18歳以上の方（18歳未満の方はご家族と共に申し込みください。）
- 【会費等】 無料（参加する活動によって参加費がかかる場合があります。）
- 【活動内容】 下草刈り、樹木の伐採、植栽、落ち葉さらい等
- 【登録期間】 2年間（初回登録は、登録日の翌年度末まで）

※とちぎ森づくりサポーター会員として登録いただいた情報は、森づくり活動のため、受け入れ団体及び受け入れ団体が所在する市町に提供することがあります。

森づくり活動を実施したい活動主催者 募集中

とちぎ森づくりサポーターの方々と一緒に森づくり活動を実施する活動主催者（受け入れ団体）を募集します。身近な里山林整備などの森林整備に、とちぎ森づくりサポーターを活用してみませんか。

- 【申込方法】 「とちぎ森づくりサポーター活動要請書」を事務局まで提出してください。
- 【対象となる活動】 栃木県内で実施する下草刈り、樹木の伐採、植栽、落ち葉さらい等
- 【活動後の報告】 活動後、「とちぎ森づくりサポーター活動報告書」を事務局まで提出してください。
- 【活動の注意点】 活動にあたっては、活動主催者（受け入れ団体）の責任のもとに行ってください。

※各種様式は「とちぎの元気な森づくりレポートサイト」からダウンロードできます。

とちぎ森づくりサポーター会員制度



問い合わせ先

とちぎ森づくりサポーター会員制度 事務局

公益社団法人
とちぎ環境・みどり推進機構

〒321-0974 栃木県宇都宮市竹林町 1030-2
TEL 028-643-6801 FAX 028-643-6802
<https://t-kms.sakura.ne.jp/moridukuri/index.html>
E-mail: tochi-green@t-kms.sakura.ne.jp



とちぎ森づくりレポート

2022年6月・No.9

ネットヨタ栃木株
益子町

くまの木里山応援団
塩谷町

ふれあいの森 伊勢崎
真岡市

グリーントラストうつみや
(長岡の森ワーキンググループ)
宇都宮市

明治里山再生プロジェクト
上三川町



この事業には、「とちぎの元気な森づくり県民税」が活用されています。



ネットヨタ栃木森 「第4回ネットヨタ栃木森づくり活動」

- 実施日 令和4年4月17日(日)
- 実施場所 益子の森(益子町大字益子)
- 実施内容 伐採木の玉切り作業
下草刈り
- 参加人数 33名
- 貸出機材 のこぎり、ヘルメット

【参加者の感想等】

第4回目は、新入社員と共に伐採木の玉切り作業をメインに行いました。また、伐採木を利用した看板作成のための準備も行いました。新入社員は慣れない作業に苦戦していましたが、精一杯頑張ってくれました！今後は更に素敵な看板ができる予定です。



くまの木里山応援団 「親子で里山体験 in 高原山麓」

- 実施日 令和4年4月17日(日)
- 実施場所 塩谷町 星ふる学校「くまの木」
- 実施内容 ジャガイモの植え付け
コースターの作成
- 参加人数 32名
(森づくりサポーター4名含む)

【森づくりサポーターの活動状況等】

それぞれ異なる里山体験参加家族を担当し、ジャガイモの植え付けやコースター作成などの体験を指導してもらいました。公開イベント終了後のミーティングで、4名のサポーターさん全員が新年度の役員登録を継続してくれました。森づくりサポーターは欠かせない存在です。



くまの木里山応援団 「くまの木定例活動」

- 実施日 令和4年5月15日(日)
- 実施場所 塩谷町 星ふる学校「くまの木」
- 実施内容 体験農場の草刈り、ジャガイモ畑の除草
ヒノキ不要木の伐倒・搬出
コナラ広場でヒノキの皮はぎ
- 参加人数 21名(森づくりサポーター6名含む)

【森づくりサポーターの活動状況等】

体験農場の作業は通常「畑チーム」が行っていますが、今回は「里山整備チーム」も加わり、共同で草刈りやジャガイモ畑の除草をしました。ヒノキ不要木の伐倒は、今年度よりくまの木里山応援団に加入した森づくりサポーターのYさんにやってもらいました。半年ほど技能講習を積んだおかげで安全に配慮し手際よくチェーンソーを使いこなしていました。



森づくり活動案内

グリーンラストうつのみや (長岡の森ワーキンググループ)

- 日 時 令和4年7月10日(日) 9:00～11:30
※雨天後が予定され活動中止する場合は、前日までに主催者より連絡します。
- 参加人数 5人
- 活動場所 宇都宮市長岡町 長岡緑地
※集合は長岡公園北側 長岡公園管理事務所駐車場
- 活動内容 下草刈り、植林木通りの草刈りや巻き付いた葉の除去
忌路木伐採・片付け
- 参加方法 参加希望の方は下記連絡先より申込をお願いします。
電話：028-643-6801 FAX：028-643-6802
メールアドレス：tochi-green@4msakura.net.jp
メールアドレス：tochi-green@4msakura.net.jp
- 持ち物 刈払機をお持ちの方はご持参ください。
- その他 万一の怪我等に備え、ボランティア保険等の加入は各自をお願いします。
今後継続参加される場合は、こちらで保険加入の手続きをします。

くまの木里山応援団

- 日 時 毎月第3日曜日
令和4年7月17日、8月21日、9月18日、10月16日、
11月20日、12月18日
※当日雨天後が予定される場合は延期等の連絡をします。
9:00～14:00(定例活動の場合)
※集合は星ふる学校「くまの木」(塩谷町観ノ木602)
- 活動内容 草刈り、下草刈り、雑草等
詳細はホームページをご覧ください。
- 参加方法 参加希望の方は下記メールアドレスより申込をお願いします。
メールアドレス：m-enoo@tj8so-net.ne.jp
随時代として毎週300円徴収します。
- その他 レジャー保険に加入します。

ふれあいの森 伊勢崎

- 日 時 令和4年11月13・27日(日)、12月4・18日(日)
令和5年1月8・22日(日)
※雨天・悪天候時は中止となります。
9:00～12:00
- 活動場所 ふれあいの森伊勢崎ふれあい広場
(奥州市伊勢崎市内 西岡南第二保育園西側雑木林)
- 活動内容 11・12月
(下草刈り・樹木支柱木処理・落ち葉さらい・枯葉木・支障木伐採等)
※12月18日は秋祭り予定
- 参加方法 参加希望の方は下記メールアドレスに「ふれあいの森伊勢崎 参加希望」と記入して空メールをお送りください。申込用紙と活動計画書をお送りします。(一度参加されている方は、申込不要)
メールアドレス：fureaionori_besaki@ab.uone-net.jp
※受付時に当日の参加の申込と参加停止の意向のご入力をお願いします。
※対私機、チェーンソー、ブローワをお持ちの方はご持参ください。
- 持ち物

明治里山再生プロジェクト①②

- ① ●日 時 令和4年12月11日(日) 9:00～12:00
●参加人数 5人
●活動場所 上三川町大字上ノ原の山林
※集合は「しほだ緑利駐車場」上三川町大字山466-3
- ② ●日 時 令和5年1月15日(日) 9:00～12:00
●参加人数 5人
●活動場所 上三川町大字上ノ原の山林
※集合は「チェーンリップ集約駐車場」上三川町大字山466-1
- 活動内容 落ち葉さらい
【日程】8:45 受付開始、9:00 開会式、9:30 作業開始、
11:30 作業終了・昼食、12:00 終了
- 参加方法 参加希望の方は、下記連絡先より申込をお願いします。
TEL/FAX：0285-53-5577(川原)
メールアドレス：egretta214.mk@gmail.com

※詳細については、とちぎ環境・みどり推進機構 HP をご覧ください。

マッチングイベントの事例

みどりとふれあうフェスティバル 出展参加の試み



(一財)都市農山漁村交流活性化機構

※肖像権の関係で画像を一部加工しています。

「みどりとふれあうフェスティバル」の概要

日時 ~~令和4年5月14日(土曜日) 11時～17時~~
令和4年5月15日(日曜日) 10時～16時

悪天候のため14日は開催中止

場所 都立木場公園(東京都江東区)
イベント広場、多目的広場等

入場料 無料

内容 ・キッズ向けプログラム
・大人も楽しいプログラム

主催 みどりの感謝祭運営委員会(農林水産省・林野庁ほか)
事務局 公益社団法人 国土緑化推進機構



「みどりとふれあうフェスティバル」の概要

38の企業・団体等が出展、24の体験プログラムを実施



出展内容

- (1) パネル展示
交付金の活動への参加、採択申請を促すためのパネルの展示
- (2) チラシの配布等
交付金の募集チラシ等の配布、受入可能組織の紹介
- (3) 体験ワークショップ
交付金申請予定者の協力を得て、竹材を使ったオーナメントづくり体験



体験ワークショップ（竹のオーナメントづくり）

- ・交付金申請予定者の協力を得て実施
- ・竹林整備と竹細工を学ぶ女性たちのグループ
- ・竹を「古来より親しまれた地球に優しい素材」と評価し、竹をとりいれた暮らしを志向



体験ワークショップ（竹のオーナメントづくり）

- ・竹細工を楽しむだけでなく、放置竹林の整備から一貫して取り組むことで、環境保全への貢献も希望



- ・残念ながら、協定を締結できず、交付金は受けられませんでした。

体験ワークショップ(竹のオーナメントづくり)



体験ワークショップ(竹のオーナメントづくり)



体験ワークショップ（竹のオーナメントづくり）

（結果）

- 体験者数 66人
（計画は2日間で60人）
- 子どもさんにも、大人にも大人気

（課題）

- 体験申込の受付方法の改善
- 体験者への情報伝達方法の改善
- 体験者（とくに保護者）とのコミュニケーションを深めるため、体験時間に余裕をもたせる。



静岡県地域協議会における マッチングイベントの取組

- 令和3年度に企画・開催した、関係人口をテーマとするイベント「森づくりミーティング ～森からはじまるLIFE & WORK～」の実施概要と課題について
- 令和4年度に予定しているイベントについて

令和3年度 森づくりミーティング ～森からはじまるLIFE & WORK～ 開催概要

里山の森林を多面的に活用し、都市住民や企業等を呼び込む取り組みの拡大が見られ、関係人口の増加に寄与している。森林・山村多面的機能発揮対策においても「関係人口の創出」に関するメニューが新設されたが、一方で、活動組織は構成員の高齢化や固定化、活動経費の確保が課題となっている。

そこで、活動組織の持続的な活動に資するため、活動組織のほか、関係人口の対象者や、行政職員にも呼びかけ、森づくりを広げ、伝え、極めるをテーマに「森づくりミーティング」を実施した。

1. 日 時: 令和4年1月19日(水)10:30～16:00 ※10:00開場
2. 会 場: =ODEN(イコールオデン)静岡市葵区鷹匠2-8-10
※オンライン参加可能
3. 主 催: 静岡県/静岡県グリーンバンク
4. 参加者: 活動組織10名 関係人口39名 行政等18名 合計77名
(会場17名 オンライン60名)

令和3年度 森づくりミーティング ～森からはじまるLIFE & WORK～ 開催概要

時刻	内容	
10:30	開会	
10:45	講演（広げる） 『みんなで交ざり合う森のトンガリ実験場 「morinos」の挑戦』 [講師] 大武圭介氏 (NPO法人ホールアース研究所 理事)	Morinosのような挑戦は、どの県でもできると思う。おもしろい「交ざり場」が各地にできることを望んでいる。やりながら考えてみる、静岡でもこんな場所が増えたね、と言えるといい。
13:00	講演（伝える） 『森と暮らしをつなげるローカルメディアの役割』 [講師] 北原まどか氏 (NPO法人森ノオト 理事長)	無関心層へのアプローチは森以外の切り口から段階的に関心をもってもらうような工夫がいる。広報と事業を切り離してはいけない。発信しないと仲間が増えない。関係づくりもできない。発信は活動内容だけでなく、価値や魅力を伝えることが大切である。
14:30	事例発表（極める） 1. 西伊豆古道再生プロジェクト 平馬啓太郎 氏 2. 滝谷里山保全の会 代表 佐藤政美 氏 3. NPO法人熱海キコリーズ 代表 能勢友歌 氏	地主さんに理解してもらうには、相手の言葉に変換して伝えることが大切。0から1を生み出す人、1を10に発展させる人など、多様な人との組み合わせで事業が進んでいる。 ポイントは、「相手目線で考えること」。街と地域をつなげ、人と人の交流が生まれるように心がけた。報告やお礼を欠かさないと信頼を得るために大切なこと。 迷った時にはビジョンに立ち返り、人や場所に合った取り組みを無理なく安全第一で取り組めるチームワークが持続発展性のポイントとして挙げられる。
	質疑応答	活動のPRはどのように行っているか、活動のPRに手が回らないがどうすれば良いか、森林所有者との関係づくりの工夫、財源の多様化や自主事業の拡げ方、コロナ禍でのコミュニケーション手法 など
17:00～ 18:00	会場にて交流会を開催	

2022年 1/19 (水) 10:30～16:00 (オンライン) 静岡市東区藤原2-1-10 森ノオト 参加費無料

森からはじまる LIFE & WORK

大武圭介氏 (NPO法人ホールアース研究所 理事) / 北原まどか氏 (NPO法人 森ノオト 理事長)

広げる (大武圭介氏) / 伝える (北原まどか氏)

極める (3つの県内先進事例)

- 西伊豆古道再生プロジェクト
- 滝谷里山保全の会
- 熱海キコリーズ

どなたでもお申込み受付中! オンライン参加OK (参加費無料!!)

主催: 静岡県公益財団法人静岡県グリーンバンク / 運営・申込先: 静岡県公益財団法人しずおか環境教育研究会 (エコエデュ)

お問合せ: 静岡県くらし・環境部環境局 環境ふれあい課 電話: 054-221-2948

基調講演

事例報告



ネット環境が整っている会場を選定



会場 17人



オンライン 60人

活動組織	10人
関係人口	39人
行政等	18人
計	77人

数多くのヒント
があって、自身の
活動の参考
になった。

事例が先進的
過ぎた。

長かった。

令和3年度 森づくりミーティング ～森からはじまるLIFE & WORK～ 開催概要

【参加者の反応】

共通の課題である「高齢化」「担い手不足」「資金調達」について、どの講師のお話でも数々のヒントが盛り込まれており自身の取り組みの参考になった一方で、事例が先進的で自分たちの活動と重なりが少なく、示されたヒントを引き寄せることができなかつた方も複数いた。オンラインは、県内外から参加しやすいという声があった。

【開催風景】



【動画に収めました:youtube→】



R4 改善点

・現場でやろう

ふもとっばら →

・1日に詰め込まず
分散してやろう

オンライン 2回

現場 1回



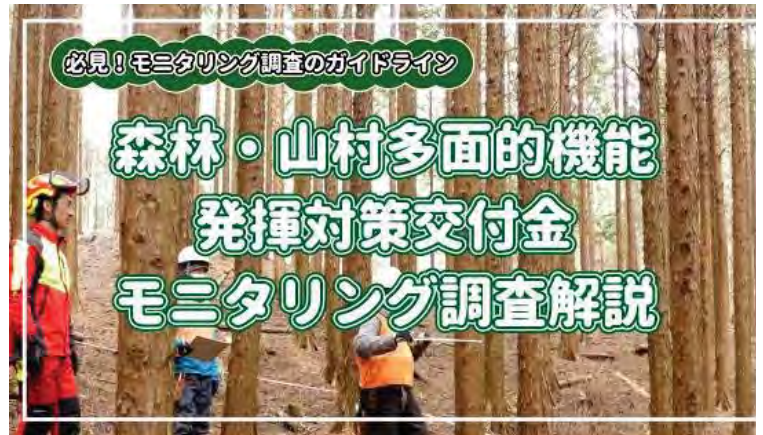
(参考動画) 必見、モニタリング調査のガイドライン

森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用する活動組織の方々には、要領やガイドライン等の文章を読むことが不慣れなことから、モニタリング調査の代表的な4つの調査方法を動画で解説しました。

youtube→



00:00	はじめに
02:02	人工林の整備 (木の混み具合調査)
03:03	調査区の設定
05:33	写真の撮り方
06:13	つりざおの活用
07:15	樹高の測り方
10:33	活動組織による目標値の検討
15:27	森林の資源利用 (木材資源利用調査)
17:05	胸高直径の測り方
18:29	活動組織による目標値の検討
20:57	年次調査の方法
24:18	竹林の整備 (竹の本数調査)
28:28	活動組織による目標値の検討
31:57	雑木林の整備 (見通し調査)
33:45	活動組織による目標値の検討
36:55	まとめ



全国のマッチングイベントに関する実施状況 ～令和4年度 地域協議会の運営状況についてのアンケート結果から～

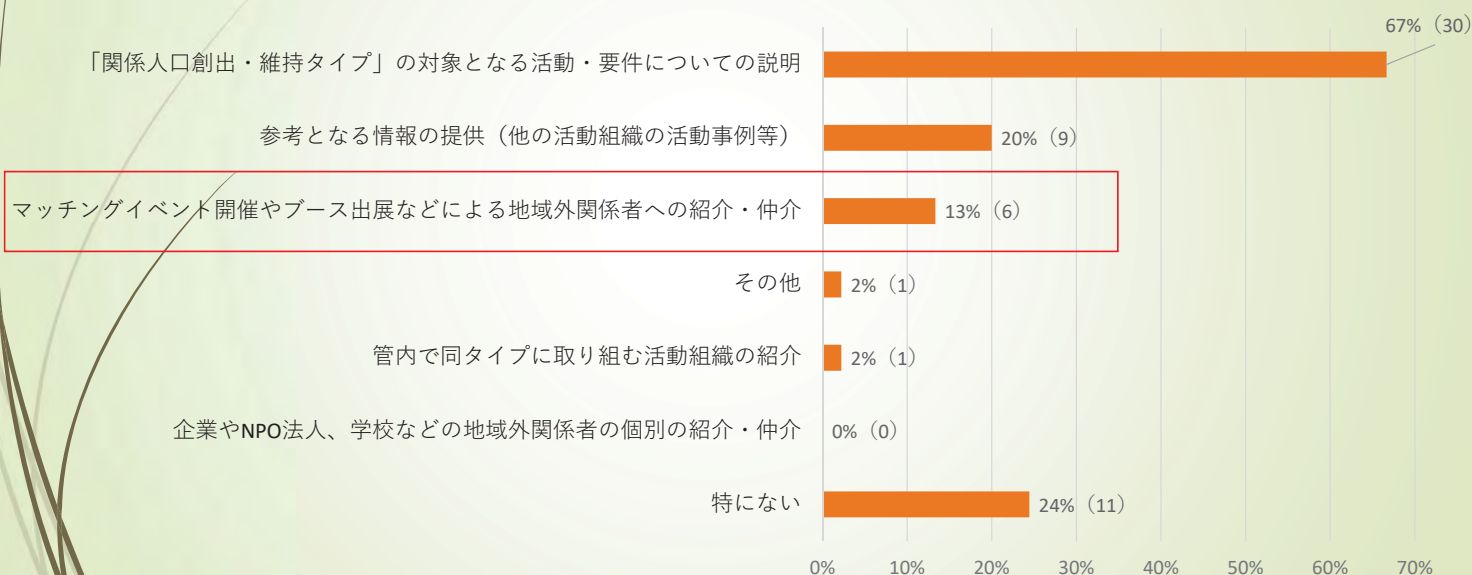
1

令和4年度9月16日

(公財) 日本生態系協会

■ アンケート問7

関係人口創出・維持タイプ交付金取得希望団体への支援内容について
(N=45 複数回答)



■ アンケート問7

マッチングイベントやブース出展の具体的な支援内容について

- 講座イベントの参加者に対して本交付金の説明と、活動に関心のある人に活動組織を紹介
- ボランティア支援センターが主催する体験会で相談ブースを設置し、アドバイザーを体験会講師として参加要請し、体験中に希望者との交流を図った
- 協議会が主催の活動組織や活動参加を希望する個人などを対象とした基調講演や事例発表会を開催し、マッチングイベントとして個人と活動組織との個別面談を実施予定
- 活動組織と関係人口を対象にしたオンラインミーティングの開催
- 毎年協議会の上部組織が主催者となり、県内で森林整備に取り組む活動団体を対象とした交流会兼技術研修会を開催

■ アンケート問8

地域外関係者の紹介・仲介支援において苦労した点

- 実施に際し苦労した点
 - ・ 地域外関係者の受け入れを積極的に取り組む活動組織が少ない
 - ・ 活動地域や活動内容が地域外関係者の希望とマッチングしない
- 実施する際のハードルなど
 - ・ 地域外関係者及び活動組織からの要望が特にならない
 - ・ 採択申請書の段階で参加者を10人以上確保するのが難しい
 - ・ コロナ禍なので消極的になっている

令和4年度 森林・山村多面的機能発揮対策交付金 普及セミナー

1. 目的

本年度の普及セミナーは、昨年度から本交付金のサイドメニューに加わった「関係人口の創出・維持等の活動」を、今後、各地域でより積極的に活用していくため、その意義や進め方、実際の活用状況および効果的な取組やそのための留意点などについて、関係者間で共有する場とする。

2. 開催日時

令和5年2月21日(火曜日) 10:00~15:30

3. 開催場所

TKP 田町カンファレンスセンター ホール2A (東京都港区芝 5-29-14 田町日エビル内 2階)

4. プログラム

本交付金を使った活動を進めていく上で重要な、関係人口・交流人口の創出・維持の取組の意義について、地域協議会担当者をはじめ、各関係者に改めて考えてもらうきっかけとするとともに、意義等を理解することにより、活動組織に対する今後の円滑な支援につなげていくことを目指す。

10:00	開会あいさつ (林野庁)
10:05	基調講演 ※講演後に質疑応答の時間を設けています 『森林ボランティア活動における関係人口創出の意義と進め方』 古瀬 繁範 様 当交付金評価検証委員会委員 NPO 法人 地球と未来の環境基金 理事長
10:55	休憩(5分)
11:00	活動組織取組報告 ※各発表後に質疑応答の時間を設けています 『人とつながる森へ』 山本 牧 様 かみかわ里山ネット (北海道)
11:25	『私と山仕事』 野崎 威三男 様 NPO 法人 馬頭農村塾 代表 (栃木県)
11:50	『取組状況報告』 内藤 恵梨 様 TAKE NO EN 代表 (長崎県)
12:15	昼食休憩(60分)
13:15	地域協議会取組報告 ※各発表後に質疑応答の時間を設けています 『「関係人口創出・維持」に係る静岡県地域協議会の取組』 長谷川 剛司 様 静岡県地域協議会 (公益財団法人 静岡県グリーンバンク 事業部長)
13:35	『関係人口創出・維持タイプ(マッチングイベント)』 佐藤 祐樹 様 長崎県地域協議会 (長崎森林・山村協議会 事務局)
13:55	休憩(5分)
14:00	ワークショップ 『関係人口創出・維持の進め方を考える』 ※関係人口創出のためのアイデアや取組の工夫について、グループディスカッションを行っていただきます。一部のグループより、ディカッションの結果等を発表していただく予定です。
15:30	閉会

普及セミナー ワークショップの内容・進め方について

関係人口創出・維持を進めるため、地域の実情に応じたマッチングイベント（出会いの場の提供を目的とするものや関係人口の取組を行うことのメリット等の紹介を目的とするもの）などを、各地域にてより効果的に実施していくことが求められています。そこで、各グループにて関係人口創出・維持を進めるための取組について、企画やその具体的な進め方などを関係者間で話し合い共有する機会とします。

テーマ	関係人口創出・維持の進め方を考える	
ねらい	地域協議会と都道府県庁が、関係人口の取組を促進するための活動・運営にあたって企画案や工夫点、留意事項等を共有し、今後の各地域での企画・運営等にいかす	
話し合いの視点 (切り口)の例	準備段階	各地域の現状を話し合い、何が課題か明確にする（仮定の前提条件を定める）。
		課題を踏まえた取組・企画の目的と内容を検討。
		活動組織への呼びかけ（例：呼びかけ対象、活動組織の参加を促すための工夫・留意点、都道府県・市町村との連携方法など）
		関係人口の対象主体は？（例：どこにどうアプローチするかなど）
	当日	運営上の工夫点・留意点など
事後	取組終了後の対応（例：誰に、なにを、どうやってフォローするかなど）	

■ ワークショップの流れ（14：00～15：20）

0. （ワークショップの説明：事務局）

1. 各グループにて、視点ごとの話し合い・とりまとめ（40分）

2. （休憩）※時間調整（10分）

3. 話し合い結果の発表※（20分）

※ 話し合いの結果をいくつかのグループより紹介（発表）していただきます。

4. まとめ

準備	関係人口創出・維持を進める上での課題(仮定の前提条件)
	課題をふまえた取組(具体の企画内容、目的など)
	活動組織への呼びかけ(呼びかけ方法、参加を促す工夫・留意点、都道府縣市町村との連携方法など)
	関係人口の対象主体(どこにどうアプローチするか、呼びかけ方法、発信上の工夫・留意点、都道府縣市町村との連携方法 など)
当日	運営上の工夫点・留意点など
事後	取組終了後の対応(誰に、なにを、どうフォローするか)
その他、特記事項など	

森林ボランティア活動における 関係人口創出の意義と進め方

2023年2月21日

特定非営利活動法人地球と未来の環境基金
古瀬 繁範

自己紹介

1963年 広島県広島市生まれ

大学卒業後、工作機械の輸出用マニュアル制作会社に就職、その後ブラジル・サンパウロで青少年交流団体事務局と南米銀行広報部勤務（兼務）。

1992年4月 リオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミットの年に環境NGO「日本リサイクル運動市民の会」へ入職。アマゾン森林保護プロジェクト、非木材紙事業（企画営業、販促、貿易など）、総務人事を担当。

2000年1月 日本リサイクル運動市民の会の基幹事業（らでいっしゅぼーや事業）のM&Aに伴い団体解散。事業譲渡先会社（らでいっしゅぼーや株）の社員となる。同年3月、解散団体の非木材紙事業を承継、有志でNPO法人地球と未来の環境基金設立。

2001年8月 らでいっしゅぼーや株退職、地球と未来の環境基金に半専従・理事。承継したバガス事業他、国内での森林ボランティア活動、海外環境保護事業、環境助成金支援事業など手掛ける。2012年から団体代表（理事長）に就任。

関係人口とは・・・

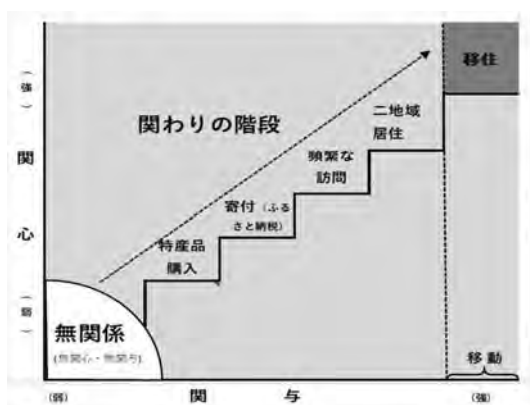
- 「交流（観光）以上、定住（移住）未満」
- 「『地域』に関わってくれる人口」
- 「「移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々」

⇒森林ボランティア活動における「関係人口」とは

- ・ 定期的に活動に参加したり、資金など支援してくれる地域外の人
- ・ 1度きりで森林活動の体験に来る人 ⇒ 交流人口

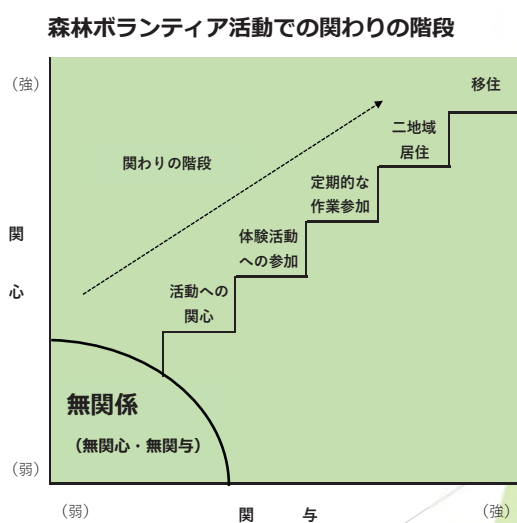
©2023, Eco Future Fund, All Rights Reserved

関係人口への移行「関わりの階段」



出典：小田切 徳美（明治大学教授）資料

森林整備活動での関わりの階段は？



小田切氏の図表を参考に筆者作成

©2023, Eco Future Fund, All Rights Reserved

関係人口創出の意義・効果

1. 社会的な評価が高まる

地域内、仲間内だけの活動 ⇒ 限られたエリアでの評価に留まりがち

地域外から参加者を入れると ⇒ 地域外で活動が認知される

関係人口となる参加者の口コミ、SNS拡散、メディアへの掲載etc.

2. 活動リソース（資金、人手など）の獲得

社会的評価が高まる効果として、企業からの寄付や協賛の獲得

地域内では得られない資金の獲得、連携・協働が実現

3. 活動の継続性・発展性が高まる

仲間でコツコツ ⇒ 新しいメンバーが入らない ⇒ メンバー高齢化 ⇒ 活動継続の危機

活動の活性化(長期的なモチベーション維持)、コアメンバーも刺激を受けてバージョンアップ

地域内のしがらみにとらわれない視点と発想で活動をブレイクスルー

地域を変えるのは「よそ者、若者、ばか者」

©2023, Eco Future Fund, All Rights Reserved

ボランティア活動に関する統計数値

■ ボランティア活動の行動者数（「令和3年社会生活基本調査」総務省統計局）

2021年：2,005万人（2016年：2,943万人）

■ ボランティア活動の年齢階級別行動者率（同上）トップ3

65～69歳：23.4%（2016年：29.8%）

70～74歳：23.0%（2016年：30.0%）

60～64歳：21.7%（2016年：28.6%）

■ ボランティア活動経験の有無（「令和元年度市民の社会貢献に関する実態調査」内閣府）

2018年1年間で 「ある」・・・17.0%、「ない」・・・83% ※n=3,065

■ 森林ボランティアの参加者年齢層（「森林づくり活動についての実態調査」林野庁）

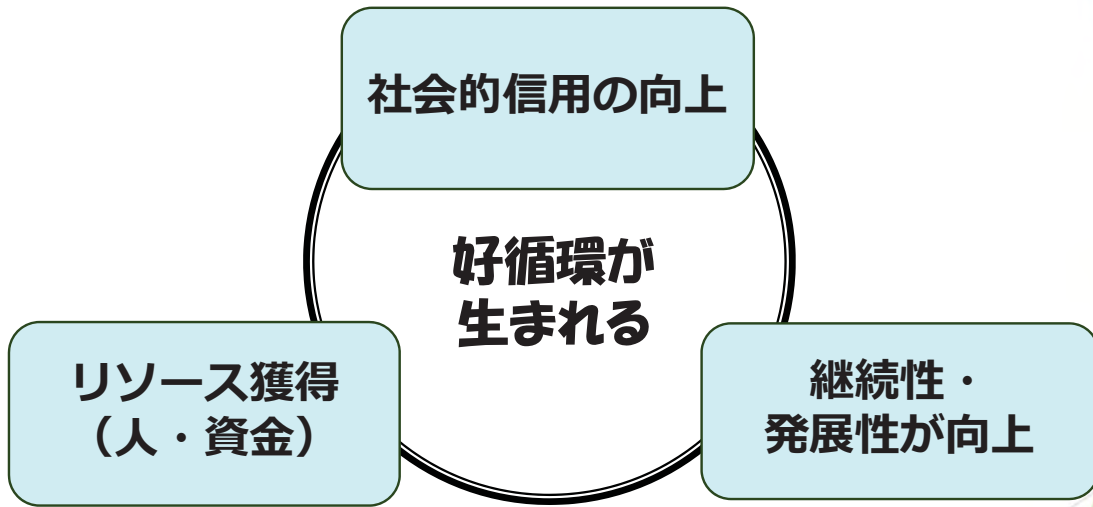
① 65歳以上70歳未満・・・27%

② 70歳以上80歳未満・・・26%

③ 60歳以上65歳未満・・・12% ※65歳以上80歳未満で65%を占める

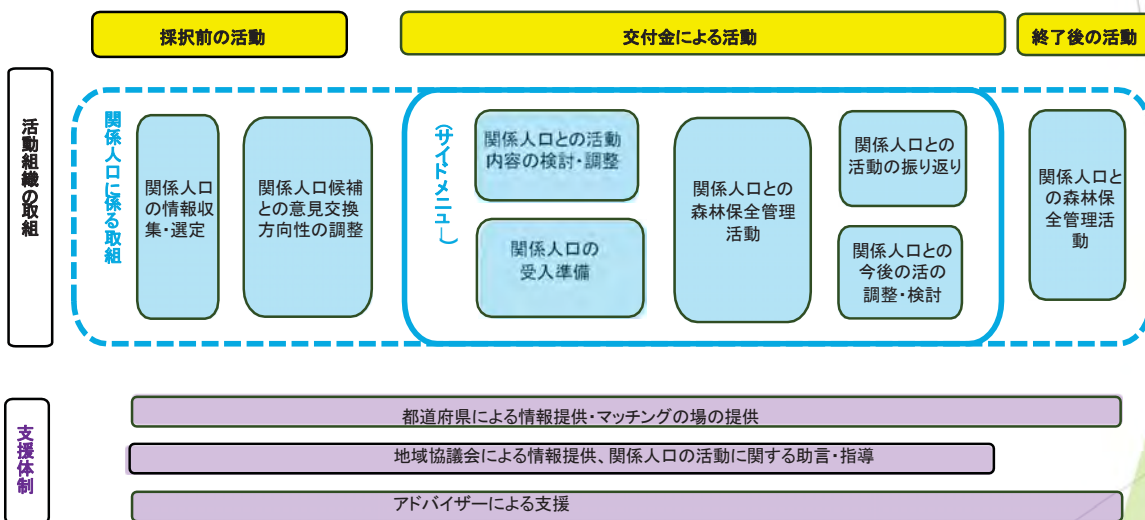
©2023, Eco Future Fund, All Rights Reserved

関係人口創出の意義・効果



©2023, Eco Future Fund, All Rights Reserved

令和3年度以降の事業の流れ（イメージ）※林野庁資料より抜粋



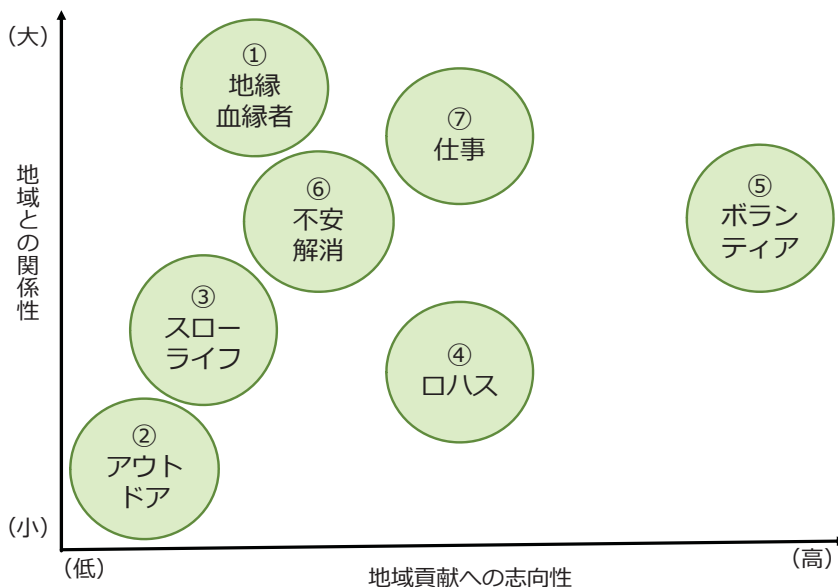
関係人口を創出するには

■ 森林ボランティア活動で

「関係人口」として考えられるのは具体的にどんな人？

- ① 地域出身者（子や孫含め）（地縁血縁者）
- ② 森・山歩きが好きな人（アウトドア派）
- ③ 農山村のライフスタイルに関心がある人（スローライフ派）
- ④ 環境や健康に関心、感度が高い人（LOHAS層）
- ⑤ 災害支援ボランティア等で地域と接点がある人（ボランティア派）
- ⑥ 都市生活の不安、疑問から地域との接点を求める人（不安解消派）
- ⑦ 森林での仕事先を考える人（仕事志向派）

関係人口予備軍の2軸マップ



関係人口創出への3STEP

STEP 1 : 活動の「物語」を作る

STEP 2 : 「物語」を伝える方法を検討

STEP 3 : 森へ足を運んでもらうプログラム

関係人口創出への3STEP

STEP 1 活動の物語を作る

- ・なぜ、どんな経緯でそこで活動しているのか？
- ・どんな思いで活動しているのか？
- ・どんな人たちが活動しているのか？
- ・活動している中で起こった出来事etc.
- ・弱いところ、困っていること、ダメな所



物語

= 共感のフック

関係人口創出への3STEP

STEP2 「物語」を伝える方法を検討

- ・パンフレット、Webサイト、SNS、イベントなど
- ・「プッシュ型」と「プル型」の違い
 - プッシュ型・・・売り手主導（人的訪問、メール、電話など）
 - プル型・・・買い手主導（Web、SNSなど）
- ・相手が「個人」と「企業・団体」では共感のフックは違う
 - 「個人」・・・「物語」で共感、関係性を持つきっかけに
 - 「法人」・・・団体の信頼性、情報開示、文書化、調整
- ・「地域」の中でも伝える努力を。（協働を促進）

関係人口創出への3STEP

STEP3 森へ足を運んでもらうプログラム

- ・森林整備活動は一般の人にとってハードルが高い
- ・森に足を運んでもらうには？
- ・森林セラピー、山歩き、薪割、キノコ採り
- ・コミュニケーションは大事

地球と未来の環境基金での企業連携事例

■ ザ・パック(株) (パッケージメーカー)

【支援内容】活動資金・社員参加（2000年～）

【支援地域】岩手県和賀郡、千葉県君津市、埼玉県飯能市、奈良県吉野郡、広島県竹原市

■ (株)エディオン (家電量販チェーン)

【支援内容】活動資金・社員参加（2004年～）

【支援地域】奈良県吉野郡、広島県竹原市

■ アヲハタ(株) (食品メーカー)

【支援内容】社員参加（2009年～）

【支援地域】広島県竹原市

■ (株)WASARA (モールドメーカー)

【支援内容】活動資金（2011年～）

【支援地域】国内活動全般

■ (株)荻野屋 (釜めしの製造販売)

【支援内容】活動資金（2018年～）

【支援地域】国内活動全般

©2023, Eco Future Fund, All Rights Reserved

企業連携のメリット・デメリット

メリット

① 継続的な活動資金になる可能性

継続的（場合によっては10年以上）な支援が得られる。資金源の多様化。

② 資金+社員参加

資金プラス継続的な人的参加も得られる。（関係人口創出へ）

③ 活動への社会的信用が向上

地域や周辺地域の企業が支援することで、活動への信頼度が高まる。

デメリット

① 連携に向けた企画調整、事務処理の負担

企業担当との調整、対応の負担が増え、大きな企業だと決裁に時間がかかる。

② 森林作業に不慣れな方の安全管理、指導などの負担

慣れたメンバー以外が入り、安全管理への配慮負担、作業指導負担がかかる。

©2023, Eco Future Fund, All Rights Reserved

企業と連携する際の留意点

①活動を簡潔に文書化する

活動の趣旨（なぜそこで森林整備を行うのか）、場所、活動頻度、作業内容、実施体制など簡潔にA4・1枚にまとめる。（写真あるとGOOD!）
⇒ 企業人は社内で説明できねば参加・協賛の支援は取り付けられない

②企業側に求めること、企業側のメリットを明確にする

社員参加、資金支援（金額も明示）、企業側のメリット。

③可能な限り数年後のビジョンや資金計画なども示せるとよい

④外部からの参加者が行う作業を準備、段取りする

森の中での作業経験のない方を前提として、何をどうやってもらうか。

⑤実施日は安全第一で、可能な限りコミュニケーションを取る

関係人口になるには、活動への共感を生み出すことが不可欠。一緒に作業し、参加した方と会話し、相手に理解・共感してもらえることを心掛ける。

⑥企業の協賛、協力を活動の場で、参加者皆に紹介、感謝を示す

⑦相手の企業のこと知る、関心を持つ

©2023, Eco Future Fund, All Rights Reserved

最後に・・・

森林活動と田畑の活動



ご清聴ありがとうございました！

山本牧
2023/2/21

人とつながる森へ

かみかわ里山ネット
北海道旭川市東鷹栖

旭川市東鷹栖14線 約8HA
広葉樹二次林 ほぼ平坦
ミスナラ、シラカンバが多い
大径木はないが樹高は高い



環境林づくりの目標

1. 生物多様性を高める
2. 地元家具産業に貢献
3. 歩きやすく楽しい森に



かみかわ里山ネットのメンバー
NPOもいねっとスタッフ
近隣の山林所有者
山主志望者(森好き)

伐って育てる森づくり=光環境を制御
選木重視~将来木施業
Strong:50年100年先に残る
style:価値の高い形質・樹形
space:適切な密度 樹間10m



多面的交付金の活動方針
森の手入れをしながら
森遊びと実習の
フィールドを整える

- ・林内歩道と作業道整備
- ・小型林業機械の試行と実技
- ・季節の体験ができる森



「小さな森」向けのロープウインチ
樹皮を活かす工芸材を雪上搬出



選木～森の未来を思い描き伐る木を決める



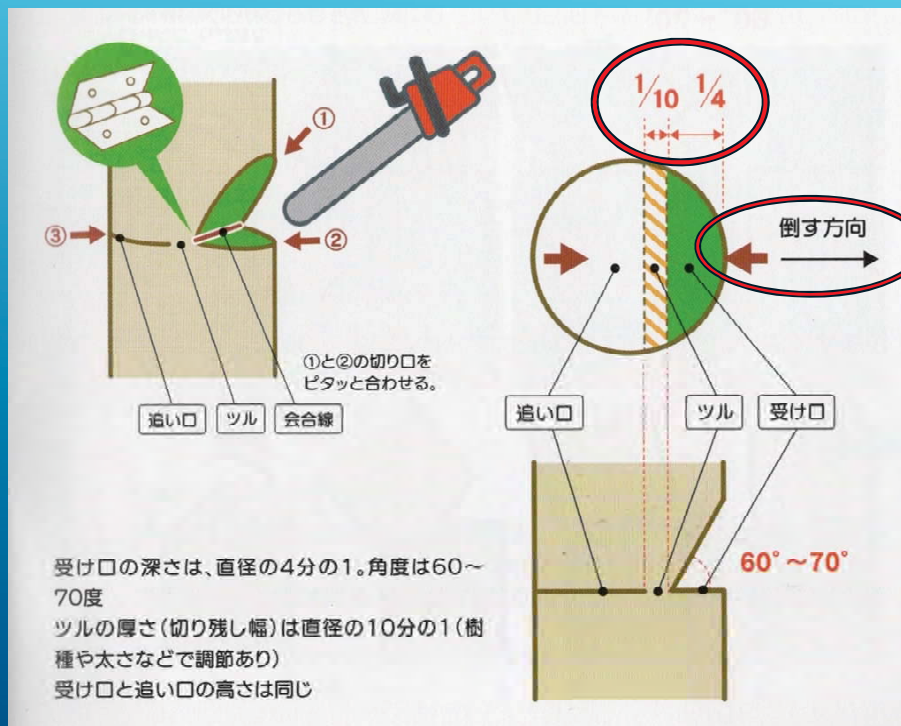
**安全で正確な伐倒のために
北欧式の伐倒トレーニング**



伐根を確認し技術向上

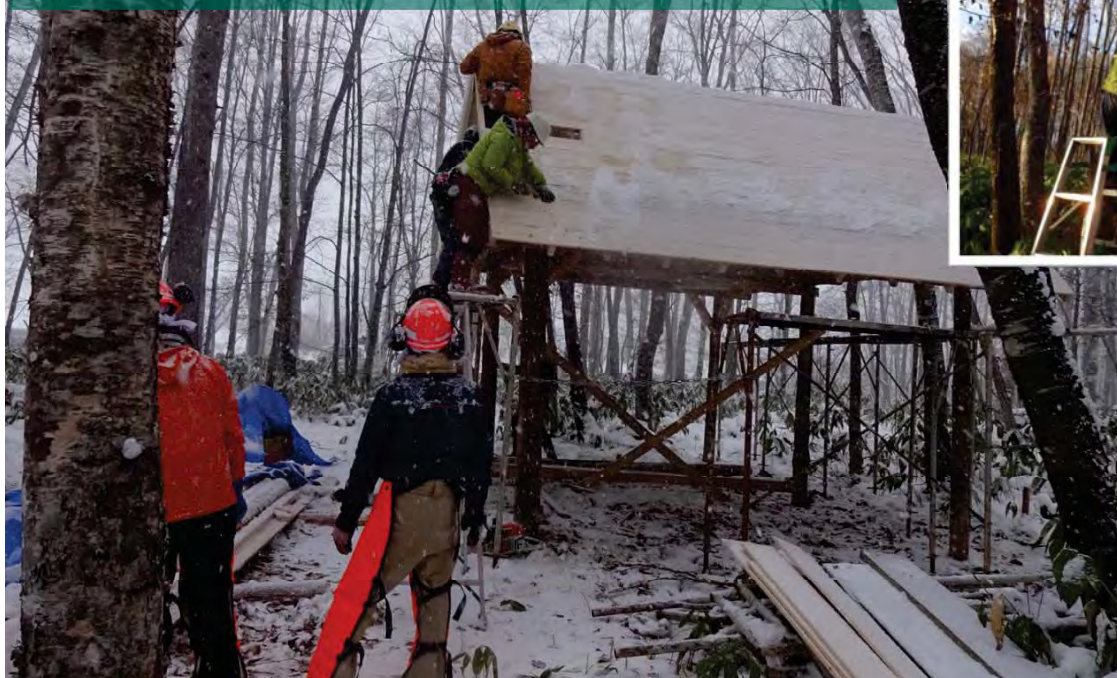


安全で正確な伐倒のために



NPOもりねっと北海道
「森づくりとチェンソー」から

地材地建～林内の木で小屋を建てる 森を読み、森を手入れし、 森で遊ぶ仲間が増える



伐り出した丸太をチェーンソー製材



焚き火は大切な時間



関係人口創出事業
木こりとガイドの技術交流
現場で野外救急レクチャー



木こりとガイドの技術交流
重心と逆方向に木を伐倒
ロープと滑車を使いこなす

森のテラスは子供たちに大人気
地元小学校の森林体験



森の季節を体感～
秋の葉っぱ集め、薪割り体験

荷締ベルトを使ったスラックライン



家具職人のリクエスト シラカンバの樹皮採取



突哨山の混交林再生観察路

手入れが遅れたトドマツ人工林を強めに間伐して明るくし、さまざまな広葉樹が育つようにしています。もとの多様な森に戻すことが目標です。

2010年 間伐前

空を見上ると



2013年 間伐1年目

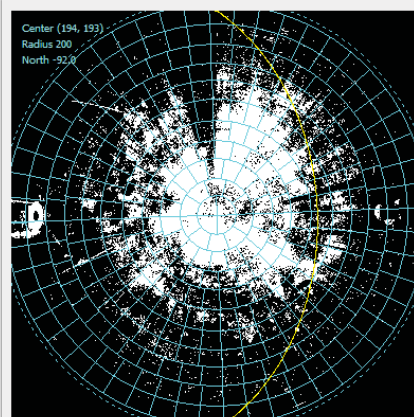
森は動く

2022年5月 間伐12年目

全天空画像解析
による間伐の検証
CanopOn 2
(竹中昭夫さん)

強度間伐でトドマツ人工林を針広混交林に！
林床を明るくし、広葉樹の天然更新を促進
ササが繁茂せず、稚樹が育つ間伐の最適解
= 突哨山試験地 空隙率と日照時間率

Load Image	Reduction	10%
Resume setting		10%
Grid on/off		100%
BW/Color		
Exposure		
Bright	0.616	Dark
L <-> H		
R		Apply
G		
B		
Mean open. (%) 25.7%		
Diffuse Site Factor (%)		
SOC: 46.2%	UOC: 40.5%	
Eval Copy Save...		
Sun		
Lat: 43.55	Day length	724 min
Mon 9		





ありがとうございました

私と山仕事

里山再生奮闘記

—森林・山村多面的機能発揮対策事業を通して—

NPO法人馬頭農村塾
代表 野崎威三男

1939.09. 横浜生まれ

1958.03. 関東学院高等学校卒業

1958.04. 大学入学

1958.08. **1958.08. 国際ワークキャンプ参加**

1959.10. 伊勢湾台風救援活動参加 名古屋YMCA

1960.07. 沖縄ワークキャンプ参加

1961.07. 飯田地区災害ワークキャンプ参加

1962.03. 大学卒業

1966.03. 獣医大学卒業

1966-67. 栃木県三和酪農協同組合

1968-70 **デンマーク(渡航)**

1969.12. 結婚(デンマーク)

1970-74 静岡県・デンマーク牧場

1974-91 栃木県・アジア学院(職員)

80-82 **ミャンマー 国際協力事業団(コロンボプラン専門家)**

86-88 **馬頭町 アジア学院学校林造成**

89.07. **インドネシア・医療ワークキャンプ**

1991-94 **ヨルダン 日本YMCA同盟**

1994-97 **ヨルダン 国際協力事業団(シニアボランティア調整員)**

1997-00 **ヨルダン 国際協力事業団(家族計画プログラム調整員)**

2000-01 **スリランカ 日本紛争予防センター**

2002-05 **ブータン 国際協力機構(シニアボランティア調整員)**

2006-09 栃木県・アジア学院(校長)

06.06. 米国・北米アジア学院後援会

06.10. 天皇・皇后両陛下、アジア学院訪問

07.08. ザンビア・アジア学院同窓会

2009.12. 馬頭農村塾。土地購入

2011.09. NPO馬頭農村塾の登記

2014.04. 森林・山村多面的機能発揮対策事業開始

私の原点 ワークキャンプ

2022年
83歳



大学卒業後**60年**
・**20年間**はアジア学院
・**17年間**は海外在住
・**12年間**は馬頭農村塾
50数カ国を訪問

**1958年、岩手県奥中山の国際WCに
参加した事が私の人生を決定付けた。**

デンマーク(1968-70)で学んだこと。

- *) 具体的技術;畜産コンサルタント補佐取得(国家試験、スカンジナビア3か国共通)
- *) デンマークの歴史; 1864年 プロシャ・オーストリア連合軍に敗れ、豊かな2州を割譲。
2人の人が立ち上がり、疲弊に打ちひし枯れた国民を鼓舞し、再建に尽力した。
- 1) グルトビツヒ Rev. Nicolai Frederic Grundvig (1783-1872)、牧師
「再生デンマークの父」、「国民高等学校(Folke Højskole) の生みの親」、
「三愛主義(神を愛し、土を愛し、隣人を愛する)」を提唱・実践
- 2) **ダルガス** Mr. Enrico Dalgas (1828-1894)、デンマーク陸軍の工兵士官。土木学者、地質学者、植学者。
「**剣を鋤に替えて!**」「**外に失ったものを、内で取り戻そう!**」、
親子二代に渉り、ユトランド半島に**植林をし**、荒涼とした不毛のヒース地帯を豊饒の地・緑の森に変えた。植林に依り気象が一変し、洪水も無くなった。かくして敗戦国デンマークの再生・復興に多大な寄与をした。
- *) **内村鑑三** (1861-1930)
「デンマルク国の話」—信仰と樹木をもって国を救いし話 (1926)
文部省編纂・六年生・国語教科書に「みどりの野」の題名で掲載(昭和22年)。
「樹を植えよ」国民新聞寄稿 (1924)
「文部省は宜しく植林日(Arbor Day)を定め、一年に一日、全国の小學校生徒をして、一人一本づつの苗木を植えしむべし。これは上杉鷹山公が米沢のやせ地を化して東北第一の沃土となした方法である。」「製造業商業励むべしといえども忘るべからざるは農の国本たることである。そして農の本元は森林である。山が茂りて国は常に栄ゆるのである。」
後日談:「朝鮮半島に毎年1億6千万本の有用樹木の苗木が植え付けらると聞いて嬉しい」
二宮尊徳を日本の賢人として尊敬。
- *)二宮尊徳 (1798-1856)
江戸末期の農村改良家。節約・隠徳を説き、報徳社運動を全国に展開。
節約・隠徳を説き、報徳社運動を全国に展開。
「心田を耕さざれば田を耕すことあたわず」(=土を耕す前に心を耕せ)
渋沢栄一(日本資本主義の父)を始め、近代以降の実業家たちに多大な影響を与えた。

アジア学院 アジア農村指導者養成専門学校(1973年創立)

アジア・アフリカ・大洋州・ラテンアメリカの農村指導者の養成
「人のいのちとそれを支える食べ物を大切に作る世界をつくろう」

—共に生きるために—



—共に生きる—

ポイント

同和
同じ者が和する、「同化」
相手を自分に引き寄せる
相手の変化、自分は不変
「同化」、「共存半栄」

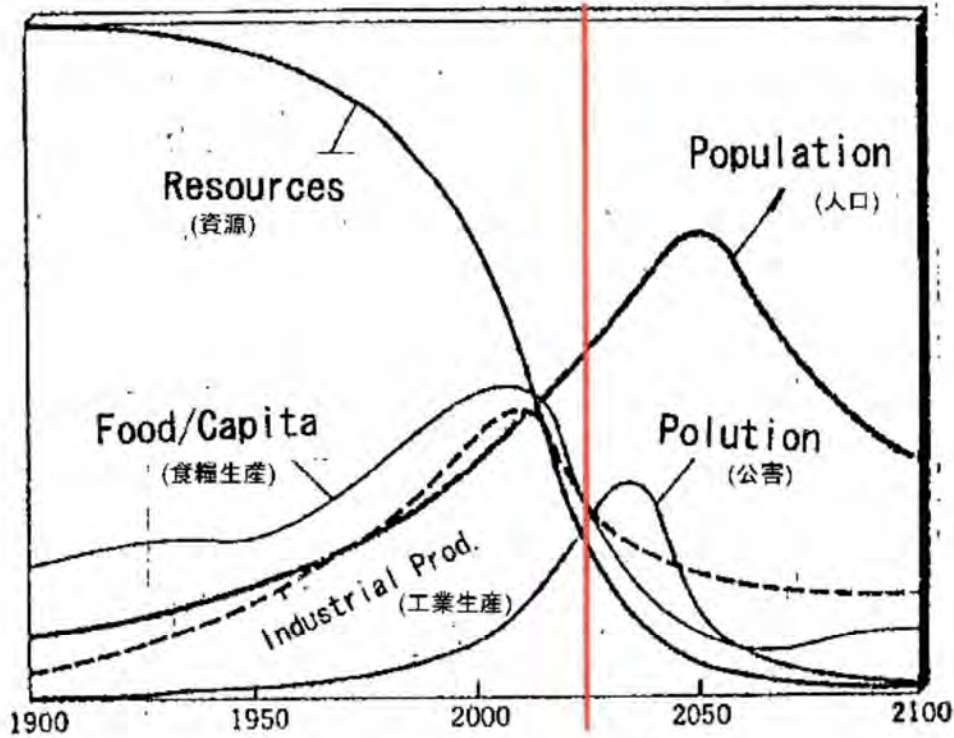
カルチャー・ショック

異和

違いを認め、相互に受入れる
相手も自分も変わる
相違を容認・受容する
「共存共栄」

World Model (世界モデル)

「一見次元が異なると思われる話」



“Limitation of Growth”, Rome Club, 1972

「成長の限界」ローマ・クラブ 1972

X

X 5

世界の食糧事情

砂漠化 耕地 149 億ha / 世界(内36億haは砂漠)
 人口 54 億人 / 世界(内9億人は砂漠地帯)
 「世界の総面積の15%で土壌劣化が発生する」
 人口 1995年 57 億人
 ↓ 9千万人 / 年
 2022年 79 億人
 栄養状態 2010年 栄養失調 8 億人
 飢餓人口 6.4 億人
 現在 餓死者 17人 / 分(内14人が子供)

「21世紀は飢餓の世紀」

日本の食糧事情

食糧自給率 30%以下 (飼料用トウモロコシを含む)
 穀物自給率 世界で110番目 (先進国は100%を超える)
 作付面積の推移(単位:ha) (* 輸入食糧の作付面積換算)

	1960	1998
日本	800万	500万
海外	400万	1,200万
計	1,200万	1,700万

食糧輸入量 2,200万トン 394億ドル(日本)/182億ドル(ドイツ)
 残飯廃棄量 1,000万トン

日本人は海外の耕地1200万haを喰い尽くす

絶滅種(2004年7月現在)

*1850-1950; 1種 / 年
 1989 1種 / 日
 2000 1種 / 時間

「地球温暖化は大量破壊兵器である」

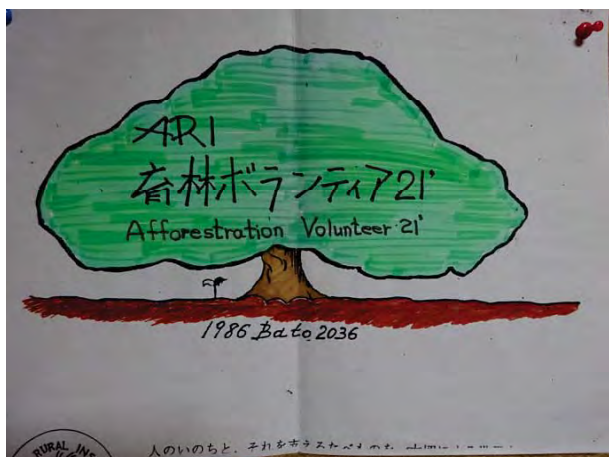
* 地球温暖化の影響で、50年以内に地球上の動植物の25%の種が消える。

「もしも我々が現在の道を進むなら、過去3億年の経験よりもっと大きな変化を生ずるだろう」

これら2枚のパワーポイントは「地球規模の課題」で、「次元が異なる」どころか我々の日常生活・活動に直接・密接に関与する重大なテーマであり、森林作業をする者にとっても負うべき課題である。

アジア学院学校林開設 1986年

馬頭町有林1.8町歩を50年間借受け、
3年間でヒノキ、9、000を植林、全伐は2036年



特定非営利活動法人 馬頭農村塾

2009. 10. 土地購入
2010. 5. 馬頭農村塾
2011. 9. NPO登記

設立の経緯；

馬頭町にありますアジア学院学校林の設立に関与したことから、馬頭町に友人も多く、その内の一人から、「9町歩の土地が売りに出されているが、東京の産業廃棄物業者がこの土を狙っているので、何とかしてほしい」と、窮状を訴える依頼があった。何度か試みたが解決に至らなかったため、それではと関東学院高等学校の卒業生・先輩後輩に呼びかけ、彼らを中心に13人の設立発起人で土地を買い、馬頭農村塾を立ち上げた。こうした経緯があり、当初10年間は外部への公開を一切して来なかった。

目的(定款第3条)；

青少年に「生きる」喜びと自らの生き方を模索する場、「いのちをはぐむ」場を提供し、都市・農村交流を行う中で山林農地の活用を達成し、ひいては地域の活性化にも貢献すること。

母屋：築150年
米蔵：築100年
納屋：築100年



場所： 栃木県那須郡珂川町大山田下郷652
(栃木県北部、茨城県との県境に位置。旧馬頭町)
(福島原発から100 km、放射能値は0.06 bq)



歴史;前地主・大金家は戦前の大地主、200年以上続く旧家。
面積;購入した土地は9.1町歩で、母屋を中心に纏まり、敷地内に湧き水があり、隣接地を小川が流れる。
農地;水田1.7町歩、畑0.8町歩
山林;6.3町歩、原野;0.2町歩、宅地;0.1町歩

馬頭農村塾 <ミッション・ステートメント>

大自然に囲まれた里山環境のもと、

- (1) 直に土に触れ、自ら汗して食べ物を生み出す労働(農林作業)を体験することを通し
- (2) 私たち人間もふくめ全ての命は、「いのちのいとなみ」の網の中で生かされていることを、
体験を通して識ることにより、

青少年に ①「生きる」喜びと自らの生き方を模索する場

②「いのちをはぐくむ」場

を提供する。

また、この場を、将来に亘って確保する為に、

- (3) 都市と農村の相互交流を図り実践する中で、

③ 山林農地の活用を達成すること

ひいては ④ 地域の活性化にも貢献すること

を目指す。

2022.7.

馬頭農村塾の敷地9町歩は里山と農地が隣接して一つに纏まっており、敷地内に水源があり、また域内に川が流れています。これら全てひっくるめて自然が豊かで、“生命体”にあふれています。

初めて訪問した時の感想は、将に「ビオトープ」であり、自然が豊かであることでした。

馬頭農村塾は、“いのちを育む”をモットーに、開設以来学生諸君と一緒に「耕作放棄地の再生」と「里山再生」を目指して12年に渉り努力を重ねてきました。

お陰様で馬頭農村塾敷地内の耕作放棄地は一部を除いてほぼ開墾され、里山も大きく変貌しました。今後は青少年育成を継続すると同時に、域内の生物多様性を保持し、ビオトープを再生して、全体の自然環境を再生・保持することに努力していきます。

関係団体

関係団体；

設立の経緯から、当初10年間は外部への公開を一切して来なかったが、下記団体は設立当初より様々なプログラムに参加して来た。

東京農業大学海外移住研究部(東京都)
日本大学生物資源学部・畜産経営学研究室(藤沢市)
春光学院園(横須賀市)
アジア学院(那須塩原市)
関東学院・中/高生物部(横浜市)
西那須野幼稚園(那須塩原市)
宇都宮YMCA(宇都宮市)
那須YMCA(那須塩原市)



近年馬頭農村塾は外部へ開かれる様になり新しい団体との協力・提携を模索している。
シードオブライフ (Seeds Of Life)

東京農業大学・海外移住研究部



最初のワークキャンプ 2010.2.17.



日本大学・畜産経営学研究室(小林教授)



5月・田植え
(会員・日大
・鹿沼南高
・アジア学院)

9月・稲刈り (会員・日大・アジア学院他)



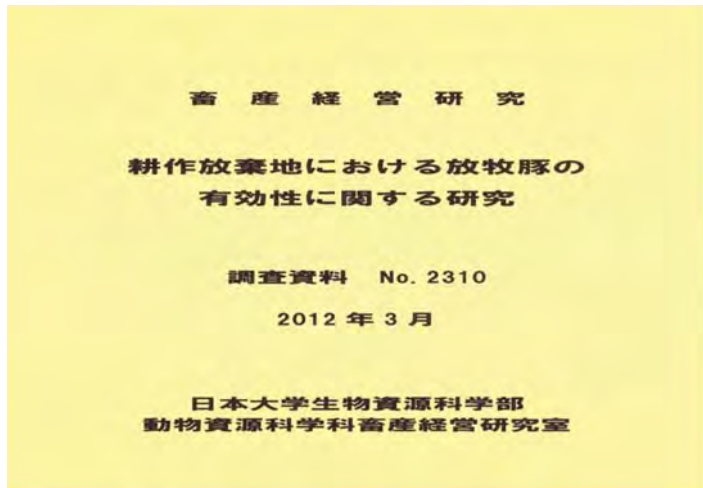
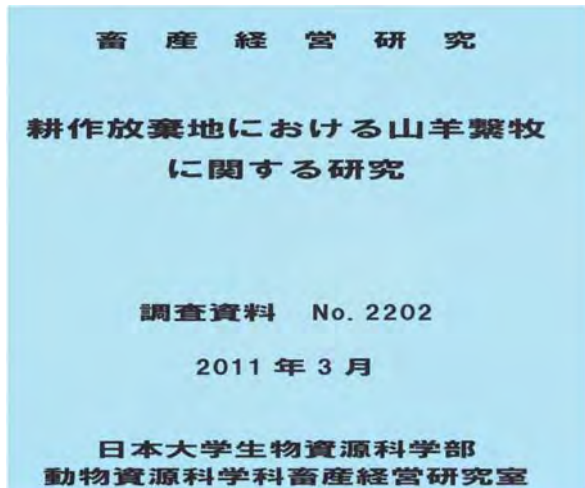
耕作放棄地の再生



関東学院中・高生物部



(2011年度) 卒論フィールドの提供 日大卒論 (2012年度)



2013年度

畜産経営研究

調査資料 No. 2501

抜刷

2014年3月

日本大学生物資源科学部
動物資源科学科畜産経営学研究室
畜産マーケティング研究室

栃木県(旧)馬頭町における耕作放棄地と 野生鳥獣被害の問題について

放牧による耕作放棄地の再生

○浜中陽平、野崎威三男、小林信一
NPO法人馬頭農村塾

NPO馬頭農村塾は平成23年9月に、大自然に囲まれた里山環境のもと、労働(農林作業)を通して「いのちのいきいき」を体験し、直接土に触れ、食べ物を自ら汗して生産することを通して、青少年に「生きる」喜びと自らの生き方を模索する場を提供し、また都市・農村交流を行う中で山林農地の活用を達成し、地域の活性化にも貢献するため、設立された。2009年より日本大学と共働で放棄地の再生のため、山羊、豚および牛・豚の放牧実験を行ってきた。

目的

NPOが管理している圃場には主に篠竹や藪がらしなどの雑草が5年以上放置されており農作物の栽培を行える状態ではなかった。また土壌中における窒素、リン酸、カリウムなどの主要栄養分も不足し、微生物が活発に活動できない状態であったため、糞尿による土壌改良を含めた耕作放棄地の再生を狙った。

方法

実験では3種類の異なる放牧を行った。

<山羊の放牧>
期間：2009年(6か月間)
4頭による放牧
雑草の全体量を減らすことを目的とした。この結果圃場内の篠竹以外の雑草を減らすことができ、現在作物が育つ圃場に回復している。



<豚の放牧>
期間：2010年(4か月間)
2頭による放牧
ヤシの放牧では篠竹の除草が不十分であったため豚の糞尿による除草を試みた。しかし篠竹が1m以上になると除草効果は見込めなかった。



<豚と牛の共同放牧>
期間：2015年(3か月間)
牛1頭、豚1頭による放牧
1m以上の篠竹を含まない除草を目標とし牛1頭、豚2頭を放牧を行った。牛が篠竹を断つことで豚のみの放牧に比べてより多くの除草効果が得られた。



結果・考察

- 圃場の除草効果は下の図からもわかるように大幅に改善している。しかしこの放牧においても篠竹の除草が困難であり今後の課題である。
- 実用性を考えるのであれば低コストである山羊の放牧が有効であるが、放牧で用いた牧柵は害獣予防になるため、作物を栽培する上でも非常に有益である。

下の表は今年度の試験圃場で土壌分析結果である。

- 植物の主要栄養分であるリン酸が改善した。しかしカリウムが基準値を上回ったため根菜類を栽培する時には気を付けなければならない。
- 塩基飽和度が大幅に改善したことで土壌における微生物の多様性が豊富になったことが確認できる。
- 放牧では糞尿による肥料の均一散布に課題が残るが実験後には土壌の改善が得られた。

分析項目	放牧前	放牧後	基準値
PH	5.0	5.0	6~6.5
有効態リン(mg/100g)	5.0	13.7	20~50
交換性加里(mg/100g)	22.4	23.5	15~20
交換性石灰(mg/100g)	44.5	44.4	10~20
交換性石灰(mg/100g)	144.5	192	253~354
塩基飽和度(%)	23	53	60~80



春光学園 キャンプ



宇都宮YMCA(とちぎ地球市民プロジェクト)



アメリカ
高校生
2017.8.

西那須野幼稚園 芋掘り



アジア学院



森林・山村多面的機能発揮対策事業 開始:平成26/2014
 NPO法人馬頭農村塾 **里山活性化部会**、里山6町歩

- 1) 活動推進事業
- 2) 地域環境保全タイプ 里山林保全タイプ
 侵入竹除去・竹林整備タイプ
 (教育・研修タイプ)
- 3) 森林資源利用タイプ
- 4) 森林機能発揮タイプ
- 5) 関係人口タイプ



馬頭農村塾の里山の特徴 (標高:185~255m)

1) 澤が入り組んでいる(地図)



2) 表土が薄い 基本的には岩山、根むくれを起し易い



3) 人工林(杉・檜)が少ない

4) 広葉樹が中心の雑木林

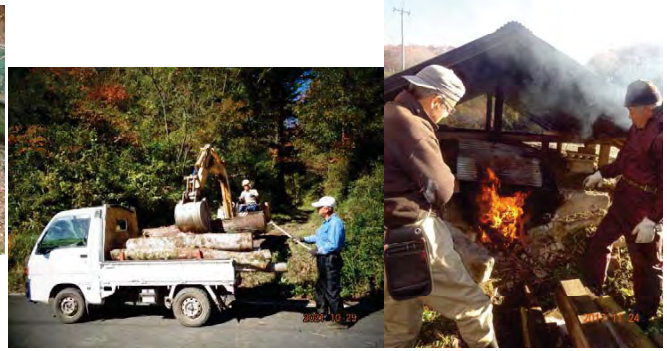


2) 里山林保全タイプ; 下草刈り・伐採整理・動植物の保護



刈払い 伐採

3) 森林資源利用タイプ; 伐採、炭焼き、素材生産、チップ材



搬出 炭焼き

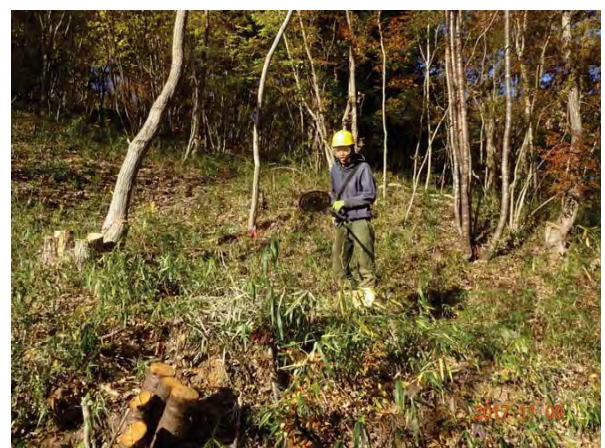
4) 森林機能発揮タイプ; 山道の補修整備及び作業道の造成・整備



5) 関係人口タイプ; 植林、トレッキング、カミングホームPR



2017年11月9日 安全講習会・自主講座(刈払い機)



2017年9月11日 安全講習会(チェーンソー)・自主講座



アドバイザー講習会(刈払い機・講師派遣)2021. 8. 21.



アドバイザー講習会(チェーンソー・講師派遣) 2022. 10. 1.



里山トレッキング



ツリークライミング





ツリーハウス by 東京農大・移住研



伐採
搬出
乾燥
皮剥
乾燥
組立
3年



Seeds Of Life (一般社団法人 シードオブライフ)との関係
2021. 8. 23. にSOLが「陽だまり農場」を訪問。この時より関係が始まった。





花の風まつり、「森の音楽会」
2022.5.5.

森の音楽堂



ナツハゼ狩り 2022. 10. 9.





実生苗木の”ホームカミング”プロジェクト

実生苗木を家へ持ち帰って庭やベランダで育て、大きくなったら里帰りして、馬頭農村塾の山に植えよう！



Seed Kitchen シード・キッチン(1)

遺伝子操作された市販の種子ではなく、その土地在来の種子を使って、有機栽培された野菜を調理する。



11月12日(土) 13日(日)開催!

豊かな森と里山を未来につなげよう!

ミ/ラ/イ/ノ/モ/リ

第1回：ネイチャートレッキングと植林

森の未来を考え、アクションする2日間

さまざまな動植物が生息し、生物の豊かさにあふれた豊かな自然がある馬頭農村。この清流とも交わる農村の里山は近年伐採され、総林のタイニングが進んでいます。次代へ豊かな自然資源をつなぐために、生物多様性や自然との共生をテーマにしき森づくりをスタートします。一緒に学びながら、未来へアクションしていきましょう。




<スケジュール> どちらか1日のご参加も可能です。宿泊をご希望の方はご連絡ください。

<p>11/12(sat) 13:00-15:00</p> <p>馬頭農村の森の木にプレートをつけよう!</p> <p>多岐にわたる里山を一緒に歩くと、その森の豊かさがわかるようにプレートをつけよう。樹木の成長の記録など、里山に生息する珍しい植物も山人が教えてくれます。 馬頭農村 石山山</p>	<p>11/13(sun) 10:00-15:00</p> <p>10:00-10:30 馬頭農村代表・野崎先生による森のお話</p> <p>10:30-12:00 植林作業</p> <p>12:00-13:00 ランチタイム休憩</p> <p>13:00-14:00 ジョンの自然教室 一緒にトレッキングしながら自然を知ろう</p> <p>14:00-15:00 総括作業</p>
---	--

主催：NPO法人馬頭農村塾 協力：一般社団法人SEEDS OF LIFE Institute



森のお話し

ジョンさんとトレッキング



植樹 (クヌギ500本) 2022.11.13.





Seed Kitchen
シード・キッチン(2)



2014. 6. 17.

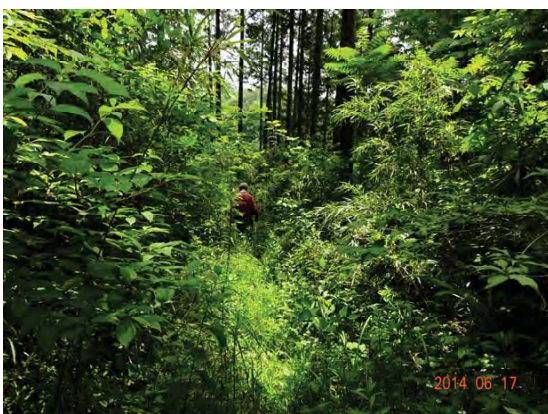


2022. 9. 13.

8年後の結果

2014. 6. 17.

2022. 12. 10.



若者の移住

1. ██████████夫妻

██████████さんは信州大学卒業後、アジア学院に入学・卒業。██████████さんは東京農業大学卒業後に、一緒に帰農志塾(烏山市)を修了し、結婚。2017. 4. ~ 馬頭農村塾に参加し、新規就農者として就農。「陽だまり農場」開設し、現在に至る。自立。

2. 東京農大・海外移住研究部の██████████さんは4年間の在学中に20回以上も馬頭農村塾を訪問し、様々な活動に参加したが、2021年4月には那珂川町の那須南森林組合に就職し、馬頭農村塾の近くに住んでいる。

3. また、日大・畜産経営学研究室の██████████さんは、馬頭農村塾を卒論のフィールドにして卒論を書いたが、その後大学院博士課程に進み、2022年4月に、隣町・茨城県大子町の畜産会社に就職が決まって、働き始めた。

* 東京農大・海外移住研究部の██████████さんは2023年3月に卒業し、森林総合研究所に就職する予定。

こうして馬頭農村塾で作業に参加した若者が、近くに集まって来たり、農林関係の仕事に就くのは頼もしい限りです。！！

苦労と対策

* 今まで一応うまくやってこられた要因；

- 1) **人材**；山に詳しい実務家を得られたこと、及び良き協力者を得られた事。
- 2) 作業機械の利用； **ユンボ**、クローラー(運搬車)
- 3) 「陽だまり農場」の存在

* 困った事；

- 1) 日本大学との縁が切れたこと。
- 2) 作業者の高齢化。

* 対策；

- 1) シードオブライフ (Seeds Of Life) との出会い；
馬頭農村塾を対外的に開かれたものとするを模索し始めた時に、理事長のジョンさんが馬頭農村塾内の「陽だまり農場」を訪問されましたが、これをきっかけに、協力が始まりました。
今後に期待しています。
これを機に積極的に外に開かれたものにするべく 努力していきます。
- 2) 後継者の育成・発掘が急務；

世界は貴方を必要とする！

今や、あなたの活躍する番だ！

世界に向けて、羽ばたけ！

感謝！

森林・山村多面的機能発揮対策事業が無ければ、資金を全く持たない我々の様な零細規模の団体では、ここまで出来ませんでした。感謝申し上げると同時に、もっとこの事業を広く周知させて、拡げていかれることを希望します。

**森林・山村多面的機能発揮事業は、
ゼロ・エミッション（炭酸ガスの排出抑止）
に直結する遠大な計画を担っています。
皆さん、一緒に頑張りましょう！！**

終わり

取組状況報告

TAKENOEN

代表 内藤恵梨

団体概要

- 活動地は長崎県長崎市の竹林
- 令和3年より森林ボランティア団体として正式に登録し、活動開始
- 団体の構成員が63人と長崎県内最多
- 内訳は年齢や職業、居住地域も様々で、全員が技術を学ぶ意思を持ち、社会貢献しようという代表の考えに賛同して参加している



活動概要

- メンバーは毎回昼食代と団体保険代で500円を支払い参加する
- 竹林整備活動における金銭的報酬は受けていない
- 参加者が活動を労働としてとらえず、やりがいや充実感を感じられるような工夫をしている(後述)
- メンバーが安心して参加できるよう、安全講習や技術講習を積極的に森林ボランティアセンターに依頼し開催する

講習会の様子



竹林整備の取り組み

- 整備している竹林の面積は1ヘクタール
- 2週間に1回、20～30名程度が参加
- チーム分けや役割分担をメンバーの技術や体力などで代表が割り振る
- 整備活動は午前中の2～3時間で、昼食は代表のカフェの炊き出しを皆で楽しむ

整備後の昼食会



関係人口・交流人口創出の取り組み

防災イベントの定期開催



森フェスタや西九州新幹線開通イベントに出店



メンバーの人脈を生かし他団体が整備活動を体験

参加団体一例

- NPO法人発達障害お悩み預り所かぎしっぽ
- 地元小学校のPTAや保護者会
- 多機関型地域包括センター
- 少林寺拳法スポーツ少年団
- 生活協同組合ララコープ県南委員会



竹を使ったワークショップを開催



竹アクセサリや竹炭スイーツの製造販売



高校生と竹炭商品開発や販売会



もちろん着色料不使用

北高とNPO法人ドリームパークの共同開発

竹炭を使った体に優しいマドレーヌ

商品にならないもったいない竹、放棄竹林の竹を使用しています

もったいない(フードロス削減)

長崎北高

障害者事業所

今までになかったコラボレーション

竹炭マドレーヌ

食後のティータイム、3時のおやつにいかがですか?

さらにさらに

売れ残っても...ラスクに変身!! その名もマドラス

まさにフードロス削減に特化した商品なんです!

試食した感想

見た目とは裏腹にふわふわでとてもおいしい!

思っていた以上にしつこいおいしかったです!

軍艦島竹炭クッキー

長崎にある世界文化遺産

商品にならない放棄竹林の竹を使用します

プレーン、アーモンド、レモンの3種類

3種類の味!

- プレーン: 食べやすく子供人気間違いなし!
- アーモンド: ザクザクとした食感で楽しめる!
- レモン: レモンの香りがよく女性人気間違いなし!

コラボレーション商品

長崎北高生(88名)

ドリームパーク

TAKENOEN

SDGs (竹炭)

障がい者も関係人口



長崎県内初の県産竹炭パウダー の利用促進



KEIHO
 瓊浦高校生の
 共同開発で誕生

竹炭の真つ黒い
 シュークリーム

げんせき
原石シュー
 350円

無味無臭！天然のミネラルが豊富！といわれる
 スーパーフード『竹炭パウダー』を使った黒いシ
 ユーパフが特徴的な一品です。
 瓊浦高等学校生との共同開発でうまれた想いが
 詰まったシュークリームができました。

販売会のお知らせ

①第16回 長崎街道 大村藩宿場まつり
 日時：令和5年02月11日(土)9時30分~15時
 場所：大村市 ポートレース大村第5駐車場

②『日本遺産「砂糖文化を広めた長崎街道〜シユガーロード〜」
 展示会イベント』
 日時：令和5年02月18日(土)11時~19時
 場所：長崎市 ベルナード観光通りアーケード

「世界文化遺産」
軍艦島
 石炭ソフトクリーム

濃厚チョコレート味

- 食用の「竹炭パウダー」を使用して
 黒く着色しております
- 健康食品で知られている「竹炭」は
 腸内環境を整えてくれます
- 竹炭の味はしません

タケノコ寄付 動物園、子ども食堂、幼稚園



竹の葉も寄付 動物園



防災やSDGsの講師活動



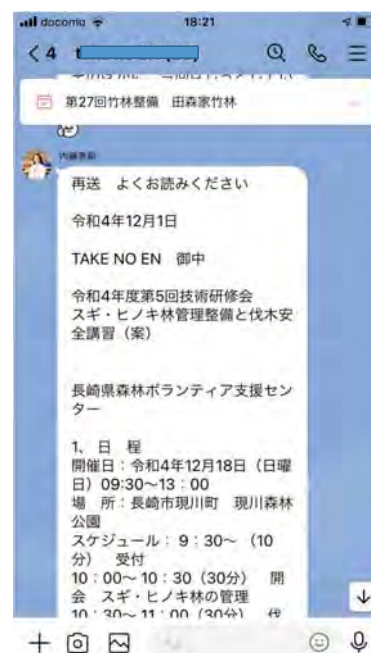
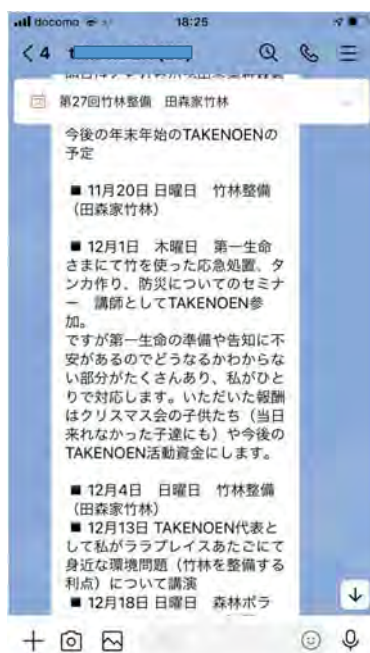
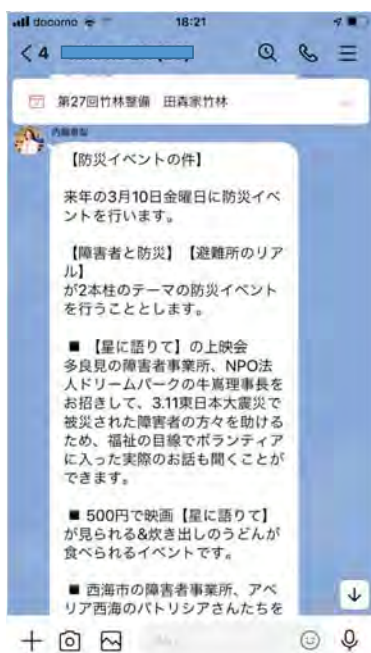
SNSで外部への活動報告を怠らない

- 代表の3つのSNS(Facebook,インスタグラム、LINE)すべてにおいて発信する。
- 整備活動日ごとに活動の写真を掲載しながら状況報告を行う。
- その日の収穫(タケノコや竹の葉)があれば必要としている場所へ届け、その様子を報告する。
- それぞれのSNSのフォロワー数は1100人以上であり、多くの人に活動を知ってもらうきっかけとなっている。
- しっかりと報告をおこなうことで団体の信頼度やブランド力が高まり、さらに注目を集めやすくなる。

課題と工夫:メンバーのモチベーション維持

- タケノコの寄付や竹を使ったワークショップを開催することで、整備の先に人の笑顔や感謝があることを実感してもらう。
- 整備活動の後は昼食をみんなで食べて、コミュニケーションの場になるようにする。
- 整備活動では、その人その人の能力に合わせて人員配置を行うことで精神的な負担を減らす(未経験者や高齢者、負傷者でも気軽に参加できる雰囲気をつくる。)
- 整備活動以外にもカフェを集いの場としてメンバー同士が顔を合わせる機会をつくっていく。
- 仲良しクラブではなく、やる気のないメンバーや参加率の悪いメンバーはバツサリ切り捨てていくことで、やる気のあるメンバーの士気が下がらないようにしていく。
- SNSでの発信やメディアを使ってTAKENOENというチーム自体のブランド力を高める努力を行い、チームに属し一緒に活動していること自体が名誉なことであるような雰囲気を作る。

課題と工夫： メンバーとのコミュニケーションや連絡手段



今後の展望

- 竹の利活用をさらに進めていきたい。
- タケノコを使ったウニやナマコの養殖はできないか？
- 地元長崎大学の水産増殖学研究室に相談中。



「関係人口創出・維持」に係る 静岡県地域協議会の取組

公益財団法人
静岡県グリーンバンク
常務理事兼事業部長
長谷川剛司

交付金額と活動組織数の推移

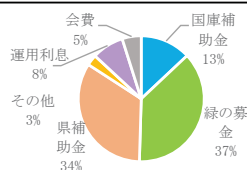


R04事務実施状況と地域協議会の体制

採択決定	20 組織	1 組織取り止め	2023.1現在
活動組織を対象にした説明会	4 回	オンライン 2回 実地 2回	
1年目の活動組織のモニタリング初回調査立会	7 組織		
現地確認	15 組織	13 組織は委託	
アドバイザー派遣 (モニタリング、安全講習、森林づくり計画、作業道作設)	10 回		
森づくりミーティング (関係人口創出)	3 回	オンライン 2回 実地 1回	

ちょっとだけ紹介

しっかり紹介



公益財団法人
静岡県グリーンバンク

課題：マンパワー不足

現地確認・書類審査

NPO法人ホールアース
研究所(単価契約)

アドバイザー3人登録

森づくりミーティング

認定NPO法人しずおか
環境教育研究会

アドバイザー1人登録

職員 4人・・・長谷川 (時間給：審査・確認、指導等)
 嘱託 4人・・・岡本 (時間給：審査・確認補助、経理等)
 臨時 1人・・・上村 (専任：連絡調整、審査・確認補助等)
 合計 9人 約1.8人

(参考) グリーンバンクの
R04収入予算 207,992千円

1年目の活動組織の初回モニタリング調査立会

全ての初回調査に立会、3年後の目標値決定までを指導している。



広葉樹のモニタリングは難しい。
「どの調査をするの、目標はどうやって決めるの?」



人工林は慣れたもの。「ハイ、立木幹材積調査でいいら。」



写真の撮り方を指導中。「2箇所に印付けるだに。」

3

現地確認は県・市町の職員にも声をかける

現地確認の際は、県・市町に通知して、立会を依頼している。



県 延べ21人
市町 9人

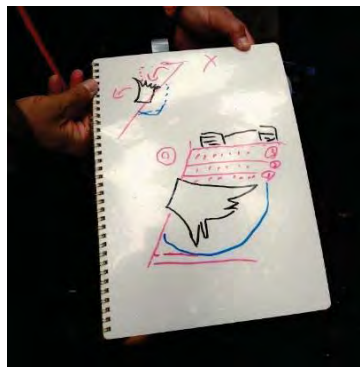
4

アドバイザー派遣例と活動組織の感想

活動組織：作業道作設のアドバイスを！ ⇒ 協議会：みどりの雇用指導員を派遣



根株が散乱しているのを見て



根株の処理方法を図示



根株処理を実演

森林づくり計画	・植生を含め分かりやすく説明していただきました。
安全講習	・伐木の講習をしていただきました。半分以上が初心者ですので、非常に助かりました。 ・実技中心の講習はとても学びとなった。 ・初心者向けのわかりやすい内容であった。 ・大径木の伐採などの実習があるとよい。



5

令和3年度 森づくりミーティングのコンセプトづくり

国から関係人口の創出が宿題として課せられたが、どうしよう。そうだ、県に相談しよう。



静岡県

受託候補者

地域協議会

いつごろ : 1月の平日

どんな方法で : 実地とオンライン

何をテーマに : 森づくりを、広げ、伝え、極める

講師・事例報告 : トンガリ実験場、morinos、ローカルメディア、森ノオト

6

令和3年度 森づくりミーティングの企画会議



岐阜県立森林文化アカデミー（岐阜県美濃市）まで打合せに行ってきました。

受託者から提案を受けた講師を訪問し、また、地域協議会から提案した事例報告者とも打合せをしました。



NPO法人森ノオト（横浜市青葉区）まで打合せに行ってきました。
写真は「寺家ふるさと村」付近の風景です。

令和3年度 森づくりミーティング ～森からはじまるLIFE & WORK～

里山の森林を多面的に活用し、都市住民や企業等呼び込む取り組みの拡大が見られ、関係人口の増加に寄与している。森林・山村多面的機能発揮対策においても「関係人口の創出」に関するメニューが新設されたが、一方で、活動組織は構成員の高齢化や固定化、活動経費の確保が課題となっている。

そこで、活動組織の持続的な活動に資するため、活動組織のほか、関係人口の対象者や、行政職員にも呼びかけ、森づくりを**広げ、伝え、極める**をテーマに「森づくりミーティング」を実施する。

- 日時：令和4年1月19日（水）
10:30～16:00
- 会場：＝ODEN（イコールオデン）静岡市
※オンライン参加可能
- 主催：静岡県/静岡県グリーンバンク

2022年 1/19 (水) 10:30～16:00
イコールオデン 静岡市東区高田5-1-10 ※1D,000円

森からはじまる LIFE & WORK

広げる 大武 圭介 NPO法人ホールアース研究所 理事
子どもも大人も、企業も行政も、みんなで寄り合う。森のトンガリ実験場『morinos』の挑戦

伝える 北原 まどか氏 NPO法人 森ノオト理事長
自然と人をつなぐメディア『森ノオト』が創る循環する地域の未来

極める 3つの県内先進事例
● 西伊豆古道再生プロジェクト
● 滝谷里山保全の会
● 熱海キコリーズ

自然とともにあるライフスタイルを広げ、新しい暮らし方や働き方の可能性を伝え、実践で極める講師陣。SDGaiにつながる新しい森づくりのヒント満載の1日です。

主催 静岡県/公益財団法人静岡県グリーンバンク
運営・申込先 認定NPO法人しずおか環境教育研究会【エコエデュ】
お問合せ 静岡県くらし・環境部環境局 環境ふれあい課
電話：054-221-2848

どなたでもお申込み受付中！
オンライン参加OK
参加費無料！！

令和3年度 森づくりミーティングの広報

<p style="text-align: center;">静岡県</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 関係人口の候補者 市町・県等 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未来の森サポーター企業 ・ 森づくりグループ ・ 行政ほか
<p style="text-align: center;">地域協議会</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 活動組織 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動組織 (約90)
<p style="text-align: center;">受託者</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 関係人口の候補者 活動の支援候補者 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSほか <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 企画、連絡調整、企画会議、会場手配、募集案内作成、広報、参加者とりまとめ、事例報告支援、配布資料作成、ミーティング運営、オンライン配信、謝金支出、実施記録作成、アンケート集計、報告書作成 </div>

「事例報告支援」を入れたことで、報告の質が高まった。

9

令和3年度 森づくりミーティング ～森からはじまるLIFE & WORK～

時刻	内容	
10:30	開会	
10:45 講演 (広げる)	『みんなで交ざり合う森のトンガリ実験場「morinos」の挑戦』 [講師] 大武圭介さん (NPO法人ホールアース研究所 理事) morinosのような挑戦は、どの県でもできると思う。おもしろい「交ざり場」が各地にできることを望んでいる。やりながら考えてみる、静岡でもこんな場所が増えたね、と言えるといい。	 大武圭介
13:00 講演 (伝える)	『森と暮らしをつなげるローカルメディアの役割』 [講師] 北原まどかさん (NPO法人森ノオト 理事長) 無関心層へのアプローチは森以外の切り口から段階的に興味をもってもらうような工夫がある。広報と事業を切り離してはいけない。発信しないと仲間が増えない。関係づくりもできない。発信は活動内容だけでなく、価値や魅力を伝えることが大切である。	 北原まどか
14:30 事例発表 (極める)	1. 西伊豆古道再生プロジェクト 平馬啓太郎さん 地主さんに理解してもらうには、相手の言葉に変換して伝えることが大切。0から1を生み出す人、1を10に発展させる人など、多様な人との組み合わせで事業が進んでいる。	 (代理) 平馬啓太郎
	2. 滝谷里山保全の会 代表 佐藤政美さん ポイントは、「相手目線で考えること」。街と地域をつなげ、人と人の交流が生まれるように心がけた。報告やお礼を欠かさないことも信頼を得るために大切なこと。	 佐藤政美
	3. NPO法人熱海キコリーズ 代表 能勢友歌さん 迷った時にはビジョンに立ち返り、人や場所に合った取り組みを無理なく安全第一で取り組めるチームワークが持続発展性のポイントとして挙げられる。	 能勢友歌
	質疑応答 活動のPRはどのように行っているか、活動のPRに手が回らないがどうすれば良いか、森林所有者との関係づくりの工夫、財源の多様化や自主事業の拡げ方、コロナ禍でのコミュニケーション手法など	
17:00～	会場にて交流会を開催	

10

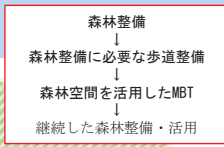
ネット環境が整っている会場を選定



受託者の山本さん
(キーマン)

私

令和3年度 森づくりミーティング 事例報告



西伊豆古道再生プロジェクト

株式会社ベーストレス (BASE TRES)



代表 松本 潤一郎
山と海とを循環させ【西伊豆をまわす】



活動場所	松崎町・西伊豆町
活動内容	森林整備・宿泊事業・アクティビティツアー

沿革	2012年	2013年	2018年	2021年
	使われなくなった古道を再生、西伊豆に新しい山の観光を！	マウンテンバイク YAMABUSHI TRAIL TOUR 開始！	宿泊施設 LODGE MONDO -間土-開業！	伊豆の山と海をつなぐカヤックフィッシングツアーをスタート！
パートナーシップ	松崎町	サイクルショップ、アウトドアショップ	サイクルショップ、アウトドアショップ	サイクルショップ、アウトドアショップ
構成員数	3名	5名	8名	10名
関係人口	20名	500名	2,000名	2,200名

活動組織を比較できるように様式を統一した。資料作成の支援を受託者にお願いした。

MBT参加者、宿泊者など

令和3年度 森づくりミーティング 事例報告

高齢化等で構成員は減
↓
地域の信頼を得て活動を着実に積み重ねる
↓
滝谷のファンが増えている

滝谷里山保全の会

NPO法人 林 林 林
不動峡山の市



代表 佐藤 政美

通称「滝ノ谷三山」菩提山、笠張山、高尾山の山裾560haを地権者、地元民、街場民、三者が協力し里山としてよみがえらせたいと思っています。



活動場所 藤枝市滝谷

活動内容 ●里山保全 ●地元の産物販売
●ログハウス会場レンタル ●MTBルート開設

沿革	1998年	2004年	2009年	2019年
	荒廃した川の上流部を整備したい!	森林整備事業を確立したい!	ログハウスを地域の交流拠点にしたい!	森林スポーツで関係人口を増やしたい!
パートナーシップ	滝ノ谷地区住民	森林組合おおいがわ	にしきのクリニック患者会	マウンテンバイク同好会
構成員数	5名	10名	15名	6名
関係人口		20名	450名	1,000名

森林整備には参加していない。

活動組織を比較できるよう様式を統一した。資料作成の支援を受託者にお願いした。

13

令和3年度 森づくりミーティング 事例報告

NPO法人熱海キコリーズ

市が実施した研修の修了者
↓
異業種の集まり、アイデアと実行力がある
↓
情報発信、市も活動を支援



代表

能勢 友歌 (のせゆうか)

間伐材は劣勢木が多く、周囲の木がのびのびと生きるために伐られていく存在。そんな縁の下の力持ちの間伐材たちに付加価値をつけてゆきたい!

活動場所	熱海市姫の尾、自然郷(市有林)、紅葉が丘(民有林)、伊豆山(災害支援プロジェクト)
活動内容	『熱海の森に新しい風を』をミッションとして森林保全をしているNPO法人。活動を通して「持続可能な林業活動」や「地域復興の実現」を目指しています。

沿革	2016年	2017~2019年	2020~2022年
	研修を受けた仲間ですキルアップしたい!	熱海市に還元できるような活動を実施したい!	NPO法人化! 応援してくれるファンとの絆を強めたい!
パートナーシップ	熱海市役所	熱海市役所・自伐型林業協会 姫の沢・自然郷管理会社	熱海市役所 民間の企業や団体
構成員数	14名	20名	21名
関係人口		イベント参加者: 200人	イベント参加者: 200人 クラブファン支援者+サポーター: 297人+30人

活動組織を比較できるよう様式を統一した。資料作成の支援を受託者にお願いした。

14

令和3年度 森づくりミーティング 実績と感想



会場 17人



オンライン 50人

活動組織 10人
関係人口 39人
行政等 18人
計 67人

数多くのヒント
があって、自身
の活動の参考
になった。

事例が先進的
過ぎた。

長かった。



【動画でも発信】

共通の課題である「高齢化」「担い手不足」「資金調達」について、どの講師のお話しでも数々のヒントが盛り込まれており自身の取り組みの参考になった。一方で、事例が先進的で自分たちの活動と重なりが少なく、示されたヒントを引き寄せることができなかった方も複数いた。オンラインは、県内外から参加しやすいという声があった。

15

令和3年度 ⇒ 令和4年度 改善点

・現場でやろう

ふもとっばら →

・1日に詰め込まず
分散してやろう

オンライン 2回

現場 1回



16

令和4年度 森づくりミーティング 完成した募集案内

オンラインでやるでね!
後日アーカイブ視聴も可能

令和4年度 静岡県森づくりミーティング

森づくりびとがつながる関係人口

全国から注目される現代アートの野外イベント (UNMANNED) (アンマンド)。アート作品制作を基盤で変える抜里エコポリスのメンバーは、アーティストだけでなくイベントのコーディネーターにも挑戦され、大きな存在です。NPO法人クロスメディアしまだは、アーティストと地域とを結ぶための豊かな関係をデザインしています。県内の「森づくり」と、たちから、これからの森づくりのヒントを学びます。

第1回
アートが豊かな関係人口を育む・先進事例報告
10/12 (水)
18:00~19:30 オンライン
主催 エコポリス 会長 兒玉徳治氏
NPO法人クロスメディアしまだ 事務局長 兒玉絵美氏

第2回
地域で奮闘する3つの県内事例
10/19 (水)
18:00~19:30 オンライン
森林：山村多摩的機能開発財団交付金連携団体
あしくほ環境財団
NPO法人グリーンラストシヤパン
NPO法人地之瀬地産協会の主催

参加費無料 Zoom ウェビナー
ご自宅で視聴できます
参加費無料
県外の方も大歓迎
定員100名

主催 静岡県 / (公財)静岡県グリーンバンク
イベントページ 詳しくはこちら
運営・申込先 認定NPO法人しずおか環境教育研究会
お問合せ 静岡暮らし・環境部 電話：054-221-2848
この事業は林野庁森林・山村多摩的機能開発財団交付金事業を活用しています。

お申し込みはメールかFAXで
2日前まで申込可

10/12 10/19 e-info@ecoedu.or.jp / Fax : 054-263-2867

ご氏名(フリガナ) ご所属 役職 TEL
mail

※「オンライン参加希望」と明記をお願いします。※基本的にメールでのご連絡とさせていただきます。

ふもとつばら開催!

令和4年度 静岡県森づくりミーティング

森づくりの最先端 キャンプ・その先へ

あのキャンプ場の聖地「ふもとつばら」は、林業と森林サービス産業を結びつけた森づくりの最先端企業。その内情を見学し、キャンプ場の先の未来について問い、さらに県内の森づくりひとと交流できる。またとないチャンスです!

第3回 **11/5 (土)**
10:00~15:00【現地開催】※雨天の都合中止
受付 9:30~
集合場所 ふもとつばらキャンプ場内「まほろば」
静岡県富士宮市156-1 駐車場あり

スケジュール
午前 ふもとつばら見学
森づくり活動団体交流会
午後 森林活用先進事例講演会
「キャンプ・その先へ」
松崎誠司氏
株式会社ふもとつばら 専務役員
経歴：フェリスカレッジ 1期生 林業職人
1991年入社、東京農業大学農学研究所修士課程修了後、2007年株式会社ふもとつばら入社。作業員を経て2014年事業部長就任。2017年ふもとつばらをひらく森林活用先進事例。持続可能な森林経営の一端としてのキャンプ場運営と、さらに先の未来を共に構築している。

県内・県外どなたでもお申込み受付中!
参加費無料!!

主催 静岡県 / (公財)静岡県グリーンバンク
イベントページ 詳しくはこちら
運営・申込先 認定NPO法人しずおか環境教育研究会
お問合せ 静岡暮らし・環境部 電話：054-221-2848
この事業は林野庁森林・山村多摩的機能開発財団交付金事業を活用しています。

お申し込みはメールかFAXで
【締切：10/28】

お申込み希望
ご氏名(フリガナ) ご所属 役職 TEL
mail

※「ふもとつばら参加希望」と明記をお願いします。※基本的にメールでのご連絡とさせていただきます。

令和4年度 森づくりミーティング 森づくりびとがつながる関係人口

森づくりびとがつながる関係人口①



先進事例報告
「森づくりと結びついたアートが豊かな関係人口を育む」



兒玉「毎年、芸術祭を開催しています」
私「芸術祭って、イメージできないが」
兒玉「それでは、常設展示があるので案内します」
私「これは何ですか」
兒玉「人それぞれの見方があります」
私「この布、じゃまじゃないですか」
兒玉「風を感じる仕掛けです」
私「こうした現代アートは人気ですか」
兒玉「若い方を中心に人気が・・・」

令和4年度 森づくりミーティング 森づくりびとがつなぐ関係人口



配信会場



事例報告者はオンライン参加

森づくりびとがつなぐ関係人口①

YouTubeで配信中

先進事例報告

「森づくりと結びついたアートが豊かな関係人口を育む」

1. 日時 : 令和4年10月12日(水)
18:00~19:30
2. 配信会場 : CSA貸会議室
3. 主催 : 静岡県
4. 参加者 : 49名
(活動組織9名、関係人口11名、行政など1名、その他・不明28名)

18:00	開会
18:08	先進事例報告
	○ 抜里エコポリス 会長児玉徳治さん アート関連で集落に外部から人が集まることで、 住民の意識が変わり 、草刈や竹林整備などに協力的になってきた。力の源は一杯飲みながら話をすること。
	○ NPO法人クロスメディアしまだ 事務局長児玉絵美さん 芸術祭は、 地域とアーティストの交流による協働 がコンセプト。自然との共生や集落の人達の生き方を価値づけすることで、地域活性化につながっている。
19:10	質疑応答 (芸術祭の特色、地域とNPOとの関係、後継者問題など)

19

令和4年度 森づくりミーティング 森づくりびとがつなぐ関係人口



主催者あいさつ・制度説明

森づくりびとがつなぐ関係人口②

地域で奮闘する3つの県内事例

1. 日時 : 令和4年10月19日(水)
18:00~19:30
2. 配信会場 : CSA貸会議室
3. 主催 : 静岡県グリーンバンク
4. 参加者 : 22名
(活動組織4名、関係人口4名、行政など1名、その他・不明13名)



進行 : 山本さんのインタビューで
上村「野生鳥獣の被害がひどくて」



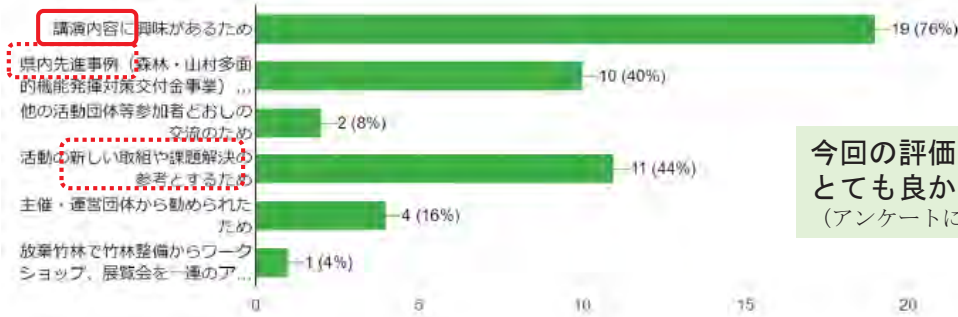
無事、閉会しました。

20

令和4年度 アンケートから（オンライン）

今回の森づくりミーティングに参加したいと思った理由を教えてください*複数回答可
25件の回答

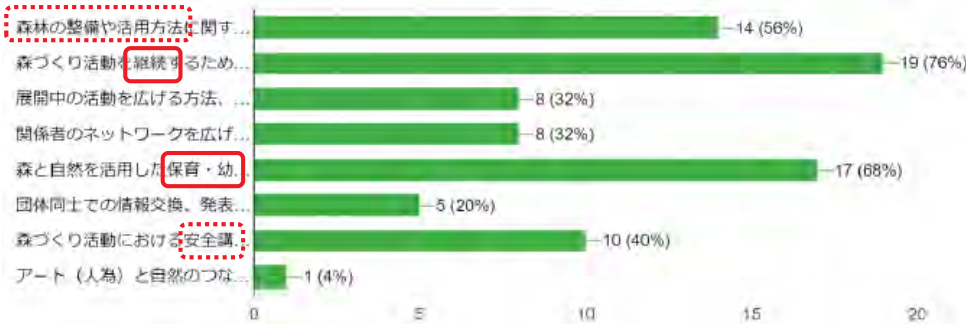
参加動機



今回の評価は？
とても良かった・良かった
(アンケートに答えてくれた人)

環境ふれあい課は、今後も講演や研修会等の開催...演や研修会に参加したいですか？（複数回答可）
25件の回答

ニーズ



23

令和4年度 森づくりミーティング 森づくりの最先端 キャンプ・その先へ

森づくりの最先端キャンプ・その先へ

1. 日 時：令和4年11月5日（土）10:00～15:00
2. 会 場：ふもとつばらキャンプ場内「まほろば」（静岡県富士宮市麓156）
3. 主 催：静岡県・静岡県グリーンバンク
4. 参加者：17名
(活動組織11名、関係人口4名、行政など1名、その他2名)

10:00	開会
10:10	見学会 案内人：株式会社ふもとつばら 小林信介さん 造林地、薪づくりや詰め放題、薪ボイラー、ピオトープ池とトイレ、伝統工法による建屋など
11:20	交流会
12:00	休憩
13:00	講演会「キャンプ・その先へ」 講師：株式会社ふもとつばら 松崎誠司さん 林業経営を中心として、アウトドア・アクティビティ事業、薪の販売や燃料化、大規模フェスや首都圏への出張イベント開催、地元企業とコラボしたグッズやジビエ料理開発など、さまざまな森林サービス産業を展開。森林や地域を知ってもらうための情報発信にも力を入れている。 質疑応答 会社の組織体制、市街地に対する森林の優位性、事業開発の考え方、新事業の構想など

ふもとつばら開催！

令和4年度 静岡県森づくりミーティング

森づくりの最先端 キャンプ・その先へ

第3回 11/5(土)

10:00～15:00【現地開催】※雨天の場合は中止

受付 9:30～
集合場所 ふもとつばらキャンプ場内「まほろば」
静岡県富士宮市麓156。駐車場あり

スケジュール

午前 ふもとつばら見学
森づくり活動団体交流会
小林信介氏
株式会社ふもとつばら

午後 森林活用先進事例講演会
「キャンプ・その先へ」
松崎誠司氏
株式会社ふもとつばら、事業部長
農林水産省、フェリスカレッジ、しずおか林業作業士
専門学校、東京農業大学農学研究所博士課程修了後、2007
年株式会社ふもとつばら入社。作務社を経て2014年事業部長就任。
2017年よりこの年にふもとつばらをひらく森林活用先進事例、持続的
な森林経営の一環としてのキャンプ場運営と、さらに先の未来を
共に構築している。

5のキャンプ場の聖地「ふもとつばら」は、林業と森林サービス産業を組み合わせた森づくりの最先端企業。その内情を見学し、キャンプ場の先の未来について思い、さらに境内の森づくりひとと交流できる、またとないチャンスです！

県内・県外
どなたでも
お申込み
受付中！
参加費無料！

主 催
静岡県 / (公財)静岡県グリーンバンク

e-info@ecoedu.or.jp / Fax: 054-263-2867

お申込みは
メールかFAXで
【締切：10/28】

※お申し込みの際は必ずお名前を明記してください。送料：1,000円
※お申し込みの際は必ずお名前を明記してください。送料：1,000円
※お申し込みの際は必ずお名前を明記してください。送料：1,000円

※「ふもとつばら参加希望」と明記をお願いします。※基本的にメールでのご連絡とさせていただきます。

令和4年度 森づくりミーティング 森づくりの最先端 キャンプ・その先へ



開会 (参加者は少ないが熱い人が多かった)



ふもとつばら見学会

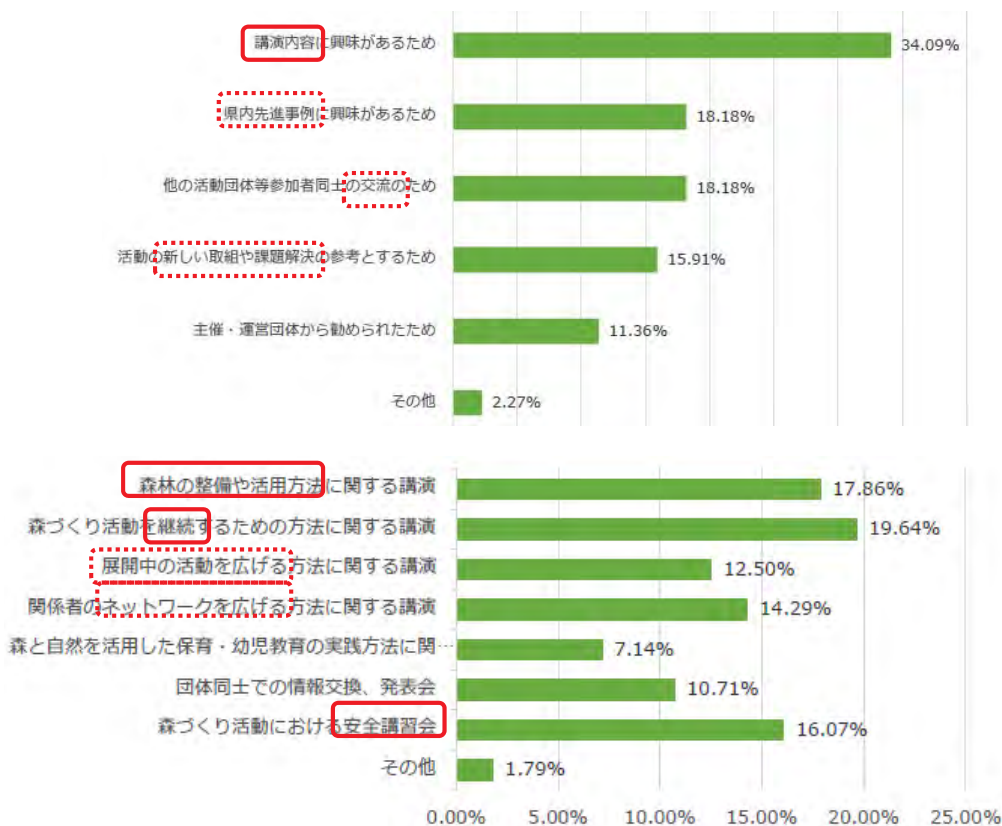


参加者交流会 班分：ソフトドリンク派・ビール派・醸造酒派・蒸留酒派、なんでも派



森林活用先進事例講演会

令和4年度 アンケートから (ふもとつばら)



参加動機

ニーズ

・3回もやると大変だった。

周知 ⇒ 実施 ⇒ 周知 ⇒ 実施 ⇒ 周知 ⇒ 実施

1回にして、全力で周知した方がよかったか。

・いつだったら、どんな企画だったら？

人によって、答えはバラバラなので、いろんなニーズがあるのだろう。

いろいろな切り口でチャレンジを続けることが正解か。

・マッチングはできなかったが・・・

アウトカム

アンケートから、それぞれの活動の参考にはなっている。

27

森づくりミーティング 県と地域協議会の役割分担

令和3年度

講演（広げる）
講演（伝える）
事例報告（極める）

地域協議会 1,034,000円

令和4年度

森づくりびとがつなぐ 関係人口① 県内先進事例報告
森づくりびとがつなぐ 関係人口② 活動組織事例報告
森づくりの最先端 キャンプ・その先へ 見学会・交流会
森づくりの最先端 キャンプ・その先へ 講演会

地域協議会 1,057,000円

仕事大変だけど

「令和5年度」も 開催するだに！

31

お帰りのお供に動画を御覧ください。

森林・山村多面的機能発揮対策交付金で制作



令和4年度森づくりミーティング(県)第1回
森づくりびとがつなぐ関係人口



令和4年度森づくりミーティング(協議会)第2回
地域で奮闘する県内活動事例



令和3年度森づくりミーティング
「森から始めるライフ&ワーク」



必見、モニタリング調査のガイドライン

緑の募金を活用して制作

森林整備啓発動画



森林プロフェッショナルの一日

クール&ビューティ

森林整備啓発動画



【最新作、編集新版】静岡県伐木造材技術競技会

クール&ビューティ

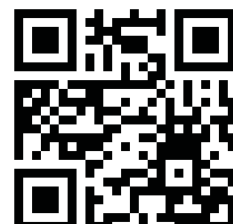
自然保育啓発動画



夢中が見つかる小さな園庭

癒し系

自然保育啓発動画



地域まるごと園庭

癒し系

令和4年度
森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業

関係人口創出・維持タイプ（マッチングイベント）

長崎森林・山村対策協議会
事務局 佐藤 祐樹

令和4年度 マッチングイベント

第1回マッチングイベント

日時	令和4年9月4日（日） 13：30～14：30
場所	日吉自然の家（長崎市飯香浦町）
対象	長崎大学ボランティアサークル エコマジック 活動組織：『ながさき楽しみの森づくり会』 『親木会』『長崎もり活研究会』

第2回マッチングイベント

日時	令和4年11月3日（木・祝） 10：00～15：00
場所	長崎県民の森（長崎市神浦北大中尾町）
対象	ふるさとの森フェスタ来場者 木こり体験ツアー参加者

第1回マッチングイベント (森林ボランティア技術研修会終了後)

日時：令和4年9月4日（日）13：30～14：30

場所：日吉自然の家（長崎市飯香浦町）

目的：活動組織と関係人口のマッチング

内容：①森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業説明
②活動組織3団体の活動紹介
③意見交換・質疑等

第1回マッチングイベント

参加団体 1団体 11名

長崎大学ボランティアサークル「エコマジック」11名

・地球環境の保全のために特にゴミの減量を目的として活動。

活動組織 3団体 6名

①ながさき楽しみの森づくり会

平成25年度から活動。令和4年度長崎市（長崎市民の森）にて里山林保全整備。

②親木会

平成26年度から活動。令和4年度長崎市蚊焼町にて里山林保全/竹林整備。

③長崎もり活研究会

平成29年度から活動。令和4年度長崎市現川町にて里山林保全整備。

第1回マッチングイベント

内容：①森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業を説明



第1回マッチングイベント

内容：②活動組織3団体の活動紹介



第1回マッチングイベント

内容：③意見交換・質問等



第1回マッチングイベント

結 果

- 森林は継続した整備が必要と理解。
- 交付金を活用し整備活動をする団体が身近にいることを理解。
- 年度中、継続した参加の要望があった。

課 題

- 森林整備活動に興味はあるが、活動場所へ行くための交通手段がない。

対 策

- きっかけとして、参加しやすい森林での活動を提案する。



第2回マッチングイベント

●ふるさとの森フェスタ内で開催

日 時：令和4年11月3日（木・祝）10：00～15：00

場 所：長崎県民の森 オートキャンプ場
（長崎市神浦北大中尾町691-7）

目 的：長崎県内の森づくり活動PRと森林・山村多面的機能発揮
対策交付金事業の新規参加者募集

内 容：①森づくり相談
②パネルの設置
③きこり体験ツアー

第2回マッチングイベント

●ふるさとの森フェスタ

主 催

長崎県民の森、長崎県緑化推進協会、
長崎県森林ボランティア支援センター

協 力

森林ボランティア団体、企業の森参加企業、森林
組合、学生ボランティア団体、NBCラジオ等

内 容

竹細工、薪割り、木工クラフト、高性能林業機械
の展示・試乗、飲食販売等



第2回マッチングイベント

内容：①森づくり相談



第2回マッチングイベント

内容：②パネルの設置による事業説明



第2回マッチングイベント

内容：③きこり体験ツアー



第2回マッチングイベント

内容：③きこり体験ツアー



第2回マッチングイベント

●木こり体験ツアー

- 1 「手入れが遅れている森林には手入れが必要」ということを説明
- 2 参加者が森林の中に入り、スタッフがヒノキに受け口・追い口を入れ、笛の合図後、全員でロープを引き伐倒を体験。

結果 木が倒れる瞬間の音を聞いた参加者からは拍手や「林業はかっこいい」という声もあり、今まで森林整備のために山に入ったことがない人が興味を示した。

課題 興味を持った先の仕掛けづくり。

対策 団体の活動概要（PR）の配布等

令和5年度 実施予定のマッチングイベント

第1回マッチングイベント

日時	令和5年5月20日（土）予定
場所	日吉自然の家
マッチング	活動組織（離島除く）35団体 学生ボランティア団体・一般募集
内容	森林整備・事業説明

第2回マッチングイベント

日時	令和5年6月予定
場所	五島
マッチング	活動組織（五島地区）13団体 一般募集
内容	森林整備・事業説明

令和4年度 森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 報告書

令和5年3月

(発行) 林 野 庁

(作成) 公益財団法人 日本生態系協会

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

TEL : 03-5951-0244 FAX : 03-5951-2974

令和4年度
森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業
報告書

令和5年3月
林野庁
